

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	ヨリガナガクノカウジノウツノミヤダガク 国立大学法人 宇都宮大学							
フリガナ大学の名称	ウツノミヤダガク 宇都宮大学 (Utsunomiya University)							
大学本部の位置	栃木県宇都宮市峰町350							
大学の目的	広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践して、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する。そのために、①幅広く深い教養と実践的な専門性を身につけ、未来を切り開く人材を育成し、②持続可能な社会の形成を促す研究を中心に、高水準で特色のある研究を推進し、③地域社会のみならず広く国際社会に学び貢献する活動を積極的に展開する。							
新設学部等の目的	地域の持続的な発展に関する教育・研究・地域貢献を推進し、豊かな生活の実現に貢献する。そのために、「地域の課題を理解し、地域資源・地域特性を活かした、まちづくりを支える専門職業人」を育成し、地域デザイン科学部を中心に本学の「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	地域デザイン科学部 [Faculty of Regional Design]	年	人	年次	人		年 月	
	コミュニティデザイン学科 [Department of Community Design]	4	50	-	200	学士(コミュニティデザイン学)	平成28年4月 第1年次	栃木県宇都宮市陽東7-1-2
	建築都市デザイン学科 [Department of Architecture and Urban Design]	4	50	3 3年次	206	学士(工学)	平成28年4月 第1年次 平成30年4月 第3年次	栃木県宇都宮市陽東7-1-2
	社会基盤デザイン学科 [Department of Civil Engineering and Regional Design]	4	40	3 3年次	166	学士(工学)	平成28年4月 第1年次 平成30年4月 第3年次	栃木県宇都宮市陽東7-1-2
	計		140	6	572			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学定員の変更等 国際学部 <ul style="list-style-type: none"> 国際社会学科 [定員減] (△5) (平成28年4月募集定員減) 国際文化学科 [定員減] (△5) (平成28年4月募集定員減) 教育学部 <ul style="list-style-type: none"> 学校教育教員養成課程 [定員増] (20) 総合人間形成課程(廃止) (△60) (平成28年4月募集停止) 工学部 <ul style="list-style-type: none"> 建設学科(廃止) (△70) (平成28年4月募集停止) 工学部共通3年次編入学 [定員減] (△4) (平成30年4月募集定員減) 農学部 <ul style="list-style-type: none"> 生物資源科学科 [定員減] (△7) (平成28年4月募集定員減) 応用生命化学科 [定員減] (△3) (平成28年4月募集定員減) 農業環境工学科 [定員減] (△3) (平成28年4月募集定員減) 農業経済学科 [定員減] (△4) (平成28年4月募集定員減) 森林科学科 [定員減] (△3) (平成28年4月募集定員減) 農学部共通3年次編入学 [定員減] (△2) (平成30年4月募集定員減) 							

	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
教育課程	地域デザイン科学部								
	コミュニティデザイン学科	223科目	131科目	9科目	363科目	126単位			
	建築都市デザイン学科	206科目	120科目	18科目	344科目	126単位			
	社会基盤デザイン学科	218科目	119科目	9科目	346科目	126単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	
	新設	地域デザイン科学部							
		コミュニティデザイン学科	6 (6)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	10 (10)
		建築都市デザイン学科	4 (5)	6 (6)	0 (0)	2 (2)	12 (13)	0 (0)	13 (13)
		社会基盤デザイン学科	5 (5)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	11 (11)	0 (0)	10 (10)
		計	15 (16)	16 (16)	1 (1)	4 (4)	36 (37)	0 (0)	33 (33)
	既設	国際学部							
		国際社会学科	7 (7)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	11 (11)
		国際文化学科	9 (9)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	20 (20)
		教育学部							
		学校教育教員養成課程	37 (37)	31 (31)	5 (5)	0 (0)	73 (73)	0 (0)	173 (173)
		工学部							
機械システム工学科		5 (5)	10 (10)	1 (1)	4 (4)	20 (20)	0 (0)	23 (23)	
電気電子工学科		10 (10)	7 (7)	0 (0)	6 (6)	23 (23)	0 (0)	23 (23)	
応用化学科		7 (7)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	23 (23)	0 (0)	21 (21)	
情報工学科		10 (10)	9 (9)	0 (0)	3 (3)	22 (22)	0 (0)	26 (26)	
附属ものづくり創成工学センター		0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
農学部									
生物資源科学科		11 (11)	9 (9)	1 (1)	1 (1)	22 (22)	1 (1)	7 (7)	
応用生命化学科		6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	3 (3)	
農業環境工学科		4 (4)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	12 (12)	0 (0)	5 (5)	
農業経済学科		4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	6 (6)	
森林科学科		5 (5)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	5 (5)	
附属農場		2 (2)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
附属演習林		1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
地域連携教育研究センター	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)		
雑草と里山の科学教育研究センター	2 (2)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)		
総合メディア基盤センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)		

分	留学生・国際交流センター	2 (2)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	3 (3)
	地域共生研究開発センター	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	18 (18)
	バイオサイエンス教育研究センター	2 (2)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
	保健管理センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (4)
	キャリア教育・就職支援センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	基盤教育センター	1 (1)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	10 (10)	0 (0)	55 (55)
	オブティクス教育研究センター	4 (4)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	教職センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	計	134 (134)	119 (119)	20 (20)	34 (34)	307 (307)	1 (1)	403 (403)
合計	149 (150)	135 (135)	21 (21)	38 (38)	343 (344)	1 (1)	436 (436)	
教員以外の職員の概要	職種	専任		兼任		計		
	事務職員	143 (143)		116 (116)		259 (259)		
	技術職員	58 (58)		107 (107)		165 (165)		
	図書館専門職員	8 (8)		0 (0)		8 (8)		
	その他の職員	5 (5)		22 (22)		27 (27)		
計	214 (214)		245 (245)		459 (459)			
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	217,267 m ²	0 m ²	0 m ²		217,267 m ²		
	運動場用地	125,768 m ²	0 m ²	0 m ²		125,768 m ²		
	小計	343,035 m ²	0 m ²	0 m ²		343,035 m ²		
	その他	8,576,487 m ²	0 m ²	0 m ²		8,576,487 m ²		
合計	8,919,522 m ²	0 m ²	0 m ²		8,919,522 m ²			
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計			
	114,764 m ² (113,120 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)		114,764 m ² (113,120 m ²)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
	75	74	284	15 (補助職員5人)	7 (補助職員0人)			
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数				
	地域デザイン科学部			41室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	地域デザイン科学部	642,695 [148,532] (642,866 [148,532])	10,574 [2,676] (10,574 [2,676])	6,841 [6,218] (6,841 [6,218])	5,263 [5,263]	15,529 (15,529)	0 (0)	
	計	642,695 [148,532] (642,695 [148,532])	10,574 [2,676] (10,574 [2,676])	6,841 [6,218] (6,841 [6,218])	5,263 [5,263]	15,529 (15,529)	0 (0)	
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数				
	8,518 m ²	743		631,721				
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
	3,366 m ²	武道館 (870 m ²)		陸上競技場 1面				
		野球場 2面		サッカー・ラグビー場 1面				
	テニスコート 9面		プール (25m用)					

経費の見積り及び維持方法の概要	区分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
	経費の見積り及び維持方法の概要	教員1人当り研究費等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
		共同研究費等		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
		図書購入費		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
		設備購入費		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		— 千円
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
			— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			—								
既設大学等の状況	大学の名称	宇都宮大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	国際学部	年	人	年次人	人		倍				
	国際社会学科	4	50	5	210	学士(国際学)	1.06	平成6年度	栃木県宇都宮市峰町350		
	国際文化学科	4	50	5	210		1.13				
	教育学部							昭和24年度	栃木県宇都宮市峰町350		
	学校教育教員養成課程	4	150	—	600	学士(教育学)	1.03	昭和39年度	栃木県宇都宮市陽東7-1-2	※平成28年度より学生募集停止	
	総合人間形成課程	4	60	—	240		1.02				
	工学部										
	機械システム工学科	4	79	3年次	316	学士(工学)	1.02	昭和39年度	栃木県宇都宮市陽東7-1-2	※平成28年度より学生募集停止	
	電気電子工学科	4	79		316		1.07				
	応用化学科	4	83		332		1.07				
	建設学科	4	70		280		1.07				
	情報工学科	4	74		296		1.06				
	(学科共通)			30	60						
	農学部							昭和24年度	栃木県宇都宮市峰町350		
	生物生産科学科	4	—	—	—	学士(農学)	—	昭和24年度	栃木県宇都宮市峰町350	※平成25年度より学生募集開始	
	生物資源科学科	4	70	—	210		1.02				
	応用生命化学科	4	35	—	105		1.03				
	農業環境工学科	4	35	—	140		1.04				
	農業経済学科	4	40	—	160		1.07				
	森林科学科	4	35	3年次	140	1.05					
	(学科共通)			20	40						
	国際学研究科(博士前期課程)							平成11年度	栃木県宇都宮市峰町350		
	国際社会研究専攻	2	10	—	20	修士(国際学)	0.55	平成19年度	栃木県宇都宮市峰町350		
	国際文化研究専攻	2	10	—	20		1.10				
	国際交流研究専攻	2	10	—	20		1.35				
	国際学研究科(博士後期課程)										
	国際学研究専攻	3	3	—	9	博士(国際学)	1.44				
	教育学研究科(修士課程)							昭和59年度	栃木県宇都宮市峰町350		
	学校教育専攻	2	25	—	33	修士(教育学)	0.49	平成27年度	栃木県宇都宮市峰町350	※平成27年度より学生募集開始	
	特別支援教育専攻	2	—	—	—		—				
	カリキュラム開発専攻	2	—	—	—		—				
	教科教育専攻	2	—	—	—		—				
	教育学研究科(専門職学位課程)										
	教育実践高度化専攻	2	15	—	15	教職修士(専門職)	0.93				
	工学研究科(博士前期課程)							昭和48年度	栃木県宇都宮市陽東7-1-2		
	機械知能工学専攻	2	37	—	65	修士(工学)	1.11	平成4年度	栃木県宇都宮市陽東7-1-2	※平成27年度より学生募集開始	
	電気電子システム工学専攻	2	37	—	65		1.01				
	物質環境化学専攻	2	42	—	71		0.98				
	地球環境デザイン学専攻	2	33	—	58		0.97				
	情報システム科学専攻	2	38	—	67		1.16				
	先端光学専攻	2	25	—	25		0.92				
	学際先端システム学専攻	2	—	—	—		—				
	工学研究科(博士後期課程)										
	システム創成工学専攻	3	30	—	90	博士(工学)	0.78				
	農学研究科(修士課程)							昭和41年度	栃木県宇都宮市峰町350		
	生物生産科学専攻	2	41	—	82	修士(農学)	0.90	昭和41年度	栃木県宇都宮市峰町350	※平成27年度より学生募集停止	
	農業環境工学専攻	2	12	—	24		0.79				
	農業経済学専攻	2	8	—	16		0.50				
	森林科学専攻	2	10	—	20		0.45				

(附属学校)

名称：教育学部附属小学校

目的：先導的・先進的な研究校としての役割と教員養成の使命の上に、子供たちに最良の教育を行うことを目的として、日々の教育研究及び実践を行っている。

所在地：栃木県宇都宮市松原1-7-38

設置年月：昭和41年4月

規模等：土地 48,980㎡ (附属幼稚園及び附属中学校と共有)，建物 5,904㎡

名称：教育学部附属中学校

目的：生徒たちが自己の能力と個性を十分に伸ばし、充実した学校生活を送れるよう、教育方法を工夫し実践している。

所在地：栃木県宇都宮市松原1-7-38

設置年月：昭和41年4月

規模等：土地 48,980㎡ (附属幼稚園及び附属小学校と共有)，建物 5,550㎡

名称：教育学部附属幼稚園

目的：幼児教育の実証的研究を進めるとともに、遊びや生活を通して幼児の心身の活動力を高めるよう努めている。

所在地：栃木県宇都宮市松原1-7-38

設置年月：昭和41年4月

規模等：土地 48,980㎡ (附属小学校及び附属中学校と共有)，建物 932㎡

名称：教育学部附属特別支援学校

目的：特別支援教育の実践研究を進めるとともに、宇都宮大学教育学部及び大学院教育学研究科の研究・研修に協力する。

所在地：栃木県宇都宮市宝木町1-2592

設置年月：昭和50年4月

規模等：土地 17,883㎡，建物 3,944㎡

(学部等の附属施設)

名称：国際学部附属多文化公共圏センター

目的：栃木県内外の自治体・国際交流協会・教育委員会・市民団体(NGO/NPOを含む協賛団体)や海外の交流協定締結大学とネットワークを形成し、情報を交換し合い、グローバル化に関わる諸問題の実践的解決を目指す。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成20年4月

規模等：建物 峰町5号館B棟1,903㎡の一部(101㎡)

名称：工学部附属ものづくり創成工学センター

目的：未来を担う技術者の創造性と独創性を育み、ものづくり感性を涵養することを目的とした授業の実践を中心とし、インターンシップ及び学生によるプロジェクト活動の推進、現役技術者による講義、高度技術者による技能実演など多面的な教育プログラムの研究開発を行う。

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：平成16年4月

規模等：建物 208㎡

名称：農学部附属農場

目的：農業に関する実習教育を行うとともに、学術研究の発展に資する。

所在地：栃木県真岡市下籠谷443

設置年月：昭和24年5月

規模等：土地 1,016,165㎡，建物5,273㎡

名称：農学部附属演習林

目的：船生演習林と日光演習林があり、森林科学の基礎的・応用的な研究を行うとともに、実験実習を通じて森林科学の総合的体系の理解を深める。

所在地：(船生演習林) 栃木県塩谷郡塩谷町船生7556

(日光演習林) 日光：栃木県日光市中宮祠3168

太郎山：栃木県日光市大字日光戦場ヶ原2492-2

設置年月：昭和24年5月

規模等：(船生演習林) 土地 5,313,094㎡，建物 1,617㎡

(日光演習林) 日光：土地 78,251㎡，建物 129㎡

太郎山：土地 2,005,735㎡

附属施設の概要

(附属図書館)

名称：附属図書館

目的：学生・教職員が教育・研究目標を達成するために必要とする多様な利用サービス・情報資源を提供する。また、一般市民に対しても利用サービスを拡充し、地域社会に貢献する。

所在地：(本館) 栃木県宇都宮市峰町350
(分館) 栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：(本館) 昭和30年4月
(分館) 昭和39年4月

規模等：建物(本館) 7,206㎡
(分館) 1,312㎡

(学内共同教育研究施設)

名称：地域連携教育研究センター

目的：地域社会の自治体や民間団体との協働によって、大学と地域社会との連携及び生涯学習の推進に寄与する。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成3年4月

規模等：建物 峰町5号館C棟 3,249㎡の一部(446㎡)

名称：雑草と里山の科学教育研究センター

目的：雑草及び里山に関する包括的な教育研究を分野横断的な連携によって推進するとともに、地域の持続的な発展に資することを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成26年4月

規模等：建物 2,091㎡

名称：総合メディア基盤センター

目的：基幹情報ネットワークシステムの設計、構築、運用管理を行い、本学の教育研究のために供するとともに、情報リテラシー教育、情報処理、情報通信技術の研究開発を行い、教育研究の推進及び社会への貢献に資する。

峰地区

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成13年4月

規模等：建物 453㎡

陽東地区

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：平成13年4月

規模等：建物 404㎡

名称：留学生・国際交流センター

目的：外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対し、必要な教育及び指導・助言等を行うとともに、その充実及び国際交流の推進に寄与することを目的とする。

峰地区

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成14年4月

規模等：建物 峰町5号館C棟3,249㎡の一部(392㎡)

陽東地区

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：平成14年4月

規模等：建物 陽東2号館3,056㎡の一部(59㎡)

名称：地域共生研究開発センター

目的：独創的な研究開発の促進、先端計測分析技術等による教育研究支援、民間等との共同研究の推進及び知的財産の創出等を行い、宇都宮大学の研究成果を社会に還元し、産学官連携を積極的に推進することを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：平成17年4月

規模等：建物 5,028㎡

名称：バイオサイエンス教育研究センター

目的：バイオサイエンス分野の教育研究を行うとともに、研究の応用と実用化を目指して新たな領域を開拓し、地域においてバイオサイエンス及びテクノロジーの啓発活動を行い、また、関連分野の教員の共同利用に供することを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成20年3月

規模等：建物 3,205㎡

名称：キャリア教育・就職支援センター

目的：キャリア教育と就職ガイダンスなどの就職支援のための様々なプログラムの一体的な推進を図り、学生が自らの将来の生き方や職業との関わりについて考え、キャリアプランを作成し就職活動を進めることを支援する。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成19年1月

規模等：建物 峰町4号館A棟3,485㎡の一部(401㎡)

名称：基盤教育センター

目的：現代社会に必要なリテラシー、幅広い教養と豊かな人間性、専門教育を学ぶ上で基礎となる素養を身に付けるための基盤教育について、全学的実施の企画・運営を中心的に担い、その充実に資する。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成23年4月

規模等：建物 峰町4号館A棟3,485㎡の一部(399㎡)

名称：オブティクス教育研究センター

目的：光技術産業の強化及び発展に貢献するため、産業界と連携して、体系的教育の徹底と人材の育成を行い、かつ先端的な研究領域を創成することで、世界水準の教育研究拠点の形成を目指す。

所在地：栃木県宇都宮市陽東7-1-2

設置年月：平成19年4月

規模等：建物 1,944㎡

名称：教職センター

目的：教職課程の改善、充実及び教員養成機能の強化並びに充実を図るとともに、学内外の教育関連機関等と連携・協働し、教員養成及び現職教員研修の質の向上を図ることを目的とする。

所在地：栃木県宇都宮市峰町350

設置年月：平成26年4月

規模等：建物 峰町8号館A棟1,751㎡の一部(63㎡)

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要														
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
科 導 初 目 入 期	新入生セミナー	1前	2			○			2		1			共同・※演習
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			2	0	1	0	0	
基 盤 教 育 科 目	Integrated English I A	1前	2				○							兼2
	Integrated English I B	1前	1				○							兼8
	Integrated English II A	1後	2				○							兼2
	Integrated English II B	1後	1				○							兼8
	Advanced English I (Intensive Reading)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Pleasure Reading)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Academic Writing)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Essay writing)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Public Speaking)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Presentation)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Discussion&Debate)	2前後		1			○							兼1
	Advanced English I (Speech Clinic)	2前後		1			○							兼3
	Advanced English I (Vocabulary Building)	2前		1			○							兼2
	Advanced English I (Communicative Grammar)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Media English)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Cinema English)	2前後		1			○							兼1
	Advanced English I (TOEIC)	2前後		1			○							兼5
	Advanced English I (TOEFL)	2前後		1			○							兼1
	Advanced English I (EAP)	2前後		1			○							兼4
	Honors English A	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English B	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors English C	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English D	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors English E	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English F	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors English G	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English H	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors Camp A	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Honors Camp B	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Honors Camp C	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Honors Camp D	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		1			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		3			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		4			○							兼1
	Overseas Study B	1・2・3・4前		1			○							兼1
	Overseas Study B	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Overseas Study B	1・2・3・4前		3			○							兼1
Overseas Study B	1・2・3・4前		4			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		1			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		2			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		3			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		4			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		1			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		2			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		3			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		4			○							兼1	
スポーツと健康	1前		2			○							兼7	
情報処理基礎	1前		2			○			1					
とちぎ終章学総論	1後		1			○				1				※講義
小計(38科目)	—		11	71	0	—			1	1	0	0	0	兼33
人 文 科 学 系 科 目 哲 学 領 域	西洋思想	1・2前		2			○							兼1
	現代思想	1・2後		2			○							兼1
	東洋思想	1・2前		2			○							兼1
	論理学	1・2前		2			○							兼1
	西洋の倫理思想	1・2後		2			○							兼1
科学思想史	1・2前		2			○							兼1	

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文科学系科目 基盤教育科目	哲学領域	東アジアの宗教と文化	1・2前	2		○								兼1	
		仏教における人間形成論	1・2前	2		○								兼1	
		小計（8科目）	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	兼6	
	心理学領域	認知心理学入門	1・2後	2		○									兼1
		行動心理学入門	1・2前	2		○									兼1
		実験心理学入門	1・2前	2		○									兼1
		発達と学習の心理学	1・2後	2		○									兼1
		パーソナリティ心理学概論	1・2前	2		○			1						兼1
		障害者心理学	1・2前	2		○									兼1
		子どもの言語とコミュニケーション入門	1・2後	2		○									兼1
		心理学と人権	1・2前	2		○									兼1
		言語習得論	1・2後	2		○									兼1
		小計（9科目）	—	0	18	0	—		0	1	0	0	0	兼7	
	文学領域	日本文学（古典）	1・2前後	2		○									兼2
日本近代文学講読		1・2前	2		○									兼1	
中国文学		1・2前	2		○									兼1	
韓国文学		1・2後	2		○									兼1	
フランス文学		1・2後	2		○									兼1	
比較文学		1・2前	2		○									兼1	
ロシア文学		1・2前	2		○									兼1	
英文学入門		1・2後	2		○									兼1	
米文学入門		1・2前	2		○									兼1	
	小計（9科目）	—	0	18	0	—		0	0	0	0	0	兼9		
芸術領域	ヨーロッパ地域文化論	1・2前	2		○									兼1	
	現代美学	1・2後	2		○									兼1	
	芸術学	1・2前	2		○									兼1	
	芸術と自然	1・2前	2		○									兼1	
	音楽通論	1・2後	2		○									兼1	
	声楽の魅力	1・2後	2		○									兼1	
	器楽合奏概論	1・2後	2		○									兼1	
	管打合奏演習	1・2後	2		○									兼1	
	日本文化A	1・2前	2		○									兼1	
	日本文化B	1・2後	2		○									兼1	
	美術表現基礎	1・2前	2		○		○							兼2	
	近現代美術論	1・2後	2		○									兼2	
		小計（12科目）	—	0	24	0	—		0	0	0	0	0	兼10	
人文総合領域	多言語コミュニケーション学A	1・2前	2		○									兼1	
	多言語コミュニケーション学B	1・2後	2		○									兼1	
	日本語の表記	1・2前	2		○									兼1	
	論理表現の技術	1・2後	2		○									兼1	
	Japanese Communication Arts	1・2後	2		○									兼1	
	ことばから見た人間	1・2後	2		○									兼1	
	社会言語学概論－日本語の変遷－	1・2前	2		○									兼1	
	成人教育と参加型学習	1・2後	2		○									兼1	
	教育の裏側に光を当てる	1・2前	2		○				1					兼1	
	生活美学	1・2前	2		○		○		1					兼1	
	ものと文化と社会	1・2後	2		○					1				兼1	
	映像分析の実践	1・2前	2		○									兼1	
	世界のなかの日本文化	1・2後	2		○									兼1	
	ボディ・ランゲージ	1・2後	2		○									兼1	
	小計（14科目）	—	0	28	0	—		1	1	0	0	0	兼10		
社会科学系科目	法学領域	日本国憲法	1・2前後	2		○								兼3	
		法学入門	1・2前	2		○								兼1	
		国際化と人権	1・2前	2		○								兼1	
		知的財産権概論	3・4後	2		○								兼1	
		小計（4科目）	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼5	
政治学領域	国際政治史	1・2前	2		○								兼1		
	戦争と平和をめぐる諸問題	1・2後	2		○								兼1		
	現代政治の理論と実際	1・2後	2		○				1						

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要															
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤教育科目	政治学領域	グローバル・ガバナンス論入門	1・2前	2		○									兼1
		政治の世界	1・2前	2		○									兼1
		現代日本政治論	1・2後	2		○									兼1
		小計(6科目)	—	0	12	0	—			1	0	0	0	0	兼5
	経済学領域	経済学Ⅰ	1・2前	2		○									兼1
		経済分析入門	1・2前	2		○			1						
		資本市場の役割と証券投資	1・2後	2		○				1					兼1
		応用経済学入門	1・2後	2		○									
		数理経済学入門	1・2前	2		○									兼1
		ゲーム理論入門	1・2後	2		○									兼1
		農業経営入門	1・2前	2		○			1						
	小計(7科目)	—	0	14	0	—			2	1	0	0	0	兼4	
	社会学領域	社会学入門	1・2後	2		○									兼1
		現代日本の社会	1・2前	2		○									兼1
		マスコミ入門	1・2後	2		○									兼1
		オセアニア民族誌	1・2後	2		○									兼1
		文化人類学入門	1・2後	2		○									兼1
		環境と国際社会	1・2前	2		○									兼1
		多文化共生論入門	1・2前	2		○									兼1
	小計(7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼6	
	地理学領域	人文地理学入門Ⅰ	1・2前	2		○									兼1
		人文地理学入門Ⅱ	1・2後	2		○									兼1
農村空間論		1・2後	2		○									兼1	
小計(3科目)		—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼2	
歴史学領域	歴史学入門	1・2前	2		○									兼1	
	歴史と民族	1・2後	2		○									兼1	
	歴史と文化	1・2後	2		○									兼1	
	地域の歴史	1・2後	2		○									兼1	
小計(4科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼3		
社会総合領域	中東の社会と文化	1・2前	2		○									兼1	
	社会開発入門	1・2前	2		○									兼1	
	遊びの理論とゲーム開発	1・2後	2		○									兼1	
	遊び輪と遊び指導	1・2前	2		○									兼1	
	住まいづくり・まちづくり入門	1・2前	2		○	○								※講義	
	オイコス入門	1・2前	2		○									兼1	
	障害者問題入門	1・2前	2		○									兼1	
	数や図形の絵本づくり	1・2後	2		○	○								※講義	
	栃木県の歴史と文化	1・2前	2		○	○								※講義	
	社会福祉入門	1・2後	2		○									兼1	
	災害復興学入門	1・2後	2		○									兼1	
	グローバル化と外国人児童生徒教育	1・2後	2		○									兼6	
	国際協力論入門	1・2前	2		○									兼1	
	伝統染織と感性	1・2後	2		○									兼1	
	著作権法入門	1・2後	2		○									兼1	
	教科書に見る歴史と社会	1・2後	2		○									兼1	
	人と自然の共生を考える	1・2通	2		○	○								兼1	
	希望の地域社会論	1・2後	2		○									兼4	
中国事情	1・2後	2		○									兼1		
グローバル韓国学	1・2前	2		○									兼1		
科学・技術・教育・社会を考える	1・2後	2		○									兼1		
テクノロジー入門	1・2後	2		○									兼1		
小計(22科目)	—	0	44	0	—			0	0	0	0	0	0	兼25	
自然科学系科目	数学領域	現代数学入門	1・2後	2		○									兼1
		電気電子数学入門	1・2前	2		○	○								兼1
		Mathematicaによる微積分入門	1・2前	2		○									兼1
		Mathematicaによるデータ解析入門	1・2後	2		○									兼1
		振動の科学	1・2前	2		○									兼1
小計(5科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼4		

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自然科学系科目 基盤教育科目	物理学領域	教養物理	1・2前	2			○							兼3	オムニバス
		物理学入門	1・2前	2			○							兼1	
		物理工学最前線	1・2前	2			○							兼1	
		Mathematica入門	1・2前後	2			○							兼1	
		放射線科学入門	1・2前	2			○							兼1	
		エレクトロニクス科学史	1・2後	2			○							兼1	
		バイオメテイクス入門	1・2後	2			○							兼1	
	小計（7科目）	—	0	14	0		—		0	0	0	0	0	兼9	
	化学領域	地球環境と化学	1・2前	2			○								兼1
		環境と生物化学	1・2前	2			○								兼1
		不思議な化学	1・2後	2				○							兼1
		水素とエネルギー	1・2後	2				○							兼1
		リメディアル化学	1・2前	2				○							兼1
		物質・材料の機器分析入門	1・2前	2				○							兼1
		ノーベル化学賞周辺の化学	1・2後	2				○							兼1
	小計（7科目）	—	0	14	0		—		0	0	0	0	0	兼7	
	生物学領域	人間生活と植物	1・2後	2			○								兼1
		食料生産の生物学	1・2後	2			○								兼1
		21世紀を支える熱帯植物	1・2後	2			○								兼1
		野外における鳥獣識別テクニックの基礎	1・2前	2			○								兼1
		基礎生物学	1・2前	2			○								兼1
		ウイルスの世界と生物の世界	1・2前	2			○								兼1
		美味しさを科学するーミシュランガイド字都宮をつくらうー	1・2後	2				○							兼1 ※講義
	小計（7科目）	—	0	14	0		—		0	0	0	0	0	兼7	
	情報科学領域	C言語・プログラミング入門	1・2前	2			○								兼1
		プログラミング応用	1・2前	2			○								兼1
		グラフィックス入門	1・2後	2			○								兼1
		インターネットのしくみ	1・2後	2			○								兼1
		Webのしくみ	1・2後	2			○								兼1
		身のまわりのICT	1・2後	2			○								兼1
		ワイヤレス通信のしくみ	1・2後	2			○								兼1
		医用画像工学入門	1・2前	2			○								兼1
	小計（8科目）	—	0	16	0		—		0	0	0	0	0	兼8	
	地球環境と生物事件史	地球環境と生物事件史	1・2前	2			○								兼1
		身近な気象学	1・2後	2			○								兼1
		小計（2科目）	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼2
	健康科学領域	肥満の科学	1・2後	2			○								兼1
		健康管理学概論	1・2後	2			○								兼1
		バレーボールの科学	1・2後	2			○								兼1
		小計（3科目）	—	0	6	0		—		0	0	0	0	0	兼3
	自然総合領域	人間の感覚を測る	1・2前	2				○							兼1 ※講義
		生物の多様性とは何か	1・2後	2			○								兼1
雑草と人のくらし		1・2後	2			○								兼1	
雑草観察入門		1・2前	2				○							兼1 ※講義	
雑草と里山のフィールド演習Ⅰ		1・2前	1				○							兼1 集中	
雑草と里山のフィールド演習Ⅱ		1・2後	1				○							兼2 共同・集中	
小計（6科目）		—	0	10	0		—		0	0	0	0	0	兼3	
初習外国語科目	ドイツ語基礎Ⅰ	1・2前	1				○							兼1	
	ドイツ語基礎Ⅱ	1・2後	1				○							兼1	
	ドイツ語基礎Ⅲ	1・2前	1				○							兼1	
	ドイツ語基礎Ⅳ	1・2後	1				○							兼1	
	ドイツ語応用Ⅰ	1・2前	1				○							兼1	
	ドイツ語応用Ⅱ	1・2後	1				○							兼1	
	フランス語基礎Ⅰ	1・2前	1				○							兼2	
	フランス語基礎Ⅱ	1・2後	1				○							兼2	
	フランス語基礎Ⅲ	1・2前	1				○							兼1	
	フランス語基礎Ⅳ	1・2後	1				○							兼1	
	フランス語応用Ⅰ	1・2前	1				○							兼1	
	フランス語応用Ⅱ	1・2後	1				○							兼1	

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
初習外国語系科目	スペイン語基礎Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
	スペイン語基礎Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
	スペイン語基礎Ⅲ	1・2前		1			○							兼1	
	スペイン語基礎Ⅳ	1・2後		1			○							兼1	
	スペイン語応用Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
	スペイン語応用Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
	中国語基礎Ⅰ	1・2前		1			○							兼2	
	中国語基礎Ⅱ	1・2後		1			○							兼2	
	中国語基礎Ⅲ	1・2前		1			○							兼1	
	中国語基礎Ⅳ	1・2後		1			○							兼1	
	中国語応用Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
	中国語応用Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
	タイ語基礎Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
	タイ語基礎Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
	タイ語基礎Ⅲ	1・2前		1			○							兼1	
	タイ語基礎Ⅳ	1・2後		1			○							兼1	
	タイ語応用Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
	タイ語応用Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
	朝鮮語基礎Ⅰ	1・2前		1			○							兼2	
	朝鮮語基礎Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
朝鮮語基礎Ⅲ	1・2前		1			○							兼1		
朝鮮語基礎Ⅳ	1・2後		1			○							兼1		
朝鮮語応用Ⅰ	1・2前		1			○							兼1		
朝鮮語応用Ⅱ	1・2後		1			○							兼1		
小計（36科目）			0	36	0		—		0	0	0	0	0	兼16	
基盤教育科目	野外調査論	1・2前		2			○							兼3	共同・※講義
	里山のサステイナビリティを考える	1・2前		2			○							兼3	共同・集中・※講義
	人と自然をつなぐ・人と人をつなぐA	1・2前		1				○						兼2	共同・集中
	人と自然をつなぐ・人と人をつなぐB	1・2前		1				○						兼1	集中・※講義
	実践・宇都宮のまちづくり	1・2前		2			○							兼1	
	一地方銀行の歴史に学ぶ「金融経済の仕組み」と「地域金融機関の役割」	1・2後		2			○							兼1	
	危機を見つめる力	1・2前		2			○							兼1	
	3.11と学問の不確かさ	1・2前		2			○							兼8	オムニバス・共同
	食と生命のフィールド実践演習	1・2前		4			○							兼6	共同
	男女共同参画社会を生きる	1・2後		2			○							兼2	共同・集中・※演習
	ものづくり体験	1・2後		2			○							兼2	共同
	宇大を学ぶ	1・2後		2			○							兼1	
	栃木の里山に学ぶ（春夏編）	1・2前		1			○							兼1	集中
	栃木の里山に学ぶ（秋冬編）	1・2後		1			○							兼1	集中
	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会の中の私たち」	1・2前		2			○							兼1	
	ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	1・2後		2			○							兼1	
	生きるということ	1・2前		2			○							兼1	
	「ぶろじえくと」をやってみる	1・2前		1			○							兼1	
	体験！ぶろじえくと	1・2前		2			○							兼1	
	感じる・考える・話す	1・2後		2			○							兼1	
アクティブにとらえる現代社会	1・2後		2			○							兼1		
とちぎ終章学特講	1・2後		1				○			1				※講義	
とちぎ終章学演習Ⅰ	1・2前		2				○						兼3	共同・※講義	
とちぎ終章学演習Ⅱ	1・2前		2				○						兼1	※講義	
小計（24科目）			1	43	0		—		0	1	0	0	0	兼36	
基盤キャリア教育科目	人間と社会	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	キャリアデザイン	1・2・3・4後		2			○							兼2	共同
	働くことの意味と実際	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	実践企業人材論	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	起業の実際と理論	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	先輩に学ぶ	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	より良く生きる	1・2・3・4前		2			○							兼3	オムニバス
	企業のグローバル戦略とキャリア形成	1・2・3・4後		2			○							兼1	
	グローバル時代の企業経営	1・2・3・4前		2			○							兼1	集中
小計（9科目）			0	18	0		—		0	0	0	0	0	兼10	

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基盤教育科目	社会奉仕活動 社会奉仕活動 社会奉仕活動 社会奉仕活動 国際協力活動 国際協力活動 国際協力活動 国際協力活動 実務体験活動 実務体験活動 実務体験活動 特別体験活動 特別体験活動 特別体験活動 特別体験活動	1・2・3・4前	1					○							兼1	活動期により単位認定	
		1・2・3・4前	2					○							兼1		
		1・2・3・4前	3					○							兼1		
		1・2・3・4前	4					○							兼1		
			1・2・3・4前	1					○							兼1	活動期により単位認定
			1・2・3・4前	2					○							兼1	
			1・2・3・4前	3					○							兼1	
			1・2・3・4前	4					○							兼1	
			1・2・3・4前	1					○							兼1	活動期により単位認定
			1・2・3・4前	2					○							兼1	
			1・2・3・4前	3					○							兼1	
			1・2・3・4前	4					○							兼1	
			小計（4科目）	—	0	40	0		—			0	0	0	0	0	兼1
		留學生日本語科目	アカデミック・ジャパニーズ	1前	1				○								兼1
日本語アカデミック・ライティング	1後		1				○								兼1		
日本語アカデミック・プレゼンテーション	1・2・3・4後		1				○								兼1		
科学技術のための専門日本語	1・2・3・4前		1				○								兼1		
人文社会系のための専門日本語	1・2・3・4前		1				○								兼1		
日本事情	1・2・3・4前		2			○									兼1		
	小計（6科目）	—	0	7	0		—			0	0	0	0	0	兼3		
専門導入科目	地域デザイン学序論A	1前	2				○			6	6	1			兼12	オムニバス	
	地域デザイン学序論B	1後	2				○								兼10	オムニバス	
	地域デザイン学序論C	1後	2				○								兼10	オムニバス	
	小計（3科目）	—	6	0	0		—			6	6	1	0	0	兼22		
共通専門科目	必修科目	地域デザイン訪問	1通	2				○		1	1	1			兼6	オムニバス・共同	
		地域の姿と課題Ⅰ	1前	1				○		1	1	1			兼2	オムニバス・共同	
		地域コミュニケーション演習	1前	1					○	1	3				兼8	共同	
		ワークショップ演習	3前	1					○		3				兼3	共同	
		地域プロジェクト演習	3通	2					○	6	6	1			兼3	共同	
		小計（5科目）	—	7	0	0		—		6	6	1	0	0	兼15		
	選択科目	G I S演習	2後	1				○		1						兼2	オムニバス
		地域の姿と課題Ⅱ	3前	1				○		1						兼4	オムニバス
		地域デザイン倫理	3後	2				○								兼4	オムニバス
		小計（3科目）	—	0	4	0		—		2	0	0	0	0	兼6		
専門教育科目	基礎科目群	地域社会総論	1前	2				○		6	6	1				兼1	オムニバス
		まちづくり論	1後	2				○			1						
		ソーシャルスキル演習	2前	2					○		2						
		社会調査と地域	2前	2					○		1						
		社会調査法	2後	2					○							兼1	※演習
		まちづくり特講	2後	2		2			○	4	2	1					※演習
		統計学基礎	2後	2		2			○							兼1	
		社会統計学	3前	2		2			○		1						
		社会調査実習Ⅰ	3前	1		1			○		1	1					共同
		社会調査実習Ⅱ	3後	1		1			○		1	1					共同
		小計（10科目）	—	10	8	0		—		6	6	1	0	0	兼2		
	社会システム科目群	公共政策入門	1前	2				○									
		経済学概論	1後	2				○		1							
		行政学	2前	2				○		1							
公共経済学		2前	2				○			1							
政治学概論		1後	2		2			○			1						
ミクロ経済学		1後	2		2			○							兼1		
法学概論		2後	2		2			○							兼1		
憲法		2後	2		2			○							兼1		
民法	2後	2		2			○							兼1			
経済政策論	2後	2		2			○		1								
地方自治論	3前	2		2			○		1								

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)																			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
社会システム科目群	政策過程論	3前		2		○													
	行政法	3前		2		○												兼1	
	公共マネジメント	3前		2		○												兼1	
	スポーツ・余暇政策	3後		2		○				1								兼1	
	都市計画法	3後		2		○												兼1	
	プロジェクト評価論	3後		2		○							1					兼1	
	財政学	3後		2		○												兼1	
	環境・資源経済学	3後		2		○												兼1	
	小計（19科目）	—		8	30	0	—			2	2	0	0	0				兼7	
	地域資源科目群	地域資源論	1後		2		○				1								
		地域食育論	2前		2		○				1								※演習
		農村マネジメント	2前		2		○				1								※演習
		観光概論	2後		2		○						1						※演習
		文化マネジメント	2後		2		○				1								※演習
		地域生態学	2前		2		○				1								※演習
		農村起業論	2後		2		○				1								※演習
		食文化論	2後		2			○			1								
		観光地理学	3前		2		○							1					
		食資源活用実習	3前		2						1								
観光学実習		3後		2									1						
地域史		3後		2		○												兼1	
生物多様性論		3後		2		○												兼1	
景観解析		3後		2		○												兼1	
文化マネジメント演習	3後		2			○				1							兼1		
小計（15科目）	—		10	20	0	—			4	0	1	0	0				兼3		
コミュニティデザイン学科専門科目	高齢社会学	1後		2		○					1							兼1	
	地域福祉の実際	1後		2		○												兼1	
	生涯学習社会論	2前		2		○						1						兼1	
	地域社会学	2前		2		○							1					※演習	
	地域実践心理学	2後		2		○							1					兼1	
	生涯学習概論	1前		2		○												兼1	
	社会学概論	2前		2		○												兼1	
	社会福祉学概論	2前		2		○												兼1	
	地域福祉論	2後		2		○												兼1	
	社会教育計画Ⅰ	3前		2		○												兼1	
	NPO論	3前		2		○							1					兼1	
	倫理学概論	3前		2		○												兼1	
	会話分析入門	3前		2		○							1					兼1	
	多文化理解論	3前		2		○							1					兼1	
	福祉社会学	3後		2		○							1					兼1	
	現代日本社会論	3後		2		○												兼1	
	社会教育計画Ⅱ	3後		2		○												兼1	
	ストレスマネジメント	3後		2		○							1					※演習	
小計（18科目）	—		10	26	0	—			0	4	0	0	0				兼8		
他学科科目	防災マネジメントⅠ	2後		2		○												兼1	
	流域環境学Ⅰ	3前		2		○												兼1	
	都市計画	3前		2		○												兼2	
	地区計画	3後		2		○												兼1	
	高齢者防災論	3後		2		○												兼1	
小計（5科目）	—		0	10	0	—			0	0	0	0	0				兼6		
主題探求科目群	コミュニティデザイン演習（経済政策分野）	3前		2			○			1									
	コミュニティデザイン演習（文化マネジメント分野）	3前		2			○			1									
	コミュニティデザイン演習（地方自治分野）	3前		2			○			1									
	コミュニティデザイン演習（農村マネジメント分野）	3前		2			○			1									
	コミュニティデザイン演習（地域生態学分野）	3前		2			○			1									
	コミュニティデザイン演習（食生活学分野）	3前		2			○			1									
	コミュニティデザイン演習（まちづくり分野）	3前		2			○						1						
	コミュニティデザイン演習（公共マネジメント分野）	3前		2			○						1						
	コミュニティデザイン演習（公共政策分野）	3前		2			○						1						
コミュニティデザイン演習（社会教育分野）	3前		2			○						1							

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	コミュニティデザイン演習（福祉社会学分野）	3前		2			○			1				
	コミュニティデザイン演習（心理学分野）	3前		2			○			1				
	コミュニティデザイン演習（観光地理学分野）	3前		2			○				1			
	外国語文献講読	3後		2			○		1	1				
	卒業研究準備演習	3後	2				○		6	6	1			
	卒業研究	4通	4				○		6	6	1			
	リフレクション	4後	2				○		6	6	1			
	小計（17科目）	—	8	28	0	—	—	—	6	6	1	0	0	
合計（363科目）			—	73	639	0	—	—	6	6	1	0	0	兼233
学位又は称号		学士（コミュニティデザイン学）			学位又は学科の分野			法学関係、経済学関係、社会学・社会福祉学関係、理学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p>1. 基盤教育科目 36単位以上 〔必修科目（選択必修科目含む） 30単位，選択科目 6単位以上を履修〕</p> <p>必修科目の履修方法</p> <p>(1) 初期導入科目 2単位 新入生セミナーを必修。</p> <p>(2) リテラシー科目 13単位以上 スポーツと健康，情報処理基礎，とちぎ終章学総論，Integrated English IA, Integrated English IB, Integrated English IIA, Integrated English IIB, Advanced English I（異なる分野から2科目）を必修。</p> <p>(3) 教養科目 7単位以上 人文科学系科目から2単位，社会科学系科目から2単位，自然科学系科目から2単位，総合系科目から1単位（とちぎ終章学特講）を必修。</p> <p>(4) 基盤キャリア教育科目 2単位以上 キャリア創造科目から2単位を必修。</p> <p>(5) 専門導入科目 6単位 地域デザイン学序論A，地域デザイン学序論B，地域デザイン学序論Cを必修。</p>							1 学年の学期区分			2 期				
<p>2. 専門教育科目 90単位以上 〔必修科目（選択必修科目含む） 58単位，選択科目 32単位以上を履修〕</p> <p>必修科目の履修方法</p> <p>(1) 共通専門科目 8単位以上 地域デザイン訪問，地域の姿と課題I，地域コミュニケーション演習，ワークショップ演習，地域プロジェクト演習を必修。</p> <p>(2) 学科専門科目 50単位以上</p> <p>①基礎科目群 10単位以上 地域社会総論，まちづくり論，ソーシャルスキル演習，社会調査と地域，社会調査法を必修。</p> <p>②社会システム科目群 8単位以上 公共政策入門，経済学概論，行政学，公共経済学を必修。</p> <p>③地域資源科目群 10単位以上 地域資源論，地域食育論，農村マネジメント，観光概論，文化マネジメントを必修。</p> <p>④地域実践科目群 10単位以上 高齢社会学，地域福祉の実際，生涯学習社会論，地域社会学，地域実践心理学を必修。</p> <p>⑤他学科科目 0単位以上</p> <p>⑥その他 12単位以上 コミュニティデザイン演習（異なった分野から2科目），卒業研究準備演習，</p>							1 学期の授業期間			15 週				
							1 時限の授業時間			90 分				
総修得単位数 126単位以上														
※ 履修登録単位数の上限 48単位（年間）（自由科目を除く）														

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数					授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤教育科目 リテラシー科目	Integrated English I A	1前	2					○							兼2	
	Integrated English I B	1前	1					○							兼8	
	Integrated English II A	1後	2					○							兼2	
	Integrated English II B	1後	1					○							兼8	
	Advanced English I (Intensive Reading)	2前後		1				○							兼4	
	Advanced English I (Pleasure Reading)	2前後		1				○							兼2	
	Advanced English I (Academic Writing)	2前後		1				○							兼2	
	Advanced English I (Essay writing)	2前後		1				○							兼4	
	Advanced English I (Public Speaking)	2前後		1				○							兼2	
	Advanced English I (Presentation)	2前後		1				○							兼4	
	Advanced English I (Discussion&Debate)	2前後		1				○							兼1	
	Advanced English I (Speech Clinic)	2前後		1				○							兼3	
	Advanced English I (Vocabulary Building)	2前		1				○							兼2	
	Advanced English I (Communicative Grammar)	2前後		1				○							兼4	
	Advanced English I (Media English)	2前後		1				○							兼2	
	Advanced English I (Cinema English)	2前後		1				○							兼1	
	Advanced English I (TOEIC)	2前後		1				○							兼5	
	Advanced English I (TOEFL)	2前後		1				○							兼1	
	Advanced English I (EAP)	2前後		1				○							兼4	
	Honors English A	1・2・3・4前		1				○							兼2	
	Honors English B	1・2・3・4後		1				○							兼2	
	Honors English C	1・2・3・4前		1				○							兼2	
	Honors English D	1・2・3・4後		1				○							兼2	
	Honors English E	1・2・3・4前		1				○							兼2	
	Honors English F	1・2・3・4後		1				○							兼2	
	Honors English G	1・2・3・4前		1				○							兼2	
	Honors English H	1・2・3・4後		1				○							兼2	
	Honors Camp A	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	Honors Camp B	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	Honors Camp C	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	Honors Camp D	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	Overseas Study A	1・2・3・4前		1				○							兼1	
	Overseas Study A	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	Overseas Study A	1・2・3・4前		3				○							兼1	
	Overseas Study A	1・2・3・4前		4				○							兼1	
	Overseas Study B	1・2・3・4前		1				○							兼1	
	Overseas Study B	1・2・3・4前		2				○							兼1	
Overseas Study B	1・2・3・4前		3				○							兼1		
Overseas Study B	1・2・3・4前		4				○							兼1		
Overseas Study C	1・2・3・4前		1				○							兼1		
Overseas Study C	1・2・3・4前		2				○							兼1		
Overseas Study C	1・2・3・4前		3				○							兼1		
Overseas Study C	1・2・3・4前		4				○							兼1		
Overseas Study D	1・2・3・4前		1				○							兼1		
Overseas Study D	1・2・3・4前		2				○							兼1		
Overseas Study D	1・2・3・4前		3				○							兼1		
Overseas Study D	1・2・3・4前		4				○							兼1		
スポーツと健康	1前		2				○							兼7		
とちぎ終章学総論	1後		1				○							※講義		
小計 (37科目)		—	9	71	0		—			0	1	0	0	0	兼33	
人文科学系科目 哲学領域	西洋思想	1・2前		2			○								兼1	
	現代思想	1・2後		2			○								兼1	
	東洋思想	1・2前		2			○								兼1	
	論理学	1・2前		2			○								兼1	
	西洋の倫理思想	1・2後		2			○								兼1	
科学思想史	1・2前		2			○								兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要														
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤教育科目	哲学領域	東アジアの宗教と文化	1・2前	2		○								兼1
		仏教における人間形成論	1・2前	2		○								兼1
		小計(8科目)	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	兼6
	心理学領域	認知心理学入門	1・2後	2		○								兼1
		行動心理学入門	1・2前	2		○								兼1
		実験心理学入門	1・2前	2		○								兼1
		発達と学習の心理学	1・2後	2		○								兼1
		パーソナリティ心理学概論	1・2前	2		○				1				兼1
		障害者心理学	1・2前	2		○								兼1
		子どもの言語とコミュニケーション入門	1・2後	2		○								兼1
		心理学と人権	1・2前	2		○								兼1
		言語習得論	1・2後	2		○								兼1
	小計(9科目)	—	0	18	0	—		0	1	0	0	0	兼7	
	文学領域	日本文学(古典)	1・2前後	2		○								兼2
		日本近代文学講読	1・2前	2		○								兼1
		中国文学	1・2前	2		○								兼1
		韓国文学	1・2後	2		○								兼1
		フランス文学	1・2後	2		○								兼1
		比較文学	1・2前	2		○								兼1
		ロシア文学	1・2前	2		○								兼1
		英文学入門	1・2後	2		○								兼1
		米文学入門	1・2前	2		○								兼1
	小計(9科目)	—	0	18	0	—		0	0	0	0	0	兼9	
	芸術領域	ヨーロッパ地域文化論	1・2前	2		○								兼1
		現代美学	1・2後	2		○								兼1
		芸術学	1・2前	2		○								兼1
		芸術と自然	1・2前	2		○								兼1
		音楽通論	1・2後	2		○								兼1
		音楽の魅力	1・2後	2		○								兼1
		器楽合奏概論	1・2後	2		○								兼1
		管打合奏演習	1・2後	2		○								兼1
		日本文化A	1・2前	2		○								兼1
		日本文化B	1・2後	2		○								兼1
		美術表現基礎	1・2前	2		○		○						兼2 <small>ピカソ・共同・夜講義</small>
		近現代美術論	1・2後	2		○								兼2 <small>ピカソ・共同</small>
		小計(12科目)	—	0	24	0	—		0	0	0	0	0	兼10
	人文総合領域	多言語コミュニケーション学A	1・2前	2		○								兼1
		多言語コミュニケーション学B	1・2後	2		○								兼1
		日本語の表記	1・2前	2		○								兼1
		論理表現の技術	1・2後	2		○								兼1
		Japanese Communication Arts	1・2後	2		○								兼1
		ことばから見た人間	1・2後	2		○								兼2
		成人教育と参加型学習	1・2後	2		○								兼1
		教育の裏側に光を当てる	1・2前	2		○				1				兼1
		生活美学	1・2前	2		○		○		1				兼1
ものと文化と社会		1・2後	2		○					1			兼1	
映像分析の実践		1・2前	2		○								兼1	
世界のなかの日本文化		1・2後	2		○								兼1	
ボディ・ランゲージ		1・2後	2		○								兼1	
小計(13科目)	—	0	26	0	—		1	1	0	0	0	兼9		
社会科学系科目	日本国憲法	1・2前後	2		○								兼3	
	法学入門	1・2前	2		○								兼1	
	国際化と人権	1・2前	2		○								兼1	
	知的財産権概論	3・4後	2		○								兼1 ※演習	
	小計(4科目)	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼5	
政治学領域	国際政治史	1・2前	2		○								兼1	
	戦争と平和をめぐる諸問題	1・2後	2		○								兼1	
	現代政治の理論と実際	1・2後	2		○				1				兼1	

教育課程等の概要															
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
社会科学系科目 基盤教育科目	政治学領域	グローバル・ガバナンス論入門	1・2前		2		○								兼1
		政治の世界	1・2前		2		○								兼1
		現代日本政治論	1・2後		2		○								兼1
		小計(6科目)	—	0	12	0	—			1	0	0	0	0	兼5
	経済学領域	経済学Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
		経済分析入門	1・2前		2		○			1					
		資本市場の役割と証券投資	1・2後		2		○								兼1
		応用経済学入門	1・2後		2		○				1				
		数理経済学入門	1・2前		2		○								兼1
		ゲーム理論入門	1・2後		2		○								兼1
		農業経営入門	1・2前		2		○			1					
	小計(7科目)	—	0	14	0	—			2	1	0	0	0	兼4	
	社会学領域	社会学入門	1・2後		2		○								兼1
		現代日本の社会	1・2前		2		○								兼1
		マスコミ入門	1・2後		2		○								兼1
		オセアニア民族誌	1・2後		2		○								兼1
		文化人類学入門	1・2後		2		○								兼1
		環境と国際社会	1・2前		2		○								兼1
		多文化共生論入門	1・2前		2		○								兼1
	小計(7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼6	
	地理学領域	人文地理学入門Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
		人文地理学入門Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
農村空間論		1・2後		2		○								兼1	
小計(3科目)		—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼2	
歴史学領域	歴史学入門	1・2前		2		○								兼1	
	歴史と民族	1・2後		2		○								兼1	
	歴史と文化	1・2後		2		○								兼1	
	地域の歴史	1・2後		2		○								兼1	
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼3	
社会総合領域	中東の社会と文化	1・2前		2		○								兼1	
	社会開発入門	1・2前		2		○								兼1	
	遊びの理論とゲーム開発	1・2後		2		○								兼1	
	遊び論と遊び指導	1・2前		2		○								兼1	
	住まいづくり・まちづくり入門	1・2前		2			○							兼1 ※講義	
	オイコス入門	1・2前		2		○								兼1	
	障害者問題入門	1・2前		2		○								兼1 隔年	
	数や図形の絵本づくり	1・2後		2			○							兼1 ※講義	
	栃木県の歴史と文化	1・2前		2			○							兼1 ※講義	
	社会福祉入門	1・2後		2		○								兼1	
	災害復興学入門	1・2後		2		○								兼1	
	グローバル化と外国人児童生徒教育	1・2後		2		○								兼6 オムニバス・共同	
	国際協力論入門	1・2前		2		○								兼1	
	伝統染織と感性	1・2後		2		○								兼1	
	著作権法入門	1・2後		2		○								兼1	
	教科書に見る歴史と社会	1・2後		2		○								兼1	
	人と自然の共生を考える	1・2通		2			○							兼1 集中	
希望の地域社会論	1・2後		2		○								兼4 オムニバス		
中国事情	1・2後		2		○								兼1		
グローバル韓国学	1・2前		2		○								兼1		
科学・技術・教育・社会を考える	1・2後		2		○								兼1		
セクソロジー入門	1・2後		2			○							兼1 ※講義		
小計(22科目)	—	0	44	0	—				0	0	0	0	0	兼25	
自然科学系科目	数学領域	現代数学入門	1・2後		2		○								兼1
		Mathematicaによる微積分入門	1・2前		2		○								兼1
		Mathematicaによるデータ解析入門	1・2後		2		○								兼1
		振動の科学	1・2前		2		○								兼1
	小計(4科目)	—	0	8	0	—				0	0	0	0	0	兼3

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
自然科学系科目 基盤教育科目	物理学領域	教養物理	1・2前	2			○								兼3 兼1	オムニバス	
		物理学入門	1・2前	2			○								兼1		
		物理工学最前線	1・2前	2			○								兼1		
		Mathematica入門	1・2前後	2			○								兼1		
		放射線科学入門	1・2前	2			○								兼1		
		エレクトロニクス科学史	1・2後	2			○								兼1		
		バイオメテイクス入門	1・2後	2			○								兼1		
		小計(7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0		兼9
	化学領域	地球環境と化学	1・2前	2			○									兼1	
		環境と生物化学	1・2前	2			○									兼1	
		不思議な化学	1・2後	2				○								兼1	
		水素とエネルギー	1・2後	2			○									兼1	
		リメディアル化学	1・2前	2			○									兼1	
		物質・材料の機器分析入門	1・2前	2			○									兼1	
		ノーベル化学賞周辺の化学	1・2後	2			○									兼1	
		小計(7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	
	生物学領域	人間生活と植物	1・2後	2			○									兼1	
		食料生産の生物学	1・2後	2			○									兼1	
		21世紀を支える熱帯植物	1・2後	2			○									兼1	
		野外における鳥獣識別テクニックの基礎	1・2前	2			○									兼1	
		基礎生物学	1・2前	2			○									兼1	
		ウイルスの世界と生物の世界	1・2前	2			○									兼1	
		美味しさを科学するーミシュランガイド宇都宮をつくらうー	1・2後	2				○								兼1	
		小計(7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	
	情報科学領域	C言語・プログラミング入門	1・2前	2			○									兼1	
		プログラミング応用	1・2前	2			○									兼1	
		インターネットのしくみ	1・2後	2			○									兼1	
		Webのしくみ	1・2後	2			○									兼1	
身のまわりのICT		1・2後	2			○									兼1		
ワイヤレス通信のしくみ		1・2後	2			○									兼1		
医用画像工学入門		1・2前	2			○									兼1		
小計(7科目)		—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7		
地球領域	地球環境と生物事件史	1・2前	2			○									兼1		
	身近な気象学	1・2後	2			○									兼1		
	小計(2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2		
健康科学領域	肥満の科学	1・2後	2			○									兼1		
	健康管理学概論	1・2後	2			○									兼1		
	バレーボールの科学	1・2後	2			○									兼1		
	小計(3科目)	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3		
自然総合領域	人間の感覚を測る	1・2前	2				○								兼1	※講義 集中 共同・集中	
	生物の多様性とは何か	1・2後	2			○									兼1		
	雑草と人の暮らし	1・2後	2			○									兼1		
	雑草観察入門	1・2前	2				○								兼1		
	雑草と里山のフィールド演習Ⅰ	1・2前	1				○								兼1		
	雑草と里山のフィールド演習Ⅱ	1・2後	1				○								兼2		
	小計(6科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3		
初習外国語系科目	ドイツ語基礎Ⅰ	1・2前	1				○								兼1		
	ドイツ語基礎Ⅱ	1・2後	1				○								兼1		
	ドイツ語基礎Ⅲ	1・2前	1				○								兼1		
	ドイツ語基礎Ⅳ	1・2後	1				○								兼1		
	ドイツ語応用Ⅰ	1・2前	1				○								兼1		
	ドイツ語応用Ⅱ	1・2後	1				○								兼1		
	フランス語基礎Ⅰ	1・2前	1				○								兼2		
	フランス語基礎Ⅱ	1・2後	1				○								兼2		
	フランス語基礎Ⅲ	1・2前	1				○								兼1		
	フランス語基礎Ⅳ	1・2後	1				○								兼1		
フランス語応用Ⅰ	1・2前	1				○								兼1			

教育課程等の概要																
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
初習外国語系科目	フランス語応用Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	
	スペイン語基礎Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	
	スペイン語基礎Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	
	スペイン語基礎Ⅲ	1・2前		1			○								兼1	
	スペイン語基礎Ⅳ	1・2後		1			○								兼1	
	スペイン語応用Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	
	スペイン語応用Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	
	中国語基礎Ⅰ	1・2前		1			○								兼2	
	中国語基礎Ⅱ	1・2後		1			○								兼2	
	中国語基礎Ⅲ	1・2前		1			○								兼1	
	中国語基礎Ⅳ	1・2後		1			○								兼1	
	中国語応用Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	
	中国語応用Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	
	タイ語基礎Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	
	タイ語基礎Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	
	タイ語基礎Ⅲ	1・2前		1			○								兼1	
	タイ語基礎Ⅳ	1・2後		1			○								兼1	
	タイ語応用Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	
	タイ語応用Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	
	朝鮮語基礎Ⅰ	1・2前		1			○								兼2	
	朝鮮語基礎Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	
	朝鮮語基礎Ⅲ	1・2前		1			○								兼1	
	朝鮮語基礎Ⅳ	1・2後		1			○								兼1	
朝鮮語応用Ⅰ	1・2前		1			○								兼1		
朝鮮語応用Ⅱ	1・2後		1			○								兼1		
小計(36科目)		—	0	36	0		—		0	0	0	0	0	0	兼16	
基盤教育科目	野外調査論	1・2前		2			○								兼3	共同・※講義
	里山のサステナビリティを考える	1・2前		2			○								兼3	共同・集中・※講義
	人と自然をつなぐ・人と人をつなぐA	1・2前		1				○							兼2	共同・集中
	人と自然をつなぐ・人と人をつなぐB	1・2前		1				○							兼1	集中・※講義
	実践・宇都宮のまちづくり	1・2前		2			○								兼1	
	一地方銀行の歴史に学ぶ“金融経済の仕組み”と“地域金融機関の役割”	1・2後		2			○								兼1	
	危機を見つめる力	1・2前		2			○								兼1	
	3.11と学問の不確かさ	1・2前		2			○								兼8	オムニバス・共同
	食と生命のフィールド実践演習	1・2前		4			○								兼6	共同
	男女共同参画社会を生きる	1・2後		2			○								兼2	共同・集中・※演習
	宇大を学ぶ	1・2後		2			○								兼1	
	栃木の里山に学ぶ(春夏編)	1・2前		1			○								兼1	集中
	栃木の里山に学ぶ(秋冬編)	1・2後		1			○								兼1	集中
	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会の中の私たち」	1・2前		2			○								兼1	
	ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	1・2後		2			○								兼1	
	生きるということ	1・2前		2			○								兼1	
	「ぶろじえくと」をやってみる	1・2前		1			○								兼1	
	体験!ぶろじえくと	1・2前		2			○								兼1	
	感じる・考える・話す	1・2後		2			○								兼1	
	アクティブにとらえる現代社会	1・2後		2			○								兼1	
	とちぎ終章学特講	1・2後		1			○				1					※講義
	とちぎ終章学演習Ⅰ	1・2前		2			○								兼3	共同・※講義
	とちぎ終章学演習Ⅱ	1・2前		2			○								兼1	※講義
小計(23科目)		—	1	41	0		—		0	1	0	0	0	0	兼34	
基盤キャリア教育科目	キャリアデザイン	1・2・3・4後		2			○								兼2	共同
	働くことの意味と実際	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	実践企業人材論	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	起業の実際と理論	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	先輩に学ぶ	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	企業のグローバル戦略とキャリア形成	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	グローバル時代の企業経営	1・2・3・4前		2			○								兼1	集中
小計(7科目)		—	0	14	0		—		0	0	0	0	0	0	兼7	

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	地域福祉論	2後		2		○									兼1	隔年 ※演習
	社会教育計画Ⅰ	3前		2		○									兼1	
	倫理学概論	3前		2		○									兼1	
	現代日本社会論	3後		2		○									兼1	
	社会教育計画Ⅱ	3後		2		○									兼1	
	小計(11科目)		—	6	16	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計(296科目)			—	32	551	0	—	—	—	—	—	—	—	—	兼223	
学位又は称号		学士(コミュニティデザイン学)			学位又は学科の分野			法学関係, 経済学関係, 社会学・社会福祉学関係, 理学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>1. 基盤教育科目 36単位以上 〔必修科目(選択必修科目含む) 30単位, 選択科目 6単位以上を履修〕</p> <p>必修科目の履修方法</p> <p>(1) 初期導入科目 2単位 新入生セミナーを必修。</p> <p>(2) リテラシー科目 13単位以上 スポーツと健康, 情報処理基礎, とちぎ終章学総論, Integrated English I A, Integrated English I B, Integrated English II A, Integrated English II B, Advanced English I (異なる分野から2科目)を必修。</p> <p>(3) 教養科目 7単位以上 人文科学系科目から2単位, 社会科学系科目から2単位, 自然科学系科目から2単位, 総合系科目から1単位(とちぎ終章学特講)を必修。</p> <p>(4) 基盤キャリア教育科目 2単位以上 キャリア創造科目から2単位を必修。</p> <p>(5) 専門導入科目 6単位 地域デザイン学序論A, 地域デザイン学序論B, 地域デザイン学序論Cを必修。</p>								1学年の学期区分			2期					
<p>2. 専門教育科目 90単位以上 〔必修科目(選択必修科目含む) 58単位, 選択科目 32単位以上を履修〕</p> <p>必修科目の履修方法</p> <p>(1) 共通専門科目 8単位以上 地域デザイン訪問, 地域の姿と課題Ⅰ, 地域コミュニケーション演習, ワークショップ演習, 地域プロジェクト演習を必修。</p> <p>(2) 学科専門科目 50単位以上</p> <p>①基礎科目群 10単位以上 地域社会総論, まちづくり論, ソーシャルスキル演習, 社会調査と地域, 社会調査法を必修。</p> <p>②社会システム科目群 8単位以上 公共政策入門, 経済学概論, 行政学, 公共経済学を必修。</p> <p>③地域資源科目群 10単位以上 地域資源論, 地域食育論, 農村マネジメント, 観光概論, 文化マネジメントを必修。</p> <p>④地域実践科目群 10単位以上 高齢社会学, 地域福祉の実際, 生涯学習社会論, 地域社会学, 地域実践心理学を必修。</p> <p>⑤他学科科目 0単位以上</p> <p>⑥その他 12単位以上 コミュニティデザイン演習(異なった分野から2科目), 卒業研究準備演習,</p>								1学期の授業期間			15週					
<p style="text-align: right;">総修得単位数 126単位以上</p> <p>※ 履修登録単位数の上限 48単位(年間)(自由科目を除く)</p>								1時限の授業時間			90分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤教育科目	初 期 導 入 科目	新生セミナー	1前	2			○			2		1			共同・※演習
		小計(1科目)	—	2	0	0		—		2	0	1	0	0	
	リ テ ラ シ ー 科 目	情報処理基礎	1前	2				○		1					
		小計(1科目)	—	2	0	0		—		1	0	0	0	0	
	人 文 科 学 系 科 目	社会言語学概論－日本語の変遷－	1・2前		2			○							兼1
		小計(1科目)	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼1
	自 然 科 学 系 科 目	電気電子数学入門	1・2前		2				○						兼1 ※講義
		小計(1科目)	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼1
		グラフィックス入門	1・2後		2			○							兼1
		小計(1科目)	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼1
	総 合 系 科 目	ものづくり体験	1・2後		2				○						兼2 共同
		小計(1科目)	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼2
	基 盤 キ ャ リ ア 教 育 科 目	人間と社会	1・2・3・4前		2			○							兼1
		より良く生きる	1・2・3・4前		2			○							兼3 オムニバス
		小計(2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼4
共 通 専 門 科 目	必 修 科 目	地域デザイン訪問	1通	2				○		1	1	1			兼6 オムニバス・共同
		地域の姿と課題Ⅰ	1前	1			○			1	1				兼2 オムニバス・共同
		地域コミュニケーション演習	1前	1					○		1	3			兼8 共同
		ワークショップ演習	3前	1					○			3			兼3 共同
		地域プロジェクト演習	3通	2					○		6	6	1		兼3 共同
	小計(5科目)	—	7	0	0		—		6	6	1	0	0	兼15	
	選 択 科 目	G I S 演習	2後		1				○		1				兼2 オムニバス
地域の姿と課題Ⅱ		3前		1			○		1						
地域デザイン倫理		3後		2				○						兼4 オムニバス	
小計(3科目)	—	0	4	0		—		2	0	0	0	0	兼6		
専 門 教 育 科 目	コ ミ ュ ニ テ ィ デ ザ ィ ン 学 科 専 門 科 目	地域社会総論	1前	2			○			6	6	1			兼1 オムニバス
		まちづくり論	1後	2			○				1				
		ソーシャルスキル演習	2前	2					○			2			
		社会調査と地域	2前	2				○			1				
		社会調査法	2後	2				○							兼1 ※演習
		まちづくり特講	2後		2			○		4	2	1			兼1 オムニバス・※演習
		統計学基礎	2後		2			○							兼1
		社会統計学	3前		2			○			1				
		社会調査実習Ⅰ	3前		1						1	1			共同
	社会調査実習Ⅱ	3後		1						1	1			共同	
	小計(9科目)	—	10	8	0		—		6	6	1	0	0	兼2	
政 策 シ ス テ ム 科 目	公共政策入門	1前	2			○				1					
	政策過程論	3前		2			○			1					

教 育 課 程 等 の 概 要														
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
社会システム科目群	公共マネジメント	3前		2		○				1				
	プロジェクト評価論	3後		2		○				1				
	小計(4科目)	—	2	6	0	—			2	2	0	0	0	
地域資源科目群	地域資源論	1後	2			○			1					
	地域食育論	2前	2			○			1					
	地域生態学	2前		2		○			1					
	観光概論	2後	2			○					1			
	観光地理学	3前		2		○					1			
	食資源活用実習	3前		2				○	1					
	観光学実習	3後		2				○			1			
	景観解析	3後		2		○								兼1 集中
	小計(8科目)	—	6	10	0	—			4	0	1	0	0	兼1
コミュニティデザイン実践科目群	高齢社会学	1後	2			○				1				
	地域実践心理学	2後	2			○				1				※演習
	NPO論	3前		2		○				1				
	会話分析入門	3前		2		○				1				
	多文化理解論	3前		2		○				1				
	福祉社会学	3後		2		○				1				
	ストレスマネジメント	3後		2		○				1				※演習
	小計(7科目)	—	4	10	0	—			0	4	0	0	0	
他学科科目	防災マネジメントI	2後		2		○								兼1
	流域環境学I	3前		2		○								兼1
	都市計画	3前		2		○								兼2 オムニパス
	地区計画	3後		2		○								兼1
	高齢者防災論	3後		2		○								兼1
	小計(5科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼6
主題探求科目群	コミュニティデザイン演習(経済政策分野)	3前		2			○		1					
	コミュニティデザイン演習(文化マネジメント分野)	3前		2			○		1					
	コミュニティデザイン演習(地方自治分野)	3前		2			○		1					
	コミュニティデザイン演習(農村マネジメント分野)	3前		2			○		1					
	コミュニティデザイン演習(地域生態学分野)	3前		2			○		1					
	コミュニティデザイン演習(食生活学分野)	3前		2			○		1					
	コミュニティデザイン演習(まちづくり分野)	3前		2			○			1				
	コミュニティデザイン演習(公共マネジメント分野)	3前		2			○			1				
	コミュニティデザイン演習(公共政策分野)	3前		2			○			1				
	コミュニティデザイン演習(社会教育分野)	3前		2			○			1				
	コミュニティデザイン演習(福祉社会学分野)	3前		2			○			1				
	コミュニティデザイン演習(心理学分野)	3前		2			○			1				

教 育 課 程 等 の 概 要														
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
コミュニティデザイン学科専門科目 主題探求科目群	コミュニティデザイン演習（観光地理学分野）	3前		2			○				1			
	外国語文献講読	3後		2			○		1	1				
	卒業研究準備演習	3後	2				○		6	6	1			
	卒業研究	4通	4				○		6	6	1			
	リフレクション	4後	2				○		6	6	1			
	小計（17科目）	—	8	28	0		—		6	6	1	0	0	
合計（67科目）		—	41	88	0		—		6	6	1	0	0	兼31
学位又は称号		学士（コミュニティデザイン学）			学位又は学科の分野			法学関係、経済学関係、社会学・社会福祉学関係、理学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
<p>1. 基盤教育科目 36単位以上 〔必修科目（選択必修科目含む） 30単位、選択科目 6単位以上を履修〕</p> <p>必修科目の履修方法</p> <p>(1) 初期導入科目 2単位 新入生セミナーを必修。</p> <p>(2) リテラシー科目 13単位以上 スポーツと健康、情報処理基礎、とちぎ終章学総論、Integrated English IA, Integrated English IB, Integrated English IIA, Integrated English IIB, Advanced English I（異なる分野から2科目）を必修。</p> <p>(3) 教養科目 7単位以上 人文科学系科目から2単位、社会科学系科目から2単位、自然科学系科目から2単位、総合系科目から1単位（とちぎ終章学特講）を必修。</p> <p>(4) 基盤キャリア教育科目 2単位以上 キャリア創造科目から2単位を必修。</p> <p>(5) 専門導入科目 6単位 地域デザイン学序論A、地域デザイン学序論B、地域デザイン学序論Cを必修。</p>							1学年の学期区分			2期				
<p>2. 専門教育科目 90単位以上 〔必修科目（選択必修科目含む） 58単位、選択科目 32単位以上を履修〕</p> <p>必修科目の履修方法</p> <p>(1) 共通専門科目 8単位以上 地域デザイン訪問、地域の姿と課題I、地域コミュニケーション演習、ワークショップ演習、地域プロジェクト演習を必修。</p> <p>(2) 学科専門科目 50単位以上</p> <p>①基礎科目群 10単位以上 地域社会総論、まちづくり論、ソーシャルスキル演習、社会調査と地域、社会調査法を必修。</p> <p>②社会システム科目群 8単位以上 公共政策入門、経済学概論、行政学、公共経済学を必修。</p> <p>③地域資源科目群 10単位以上 地域資源論、地域食育論、農村マネジメント、観光概論、文化マネジメントを必修。</p> <p>④地域実践科目群 10単位以上 高齢社会学、地域福祉の実際、生涯学習社会論、地域社会学、地域実践心理学を必修。</p> <p>⑤他学科科目 0単位以上</p> <p>⑥その他 12単位以上 コミュニティデザイン演習（異なった分野から2科目）、卒業研究準備演習、</p>							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				
<p style="text-align: right;">総修得単位数 126単位以上</p> <p>※ 履修登録単位数の上限 48単位（年間）（自由科目を除く）</p>														

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
科 導 初 目 入 期	新入生セミナー	1前	2			○			4	6		2		※パス・※演習
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			4	6	0	2	0	
基 礎 教 育 科 目	Integrated English I A	1前	2				○							兼2
	Integrated English I B	1前	1				○							兼8
	Integrated English II A	1後	2				○							兼2
	Integrated English II B	1後	1				○							兼8
	Advanced English I (Intensive Reading)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Pleasure Reading)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Academic Writing)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Essay writing)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Public Speaking)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Presentation)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Discussion&Debate)	2前後		1			○							兼1
	Advanced English I (Speech Clinic)	2前後		1			○							兼3
	Advanced English I (Vocabulary Building)	2前		1			○							兼2
	Advanced English I (Communicative Grammar)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Media English)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Cinema English)	2前後		1			○							兼1
	Advanced English I (TOEIC)	2前後		1			○							兼5
	Advanced English I (TOEFL)	2前後		1			○							兼1
	Advanced English I (EAP)	2前後		1			○							兼4
	Honors English A	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English B	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors English C	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English D	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors English E	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English F	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors English G	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English H	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors Camp A	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Honors Camp B	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Honors Camp C	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Honors Camp D	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		1			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		3			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		4			○							兼1
	Overseas Study B	1・2・3・4前		1			○							兼1
	Overseas Study B	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Overseas Study B	1・2・3・4前		3			○							兼1
Overseas Study B	1・2・3・4前		4			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		1			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		2			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		3			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		4			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		1			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		2			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		3			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		4			○							兼1	
スポーツと健康	1前		2			○							兼7	
情報処理基礎	1前		2			○			1					
とちぎ終章学総論	1後		1			○							兼1	
小計（38科目）	—		11	71	0	—			1	0	0	0	0	兼34
人 文 科 学 系 科 目	哲 学 領 域	西洋思想	1・2前		2		○							兼1
		現代思想	1・2後		2		○							兼1
		東洋思想	1・2前		2		○							兼1
		論理学	1・2前		2		○							兼1
		西洋の倫理思想	1・2後		2		○							兼1
		科学思想史	1・2前		2		○							兼1
		東アジアの宗教と文化	1・2前		2		○							兼1
		仏教における人間形成論	1・2前		2		○							兼1
	小計（8科目）	—		0	16	0	—			0	0	0	0	兼6
心 理 学 領 域	認知心理学入門	1・2後		2		○							兼1	
	行動心理学入門	1・2前		2		○							兼1	
	実験心理学入門	1・2前		2		○							兼1	

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤教育科目	心理学領域	発達と学習の心理学	1・2後	2		○									兼1	
		パーソナリティ心理学概論	1・2前	2		○									兼1	
		障害者心理学	1・2前	2		○									兼1	
		子どもの言語とコミュニケーション入門	1・2後	2		○									兼1	
		心理学と人権	1・2前	2		○									兼1	
		言語習得論	1・2後	2		○									兼1	
	小計（9科目）	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	
	文学領域	日本文学（古典）	1・2前後	2		○									兼2	
		日本近代文学講読	1・2前	2		○									兼1	
		中国文学	1・2前	2		○									兼1	
		韓国文学	1・2後	2		○									兼1	
		フランス文学	1・2後	2		○									兼1	
		比較文学	1・2前	2		○									兼1	
		ロシア文学	1・2前	2		○									兼1	
		英文学入門	1・2後	2		○									兼1	
		米文学入門	1・2前	2		○									兼1	
	小計（9科目）	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼9	
	人文科学系科目	芸術領域	ヨーロッパ地域文化論	1・2前	2		○									兼1
			現代美学	1・2後	2		○									兼1
			芸術学	1・2前	2		○									兼1
			芸術と自然	1・2前	2		○									兼1
			音楽通論	1・2後	2		○									兼1
			声楽の魅力	1・2後	2		○									兼1
		器楽合奏概論	1・2後	2		○									兼1	
		管打合奏演習	1・2後	2		○									兼1	
		日本文化A	1・2前	2		○									兼1	
		日本文化B	1・2後	2		○									兼1	
		美術表現基礎	1・2前	2		○		○							兼2	
		近現代美術論	1・2後	2		○									兼2	
	小計（12科目）	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	0	兼10	
	人文総合領域	多言語コミュニケーション学A	1・2前	2		○									兼1	
		多言語コミュニケーション学B	1・2後	2		○									兼1	
		日本語の表記	1・2前	2		○									兼1	
論理表現の技術		1・2後	2		○									兼1		
Japanese Communication Arts		1・2後	2		○									兼1		
ことばから見た人間		1・2後	2		○									兼2		
社会言語学概論－日本語の変遷－		1・2前	2		○									兼1		
生涯学習概論		1・2前	2		○									兼1		
成人教育と参加型学習		1・2後	2		○									兼1		
教育の裏側に光を当てる		1・2前	2		○									兼1		
生活美学		1・2前	2		○		○							兼1		
ものと文化と社会		1・2後	2		○									兼1		
映像分析の実践		1・2前	2		○									兼1		
世界のなかの日本文化		1・2後	2		○									兼1		
ボディ・ランゲージ		1・2後	2		○									兼1		
小計（15科目）	—	0	30	0	—			0	0	0	0	0	0	兼13		
社会科学系科目	法学領域	日本国憲法	1・2前後	2		○									兼3	
		法学入門	1・2前	2		○									兼1	
		国際化と人権	1・2前	2		○									兼1	
		知的財産権概論	1・2後	2		○									兼1	
		法学概論	3・4後	2		○									兼1	
	小計（5科目）	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	0	兼5	
	政治学領域	国際政治史	1・2前	2		○									兼1	
		戦争と平和をめぐる諸問題	1・2後	2		○									兼1	
		現代政治の理論と実際	1・2後	2		○									兼1	
		グローバル・ガバナンス論入門	1・2前	2		○									兼1	
政治の世界		1・2前	2		○									兼1		
現代日本政治論	1・2後	2		○									兼1			
小計（6科目）	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼5		
経済学領域	経済学Ⅰ	1・2前	2		○									兼1		
	経済分析入門	1・2前	2		○									兼1		
	資本市場の役割と証券投資	1・2後	2		○									兼1		
	応用経済学入門	1・2後	2		○									兼1		
	数理経済学入門	1・2前	2		○									兼1		

隔年
社にがし・英同・密講義
社にハリス・共同

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
経済学領域	ゲーム理論入門	1・2後		2		○									兼1
	農業経営入門	1・2前		2		○									兼1
	小計（7科目）	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7
社会学領域	社会学入門	1・2後		2		○									兼1
	現代日本の社会	1・2前		2		○									兼1
	マスコミ入門	1・2後		2		○									兼1
	オセアニア民族誌	1・2後		2		○									兼1
	文化人類学入門	1・2後		2		○									兼1
	環境と国際社会	1・2前		2		○									兼1
	多文化共生論入門	1・2前		2		○									兼1
	小計（7科目）	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6
地理学領域	人文地理学入門Ⅰ	1・2前		2		○									兼1
	人文地理学入門Ⅱ	1・2後		2		○									兼1
	農村空間論	1・2後		2		○									兼1
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2
歴史学領域	歴史学入門	1・2前		2		○									兼1
	歴史と民族	1・2後		2		○									兼1
	歴史と文化	1・2後		2		○									兼1
	地域の歴史	1・2後		2		○									兼1
	小計（4科目）	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3
社会科学系科目	中東の社会と文化	1・2前		2		○									兼1
	社会開発入門	1・2前		2		○									兼1
	遊びの理論とゲーム開発	1・2後		2		○									兼1
	遊び輪と遊び指導	1・2前		2		○									兼1
	住まいづくり・まちづくり入門	1・2前		2			○								兼1 ※講義
	オイコス入門	1・2前		2		○									兼1
	障害者問題入門	1・2前		2		○									兼1 隔年
	数や図形の絵本づくり	1・2後		2			○								兼1 ※講義
	栃木県の歴史と文化	1・2前		2			○								兼1 ※講義
	社会福祉入門	1・2後		2		○									兼1
	災害復興学入門	1・2後		2		○									兼1
	グローバル化と外国人児童生徒教育	1・2後		2		○									兼6 社ニハス・共同
	国際協力論入門	1・2前		2		○									兼1
	伝染病と感性	1・2後		2		○									兼1
	著作権法入門	1・2後		2		○									兼1
	教科書に見る歴史と社会	1・2後		2		○									兼1
	人と自然の共生を考える	1・2通		2			○								兼1 集中
	希望の地域社会論	1・2後		2		○				2					兼2 オムニバス
	中国事情	1・2後		2		○									兼1
	グローバル韓国学	1・2前		2		○									兼1
	科学・技術・教育・社会を考える	1・2後		2		○									兼1
	セクソロジー入門	1・2後		2			○								兼1 ※講義
	小計（22科目）	—	0	44	0	—			0	3	0	0	0	0	兼23
数学領域	現代数学入門	1・2後		2		○									兼1
	電気電子数学入門	1・2前		2			○								兼1 ※講義
	Mathematicaによる微積分入門	1・2前		2		○									兼1
	Mathematicaによるデータ解析入門	1・2後		2		○									兼1
	振動の科学	1・2前		2		○									兼1
	小計（5科目）	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4
物理学領域	教養物理	1・2前		2		○				1					兼2 オムニバス
	物理学入門	1・2前		2		○									兼1
	理工学最前線	1・2前		2		○									兼1
	Mathematica入門	1・2前後		2		○									兼1
	放射線科学入門	1・2前		2		○									兼1
	エレクトロニクス科学史	1・2後		2		○									兼1
	バイオメテックス入門	1・2後		2		○									兼1
	小計（7科目）	—	0	14	0	—			0	1	0	0	0	0	兼8
化学領域	地球環境と化学	1・2前		2		○									兼1
	環境と生物化学	1・2前		2		○									兼1
	不思議な化学	1・2後		2			○								兼1
	水素とエネルギー	1・2後		2		○									兼1
	リメディアル化学	1・2前		2		○									兼1
	物質・材料の機器分析入門	1・2前		2		○									兼1
	ノーベル化学賞周辺の化学	1・2後		2		○									兼1
	小計（7科目）	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
自然科学系科目	生物学領域	人間生活と植物	1・2後	2		○									兼1	
		食料生産の生物学	1・2後	2		○									兼1	
		21世紀を支える熱帯植物	1・2後	2		○									兼1	
		野外における鳥獣識別テクニックの基礎	1・2前	2		○									兼1	
		基礎生物学	1・2前	2		○									兼1	
		ウイルスの世界と生物の世界	1・2前	2		○									兼1	
		美味しさを科学するーミシュランガイド宇都宮をつくらうー	1・2後	2			○								兼1	
	小計（7科目）	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	
	情報科学領域	C言語・プログラミング入門	1・2前	2		○										兼1
		プログラミング応用	1・2前	2		○										兼1
		グラフィックス入門	1・2後	2		○										兼1
		インターネットのしくみ	1・2後	2		○										兼1
		Webのしくみ	1・2後	2		○										兼1
		身のまわりのICT	1・2後	2		○										兼1
		ワイヤレス通信のしくみ	1・2後	2		○										兼1
		医用画像工学入門	1・2前	2		○										兼1
	小計（8科目）	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8	
	地学領域	地球環境と生物事件史	1・2前	2		○										兼1
		身近な気象学	1・2後	2		○										兼1
		小計（2科目）	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2
健康科学領域	肥満の科学	1・2後	2		○										兼1	
	健康管理学概論	1・2後	2		○										兼1	
	バレーボールの科学	1・2後	2		○										兼1	
	小計（3科目）	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3	
自然総合領域	人間の感覚を測る	1・2前	2			○									兼1	
	生物の多様性とは何か	1・2後	2		○										兼1	
	雑草と人の暮らし	1・2後	2		○										兼1	
	雑草観察入門	1・2前	2			○									兼1	
	雑草と里山のフィールド演習Ⅰ	1・2前	1			○									兼1	
	雑草と里山のフィールド演習Ⅱ	1・2後	1			○									兼2	
小計（6科目）	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	0	兼3		
基礎教育科目	初習外国語系科目	ドイツ語基礎Ⅰ	1・2前	1				○							兼1	
		ドイツ語基礎Ⅱ	1・2後	1				○							兼1	
		ドイツ語基礎Ⅲ	1・2前	1				○							兼1	
		ドイツ語基礎Ⅳ	1・2後	1				○							兼1	
		ドイツ語応用Ⅰ	1・2前	1				○							兼1	
		ドイツ語応用Ⅱ	1・2後	1				○							兼1	
		フランス語基礎Ⅰ	1・2前	1				○							兼2	
		フランス語基礎Ⅱ	1・2後	1				○							兼2	
		フランス語基礎Ⅲ	1・2前	1				○							兼1	
		フランス語基礎Ⅳ	1・2後	1				○							兼1	
		フランス語応用Ⅰ	1・2前	1				○							兼1	
		フランス語応用Ⅱ	1・2後	1				○							兼1	
		スペイン語基礎Ⅰ	1・2前	1				○							兼1	
		スペイン語基礎Ⅱ	1・2後	1				○							兼1	
		スペイン語基礎Ⅲ	1・2前	1				○							兼1	
		スペイン語基礎Ⅳ	1・2後	1				○							兼1	
		スペイン語応用Ⅰ	1・2前	1				○							兼1	
		スペイン語応用Ⅱ	1・2後	1				○							兼1	
		中国語基礎Ⅰ	1・2前	1				○							兼2	
		中国語基礎Ⅱ	1・2後	1				○							兼2	
		中国語基礎Ⅲ	1・2前	1				○							兼1	
		中国語基礎Ⅳ	1・2後	1				○							兼1	
		中国語応用Ⅰ	1・2前	1				○							兼1	
		中国語応用Ⅱ	1・2後	1				○							兼1	
タイ語基礎Ⅰ	1・2前	1				○							兼1			
タイ語基礎Ⅱ	1・2後	1				○							兼1			
タイ語基礎Ⅲ	1・2前	1				○							兼1			
タイ語基礎Ⅳ	1・2後	1				○							兼1			
タイ語応用Ⅰ	1・2前	1				○							兼1			
タイ語応用Ⅱ	1・2後	1				○							兼1			
朝鮮語基礎Ⅰ	1・2前	1				○							兼2			
朝鮮語基礎Ⅱ	1・2後	1				○							兼1			
朝鮮語基礎Ⅲ	1・2前	1				○							兼1			

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
初習科目 外国語	朝鮮語基礎Ⅳ	1・2後		1				○							兼1	
	朝鮮語応用Ⅰ	1・2前		1				○							兼1	
	朝鮮語応用Ⅱ	1・2後		1				○							兼1	
	小計(36科目)	—	0	36	0			—		0	0	0	0	0	兼16	
総合系科目	野外調査論	1・2前		2				○							兼3	共同・※講義
	里山のサステナビリティを考える	1・2前		2				○							兼3	
	人と自然をつなぐ・人と人をつなぐA	1・2前		1					○						兼2	共同・集中
	人と自然をつなぐ・人と人をつなぐB	1・2前		1					○						兼1	
	実践・宇都宮のまちづくり	1・2前		2				○							兼1	集中・※講義
	一地方銀行の歴史に学ぶ“金融経済の仕組み”と“地域金融機関の役割”	1・2後		2				○							兼1	
	危機を見つめる力	1・2前		2				○							兼1	オムニバス・共同
	3.11と学問の不確かさ	1・2前		2				○							兼8	
	食と生命のフィールド実践演習	1・2前		4				○							兼6	共同
	男女共同参画社会を生きる	1・2後		2				○							兼2	
	ものづくり体験	1・2後		2				○							兼2	共同
	宇大を学ぶ	1・2後		2				○							兼1	
	栃木の里山に学ぶ(春夏編)	1・2前		1				○							兼1	集中
	栃木の里山に学ぶ(秋冬編)	1・2後		1				○							兼1	
	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会の中の私たち」	1・2前		2				○							兼1	共同
	ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	1・2後		2				○							兼1	
	生きるとのこと	1・2前		2				○							兼1	共同
	「ぶろじえくと」をやってみる	1・2前		1				○							兼1	
	体験!ぶろじえくと	1・2前		2				○							兼1	共同
	感じる・考える・話す	1・2後		2				○							兼1	
アクティブにとらえる現代社会	1・2後		2				○							兼1	共同・※講義	
とちぎ終章特講	1・2後	1					○							兼1		
とちぎ終章演習Ⅰ	1・2前			2				○						兼3	※講義	
とちぎ終章演習Ⅱ	1・2前			2				○						兼1		
	小計(24科目)	—	1	43	0			—		0	0	0	0	0	兼37	
基盤教育科目	キャリア創造科目	人間と社会	1・2・3・4前		2			○							兼1	共同
		キャリアデザイン	1・2・3・4後		2			○							兼2	
		働くことの意味と実際	1・2・3・4前		2				○						兼1	オムニバス
		実践企業人材論	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		起業の実際と理論	1・2・3・4後		2				○						兼1	集中
		先輩に学ぶ	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		より良く生きる	1・2・3・4前		2				○						兼3	集中
		企業のグローバル戦略とキャリア形成	1・2・3・4後		2				○						兼1	
		グローバル時代の企業経営	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		小計(9科目)	—	0	18	0			—		0	0	0	0	0	兼10
基盤キャリア教育科目	自由科目	社会奉仕活動	1・2・3・4前		1			○							兼1	活動期間により単位認定
		社会奉仕活動	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		社会奉仕活動	1・2・3・4前		3				○						兼1	活動期間により単位認定
		社会奉仕活動	1・2・3・4前		4				○						兼1	
		国際協力活動	1・2・3・4前		1				○						兼1	活動期間により単位認定
		国際協力活動	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		国際協力活動	1・2・3・4前		3				○						兼1	活動期間により単位認定
		国際協力活動	1・2・3・4前		4				○						兼1	
		実務体験活動	1・2・3・4前		1				○						兼1	活動期間により単位認定
		実務体験活動	1・2・3・4前		2				○						兼1	
		実務体験活動	1・2・3・4前		3				○						兼1	活動期間により単位認定
		実務体験活動	1・2・3・4前		4				○						兼1	
		特別体験活動	1・2・3・4前		1				○						兼1	活動期間により単位認定
		特別体験活動	1・2・3・4前		2				○						兼1	
特別体験活動	1・2・3・4前		3				○						兼1	活動期間により単位認定		
特別体験活動	1・2・3・4前		4				○						兼1			
	小計(4科目)	—	0	40	0			—		0	0	0	0	0	兼1	
留学生日本語科目	アカデミック・ジャパニーズ	1前		1				○							兼1	オムニバス
	日本語アカデミック・ライティング	1後		1				○							兼1	
	日本語アカデミック・プレゼンテーション	1・2・3・4後		1				○							兼1	
	科学技術のための専門日本語	1・2・3・4前		1				○							兼1	
	人文社会系のための専門日本語	1・2・3・4前		1				○							兼1	
	日本事情	1・2・3・4前		2				○							兼1	
	小計(6科目)	—	0	7	0			—		0	0	0	0	0	兼3	
科導専目入門	地域デザイン学序論A	1前		2				○							兼13	オムニバス
	地域デザイン学序論B	1後		2				○			4	6		2		

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
科 導 専 門 目 入 門	地域デザイン学序論C	1後	2			○								兼10	オムニバス
	小計（3科目）	—	6	0	0	—			4	6	0	2	0	兼23	
共 通 専 門 科 目	地域デザイン訪問	1通	2				○		1	2				兼6	私ニバス・共同
	地域の姿と課題Ⅰ	1前	1				○		1	1				兼3	私ニバス・共同
	地域コミュニケーション演習	1前	1					○	2	2		2		兼6	共同
	地域の姿と課題Ⅱ	3前	1				○		1	1				兼6	オムニバス
	ワークショップ演習	3前	1					○		3				兼3	共同
	地域プロジェクト演習	3通	2					○	4	6		2		兼3	共同
	小計（6科目）	—	8	0	0	—			4	6	0	2	0	兼16	
選 択 科 目	G I S 演習	2後		1				○		1				兼2	オムニバス
	地域デザイン倫理	3後		2				○						兼4	オムニバス
	小計（2科目）	—	0	3	0	—			0	1	0	0	0	兼6	
専 門 教 育 科 目 建 築 都 市 デ ザ イ ン 学 科 専 門 科 目	微積分学及演習	1前	3					○						兼3	共同・※講義
	建築構造力学Ⅰ	1前	2				○		1						
	建築構造力学演習Ⅰ	1前	1					○				1			
	建築図学	1後	2							1		1			オムニバス
	建築設計基礎	1後	2					○		1					
	建築構造力学Ⅱ	1後	2				○			1					
	建築構造力学演習Ⅱ	1後	1					○				1			
	線形代数学及演習	2前	3					○						兼1	※講義
	建築計画Ⅰ	2前	2					○		1					
	建築コンバージョン論	2前	2					○		1					
	環境工学Ⅰ	2前	2					○			1				
	建築構法	2前	2						○		1				
	建築設計製図Ⅰ	2前	2							4		2			
	建築計画Ⅱ	2後	2					○		1					
	バリアフリー建築論	2後	2					○			1				
	設備工学Ⅰ	2後	2					○		1					
	建築材料Ⅰ	2後	2					○		1					
	建築設計製図Ⅱ	2後	2							3				兼1	
	建築材料実験	3前	1						1	1					
	建築設計製図Ⅲ	3前	2							3					
	建築法規	3後	2					○						兼1	
	建築生産	3後	2					○						兼1	
	建築地域設計製図	3後	2						○	4	6		2	兼1	
	建築環境実験	3通	1						○	1	1		1	兼1	私ニバス・共同
	卒業研究	4通	4						○	4	6		2		
	卒業設計	4通	4						○	4	6		2		
小計（26科目）	—	54	0	0	—				4	6	0	2	0	兼8	
選 択 科 目	高齢社会学	1後		2				○						兼1	
	まちづくり論	1後		2				○						兼1	
	建築構造力学Ⅲ	2前		2				○	1						
	社会調査法	2後		2				○		2		1		兼1	私ニバス・※演習 隔年
	建築史Ⅰ	2後		2				○							
	建築構造力学Ⅳ	2後		2				○		1					
	環境工学Ⅱ	2後		2				○		1					
	防災マネジメントⅠ	2後		2				○						兼1	
	まちづくり特講	2後		2				○						兼7	私ニバス・※演習
	学外実習Ⅰ	2通		1					1						
	学外実習Ⅱ	2通		2					1						
	社会統計学	3前		2				○						兼1	
	建築計画Ⅲ	3前		2				○			1				
	都市計画	3前		2				○			1			兼1	オムニバス
	建築リサイクル学	3前		2				○		1					
	建築史Ⅱ	3前		2				○						兼1	隔年
	鉄骨構造	3前		2				○		1					
	鉄筋コンクリート構造	3前		2				○			1				
	設備工学Ⅱ	3前		2				○		1				兼1	隔年
	設備設計論	3前		2				○							
建築材料Ⅱ	3前		2				○		1				兼1		
生物多様性論	3後		2				○						兼1		
建築計画Ⅳ	3後		2				○			1					
地区計画	3後		2				○			1			兼1	オムニバス	
建築デザイン	3後		2				○			1					
建築史Ⅲ	3後		2				○						兼1	隔年	

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目 建築都市デザイン学科専門科目 選択科目	高齢者防災論	3後		2		○				1					兼1 兼1 兼2 兼1 兼1 兼1 兼20	隔年
	構造設計論	3後		2		○										
	土質基礎工学	3後		2		○										
	設備工学Ⅲ	3後		2		○			1							
	地域環境エネルギー計画	3後		2		○				1						
	建築インターンシップ	3通		2				○	1							
	建築学外実習	3通		1				○	1							
	国土計画	4前		2		○										
	工業日本語基礎Ⅰ	3前		1			○									
	工業日本語基礎Ⅱ	3後		1			○									
	工業日本語応用	4通		2			○									
	小計(37科目)		—	0	70	0	—	—	—	4	5	0	1	0		
合計(344科目)			—	82	590	0	—	—	4	6	0	2	0	兼239		
学位又は称号			学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
1. 基盤教育科目 36単位以上 [必修科目(選択必修科目含む) 32単位, 選択科目 4単位以上を履修] 必修科目の履修方法 (1) 初期導入科目 2単位 新入生セミナーを必修。 (2) リテラシー科目 13単位以上 スポーツと健康, 情報処理基礎, とちぎ終章学総論, Integrated English I A, Integrated English I B, Integrated English II A, Integrated English II B, Advanced English I (異なる分野から2科目)を必修。 (3) 教養科目 11単位以上 人文科学系科目から4単位, 社会科学系科目から4単位, 自然科学系科目(数学領域及び物理学領域以外の科目)から2単位, 総合系科目から1単位(とちぎ終章学特講)を必修。 (4) 専門導入科目 6単位 地域デザイン学序論A, 地域デザイン学序論B, 地域デザイン学序論Cを 2. 専門教育科目 90単位以上 [必修科目(選択必修科目含む) 62単位, 選択科目 28単位以上を履修] 総修得単位数 126単位以上								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					
※ 履修登録単位数の上限 48単位(年間)																

教育課程等の概要														
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤教育科目	Integrated English I A	1前	2				○							兼2
	Integrated English I B	1前	1				○							兼8
	Integrated English II A	1後	2				○							兼2
	Integrated English II B	1後	1				○							兼8
	Advanced English I (Intensive Reading)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Pleasure Reading)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Academic Writing)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Essay writing)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Public Speaking)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Presentation)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Discussion&Debate)	2前後		1			○							兼1
	Advanced English I (Speech Clinic)	2前後		1			○							兼3
	Advanced English I (Vocabulary Building)	2前		1			○							兼2
	Advanced English I (Communicative Grammar)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Media English)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Cinema English)	2前後		1			○							兼1
	Advanced English I (TOEIC)	2前後		1			○							兼5
	Advanced English I (TOEFL)	2前後		1			○							兼1
	Advanced English I (EAP)	2前後		1			○							兼4
	Honors English A	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English B	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors English C	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English D	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors English E	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English F	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors English G	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English H	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors Camp A	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Honors Camp B	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Honors Camp C	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Honors Camp D	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		1			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		3			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		4			○							兼1
	Overseas Study B	1・2・3・4前		1			○							兼1
	Overseas Study B	1・2・3・4前		2			○							兼1
Overseas Study B	1・2・3・4前		3			○							兼1	
Overseas Study B	1・2・3・4前		4			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		1			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		2			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		3			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		4			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		1			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		2			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		3			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		4			○							兼1	
スポーツと健康	1前		2			○							兼7	
とちぎ終章学総論	1後		1			○							兼1	
小計(37科目)			9	71	0				0	0	0	0	0	兼34
人文科学系科目	哲学領域	西洋思想	1・2前		2		○							兼1
		現代思想	1・2後		2		○							兼1
		東洋思想	1・2前		2		○							兼1
		論理学	1・2前		2		○							兼1
		西洋の倫理思想	1・2後		2		○							兼1
		科学思想史	1・2前		2		○							兼1
		東アジアの宗教と文化	1・2前		2		○							兼1
仏教における人間形成論	1・2前		2		○								兼1	
小計(8科目)			0	16	0				0	0	0	0	0	兼6

教育課程等の概要														
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	心理学領域	認知心理学入門	1・2後	2		○								兼1
		行動心理学入門	1・2前	2		○								兼1
		実験心理学入門	1・2前	2		○								兼1
		発達と学習の心理学	1・2後	2		○								兼1
		パーソナリティ心理学概論	1・2前	2		○								兼1
		障害者心理学	1・2前	2		○								兼1
		子どもの言語とコミュニケーション入門	1・2後	2		○								兼1
		心理学と人権	1・2前	2		○								兼1
		言語習得論	1・2後	2		○								兼1
	小計(9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼7
	文学領域	日本文学(古典)	1・2前後	2		○								兼2
		日本近代文学講読	1・2前	2		○								兼1
		中国文学	1・2前	2		○								兼1
		韓国文学	1・2後	2		○								兼1
フランス文学		1・2後	2		○								兼1	
比較文学		1・2前	2		○								兼1	
ロシア文学		1・2前	2		○								兼1	
英文学入門		1・2後	2		○								兼1	
米文学入門		1・2前	2		○								兼1	
小計(9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼9	
人文科学系科目	芸術領域	ヨーロッパ地域文化論	1・2前	2		○								兼1
		現代美学	1・2後	2		○								兼1
		芸術学	1・2前	2		○								兼1
		芸術と自然	1・2前	2		○								兼1
		音楽通論	1・2後	2		○								兼1
		声楽の魅力	1・2後	2		○								兼1
	人文総合領域	器楽合奏概論	1・2後	2		○								兼1
		管打合奏演習	1・2後	2		○								兼1
		日本文化A	1・2前	2		○								兼1
		日本文化B	1・2後	2		○								兼1
		美術表現基礎	1・2前	2		○		○						兼2
		近現代美術論	1・2後	2		○								兼2
小計(12科目)	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	兼10	
社会科学系科目	政治学領域	多言語コミュニケーション学A	1・2前	2		○								兼1
		多言語コミュニケーション学B	1・2後	2		○								兼1
		日本語の表記	1・2前	2		○								兼1
		論理表現の技術	1・2後	2		○								兼1
		Japanese Communication Arts	1・2後	2		○								兼1
		ことばから見た人間	1・2後	2		○								兼2
		生涯学習概論	1・2前	2		○								兼1
		成人教育と参加型学習	1・2後	2		○								兼1
		教育の裏側に光を当てる	1・2前	2		○								兼1
		生活美学	1・2前	2		○		○						兼1
		ものと文化と社会	1・2後	2		○								兼1
		映像分析の実践	1・2前	2		○								兼1
		世界のなかの日本文化	1・2後	2		○								兼1
		ボディ・ランゲージ	1・2後	2		○								兼1
小計(14科目)	—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	兼12	
社会科学系科目	法学領域	日本国憲法	1・2前後	2		○								兼3
		法学入門	1・2前	2		○								兼1
		国際化と人権	1・2前	2		○								兼1
		知的財産権概論	1・2後	2		○								兼1
		法学概論	3・4後	2		○								兼1
小計(5科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼5	
社会科学系科目	政治学領域	国際政治史	1・2前	2		○								兼1
		戦争と平和をめぐる諸問題	1・2後	2		○								兼1
		現代政治の理論と実際	1・2後	2		○								兼1
		グローバル・ガバナンス論入門	1・2前	2		○								兼1
		政治の世界	1・2前	2		○								兼1

教育課程等の概要															
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤教育科目	現代日本政治論	1・2後		2		○								兼1	
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼5	
	経済学領域	経済学Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
		経済分析入門	1・2前		2		○								兼1
		資本市場の役割と証券投資	1・2後		2		○								兼1
		応用経済学入門	1・2後		2		○								兼1
		数理経済学入門	1・2前		2		○								兼1
		ゲーム理論入門	1・2後		2		○								兼1
		農業経営入門	1・2前		2		○								兼1
	小計(7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼7	
	社会学領域	社会学入門	1・2後		2		○								兼1
		現代日本の社会	1・2前		2		○								兼1
		マスコミ入門	1・2後		2		○								兼1
		オセアニア民族誌	1・2後		2		○								兼1
		文化人類学入門	1・2後		2		○								兼1
		環境と国際社会	1・2前		2		○								兼1
		多文化共生論入門	1・2前		2		○								兼1
	小計(7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼6	
	地理学領域	人文地理学入門Ⅰ	1・2前		2		○								兼1
		人文地理学入門Ⅱ	1・2後		2		○								兼1
		農村空間論	1・2後		2		○								兼1
	小計(3科目)	—	0	6	0	—			0	0	0	0	0	兼2	
社会科学系科目	歴史学入門	1・2前		2		○								兼1	
	歴史と民族	1・2後		2		○								兼1	
	歴史と文化	1・2後		2		○								兼1	
	地域の歴史	1・2後		2		○								兼1	
小計(4科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼3		
社会総合領域	中東の社会と文化	1・2前		2		○								兼1	
	社会開発入門	1・2前		2		○								兼1	
	遊びの理論とゲーム開発	1・2後		2		○								兼1	
	遊び輪と遊び指導	1・2前		2		○								兼1	
	住まいづくり・まちづくり入門	1・2前		2			○							※講義	
	オイコス入門	1・2前		2		○								兼1	
	障害者問題入門	1・2前		2		○								兼1	
	数や図形の絵本づくり	1・2後		2			○							兼1	
	栃木県の歴史と文化	1・2前		2			○							兼1	
	社会福祉入門	1・2後		2		○								兼1	
	災害復興学入門	1・2後		2		○								兼1	
	グローバル化と外国人児童生徒教育	1・2後		2		○								兼6	
	国際協力論入門	1・2前		2		○								兼1	
	伝染病と感性	1・2後		2		○								兼1	
	著作権法入門	1・2後		2		○								兼1	
	教科書に見る歴史と社会	1・2後		2		○								兼1	
	人と自然の共生を考える	1・2通		2			○							兼1	
希望の地域社会論	1・2後		2		○				2				兼2		
中国事情	1・2後		2		○								兼1		
グローバル韓国学	1・2前		2		○								兼1		
科学・技術・教育・社会を考える	1・2後		2		○								兼1		
セクソロジー入門	1・2後		2			○							兼1		
小計(22科目)	—	0	44	0	—				3	0	0	0	兼23		
自然科学系科目	現代数学入門	1・2後		2		○								兼1	
	Mathematicaによる微積分入門	1・2前		2		○								兼1	
	Mathematicaによるデータ解析入門	1・2後		2		○								兼1	
	振動の科学	1・2前		2		○								兼1	
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼3	
物理学領域	教養物理	1・2前		2		○				1				兼2	
	物理学入門	1・2前		2		○								兼1	
	物理工学最前線	1・2前		2		○								兼1	
	Mathematica入門	1・2前後		2		○								兼1	
	放射線科学入門	1・2前		2		○								兼1	

教育課程等の概要														
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
物理学領域	エレクトロニクス科学史	1・2後		2		○								兼1
	バイオメテイクス入門	1・2後		2		○								兼1
	小計(7科目)	—	0	14	0	—		0	1	0	0	0		兼8
化学領域	地球環境と化学	1・2前		2		○								兼1
	環境と生物化学	1・2前		2		○								兼1
	不思議な化学	1・2後		2			○							兼1
	水素とエネルギー	1・2後		2		○								兼1
	リメディアル化学	1・2前		2		○								兼1
	物質・材料の機器分析入門	1・2前		2		○								兼1
	ノーベル化学賞周辺の化学	1・2後		2		○								兼1
	小計(7科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0		兼7
生物学領域	人間生活と植物	1・2後		2		○								兼1
	食料生産の生物学	1・2後		2		○								兼1
	21世紀を支える熱帯植物	1・2後		2		○								兼1
	野外における鳥獣識別テクニックの基礎	1・2前		2		○								兼1
	基礎生物学	1・2前		2		○								兼1
	ウイルスの世界と生物の世界	1・2前		2		○								兼1
	美味しさを科学するーミシュランガイド字都宮をつくらうー	1・2後		2			○							兼1 ※講義
	小計(7科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0		兼7
情報科学領域	C言語・プログラミング入門	1・2前		2		○								兼1
	プログラミング応用	1・2前		2		○								兼1
	インターネットのしくみ	1・2後		2		○								兼1
	We bのしくみ	1・2後		2		○								兼1
	身のまわりのICT	1・2後		2		○								兼1
	ワイヤレス通信のしくみ	1・2後		2		○								兼1
	医用画像工学入門	1・2前		2		○								兼1
	小計(7科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0		兼7
地学領域	地球環境と生物事件史	1・2前		2		○								兼1
	身近な気象学	1・2後		2		○								兼1
	小計(2科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0		兼2
健康科学領域	肥満の科学	1・2後		2		○								兼1
	健康管理学概論	1・2後		2		○								兼1
	バレーボールの科学	1・2後		2		○								兼1
	小計(3科目)	—	0	6	0	—		0	0	0	0	0		兼3
自然総合領域	人間の感覚を測る	1・2前		2			○							兼1 ※講義
	生物の多様性とは何か	1・2後		2		○								兼1
	雑草と人の暮らし	1・2後		2		○								兼1
	雑草観察入門	1・2前		2			○							兼1 ※講義
	雑草と里山のフィールド演習Ⅰ	1・2前		1			○							兼1 集中
	雑草と里山のフィールド演習Ⅱ	1・2後		1			○							兼2 共同・集中
	小計(6科目)	—	0	10	0	—		0	0	0	0	0		兼3
初習外国語系科目	ドイツ語基礎Ⅰ	1・2前		1			○							兼1
	ドイツ語基礎Ⅱ	1・2後		1			○							兼1
	ドイツ語基礎Ⅲ	1・2前		1			○							兼1
	ドイツ語基礎Ⅳ	1・2後		1			○							兼1
	ドイツ語応用Ⅰ	1・2前		1			○							兼1
	ドイツ語応用Ⅱ	1・2後		1			○							兼1
	フランス語基礎Ⅰ	1・2前		1			○							兼2
	フランス語基礎Ⅱ	1・2後		1			○							兼2
	フランス語基礎Ⅲ	1・2前		1			○							兼1
	フランス語基礎Ⅳ	1・2後		1			○							兼1
	フランス語応用Ⅰ	1・2前		1			○							兼1
	フランス語応用Ⅱ	1・2後		1			○							兼1
	スペイン語基礎Ⅰ	1・2前		1			○							兼1
	スペイン語基礎Ⅱ	1・2後		1			○							兼1
	スペイン語基礎Ⅲ	1・2前		1			○							兼1
	スペイン語基礎Ⅳ	1・2後		1			○							兼1
スペイン語応用Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
スペイン語応用Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
中国語基礎Ⅰ	1・2前		1			○							兼2	

教育課程等の概要																
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
初習外国語系科目	中国語基礎Ⅱ	1・2後		1				○						兼2		
	中国語基礎Ⅲ	1・2前		1				○						兼1		
	中国語基礎Ⅳ	1・2後		1				○						兼1		
	中国語応用Ⅰ	1・2前		1				○						兼1		
	中国語応用Ⅱ	1・2後		1				○						兼1		
	タイ語基礎Ⅰ	1・2前		1				○						兼1		
	タイ語基礎Ⅱ	1・2後		1				○						兼1		
	タイ語基礎Ⅲ	1・2前		1				○						兼1		
	タイ語基礎Ⅳ	1・2後		1				○						兼1		
	タイ語応用Ⅰ	1・2前		1				○						兼1		
	タイ語応用Ⅱ	1・2後		1				○						兼1		
	朝鮮語基礎Ⅰ	1・2前		1				○						兼2		
	朝鮮語基礎Ⅱ	1・2後		1				○						兼1		
	朝鮮語基礎Ⅲ	1・2前		1				○						兼1		
	朝鮮語基礎Ⅳ	1・2後		1				○						兼1		
朝鮮語応用Ⅰ	1・2前		1				○						兼1			
朝鮮語応用Ⅱ	1・2後		1				○						兼1			
	小計(36科目)	—	0	36	0			—	0	0	0	0	0	兼16		
基盤教育科目	総合系科目	野外調査論	1・2前		2			○						兼3	共同・※講義	
		里山のサステナビリティを考える	1・2前		2			○						兼3	共同・集中・※講義	
		人と自然をつなぐ・人と人をつなぐA	1・2前		1				○					兼2	共同・集中	
		人と自然をつなぐ・人と人をつなぐB	1・2前		1				○					兼1	集中・※講義	
		実践・宇都宮のまちづくり	1・2前		2			○						兼1		
		一地方銀行の歴史に学ぶ“金融経済の仕組み”と“地域金融機関の役割”	1・2後		2			○						兼1		
		危機を見つめる力	1・2前		2			○						兼1		
		3.11と学問の不確かさ	1・2前		2			○						兼8	共同	
		食と生命のフィールド実践演習	1・2前		4				○					兼6	共同	
		男女共同参画社会を生きる	1・2後		2				○					兼2	共同・集中・※演習	
		宇大を学ぶ	1・2後		2				○					兼1		
		栃木の里山に学ぶ(春夏編)	1・2前		1				○					兼1	集中	
		栃木の里山に学ぶ(秋冬編)	1・2後		1				○					兼1	集中	
		ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会の中の私たち」	1・2前		2				○					兼1		
		ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	1・2後		2				○					兼1		
		生きるということ	1・2前		2				○					兼1		
		「ぶろじえくと」をやってみる	1・2前		1				○					兼1		
		体験!ぶろじえくと	1・2前		2				○					兼1		
		感じる・考える・話す	1・2後		2				○					兼1		
		アクティブにとらえる現代社会	1・2後		2				○					兼1		
とちぎ終章学特講	1・2後	1					○					兼1	※講義			
とちぎ終章学演習Ⅰ	1・2前		2				○					兼3	共同・※講義			
とちぎ終章学演習Ⅱ	1・2前		2				○					兼1	※講義			
	小計(23科目)	—	1	41	0			—	0	0	0	0	0	兼35		
基盤キャリア教育科目	キャリア創造科目	キャリアデザイン	1・2・3・4後		2			○						兼2	共同	
		働くことの意味と実際	1・2・3・4前		2			○						兼1		
		実践企業人材論	1・2・3・4前		2				○					兼1		
		起業の実際と理論	1・2・3・4後		2				○					兼1		
		先輩に学ぶ	1・2・3・4前		2				○					兼1		
		企業のグローバル戦略とキャリア形成	1・2・3・4後		2				○					兼1		
		グローバル時代の企業経営	1・2・3・4前		2				○					兼1	集中	
		小計(7科目)	—	0	14	0			—	0	0	0	0	0	兼7	
	自由科目	社会奉仕活動	1・2・3・4前		1				○					兼1	活動期により単位認定	
		社会奉仕活動	1・2・3・4前		2				○				兼1			
社会奉仕活動		1・2・3・4前		3				○				兼1				
社会奉仕活動		1・2・3・4前		4				○				兼1				
国際協力活動		1・2・3・4前		1				○				兼1				
国際協力活動	1・2・3・4前		2				○				兼1	活動期により単位認定				
国際協力活動	1・2・3・4前		3				○				兼1					
国際協力活動	1・2・3・4前		4				○				兼1					

教育課程等の概要																	
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基盤教育科目	実務体験活動 実務体験活動 実務体験活動 実務体験活動 特別体験活動 特別体験活動 特別体験活動 特別体験活動 小計(4科目)	1・2・3・4前	1					○							兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	活動期により単位認定 活動期により単位認定	
		1・2・3・4前	2					○									
		1・2・3・4前	3						○								
		1・2・3・4前	4						○								
		1・2・3・4前	1						○								
		1・2・3・4前	2						○								
		1・2・3・4前	3						○								
		1・2・3・4前	4						○								
	—	0	40	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼1			
	留學生日本語科目	アカデミック・ジャパニーズ	1前	1					○							兼1	
		日本語アカデミック・ライティング	1後	1					○							兼1	
		日本語アカデミック・プレゼンテーション	1・2・3・4後	1					○							兼1	
		科学技術のための専門日本語	1・2・3・4前	1					○							兼1	
		人文社会系のための専門日本語	1・2・3・4前	1					○							兼1	
日本事情		1・2・3・4前	2			○									兼1		
—	0	7	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	兼3				
専門導入科目	地域デザイン学序論A	1前	2			○								兼13	オムニバス		
	地域デザイン学序論B	1後	2			○			4	6		2		兼10	オムニバス		
	地域デザイン学序論C	1後	2			○								兼10	オムニバス		
	小計(3科目)	—	6	0	0	—	—	—	4	6	0	2	0	兼23			
専門教育科目	選択科目	生物多様性論	3後	2		○								兼1			
		小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1		
合計(266科目)			—	16	507	0	—	—	4	6	0	2	0	兼225			
学位又は称号			学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
1. 基盤教育科目 36単位以上 [必修科目(選択必修科目含む) 32単位, 選択科目 4単位以上を履修] 必修科目の履修方法 (1) 初期導入科目 2単位 新入生セミナーを必修。 (2) リテラシー科目 13単位以上 スポーツと健康, 情報処理基礎, とちぎ終章総論, Integrated English IA, Integrated English IB, Integrated English IIA, Integrated English IIB, Advanced English I (異なる分野から2科目)を必修。 (3) 教養科目 11単位以上 人文科学系科目から4単位, 社会科学系科目から4単位, 自然科学系科目(数学領域及び物理学領域以外の科目)から2単位, 総合系科目から1単位(とちぎ終章特講)を必修。 (4) 専門導入科目 6単位 地域デザイン学序論A, 地域デザイン学序論B, 地域デザイン学序論Cを								1学年の学期区分		2期							
								1学期の授業期間		15週							
								1時限の授業時間		90分							
2. 専門教育科目 90単位以上 [必修科目(選択必修科目含む) 62単位, 選択科目 28単位以上を履修]																	
※ 履修登録単位数の上限 48単位(年間) 総修得単位数 126単位以上																	

教育課程等の概要															
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基盤教育科目	入初科目 期導	新入生セミナー	1前	2			○			4	6		2		社ニバス・※演習
		小計(1科目)	—	2	0	0	—			4	6	0	2	0	
	IT活用科目	情報処理基礎	1前	2				○		1					
		小計(1科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	
	人文総合領域 科目	社会言語学概論—日本語の変遷—	1・2前		2		○								兼1
		小計(1科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼1
	自然の科学系科目	数学領域 電気電子数学入門	1・2前		2			○							兼1 ※講義
		小計(1科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼1
		工学領域 グラフィックス入門	1・2後		2		○								兼1
	小計(1科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼1	
	総合系科目	ものづくり体験	1・2後		2			○							兼2 共同
		小計(1科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼2
	基盤教育カリキュラム 創造系科目	人間と社会	1・2・3・4前		2		○								兼1
		より良く生きる	1・2・3・4前		2		○								兼3 オムニバス
小計(2科目)		—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	兼4	
共通専門科目	必修科目	地域デザイン訪問	1通	2			○		1	2				兼6 社ニバス・共同	
		地域の姿と課題Ⅰ	1前	1			○			1				兼3 社ニバス・共同	
		地域コミュニケーション演習	1前	1				○		2	2		2	兼6 共同	
		地域の姿と課題Ⅱ	3前	1			○			1	1			オムニバス	
		ワークショップ演習	3前	1				○			3			兼3 共同	
		地域プロジェクト演習	3通	2				○		4	6		2	共同	
	小計(6科目)	—	8	0	0	—			4	6	0	2	0	兼16	
	選択科目	G I S演習	2後		1			○			1				兼2 オムニバス
地域デザイン倫理		3後		2			○							兼4 オムニバス	
小計(2科目)	—	0	3	0	—			0	1	0	0	0	兼6		
専門教育科目	建築都市デザイン学科専門科目	微積分学及演習	1前	3				○						兼3 共同・※講義	
		建築構造力学Ⅰ	1前	2			○		1						
		建築構造力学演習Ⅰ	1前	1				○					1		オムニバス
		建築図学	1後	2					○		1				
		建築設計基礎	1後	2				○			1				
		建築構造力学Ⅱ	1後	2			○				1				
		建築構造力学演習Ⅱ	1後	1				○					1		
		線形代数学及演習	2前	3				○							兼1 ※講義
		建築計画Ⅰ	2前	2			○				1				
		建築コンバージョン論	2前	2			○			1					
		環境工学Ⅰ	2前	2			○				1				
		建築構法	2前	2				○			1				
		建築設計製図Ⅰ	2前	2					○		4		2		
		建築計画Ⅱ	2後	2			○				1				
		バリアフリー建築論	2後	2			○				1				
		設備工学Ⅰ	2後	2			○			1					
		建築材料Ⅰ	2後	2			○			1					
		建築設計製図Ⅱ	2後	2					○			3			兼1
	建築材料実験	3前	1					○	1	1					
	建築設計製図Ⅲ	3前	2					○		3					
	建築法規	3後	2			○								兼1	
	建築生産	3後	2			○								兼1	
	建築地域設計製図	3後	2					○	4	6		2		兼1	
	建築環境実験	3通	1					○	1	1		1		社ニバス・共同	
	卒業研究	4通	4					○	4	6		2			
	卒業設計	4通	4					○	4	6		2			
小計(26科目)	—	54	0	0	—			4	6	0	2	0	兼8		
選択科目	高齢社会学	1後		2		○								兼1	
	まちづくり論	1後		2		○								兼1	
	建築構造力学Ⅲ	2前		2		○		1							
	社会調査法	2後		2		○				2		1		社ニバス・※演習	
	建築史Ⅰ	2後		2		○								隔年	
建築構造力学Ⅳ	2後		2		○				1						
環境工学Ⅱ	2後		2		○				1						

教育課程等の概要																	
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目 建築都市デザイン学科専門科目 選択科目	防災マネジメントⅠ	2後		2		○									兼1	オムニバス・※演習	
	まちづくり特講	2後		2		○									兼7		
	学外実習Ⅰ	2通		1				○		1							
	学外実習Ⅱ	2通		2						1							
	社会統計学	3前		2		○									兼1		
	建築計画学Ⅲ	3前		2		○					1						
	都市計画	3前		2		○					1				兼1		オムニバス
	建築リサイクル学	3前		2		○				1							
	建築史Ⅱ	3前		2		○									兼1		隔年
	鉄骨構造	3前		2		○				1							
	鉄筋コンクリート構造	3前		2		○					1						
	設備工学Ⅱ	3前		2		○				1							
	設備設計論	3前		2		○									兼1		隔年
	建築材料Ⅱ	3前		2		○				1							
	建築計画学Ⅳ	3後		2		○					1						
	地区計画	3後		2		○					1				兼1		オムニバス
	建築デザイン	3後		2		○					1						
	建築史Ⅲ	3後		2		○									兼1		隔年
	高齢者防災論	3後		2		○					1						
	構造設計論	3後		2		○									兼1		隔年
	土質基礎工学	3後		2		○									兼1		
	設備工学Ⅲ	3後		2		○				1							
	地域環境エネルギー計画	3後		2		○					1						
建築インターンシップ	3通		2					○		1							
建築学外実習	3通		1					○		1							
国土計画	4前		2		○									兼2	オムニバス		
工業日本語基礎Ⅰ	3前		1				○							兼1	留学生対象科目		
工業日本語基礎Ⅱ	3後		1				○							兼1	留学生対象科目		
工業日本語応用	4通		2				○							兼1	留学生対象科目		
小計(36科目)		—	0	68	0	—	—	—	4	5	0	1	0	兼19			
合計(78科目)			—	66	83	0	—	—	4	6	0	2	0	兼43			
学位又は称号			学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法														授業期間等			
1. 基盤教育科目 36単位以上 [必修科目(選択必修科目含む) 32単位, 選択科目 4単位以上を履修] 必修科目の履修方法 (1) 初期導入科目 2単位 新入生セミナーを必修。 (2) リテラシー科目 13単位以上 スポーツと健康, 情報処理基礎, とちぎ終章学総論, Integrated English IA, Integrated English IB, Integrated English IIA, Integrated English IIB, Advanced English I (異なる分野から2科目)を必修。 (3) 教養科目 11単位以上 人文科学系科目から4単位, 社会科学系科目から4単位, 自然科学系科目(数学領域及び物理学領域以外の科目)から2単位, 総合系科目から1単位(とちぎ終章学特講)を必修。 (4) 専門導入科目 6単位 地域デザイン学序論A, 地域デザイン学序論B, 地域デザイン学序論Cを														1学年の学期区分		2期	
														1学期の授業期間		15週	
2. 専門教育科目 90単位以上 [必修科目(選択必修科目含む) 62単位, 選択科目 28単位以上を履修]														1時限の授業時間		90分	
総修得単位数 126単位以上																	
※ 履修登録単位数の上限 48単位(年間)																	

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
科 導 初 目 入 期	新入生セミナー	1前	2			○			5	4				オムニバス※演習
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			5	4	0	0	0	
基 盤 教 育 科 目	Integrated English I A	1前	2				○							兼2
	Integrated English I B	1前	1				○							兼8
	Integrated English II A	1後	2				○							兼2
	Integrated English II B	1後	1				○							兼8
	Advanced English I (Intensive Reading)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Pleasure Reading)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Academic Writing)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Essay writing)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Public Speaking)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Presentation)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Discussion&Debate)	2前後		1			○							兼1
	Advanced English I (Speech Clinic)	2前後		1			○							兼3
	Advanced English I (Vocabulary Building)	2前		1			○							兼2
	Advanced English I (Communicative Grammar)	2前後		1			○							兼4
	Advanced English I (Media English)	2前後		1			○							兼2
	Advanced English I (Cinema English)	2前後		1			○							兼1
	Advanced English I (TOEIC)	2前後		1			○							兼5
	Advanced English I (TOEFL)	2前後		1			○							兼1
	Advanced English I (EAP)	2前後		1			○							兼4
	Honors English A	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English B	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors English C	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English D	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors English E	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English F	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors English G	1・2・3・4前		1			○							兼2
	Honors English H	1・2・3・4後		1			○							兼2
	Honors Camp A	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Honors Camp B	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Honors Camp C	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Honors Camp D	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		3			○							兼1
	Overseas Study A	1・2・3・4前		4			○							兼1
	Overseas Study B	1・2・3・4前		1			○							兼1
	Overseas Study B	1・2・3・4前		2			○							兼1
	Overseas Study B	1・2・3・4前		3			○							兼1
Overseas Study B	1・2・3・4前		4			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		1			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		2			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		3			○							兼1	
Overseas Study C	1・2・3・4前		4			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		1			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		2			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		3			○							兼1	
Overseas Study D	1・2・3・4前		4			○							兼1	
スポーツと健康	1前		2			○								兼7
情報処理基礎	1前		2			○			1	1		2		オムニバス
とちぎ終章学総論	1後		1			○								兼1
小計（38科目）	—		11	71	0	—			1	1	0	2	0	兼34
人 文 科 学 系 科 目	西洋思想	1・2前		2			○							兼1
	現代思想	1・2後		2			○							兼1
	東洋思想	1・2前		2			○							兼1
	論理学	1・2前		2			○							兼1
	西洋の倫理思想	1・2後		2			○							兼1
	科学思想史	1・2前		2			○							兼1
	東アジアの宗教と文化	1・2前		2			○							兼1
	仏教における人間形成論	1・2前		2			○							兼1
	小計（8科目）	—		0	16	0	—			0	0	0	0	0
心 理 学 領 域	認知心理学入門	1・2後		2			○							兼1
	行動心理学入門	1・2前		2			○							兼1

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤教育科目	心理学領域	実験心理学入門	1・2前	2			○								兼1	
		発達と学習の心理学	1・2後	2			○								兼1	
		パーソナリティ心理学概論	1・2前	2			○								兼1	
		障害者心理学	1・2前	2			○								兼1	
		子どもの言語とコミュニケーション入門	1・2後	2			○								兼1	
		心理学と人権	1・2前	2			○								兼1	
		言語習得論	1・2後	2			○								兼1	
		小計(9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7
		文学領域	日本文学(古典)	1・2前後	2			○								兼2
	日本近代文学講読		1・2前	2			○								兼1	
	中国文学		1・2前	2			○								兼1	
	韓国文学		1・2後	2			○								兼1	
	フランス文学		1・2後	2			○								兼1	
	比較文学		1・2前	2			○								兼1	
	ロシア文学		1・2前	2			○								兼1	
英文学入門	1・2後		2			○								兼1		
米文学入門	1・2前		2			○								兼1		
小計(9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	0	兼9		
人文科学系科目	芸術領域	ヨーロッパ地域文化論	1・2前	2			○								兼1	
		現代美学	1・2後	2			○								兼1	
		芸術学	1・2前	2			○								兼1	
		芸術と自然	1・2前	2			○								兼1	
		音楽通論	1・2後	2			○								兼1	
		音楽の魅力	1・2後	2			○								兼1	
		器楽合奏概論	1・2後	2			○								兼1	
		管打合奏演習	1・2後	2			○								兼1	
		日本文化A	1・2前	2			○								兼1	
		日本文化B	1・2後	2			○								兼1	
		美術表現基礎	1・2前	2				○							兼2	
		近現代美術論	1・2後	2			○								兼2	
小計(12科目)	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	0	兼10		
人文科学系科目	人文総合領域	多言語コミュニケーション学A	1・2前	2			○								兼1	
		多言語コミュニケーション学B	1・2後	2			○								兼1	
		日本語の表記	1・2前	2			○								兼1	
		論理表現の技術	1・2後	2			○								兼1	
		Japanese Communication Arts	1・2後	2			○								兼1	
		ことばから見た人間	1・2後	2			○								兼2	
		社会言語学概論-日本語の変遷-	1・2前	2			○								兼1	
		生涯学習概論	1・2前	2			○								兼1	
		成人教育と参加型学習	1・2後	2			○								兼1	
		教育の裏側に光を当てる	1・2前	2			○								兼1	
		生活美学	1・2前	2				○							兼1	
		ものと文化と社会	1・2後	2			○								兼1	
		映像分析の実践	1・2前	2			○								兼1	
		世界のなかの日本文化	1・2後	2			○								兼1	
		ボディ・ランゲージ	1・2後	2			○								兼1	
小計(15科目)	—	0	30	0	—			0	0	0	0	0	0	兼13		
社会科学系科目	法学領域	日本国憲法	1・2前後	2			○								兼3	
		法学入門	1・2前	2			○								兼1	
		国際化と人権	1・2前	2			○								兼1	
		知的財産権概論	3・4後	2			○								兼1	
		法学概論	1・2後	2			○								兼1	
		小計(5科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	0	兼5
	政治学領域	国際政治史	1・2前	2			○								兼1	
		戦争と平和をめぐる諸問題	1・2後	2			○								兼1	
		現代政治の理論と実際	1・2後	2			○								兼1	
		グローバル・ガバナンス論入門	1・2前	2			○								兼1	
		政治の世界	1・2前	2			○								兼1	
		現代日本政治論	1・2後	2			○								兼1	
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	0	兼5	
	経済学領域	経済学I	1・2前	2			○								兼1	
		経済分析入門	1・2前	2			○								兼1	
資本市場の役割と証券投資		1・2後	2			○								兼1		
応用経済学入門		1・2後	2			○								兼1		

上・共通・※講義
上・ハ・ス・共同

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基盤教育科目	経済学領域	数理経済学入門	1・2前	2		○								兼1
		ゲーム理論入門	1・2後	2		○								兼1
		農業経営入門	1・2前	2		○								兼1
		小計（7科目）	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	兼7
	社会学領域	社会学入門	1・2後	2		○								兼1
		現代日本の社会	1・2前	2		○								兼1
		マスコミ入門	1・2後	2		○								兼1
		オセアニア民族誌	1・2後	2		○								兼1
		文化人類学入門	1・2後	2		○								兼1
		環境と国際社会	1・2前	2		○								兼1
		多文化共生論入門	1・2前	2		○								兼1
	小計（7科目）	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	兼6	
	地理学領域	人文地理学入門Ⅰ	1・2前	2		○								兼1
		人文地理学入門Ⅱ	1・2後	2		○								兼1
		農村空間論	1・2後	2		○								兼1
		小計（3科目）	—	0	6	0	—		0	0	0	0	0	兼2
	歴史学領域	歴史学入門	1・2前	2		○								兼1
		歴史と民族	1・2後	2		○								兼1
		歴史と文化	1・2後	2		○								兼1
		地域の歴史	1・2後	2		○								兼1
	小計（4科目）	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	兼3	
	社会科学系科目	社会総合領域	中東の社会と文化	1・2前	2		○							
社会開発入門			1・2前	2		○								兼1
遊びの理論とゲーム開発			1・2後	2		○								兼1
遊び論と遊び指導			1・2前	2		○								兼1
住まいづくり・まちづくり入門			1・2前	2			○							兼1 ※講義
オイコス入門			1・2前	2		○								兼1
障害者問題入門			1・2前	2		○								兼1 隔年
数や図形の絵本づくり			1・2後	2			○							兼1 ※講義
栃木県の歴史と文化			1・2前	2			○							兼1 ※講義
社会福祉入門			1・2後	2		○								兼1
災害復興学入門			1・2後	2		○								兼1
グローバル化と外国人児童生徒教育			1・2後	2		○								兼6 オムニバス・共同
国際協力論入門			1・2前	2		○								兼1
伝染病と感性			1・2後	2		○								兼1
著作権法入門			1・2後	2		○								兼1
教科書に見る歴史と社会		1・2後	2		○								兼1	
人と自然の共生を考える		1・2通	2			○							兼1 集中	
希望の地域社会論		1・2後	2		○				1		1		兼2 オムニバス	
中国事情		1・2後	2		○								兼1	
グローバル韓国学		1・2前	2		○								兼1	
科学・技術・教育・社会を考える		1・2後	2		○								兼1	
セクソロジー入門		1・2後	2			○							兼1 ※講義	
小計（22科目）	—	0	44	0	—		1	0	0	1	0	兼23		
自然科学系科目	数学領域	現代数学入門	1・2後	2		○								兼1
		電気電子数学入門	1・2前	2			○							兼1 ※講義
		Mathematicaによる微積分入門	1・2前	2		○								兼1
		Mathematicaによるデータ解析入門	1・2後	2		○								兼1
		振動の科学	1・2前	2		○								兼1
	小計（5科目）	—	0	10	0	—		0	0	0	0	0	兼4	
	物理学領域	教養物理	1・2前	2		○								兼3 オムニバス
		物理学入門	1・2前	2		○								兼1
		理工学最前線	1・2前	2		○								兼1
		Mathematica入門	1・2前後	2		○								兼1
		放射線科学入門	1・2前	2		○								兼1
		エレクトロニクス科学史	1・2後	2		○								兼1
		バイオメテイクス入門	1・2後	2		○								兼1
	小計（7科目）	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	兼9	
	化学領域	地球環境と化学	1・2前	2		○								兼1
環境と生物化学		1・2前	2		○								兼1	
不思議な化学		1・2後	2			○							兼1	
水素とエネルギー		1・2後	2		○								兼1	
リメディアル化学		1・2前	2		○								兼1	
物質・材料の機器分析入門	1・2前	2		○								兼1		

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要														
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
自然科学系科目	化学領域	ノーベル化学賞周辺の化学	1・2後		2		○							兼1
		小計（7科目）	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	兼7
	生物学領域	人間生活と植物	1・2後		2		○							兼1
		食料生産の生物学	1・2後		2		○							兼1
		21世紀を支える熱帯植物	1・2後		2		○							兼1
		野外における鳥獣識別テクニックの基礎	1・2前		2		○							兼1
		基礎生物学	1・2前		2		○							兼1
		ウイルスの世界と生物の世界	1・2前		2		○							兼1
		美味しさを科学するーミシュランガイド宇都宮をつくらうー	1・2後		2			○						兼1 ※講義
		小計（7科目）	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	兼7
情報科学領域	C言語・プログラミング入門	1・2前		2		○							兼1	
	プログラミング応用	1・2前		2		○							兼1	
	グラフィックス入門	1・2後		2		○							兼1	
	インターネットのしくみ	1・2後		2		○							兼1	
	Webのしくみ	1・2後		2		○							兼1	
	身のまわりのICT	1・2後		2		○							兼1	
	ワイヤレス通信のしくみ	1・2後		2		○							兼1	
	医用画像工学入門	1・2前		2		○							兼1	
	小計（8科目）	—	0	16	0	—		0	0	0	0	0	兼8	
地球環境と生物事件史	地球環境と生物事件史	1・2前		2		○							兼1	
	身近な気象学	1・2後		2		○							兼1	
	小計（2科目）	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	兼2	
健康科学領域	肥満の科学	1・2後		2		○							兼1	
	健康管理学概論	1・2後		2		○							兼1	
	バレーボールの科学	1・2後		2		○							兼1	
	小計（3科目）	—	0	6	0	—		0	0	0	0	0	兼3	
自然総合領域	人間の感覚を測る	1・2前		2			○						兼1 ※講義	
	生物の多様性とは何か	1・2後		2		○							兼1	
	雑草と人のくらし	1・2後		2		○							兼1	
	雑草観察入門	1・2前		2			○						兼1 ※講義	
	雑草と里山のフィールド演習Ⅰ	1・2前		1			○						兼1 集中	
	雑草と里山のフィールド演習Ⅱ	1・2後		1			○						兼2 共同・集中	
		小計（6科目）	—	0	10	0	—		0	0	0	0	0	兼3
基盤教育科目	初習外国語系科目	ドイツ語基礎Ⅰ	1・2前		1			○						兼1
		ドイツ語基礎Ⅱ	1・2後		1			○						兼1
		ドイツ語基礎Ⅲ	1・2前		1			○						兼1
		ドイツ語基礎Ⅳ	1・2後		1			○						兼1
		ドイツ語応用Ⅰ	1・2前		1			○						兼1
		ドイツ語応用Ⅱ	1・2後		1			○						兼1
		フランス語基礎Ⅰ	1・2前		1			○						兼2
		フランス語基礎Ⅱ	1・2後		1			○						兼2
		フランス語基礎Ⅲ	1・2前		1			○						兼1
		フランス語基礎Ⅳ	1・2後		1			○						兼1
		フランス語応用Ⅰ	1・2前		1			○						兼1
		フランス語応用Ⅱ	1・2後		1			○						兼1
		スペイン語基礎Ⅰ	1・2前		1			○						兼1
		スペイン語基礎Ⅱ	1・2後		1			○						兼1
		スペイン語基礎Ⅲ	1・2前		1			○						兼1
		スペイン語基礎Ⅳ	1・2後		1			○						兼1
		スペイン語応用Ⅰ	1・2前		1			○						兼1
		スペイン語応用Ⅱ	1・2後		1			○						兼1
		中国語基礎Ⅰ	1・2前		1			○						兼2
		中国語基礎Ⅱ	1・2後		1			○						兼2
		中国語基礎Ⅲ	1・2前		1			○						兼1
		中国語基礎Ⅳ	1・2後		1			○						兼1
		中国語応用Ⅰ	1・2前		1			○						兼1
		中国語応用Ⅱ	1・2後		1			○						兼1
タイ語基礎Ⅰ	1・2前		1			○						兼1		
タイ語基礎Ⅱ	1・2後		1			○						兼1		
タイ語基礎Ⅲ	1・2前		1			○						兼1		
タイ語基礎Ⅳ	1・2後		1			○						兼1		
タイ語応用Ⅰ	1・2前		1			○						兼1		
タイ語応用Ⅱ	1・2後		1			○						兼1		

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
初習外国語系科目	朝鮮語基礎Ⅰ	1・2前		1				○						兼2		
	朝鮮語基礎Ⅱ	1・2後		1				○						兼1		
	朝鮮語基礎Ⅲ	1・2前		1				○						兼1		
	朝鮮語基礎Ⅳ	1・2後		1				○						兼1		
	朝鮮語応用Ⅰ	1・2前		1				○						兼1		
	朝鮮語応用Ⅱ	1・2後		1				○						兼1		
	小計(36科目)	—	0	36	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼16	
総合系科目	野外調査論	1・2前		2				○						兼3	共同・※講義	
	里山のサステイナビリティを考える	1・2前		2				○						兼3	共同・集中・※講義	
	人と自然をつなぐ・人と人をつなぐA	1・2前		1						○				兼2	共同・集中	
	人と自然をつなぐ・人と人をつなぐB	1・2前		1						○				兼1	集中・※講義	
	実践・宇都宮のまちづくり	1・2前		2			○							兼1		
	一地方銀行の歴史に学ぶ“金融経済の仕組み”と“地域金融機関の役割”	1・2後		2			○							兼1		
	危機を見つめる力	1・2前		2			○							兼1		
	3.11と学問の不確かさ	1・2前		2			○							兼8	ハニバス・共同	
	食と生命のフィールド実践演習	1・2前		4				○						兼6	共同	
	男女共同参画社会を生きる	1・2後		2			○							兼2	共同・集中・※演習	
	ものづくり体験	1・2後		2				○						兼2	共同	
	宇大を学ぶ	1・2後		2			○							兼1		
	栃木の里山に学ぶ(春夏編)	1・2前		1				○						兼1	集中	
	栃木の里山に学ぶ(秋冬編)	1・2後		1				○						兼1	集中	
	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会の中の私たち」	1・2前		2			○							兼1		
	ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	1・2後		2			○							兼1		
	生きるということ	1・2前		2				○						兼1		
	「ぶろじえくと」をやってみる	1・2前		1				○						兼1		
	体験！ぶろじえくと	1・2前		2				○						兼1		
	感じる・考える・話す	1・2後		2			○							兼1		
アクティブにとらえる現代社会	1・2後		2			○							兼1			
とちぎ終章学特講	1・2後	1					○						兼1	※講義		
とちぎ終章学演習Ⅰ	1・2前		2				○						兼3	共同・※講義		
とちぎ終章学演習Ⅱ	1・2前		2				○						兼1	※講義		
小計(24科目)	—	1	43	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼37		
基盤教育科目	キャリア創造科目	人間と社会	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		キャリアデザイン	1・2・3・4後		2			○							兼2	共同
		働くことの意味と実際	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		実践企業人材論	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		起業の実際と理論	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		先輩に学ぶ	1・2・3・4前		2			○							兼1	
		より良く生きる	1・2・3・4前		2			○							兼3	ハニバス
		企業のグローバル戦略とキャリア形成	1・2・3・4後		2			○							兼1	
		グローバル時代の企業経営	1・2・3・4前		2			○							兼1	集中
	小計(9科目)	—	0	18	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼10	
基盤キャリア教育科目	自由科目	社会奉仕活動	1・2・3・4前		1					○					兼1	活動期間により単位認定
		社会奉仕活動	1・2・3・4前		2					○					兼1	
		社会奉仕活動	1・2・3・4前		3					○					兼1	
		社会奉仕活動	1・2・3・4前		4					○					兼1	
		国際協力活動	1・2・3・4前		1					○					兼1	活動期間により単位認定
		国際協力活動	1・2・3・4前		2					○					兼1	
		国際協力活動	1・2・3・4前		3					○					兼1	
		国際協力活動	1・2・3・4前		4					○					兼1	
		実務体験活動	1・2・3・4前		1					○					兼1	活動期間により単位認定
		実務体験活動	1・2・3・4前		2					○					兼1	
		実務体験活動	1・2・3・4前		3					○					兼1	
		実務体験活動	1・2・3・4前		4					○					兼1	
		特別体験活動	1・2・3・4前		1				○						兼1	活動期間により単位認定
		特別体験活動	1・2・3・4前		2				○						兼1	
特別体験活動	1・2・3・4前		3				○						兼1			
特別体験活動	1・2・3・4前		4				○						兼1			
小計(4科目)	—	0	40	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1		
留学科目	日本語	アカデミック・ジャパニーズ	1前		1				○						兼1	
		日本語アカデミック・ライティング	1後		1				○						兼1	
		日本語アカデミック・プレゼンテーション	1・2・3・4後		1				○						兼1	
		科学技術のための専門日本語	1・2・3・4前		1				○						兼1	

別記様式第2号(その2の1)

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤教育科目	留学生 日本語	人文社会系のための専門日本語	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		日本事情	1・2・3・4前	2				○							兼1	
	小計(6科目)	—	0	7	0			—		0	0	0	0	0	兼3	
基盤教育科目	専門導入科目	地域デザイン学序論A	1前	2				○							兼13	
		地域デザイン学序論B	1後	2				○							兼12	
		地域デザイン学序論C	1後	2					○			1			兼12	
		小計(3科目)	—	6	0	0			—	5	4	0	1	0	兼25	
共通専門科目	必修科目	地域デザイン訪問	1通	2				○		3					兼6	
		地域の姿と課題Ⅰ	1前	1				○			1				兼3	
		地域コミュニケーション演習	1前	1					○			2			兼10	
		地域プロジェクト演習	3通	2					○	5	4		2		兼10	
		地域デザイン倫理	3後	2					○	4					兼10	
小計(5科目)	—	8	0	0			—	5	4	0	2	0	兼17			
共通専門科目	選択科目	G I S 演習	2後		1			○					1		兼2	
		地域の姿と課題Ⅱ	3前		1			○		1	2				兼6	
		ワークショップ演習	3前		1				○						兼6	
		小計(3科目)	—	0	3	0			—	1	2	0	1	0	兼8	
専門教育科目	社会基盤デザイン学科専門科目	社会基盤解析法Ⅰ	1前	2						1					※講義	
		社会基盤解析法Ⅱ	1後	2					○		1				※講義	
		応用力学序論	1後	2					○		1					
		構造力学Ⅰ	2前	2					○	1						
		水理学Ⅰ	2前	2					○	1						
		土質力学Ⅰ	2前	2					○		1					
		土木計画学	2前	2					○				1			
		コンクリート工学Ⅰ	2前	2					○	1						
		測量学	2前	2					○		1					
		公共経済学	2前	2					○						兼1	
		社会調査法	2後	2					○	1					※演習	
		構造力学Ⅱ	2後	2					○	1						
		水理学Ⅱ	2後	2					○	1						
		土質力学Ⅱ	2後	2					○		1					
		鉄筋コンクリート工学	2後	2					○		1					
		防災マネジメントⅠ	2後	2					○		1					
		海外プロジェクトⅠ	2後	2					○	1				1		
		測量学実習	2通	3										1		
		海外プロジェクト演習	3前	1						○	1					オムニバス
		社会基盤設計演習	3後	1						○	1	2		1		オムニバス
		防災マネジメント演習	3後	1						○	1					
		社会基盤インターンシップ	3通	1							1	1				
		土木工学実験	3通	2							1	2		1		共同
		卒業研究	4通	2							5	4		2	2	
小計(24科目)	—	51	0	0			—		5	4	0	2	0	兼1		
専門教育科目	選択科目	公共政策入門	1前	2				○							兼1	
		社会福祉学概論	1前	2				○							兼1	
		地域資源論	1後	2					○						兼1	
		まちづくり論	1後	2					○						兼1	
		高齢社会学	1後	2					○						兼1	
		生物多様性論	1後	2					○						兼1	
		農村マネジメント	2前	2					○						※演習	
		文化マネジメント	2後	2					○						※演習	
		地域史	2後	2					○						兼1	
		まちづくり特講	2後	2					○						兼7	
		地方自治論	3前	2					○						兼1	
		観光地理学	3前	2					○						兼1	
		構造工学Ⅰ	3前	2					○		1					
		流域環境学Ⅰ	3前	2					○		1					
		衛生工学	3前	2					○		1				オムニバス	
		交通計画	3前	2					○		1					
		都市計画	3前	2					○		1				兼1	
防災マネジメントⅡ	3前	2					○			1						
土木工学通論	3前	2					○			1			兼4			
公共マネジメント	3前	2					○						兼1			
地域生態学	3前	2					○						兼1			
N P O 論	3前	2					○						兼1			

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
社会基盤デザイン学科 専門教育科目 選択科目	流域環境学Ⅱ	3後		2		○			1						兼2 兼1	オムニバス オムニバス
	土質基礎工学	3後		2		○				1						
	地質工学	3後		2		○								1		
	地区計画	3後		2		○										
	コンクリート工学Ⅱ	3後		2		○			1							
	海外プロジェクトⅡ	3後		2		○			1							
	プロジェクト評価論	3後		2		○										兼1
	高齢者防災論	3後		2		○										兼1
	地域環境エネルギー計画	3後		2		○										兼1
	財政学	3後		2		○										兼1
	景観解析	3後		2		○										兼1
	環境・資源経済学	3後		2		○										兼1
	社会統計学	4前		2		○										兼1
	構造工学Ⅱ	4前		2		○				1						
	国土計画	4前		2		○										兼2
	工業日本語基礎Ⅰ	3前		1				○								兼1
工業日本語基礎Ⅱ	3後		1				○								兼1	
工業日本語応用	4通		2				○								兼1	
小計(40科目)		—	0	78	0	—	—	—	5	3	0	1	0	兼28		
合計(345科目)			—	79	598	0	—	—	5	4	0	2	0	兼235		
学位又は称号			学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
1. 基盤教育科目 36単位以上 [必修科目(選択必修科目含む) 32単位, 選択科目 4単位以上を履修] 必修科目の履修方法 (1) 初期導入科目 2単位 新入生セミナーを必修。 (2) リテラシー科目 13単位以上 スポーツと健康, 情報処理基礎, とちぎ終章学総論, Integrated English IA, Integrated English IB, Integrated English IIA, Integrated English IIB, Advanced English I (異なる分野から2科目)を必修。 (3) 教養科目 11単位以上 人文科学系科目から4単位, 社会科学系科目から4単位, 自然科学系科目(数学領域及び物理学領域以外の科目)から2単位, 総合系科目から1単位(とちぎ終章学特講)を必修。 (4) 専門導入科目 6単位 地域デザイン学序論A, 地域デザイン学序論B, 地域デザイン学序論Cを必修。								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
2. 専門教育科目 90単位以上 [必修科目 59単位, 選択科目 31単位以上を履修] 総修得単位数 126単位以上								1時限の授業時間			90分					
※ 履修登録単位数の上限 48単位(年間)																

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤教育科目	リテラシー科目	Integrated English I A	1前	2				○							兼2	
		Integrated English I B	1前	1				○							兼8	
		Integrated English II A	1後	2				○							兼2	
		Integrated English II B	1後	1				○							兼8	
		Advanced English I (Intensive Reading)	2前後		1				○							兼4
		Advanced English I (Pleasure Reading)	2前後		1				○							兼2
		Advanced English I (Academic Writing)	2前後		1				○							兼2
		Advanced English I (Essay writing)	2前後		1				○							兼4
		Advanced English I (Public Speaking)	2前後		1				○							兼2
		Advanced English I (Presentation)	2前後		1				○							兼4
		Advanced English I (Discussion&Debate)	2前後		1				○							兼1
		Advanced English I (Speech Clinic)	2前後		1				○							兼3
		Advanced English I (Vocabulary Building)	2前		1				○							兼2
		Advanced English I (Communicative Grammar)	2前後		1				○							兼4
		Advanced English I (Media English)	2前後		1				○							兼2
		Advanced English I (Cinema English)	2前後		1				○							兼1
		Advanced English I (TOEIC)	2前後		1				○							兼5
		Advanced English I (TOEFL)	2前後		1				○							兼1
		Advanced English I (EAP)	2前後		1				○							兼4
		Honors English A	1・2・3・4前		1				○							兼2
		Honors English B	1・2・3・4後		1				○							兼2
		Honors English C	1・2・3・4前		1				○							兼2
		Honors English D	1・2・3・4後		1				○							兼2
		Honors English E	1・2・3・4前		1				○							兼2
		Honors English F	1・2・3・4後		1				○							兼2
		Honors English G	1・2・3・4前		1				○							兼2
		Honors English H	1・2・3・4後		1				○							兼2
		Honors Camp A	1・2・3・4前		2				○							兼1
		Honors Camp B	1・2・3・4前		2				○							兼1
		Honors Camp C	1・2・3・4前		2				○							兼1
		Honors Camp D	1・2・3・4前		2				○							兼1
		Overseas Study A	1・2・3・4前		1				○							兼1
		Overseas Study A	1・2・3・4前		2				○							兼1
		Overseas Study A	1・2・3・4前		3				○							兼1
		Overseas Study A	1・2・3・4前		4				○							兼1
		Overseas Study B	1・2・3・4前		1				○							兼1
		Overseas Study B	1・2・3・4前		2				○							兼1
Overseas Study B	1・2・3・4前		3				○							兼1		
Overseas Study B	1・2・3・4前		4				○							兼1		
Overseas Study C	1・2・3・4前		1				○							兼1		
Overseas Study C	1・2・3・4前		2				○							兼1		
Overseas Study C	1・2・3・4前		3				○							兼1		
Overseas Study C	1・2・3・4前		4				○							兼1		
Overseas Study D	1・2・3・4前		1				○							兼1		
Overseas Study D	1・2・3・4前		2				○							兼1		
Overseas Study D	1・2・3・4前		3				○							兼1		
Overseas Study D	1・2・3・4前		4				○							兼1		
スポーツと健康	1前		2				○							兼7		
とちぎ終章学総論	1後		1				○							兼1		
小計 (37科目)		—	9	71	0		—		0	0	0	0	0	兼34		
人文科学系科目	哲学領域	西洋思想	1・2前		2			○							兼1	
		現代思想	1・2後		2			○							兼1	
		東洋思想	1・2前		2			○							兼1	
		論理学	1・2前		2			○							兼1	
		西洋の倫理思想	1・2後		2			○							兼1	
		科学思想史	1・2前		2			○							兼1	
		東アジアの宗教と文化	1・2前		2			○							兼1	
		仏教における人間形成論	1・2前		2			○							兼1	
小計 (8科目)		—	0	16	0		—		0	0	0	0	0	兼6		

教育課程等の概要														
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
心理学領域	認知心理学入門	1・2後		2		○								兼1
	行動心理学入門	1・2前		2		○								兼1
	実験心理学入門	1・2前		2		○								兼1
	発達と学習の心理学	1・2後		2		○								兼1
	パーソナリティ心理学概論	1・2前		2		○								兼1
	障害者心理学	1・2前		2		○								兼1
	子どもの言語とコミュニケーション入門	1・2後		2		○								兼1
	心理学と人権	1・2前		2		○								兼1
	言語習得論	1・2後		2		○								兼1
	小計(9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼7
文学領域	日本文学(古典)	1・2前後		2		○								兼2
	日本近代文学講読	1・2前		2		○								兼1
	中国文学	1・2前		2		○								兼1
	韓国文学	1・2後		2		○								兼1
	フランス文学	1・2後		2		○								兼1
	比較文学	1・2前		2		○								兼1
	ロシア文学	1・2前		2		○								兼1
	英文学入門	1・2後		2		○								兼1
	米文学入門	1・2前		2		○								兼1
小計(9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼9	
人文科学系科目 芸術領域	ヨーロッパ地域文化論	1・2前		2		○								兼1
	現代美学	1・2後		2		○								兼1
	芸術学	1・2前		2		○								兼1
	芸術と自然	1・2前		2		○								兼1
	音楽通論	1・2後		2		○								兼1
	声楽の魅力	1・2後		2		○								兼1
	器楽合奏概論	1・2後		2		○								兼1
	管打合奏演習	1・2後		2		○								兼1
	日本文化A	1・2前		2		○								兼1
	日本文化B	1・2後		2		○								兼1
	美術表現基礎	1・2前		2		○	○							兼2 <small>社バノス・共同</small>
	近現代美術論	1・2後		2		○								兼2 <small>社バノス・共同</small>
小計(12科目)	—	0	24	0	—			0	0	0	0	0	兼10	
人文総合領域	多言語コミュニケーション学A	1・2前		2		○								兼1
	多言語コミュニケーション学B	1・2後		2		○								兼1
	日本語の表記	1・2前		2		○								兼1
	論理表現の技術	1・2後		2		○								兼1
	Japanese Communication Arts	1・2後		2		○								兼1
	ことばから見た人間	1・2後		2		○								兼2
	生涯学習概論	1・2前		2		○								兼1
	成人教育と参加型学習	1・2後		2		○								兼1
	教育の裏側に光を当てる	1・2前		2		○								兼1
	生活美学	1・2前		2		○	○							兼1
	ものと文化と社会	1・2後		2		○								兼1
	映像分析の実践	1・2前		2		○								兼1
	世界のなかの日本文化	1・2後		2		○								兼1
	ボディ・ランゲージ	1・2後		2		○								兼1
小計(14科目)	—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	兼12	
社会科学系科目 法学領域	日本国憲法	1・2前後		2		○								兼3
	法学入門	1・2前		2		○								兼1
	国際化と人権	1・2前		2		○								兼1
	知的財産権概論	3・4後		2		○								兼1 ※演習
	法学概論	1・2後		2		○								兼1
	小計(5科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼5
社会科学系科目 政治学領域	国際政治史	1・2前		2		○								兼1
	戦争と平和をめぐる諸問題	1・2後		2		○								兼1
	現代政治の理論と実際	1・2後		2		○								兼1
	グローバル・ガバナンス論入門	1・2前		2		○								兼1
	政治の世界	1・2前		2		○								兼1

教育課程等の概要																
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤教育科目	政治学領域	現代日本政治論	1・2後	2		○									兼1	
		小計(6科目)	—	0	12	0	—		0	0	0	0	0	0	兼5	
	経済学領域	経済学Ⅰ	1・2前	2		○										兼1
		経済分析入門	1・2前	2		○										兼1
		資本市場の役割と証券投資	1・2後	2		○										兼1
		応用経済学入門	1・2後	2		○										兼1
		数理経済学入門	1・2前	2		○										兼1
		ゲーム理論入門	1・2後	2		○										兼1
		農業経営入門	1・2前	2		○										兼1
		小計(7科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	0	兼7	
	社会学領域	社会学入門	1・2後	2		○										兼1
		現代日本の社会	1・2前	2		○										兼1
		マスコミ入門	1・2後	2		○										兼1
		オセアニア民族誌	1・2後	2		○										兼1
		文化人類学入門	1・2後	2		○										兼1
		環境と国際社会	1・2前	2		○										兼1
		多文化共生論入門	1・2前	2		○										兼1
		小計(7科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	0	兼6	
	地理学領域	人文地理学入門Ⅰ	1・2前	2		○										兼1
		人文地理学入門Ⅱ	1・2後	2		○										兼1
		農村空間論	1・2後	2		○										兼1
		小計(3科目)	—	0	6	0	—		0	0	0	0	0	0	兼2	
	社会科学系科目	歴史学入門	1・2前	2		○										兼1
歴史と民族		1・2後	2		○										兼1	
歴史と文化		1・2後	2		○										兼1	
地域の歴史		1・2後	2		○										兼1	
	小計(4科目)	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3		
社会総合領域	中東の社会と文化	1・2前	2		○										兼1	
	社会開発入門	1・2前	2		○										兼1	
	遊びの理論とゲーム開発	1・2後	2		○										兼1	
	遊び論と遊び指導	1・2前	2		○										兼1	
	住まいづくり・まちづくり入門	1・2前	2				○								※講義	
	オイコス入門	1・2前	2		○										兼1	
	障害者問題入門	1・2前	2		○										兼1	
	数や図形の絵本づくり	1・2後	2				○								兼1	
	栃木県の歴史と文化	1・2前	2				○								兼1	
	社会福祉入門	1・2後	2		○										兼1	
	災害復興学入門	1・2後	2		○										兼1	
	グローバル化と外国人児童生徒教育	1・2後	2		○										兼6	
	国際協力論入門	1・2前	2		○										兼1	
	伝統染織と感性	1・2後	2		○										兼1	
	著作権法入門	1・2後	2		○										兼1	
	教科書に見る歴史と社会	1・2後	2		○										兼1	
	人と自然の共生を考える	1・2通	2				○								兼1	
	希望の地域社会論	1・2後	2		○				1			1			兼2	
	中国事情	1・2後	2		○										兼1	
	グローバル韓国学	1・2前	2		○										兼1	
	科学・技術・教育・社会を考える	1・2後	2		○										兼1	
	セクソロジー入門	1・2後	2				○								兼1	
	小計(22科目)	—	0	44	0	—		1	0	0	1	0	0	兼23		
自然科学系科目	現代数学入門	1・2後	2		○										兼1	
	Mathematicaによる微積分入門	1・2前	2		○										兼1	
	Mathematicaによるデータ解析入門	1・2後	2		○										兼1	
	振動の科学	1・2前	2		○										兼1	
		小計(4科目)	—	0	8	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3	
物理学領域	教養物理	1・2前	2		○										兼3	
	物理学入門	1・2前	2		○										兼1	
	理工学最前線	1・2前	2		○										兼1	
	Mathematica入門	1・2前後	2		○										兼1	

教育課程等の概要																
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
自然科学系科目 基盤教育科目	物理学領域	放射線科学入門	1・2前	2		○									兼1	
		エレクトロニクス科学史	1・2後	2		○									兼1	
		バイオメテックス入門	1・2後	2		○									兼1	
		小計(7科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	0	兼9	
	化学領域		地球環境と化学	1・2前	2		○									兼1
			環境と生物化学	1・2前	2		○									兼1
			不思議な化学	1・2後	2			○								兼1
			水素とエネルギー	1・2後	2		○									兼1
			リメディアル化学	1・2前	2		○									兼1
			物質・材料の機器分析入門	1・2前	2		○									兼1
			ノーベル化学賞周辺の化学	1・2後	2		○									兼1
		小計(7科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	0	兼7	
	生物学領域		人間生活と植物	1・2後	2		○									兼1
			食料生産の生物学	1・2後	2		○									兼1
			21世紀を支える熱帯植物	1・2後	2		○									兼1
			野外における鳥獣識別テクニックの基礎	1・2前	2		○									兼1
			基礎生物学	1・2前	2		○									兼1
			ウイルスの世界と生物の世界	1・2前	2		○									兼1
			美味しさを科学する—ミシュランガイド宇都宮をつくらう—	1・2後	2			○								兼1 ※講義
		小計(7科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	0	兼7	
情報科学領域		C言語・プログラミング入門	1・2前	2		○									兼1	
		プログラミング応用	1・2前	2		○									兼1	
		インターネットのしくみ	1・2後	2		○									兼1	
		Webのしくみ	1・2後	2		○									兼1	
		身のまわりのICT	1・2後	2		○									兼1	
		ワイヤレス通信のしくみ	1・2後	2		○									兼1	
		医用画像工学入門	1・2前	2		○									兼1	
	小計(7科目)	—	0	14	0	—		0	0	0	0	0	0	兼7		
地球環境と生物事件史		地球環境と生物事件史	1・2前	2		○									兼1	
		身近な気象学	1・2後	2		○									兼1	
		小計(2科目)	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	兼2	
健康科学領域		肥満の科学	1・2後	2		○									兼1	
		健康管理学概論	1・2後	2		○									兼1	
		バレーボールの科学	1・2後	2		○									兼1	
		小計(3科目)	—	0	6	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3	
自然総合領域		人間の感覚を測る	1・2前	2			○								兼1 ※講義	
		生物の多様性とは何か	1・2後	2		○									兼1	
		雑草と人の暮らし	1・2後	2		○									兼1	
		雑草観察入門	1・2前	2			○								兼1 ※講義	
		雑草と里山のフィールド演習Ⅰ	1・2前	1			○								兼1 集中	
		雑草と里山のフィールド演習Ⅱ	1・2後	1			○								兼2 共同・集中	
	小計(6科目)	—	0	10	0	—		0	0	0	0	0	0	兼3		
初習外国語系科目		ドイツ語基礎Ⅰ	1・2前	1			○								兼1	
		ドイツ語基礎Ⅱ	1・2後	1			○								兼1	
		ドイツ語基礎Ⅲ	1・2前	1			○								兼1	
		ドイツ語基礎Ⅳ	1・2後	1			○								兼1	
		ドイツ語応用Ⅰ	1・2前	1			○								兼1	
		ドイツ語応用Ⅱ	1・2後	1			○								兼1	
		フランス語基礎Ⅰ	1・2前	1			○								兼2	
		フランス語基礎Ⅱ	1・2後	1			○								兼2	
		フランス語基礎Ⅲ	1・2前	1			○								兼1	
		フランス語基礎Ⅳ	1・2後	1			○								兼1	
		フランス語応用Ⅰ	1・2前	1			○								兼1	
		フランス語応用Ⅱ	1・2後	1			○								兼1	
		スペイン語基礎Ⅰ	1・2前	1			○								兼1	
		スペイン語基礎Ⅱ	1・2後	1			○								兼1	
	スペイン語基礎Ⅲ	1・2前	1			○								兼1		
	スペイン語基礎Ⅳ	1・2後	1			○								兼1		
	スペイン語応用Ⅰ	1・2前	1			○								兼1		

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
初習外国語系科目	スペイン語応用Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	
	中国語基礎Ⅰ	1・2前		1			○								兼2	
	中国語基礎Ⅱ	1・2後		1			○								兼2	
	中国語基礎Ⅲ	1・2前		1			○								兼1	
	中国語基礎Ⅳ	1・2後		1			○								兼1	
	中国語応用Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	
	中国語応用Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	
	タイ語基礎Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	
	タイ語基礎Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	
	タイ語基礎Ⅲ	1・2前		1			○								兼1	
	タイ語基礎Ⅳ	1・2後		1			○								兼1	
	タイ語応用Ⅰ	1・2前		1			○								兼1	
	タイ語応用Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	
	朝鮮語基礎Ⅰ	1・2前		1			○								兼2	
	朝鮮語基礎Ⅱ	1・2後		1			○								兼1	
朝鮮語基礎Ⅲ	1・2前		1			○								兼1		
朝鮮語基礎Ⅳ	1・2後		1			○								兼1		
朝鮮語応用Ⅰ	1・2前		1			○								兼1		
朝鮮語応用Ⅱ	1・2後		1			○								兼1		
	小計(36科目)	—	0	36	0		—		0	0	0	0	0	0	兼16	
基盤教育科目	野外調査論	1・2前		2			○								兼3	共同・※講義
	里山のサステイナビリティを考える	1・2前		2			○								兼3	共同・集中・※講義
	人と自然をつなぐ・人と人をつなぐA	1・2前		1					○						兼2	共同・集中
	人と自然をつなぐ・人と人をつなぐB	1・2前		1					○						兼1	集中・※講義
	実践・宇都宮のまちづくり	1・2前		2			○								兼1	
	一地方銀行の歴史に学ぶ“金融経済の仕組み”と“地域金融機関の役割”	1・2後		2			○								兼1	
	危機を見つめる力	1・2前		2			○								兼1	
	3.11と学問の不確かさ	1・2前		2			○								兼8	共同・※講義
	食と生命のフィールド実践演習	1・2前		4			○								兼6	共同
	男女共同参画社会を生きる	1・2後		2			○								兼2	共同・集中・※演習
	宇大を学ぶ	1・2後		2			○								兼1	
	栃木の里山に学ぶ(春夏編)	1・2前		1			○								兼1	集中
	栃木の里山に学ぶ(秋冬編)	1・2後		1			○								兼1	集中
	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会の中の私たち」	1・2前		2			○								兼1	
	ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	1・2後		2			○								兼1	
	生きるということ	1・2前		2			○								兼1	
	「ぷろじえくと」をやってみる	1・2前		1			○								兼1	
体験!ぷろじえくと	1・2前		2			○								兼1		
感じる・考える・話す	1・2後		2			○								兼1		
アクティブにとらえる現代社会	1・2後		2			○								兼1		
とちぎ終章学特講	1・2後		1			○								兼1	※講義	
とちぎ終章学演習Ⅰ	1・2前		2			○								兼3	共同・※講義	
とちぎ終章学演習Ⅱ	1・2前		2			○								兼1	※講義	
	小計(23科目)	—	1	41	0		—		0	0	0	0	0	0	兼35	
基盤キャリア教育科目	キャリアデザイン	1・2・3・4後		2			○								兼2	共同
	働くことの意味と実際	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	実践企業人材論	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	起業の実際と理論	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	先輩に学ぶ	1・2・3・4前		2			○								兼1	
	企業のグローバル戦略とキャリア形成	1・2・3・4後		2			○								兼1	
	グローバル時代の企業経営	1・2・3・4前		2			○								兼1	集中
	小計(7科目)	—	0	14	0		—		0	0	0	0	0	0	兼7	
自由科目	社会奉仕活動	1・2・3・4前		1					○						兼1	活動期により単位認定
	社会奉仕活動	1・2・3・4前		2					○					兼1		
	社会奉仕活動	1・2・3・4前		3					○					兼1		
	社会奉仕活動	1・2・3・4前		4					○					兼1	活動期により単位認定	
	国際協力活動	1・2・3・4前		1					○					兼1		
	国際協力活動	1・2・3・4前		2					○					兼1		
	国際協力活動	1・2・3・4前		3					○					兼1		
国際協力活動	1・2・3・4前		4					○					兼1			

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基盤教育科目	自由科目 実務体験活動 実務体験活動 実務体験活動 実務体験活動 特別体験活動 特別体験活動 特別体験活動 特別体験活動	1・2・3・4前	1					○							兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 活動期間により単位認定 活動期間により単位認定	
		1・2・3・4前	2					○								
		1・2・3・4前	3					○								
		1・2・3・4前	4					○								
		1・2・3・4前	1					○								
		1・2・3・4前	2					○								
		1・2・3・4前	3					○								
		1・2・3・4前	4					○								
	小計(4科目)	—	0	40	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼1	
	留學生日本語科目	アカデミック・ジャパニーズ	1前	1				○								兼1
日本語アカデミック・ライティング		1後	1				○								兼1	
日本語アカデミック・プレゼンテーション		1・2・3・4後	1				○								兼1	
科学技術のための専門日本語		1・2・3・4前	1				○								兼1	
人文社会系のための専門日本語		1・2・3・4前	1				○								兼1	
日本事情		1・2・3・4前	2			○									兼1	
小計(6科目)	—	0	7	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼3		
専門導入科目	地域デザイン学序論A	1前	2			○									兼13 オムニバス	
	地域デザイン学序論B	1後	2			○									兼12 オムニバス	
	地域デザイン学序論C	1後	2			○			5	4		1	0		オムニバス	
	小計(3科目)	—	6	0	0	—	—	—	5	4	0	1	0		兼25	
専門教育科目	必修科目 社会基盤デザイン学	公共経済学	2前	2			○								兼1	
		小計(1科目)	—	2	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1	
	選択科目 デザイン学	社会福祉学概論	1前	2			○									兼1
		生物多様性論	1後	2			○									兼1
		農村マネジメント	2前	2			○									兼1 ※演習
		文化マネジメント	2後	2			○									兼1 ※演習
		地域史	2後	2			○									兼1
		地方自治論	3前	2			○									兼1
		環境・資源経済学	3後	2			○									兼1
	小計(7科目)	—	0	14	0	—	—	—	0	0	0	0	0		兼7	
合計(273科目)	—	18	519	0	—	—	—	5	4	0	2	0		兼218		
学位又は称号		学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
1. 基盤教育科目 36単位以上 [必修科目(選択必修科目含む) 32単位, 選択科目 4単位以上を履修] 必修科目の履修方法 (1) 初期導入科目 2単位 新入生セミナーを必修。 (2) リテラシー科目 13単位以上 スポーツと健康, 情報処理基礎, とちぎ終章学総論, Integrated English IA, Integrated English IB, Integrated English IIA, Integrated English IIB, Advanced English I (異なる分野から2科目)を必修。 (3) 教養科目 11単位以上 人文科学系科目から4単位, 社会科学系科目から4単位, 自然科学系科目(数学領域及び物理学領域以外の科目)から2単位, 総合系科目から1単位(とちぎ終章学特講)を必修。 (4) 専門導入科目 6単位 地域デザイン学序論A, 地域デザイン学序論B, 地域デザイン学序論Cを必修。 2. 専門教育科目 90単位以上 [必修科目 59単位, 選択科目 31単位以上を履修] 総修得単位数 126単位以上 ※ 履修登録単位数の上限 48単位(年間)							1学年の学期区分			2期						
							1学期の授業期間			15週						
							1時限の授業時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基盤教育科目	初期導入科目	新生セミナー	1前	2			○			5	4					オムニバス・※演習	
		小計（1科目）	—	2	0	0		—		5	4	0	0	0			
	リテラシー科目	情報処理基礎	1前	2				○		1	1		2			オムニバス	
		小計（1科目）	—	2	0	0		—		1	1	0	2	0			
	人文社会科学系科目	社会言語学概論－日本語の変遷－	1・2前		2		○									兼1	
		小計（1科目）	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0		兼1	
	自然科学系科目	電気電子数学入門	1・2前		2			○								兼1 ※講義	
		小計（1科目）	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0		兼1	
		グラフィックス入門	1・2後		2		○									兼1	
		小計（1科目）	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0		兼1	
	総合系科目	ものづくり体験	1・2後		2			○								兼2 共同	
		小計（1科目）	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0		兼2	
	基盤キャリア教育科目	人間と社会	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		より良く生きる	1・2・3・4前		2		○									兼3 オムニバス	
小計（2科目）		—	0	4	0		—		0	0	0	0	0		兼4		
共通専門科目	必修科目	地域デザイン訪問	1通	2			○		3						兼6 オムニバス・共同		
		地域の姿と課題Ⅰ	1前	1			○			1					兼3 オムニバス・共同		
		地域コミュニケーション演習	1前	1				○			2				兼10 共同		
		地域プロジェクト演習	3通	2				○		5	4		2		共同		
		地域デザイン倫理	3後	2				○		4					オムニバス		
		小計（5科目）	—	8	0	0		—		5	4	0	2	0	兼16		
	選択科目	G I S 演習	2後		1			○					1		兼2 オムニバス		
		地域の姿と課題Ⅱ	3前		1		○			1	2				オムニバス		
		ワークショップ演習	3前		1			○							兼6 共同		
		小計（3科目）	—	0	3	0		—		1	2	0	1	0	兼8		
専門教育科目	社会基盤デザイン学科専門科目	社会基盤解析法Ⅰ	1前	2				○		1						※講義	
		社会基盤解析法Ⅱ	1後	2				○			1					※講義	
		応用力学序論	1後	2			○				1						
		構造力学Ⅰ	2前	2			○			1							
		水理学Ⅰ	2前	2			○			1							
		土質力学Ⅰ	2前	2			○				1						
		土木計画学	2前	2			○						1				
		コンクリート工学Ⅰ	2前	2			○			1							
		測量学	2前	2			○				1						
		社会調査法	2後	2			○			1							※演習
		構造力学Ⅱ	2後	2			○			1							
		水理学Ⅱ	2後	2			○			1							
土質力学Ⅱ	2後	2			○				1								
鉄筋コンクリート工学	2後	2			○				1								

教 育 課 程 等 の 概 要																
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	必修科目	防災マネジメントⅠ	2後	2			○			1						
		海外プロジェクトⅠ	2後	2			○			1						
		測量学実習	2通	3					○				1			
		海外プロジェクト演習	3前	1				○		1						
		社会基盤設計演習	3後	1				○		1	2		1		オムニバス	
		防災マネジメント演習	3後	1				○			1					
		社会基盤インターンシップ	3通	1					○		1					
		土木工学実験	3通	2					○	1	2		1		共同	
		卒業研究	4通	8					○	5	4			2		
	小計（23科目）	—	49	0	0	—			5	4	0	2	0			
	社会基盤デザイン学科専門科目	選択科目	公共政策入門	1前		2		○								兼1
			地域資源論	1後		2		○								兼1
			まちづくり論	1後		2		○								兼1
			高齢社会学	1後		2		○								兼1
			まちづくり特講	2後		2		○								兼7 社会基盤・演習
			観光地理学	3前		2		○								兼1
			構造工学Ⅰ	3前		2		○			1					
			流域環境学Ⅰ	3前		2		○			1					
			衛生工学	3前		2		○			1					オムニバス
			交通計画	3前		2		○			1					
			都市計画	3前		2		○			1					兼1 社会基盤・演習
			防災マネジメントⅡ	3前		2		○				1				
			土木工学通論	3前		2		○				1				兼4 社会基盤・演習
公共マネジメント			3前		2		○								兼1	
地域生態学	3前		2		○								兼1			
NPO論	3前		2		○								兼1			
流域環境学Ⅱ	3後		2		○			1								
土質基礎工学	3後		2		○				1							
地質工学	3後		2		○							1	兼2 社会基盤・演習			
地区計画	3後		2		○						1		兼1 社会基盤・演習			
コンクリート工学Ⅱ	3後		2		○			1								
海外プロジェクトⅡ	3後		2		○			1								
プロジェクト評価論	3後		2		○								兼1			
高齢者防災論	3後		2		○								兼1			
地域環境エネルギー計画	3後		2		○								兼1			
財政学	3後		2		○								兼1 集中			
景観解析	3後		2		○								兼1 集中			
社会統計学	4前		2		○								兼1			
構造工学Ⅱ	4前		2		○				1							

教 育 課 程 等 の 概 要															
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	国土計画	4前		2		○								兼2	オムニバス
	工業日本語基礎Ⅰ	3前		1			○							兼1	留学生対象科目
	工業日本語基礎Ⅱ	3後		1			○							兼1	留学生対象科目
	工業日本語応用	4通		2			○							兼1	留学生対象科目
	小計(33科目)	—	0	64	0	—			5	3	0	1	0	兼40	
合計(72科目)			—	61	79	0	—	5	4	0	2	0			
学位又は称号		学士(工学)			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
1. 基盤教育科目 36単位以上 [必修科目(選択必修科目含む) 32単位, 選択科目 4単位以上を履修] 必修科目の履修方法 (1) 初期導入科目 2単位 新入生セミナーを必修。 (2) リテラシー科目 13単位以上 スポーツと健康, 情報処理基礎, とちぎ終章学総論, Integrated English IA, Integrated English IB, Integrated English IIA, Integrated English IIB, Advanced English I (異なる分野から2科目)を必修。 (3) 教養科目 11単位以上 人文科学系科目から4単位, 社会科学系科目から4単位, 自然科学系科目(数学領域及び物理学領域以外の科目)から2単位, 総合系科目から1単位(とちぎ終章学特講)を必修。 (4) 専門導入科目 6単位 地域デザイン学序論A, 地域デザイン学序論B, 地域デザイン学序論Cを必修。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
2. 専門教育科目 90単位以上 [必修科目 59単位, 選択科目 31単位以上を履修] 総修得単位数 126単位以上							1時限の授業時間			90分					
※ 履修登録単位数の上限 48単位(年間)															

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基 盤 教 育 科 目	初期 導 入 科 目	<p>大学での自立的・主体的な生活や学びを醸成するために、大学の教育環境への理解と適応、キャリア形成を踏まえた自己認識と自律的態度の育成、大学で学ぶための基礎的な学修スキルについて取扱う。授業の目的や内容等に関する全体オリエンテーションの後、グループに分かれて大学での学びに必要な基礎的な学習スキルを身につける。また、地域の課題を設定し、その課題について文献等により調査・分析を行い、発表するとともに、レポートを作成する。これらにより大学生として必要な課題設定力、課題解決力、考察力、発表能力、レポート構成力等を養う。</p> <p>AL50: グループワークによって身近な課題を調査し、現状と課題点について整理し発表させる。</p>	共同 講義 20時間 演習 10時間	
	リ テ ラ シ ー 科 目	Integrated English I A	<p>(英文) Classes will be conducted in English, twice a week by the same instructor to the same students. Students are always expected to use English in class. Although both sections are aimed at developing integrated skills, one is mainly focused on reading skills, while the other is focused on listening and speaking skills using authentic language from movies.</p> <p>In the first stage of the class, students will acquire the study skills necessary for success in English studies. Students will be provided guidelines for efficient use of a dictionary, reading and using English handwriting, understanding phonetic transcriptions, taking notes, etc.</p> <p>In the reading section, students will develop the skills necessary to use professional journals, books, websites, and other media in order to conduct academic research after advancing to their major area.</p> <p>In the section using movies, students will develop oral communication skills. They will also be introduced to various foreign cultures through these movies in order to promote intercultural understanding.</p> <p>(和訳) 授業は全て英語で行う。はじめに辞書の使い方、筆記体の読み書き、発音記号、ノートの取り方など英語学習の基本を解説。総合的な英語力を伸ばすため、リーディング、リスニング&スピーキングに重点を置く。リーディングの授業では専門課程での研究に備えて学術雑誌、専門誌、書籍、ウェブサイトやその他の媒体の読み方を学び、リスニング&スピーキングの授業では映画を使って「生の英語」に触れ、会話の力を向上させると同時に、映画が発信する様々な異文化への理解を深める。</p>	
		Integrated English I B	<p>(英文) Students will be able to: (1) use a full range of explicit and implicit communication strategies (questioning, repetition, clarification, etc.) to improve speaking fluency and listening abilities, (2) discover unspecified facts and inferred meaning as they develop their own opinions about topics and situations, (3) speak the target language relatively fluently by identifying and using a substantial range of real world vocabulary and a variety commonly used idiomatic expressions, (4) use a variety of structures with few grammar errors, although communication breakdowns may occasionally occur, (5) recognize and practice native-like pronunciation patterns to make communication clear, and (6) develop and organize written language using a wide variety of structures to support and prepare for functional communication.</p> <p>(和訳) この授業は以下の能力の修得を目指す。(1) 直接的、間接的なコミュニケーション戦略(質問、反復、説明)を使って流暢に会話し、(2) 話題や状況に対する自分の意見を持ち、明記されていない事柄や隠された意味を推測でき、(3) 広範囲な口語表現や慣用句を理解し使うことができ、(4) 文法的な間違いが多少あっても、誤解を招くような大きな間違いなしに多様な文章構造で表現でき、(5) ネイティブの発音パターンを聞き取り、同じように発音でき、(6) 複雑な構文を使って実践的な文を書き文章を編集できる。</p>	
		Integrated English II A	<p>(英文) Classes will be conducted in English, twice a week by the same instructor to the same students. Students are always expected to use English in class. Although both sections are aimed at developing integrated skills, one is mainly focused on reading skills, while the other is focused on listening and speaking skills using authentic language from movies.</p> <p>In the reading section, students will develop the skills necessary to use professional journals, books, websites, and other media in order to conduct academic research after advancing to their major area.</p> <p>In the section using movies, students will develop oral communication skills. They will also be introduced to various foreign cultures through these movies in order to promote intercultural understanding.</p> <p>(和訳) 授業は全て英語で行い、週に2回同じ教員が担当する。総合的な英語力を伸ばすために、リーディングとリスニング&スピーキングに重点を置いた授業をする。リーディングの授業では専門課程での研究に備えて、学術雑誌、専門誌、書籍、ウェブサイトやその他の媒体の読み方を学ぶ。リスニングとスピーキングの授業では映画を使って「生の英語」に触れ英語を話す力を伸ばすと同時に、映画が発信する様々な異文化への理解を深める。</p>	
		Integrated English II B	<p>(英文) Students will be able to: (1) use a full range of explicit and implicit communication strategies (questioning, repetition, clarification, etc.) to improve speaking fluency and listening abilities, (2) discover unspecified facts and inferred meaning as they develop their own opinions about topics and situations, (3) speak the target language relatively fluently by identifying and using a substantial range of real world vocabulary and a variety commonly used idiomatic expressions, (4) use a variety of structures with few grammar errors, although communication breakdowns may occasionally occur, (5) recognize and practice native-like pronunciation patterns to make communication clear, and (6) develop and organize written language using a wide variety of structures to support and prepare for functional communication.</p> <p>(和訳) この授業は次のことを目的とする。(1) 直接的、間接的なコミュニケーション戦略(質問、反復、説明)を使って流暢に会話できる。(2) 明記されていない事柄や隠された意味が推測でき、話題や状況に応じた自分の意見を展開できる。(3) 広範囲な口語表現や慣用句を理解し、使うことができる。(4) コミュニケーションがうまくいかない場合が時折あっても、多様な文章構造を使い文法的な間違いをほとんど犯さずに表現できる。(5) ネイティブの発音パターンを聞き取り、同じように発音できる。(6) 様々な構文を使って実践的な文を書き、編集できる。</p>	
Advanced English I (Intensive Reading)	<p>(英文) This is an intermediate to advanced integrated course with the primary focus on reading in English. In this course, students will learn reading skills by reading newspaper articles.</p> <p>(和訳) リーディングを重視した中・上級向けの総合英語コースで、新聞の記事や論説を読むことで読解力をつける。</p>			

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤 教育 科目	リ テ ラ シー 科 目	Advanced English I (Pleasure Reading)	(英文) This course aims at developing reading skills by reading English extensively and enjoyably. The course consists of two sections: One is the classroom activities — using a textbook, the students learn how to read fast and get the ideas of the contents quickly. The other is the reading lab activities — The EPUU reading laboratory has some 5,000 English graded readers; The students are to check out those books, and read a large number of books assigned to each student according to his/her reading ability. (和訳) このコースは楽しみながら多くの本を読むことで読解力の向上を目指す。授業の中では英文をさっと読んで内容を把握する練習を行う。さらに受講生はEPUUリーディングラボに蔵書された5000冊のgraded readers(英語学習者の語彙レベルに合わせた本)の中から自分の英語力に合わせた本を大量に借りて読むことになる。
		Advanced English I (Academic Writing)	(英文) Students employ a process writing approach using a number of writing formats to gain the skills needed to progress towards writing academic papers. (和訳) フォーマットを使ったプロセス・ライティングアプローチを学び、研究論文を書ける英語力をつける。
		Advanced English I (Essay Writing)	(英文) Students practice using a process approach to essay writing in English. (和訳) プロセス・ライティングアプローチを練習し、小論文を書ける英語力をつける。
		Advanced English I (Public Speaking)	(英文) Students focus on speaking and organizational skills for use in front of an audience. (和訳) 聴衆の前に話すスキルや、その内容を構成するスキルに焦点をあてる。
		Advanced English I (Presentation)	(英文) Students focus on organizational and speaking skills to give clear and effective presentations. (和訳) プレゼンテーションを効果的にするための構成や話し方のスキルに焦点をあてる。
		Advanced English I (Discussion&Debate)	(英文) Students focus on speaking and organizational skills for discussions and debates. (和訳) ディスカッションやディベートで話すスキルや、その内容を構成するスキルに焦点をあてる。
		Advanced English I (Speech Clinic)	(英文) Students focus on improving English pronunciation and listening skills. (和訳) 英語の発音とリスニングの上達に焦点を置く。
		Advanced English I (Vocabulary Building)	(英文) Students increase their ability to use the most common vocabulary for reading and speaking English. (和訳) 英語を「読む」「話す」際に使用頻度の高い語彙を使う能力を高める。
		Advanced English I (Communicative Grammar)	(英文) This is an advanced integrated course with the primary focus on English grammar. More specifically, students learn how to identify, analyze, and use phrasal verbs and other multi-word verbs in English. (和訳) 文法に焦点をあてた総合英語のアドバンスコース。具体的な目標としては、句動詞や多語動詞をマスターする。
		Advanced English I (Media English)	(英文) Students use authentic English materials from various media to practice reading, writing, speaking, and listening. (和訳) 新聞、テレビ、WEBなど様々な媒体で入手した正しい英語で書かれた資料を使って、その英語を読み、書き、話し、聴き取れるよう練習する。
		Advanced English I (Cinema English)	(英文) In this course, using a movie as a learning material, students will improve their oral communication abilities, and deepen intercultural understanding. (和訳) 映画視聴によって受講生の会話力をUPさせ、異文化理解を深める。
		Advanced English I (TOEIC)	(英文) Students practice higher level listening and reading strategies for success when taking TOEIC. (和訳) リスニングとリーディングを強化してTOEICテスト高得点を目指す。
		Advanced English I (TOEFL)	(英文) Students practice strategies for success on the TOEFL iBT Speaking Section. (和訳) TOEFL iBTのスピーキングセクション強化対策。
		Advanced English I (EAP)	(英文) Students study the discipline of Community in English (和訳) コミュニティ学を英語で学ぶ。
		Honors English A	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力を身につけて、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English B	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力を身につけて、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
Honors English C	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力を身につけて、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。		
Honors English D	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力を身につけて、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教育 科目	リ テ ラ シ ー 科 目	Honors English E	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力をつかって、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English F	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力をつかって、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English G	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力をつかって、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English H	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力をつかって、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors Camp A	(英文) Students will do individual and group research before the camp. At the camp they will work in groups, presenting and sharing their information and opinions. After the camp they will turn in academic papers based on their research and conclusions. (和訳) キャンプ前に受講生は個別にそしてグループで研究を行う。キャンプではグループの中でお互いの情報や意見を共有する。キャンプ後に結果を論文にまとめて提出する。
		Honors Camp B	(英文) Students will do individual and group research before the camp. At the camp they will work in groups, presenting and sharing their information and opinions. After the camp they will turn in academic papers based on their research and conclusions. (和訳) キャンプ前に受講生は個別にそしてグループで研究を行う。キャンプではグループの中でお互いの情報や意見を共有する。キャンプ後に結果を論文にまとめて提出する。
		Honors Camp C	(英文) Students will do individual and group research before the camp. At the camp they will work in groups, presenting and sharing their information and opinions. After the camp they will turn in academic papers based on their research and conclusions. (和訳) キャンプ前に受講生は個別にそしてグループで研究を行う。キャンプではグループの中でお互いの情報や意見を共有する。キャンプ後に結果を論文にまとめて提出する。
		Honors Camp D	(英文) Students will do individual and group research before the camp. At the camp they will work in groups, presenting and sharing their information and opinions. After the camp they will turn in academic papers based on their research and conclusions. (和訳) キャンプ前に受講生は個別にそしてグループで研究を行う。キャンプではグループの中でお互いの情報や意見を共有する。キャンプ後に結果を論文にまとめて提出する。
		Overseas Study A	英語圏の大学や英語学校等における学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当と思われる単位数を授与します。各個人で手続きをして学修してきた場合と、EPUU 主催の短期語学研修の場合の、両方を対象としています。
		Overseas Study B	英語圏の大学や英語学校等における学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当と思われる単位数を授与します。各個人で手続きをして学修してきた場合と、EPUU 主催の短期語学研修の場合の、両方を対象としています。
		Overseas Study C	英語圏の大学や英語学校等における学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当と思われる単位数を授与します。各個人で手続きをして学修してきた場合と、EPUU 主催の短期語学研修の場合の、両方を対象としています。
		Overseas Study D	英語圏の大学や英語学校等における学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当と思われる単位数を授与します。各個人で手続きをして学修してきた場合と、EPUU 主催の短期語学研修の場合の、両方を対象としています。
		スポーツと健康	(バレーボール) (212 吉野 聡) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。バレーボールを楽しむ上で、個人的な基礎技能の修得は必須です。そのため、授業の前半はアンダーハンドパス・オーバーハンドパス・サーブ及びサブプレシブ・スパイク・ブロック等に関する基礎的個人技能の修得を中心に進めます。こうした個人技能の修得を前提に、後半では受講者数に応じたチーム編成を行い、リーグ戦によるチーム戦術の修得を中心に進めます。また、バレーボールを行う上での戦術・ルール・基本的な体力トレーニング法等についても、講義・演習形式で、授業の中に適宜取り入れて行く予定です。
		スポーツと健康	(フライングディスク) (191 花園 賢一郎) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。屋外ではフライングディスクに関連するゲームを行いません。ディスクを操作する（投げる・受ける）技能を身につけ、コンビネーションプレーや戦術（作戦）を考え、ゲームではパフォーマンスを向上させ、楽しんで行なうことができるようになることをめざします。屋内（雨天時）では、体力トレーニング、ストレッチ等で体調維持に努め、また、種々のフライングディスク競技の説明、ルールや戦術の解説を行いません。
		スポーツと健康	(サッカー) (179 石川 栄壽) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。サッカーの経験者であるとか、サッカーをしたことがないとかは関係ありません。ゲームを中心にレベルに応じた授業をします。

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
リテラシー科目	スポーツと健康	(サッカー) (177 村上 修) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。サッカーの経験者の有無は関係ありません。時間があればサッカーの試合をたくさん観て下さい。		
	スポーツと健康	(ソフトボール) (218 名古屋 光彦) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。競技の特徴や基本的技術を学んだ後に試合を実施します。また、楽しく円滑に試合を進めるためにスローピッチの特別ルールを取り入れ試合を行います。		
	スポーツと健康	(ソフトボール) (245 小倉 圭) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。競技の特徴やルール、基本的技術を学び、段階的な練習により技能の修得を図ります。さらに、課題練習やゲームを通して、他者と積極的にコミュニケーションをとり、仲間と協同して課題解決に取り組む能力養成を目指します。		
	スポーツと健康	(テニス) (244 石井 幹人) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。初心者は、簡易ゲームを発展していく展開を通して基礎技術を修得し、ダブルスゲームを行えるようになります。経験者は、毎授業の前半は初心者指導法を学習し、後半は技能向上のためのゲーム練習に取り組みます。また、ルール、審判法や体力トレーニングなどは講義・演習形式で適宜取り入れま		
	情報処理基礎	大学生に共通して必要な情報リテラシーとして、オフィス系ソフトウェアとウェブブラウザ、電子メールの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、ハードウェアの基本的な使い方、総合メディア基盤センターPC・学内LANの環境の理解といった内容を講義と実習を併用した形式で教授します。情報化社会で必要不可欠とされる情報リテラシー（情報機器の操作法、情報および情報手段を自主的に選択し活用していくための基礎的な能力）を修得することを目標とします。 AL80：毎回、総合メディア基盤センターのパーソナルコンピュータ（PC）を実際に操作し、課題を提出させる。授業中に操作方法や課題内容について教員やティーチングアシスタントに質問・意見交換する。		
とちぎ終章学総論	2025年から日本は超高齢社会となり、65歳以上の高齢者が国の総人口の30%を超えると予想されている。今後ますます様々な環境において高齢者と共に生きる社会になる。そこで、高齢者に関する課題を自らの問題として捉え、高齢者と共に生きるため、また、自分自身も豊かな終章を生きるための知識について学ぶ。 「とちぎ終章学」という言葉には、人生の最後の時期を困難や苦しさの中で過ごしていくのではなく、どのように豊かに、幸せに暮らしていくのかという問いと、栃木県の地域課題である高齢化をポジティブに捉え直していくという願いが込められている。	講義 5時間 演習 10時間		
基盤教育科目 人文科学系科目	哲学領域	西洋思想	「西洋」「近代」思想が現代社会に与えてきた影響は、宗教、政治、経済、科学技術等々の多方面において無視できない多大なものがある。本講義では、「西洋とは何か」「思想とは何か」という大前提を問い、次に、古代ギリシャから現代思想にいたるまでを概観した上で「近代」に着目し、「科学」と「自由」をキーワードに、「西洋思想」の本質およびその問題点を深める。先人たちの思想と我々のそれとの比較および影響について考えながら、現代社会が抱える具体的諸問題（環境問題、先端医療技術にまつわる倫理問題）にも言及する。	
		現代思想	「現代思想」という名のもとに包括される現代の様々な思想を概観する。概観を通じて「現代思想」の特性を検討し、どのような点で近代の思想などと異なるのかを考える。こうした作業を通じて、私たちが生きる現代の思考様式がいかなるものであるのかを学ぶ。	
		東洋思想	過去の日本人がどのようなことを考え、想ってきたかを考察する。本授業は狭義には日本思想史、つまり歴史的な「日本の思想」だが、基本的に日本人たちが参照してきたものは、儒教や仏教といった「東洋」のテキストであったため、「東洋思想」と直結する。 東日本大震災は、私たちに多くの問いを投げかけた。それらに少しでも応えられるように、私たちとその社会を培ってきた思想的背景を、できるだけ広く学び、そこから確かに繋がっている「今」の自分の「思想」を見直したいと思う。	
	哲学領域	論理学	この講義では「どのようにして論理的思考をおこなうか」を学ぶと共に、論理的に思考する能力を向上させる練習を行います。論理的思考は、与えられた情報の相互関係の正しさを評価しながら、情報を分析・総合する過程に存します。この過程が具体的にどのようにおこなわれるか、また、この過程をどのように自分自身が実行すればよいのかを学ぶのに最も適した題材として「自然演繹」と呼ばれる形式体系の推論規則について学びます。	
		西洋の倫理思想	自己の生を、どうすれば肯定することができるだろうか。本講義では、「生」の問題に関する倫理学的な背景を踏まえながら、人間一般ではなく、個人（単独者、超人）の生＝「一つの生」について考えたスピノザ、ニーチェ、ドゥルーズなどの議論を概観することで、西洋の倫理思想における最も重要で根本的な問題である「生」について考える。特に〈善/悪〉と〈よい/わるい〉との違い、精神と身体の並行論、遠近法主義、自由意志批判（無意志主義）について検討します。	
		科学思想史	科学の歴史的発展には、科学方法論、すなわち「科学研究はどのような手続きによって進められるべきか」という問題に関する反省的思考の発展が伴ってきた。科学的方法論の歴史的展開を通して科学的思考を反省的に分析する視座について講義する。	
		東アジアの宗教と文化	東アジアの社会において、宗教はどのような役割を担ってきたのであろうか。本講義では、特に中国に焦点を当て、その宗教、文化に関する基本的な知識を紹介する。授業の中では、中国南部や台湾、香港でのフィールドワークの成果に基づく具体的な文化事例を示し、多角的な視点から中国における伝統社会と宗教との関係を示したい。	
		仏教における人間形成論	仏教は基本的に人生を苦と捉える宗教であり、世俗的な成功や幸福の価値を否定する。そのような思想に強く影響された社会で、人間がいかに自己を形成し、自分の生き方に納得していくかを、仏陀自身およびインド・中国・日本の高僧や信者の事例をもとに考える。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目 人文科学系科目	心理学領域	認知心理学入門	私たちの行動の背景には、自覚することが難しいにもかかわらず大きな影響力を持つさまざまな心理的要因が関与しています。この授業では、認知心理学の研究成果を紹介しながら、このような心理的要因のいくつかについて考えます。	
		行動心理学入門	行動心理学における種々の領域について講義を行い、行動心理学という領域の大枠や、研究例を紹介しします。	
		実験心理学入門	本講義では、心理学の基礎領域における実証科学的な実験法の解説を行います。さらに、各実験計画について具体例を挙げながら説明し、心理学の研究がどのように行われるかを概観していきます。	
		発達と学習の心理学	現代社会では子どもへの教育が重視され、その中で、子どもの心を理解することが不可欠となっています。それと同時に、大人自身の心を客観的に捉えることができることも重要となっています。本授業では、人間が成長する過程における発達と学習に関する知見を提供し、自らが学び、考え、成長する態度を養えるよう基礎的知識を概説します。	
		パーソナリティ心理学概論	本授業では、心理学がパーソナリティ（日本では、「性格」「人格」と表現されることが多いが、アカデミックには「パーソナリティ」という用語が定着している）をどのように捉えているのかについていくつかの代表的立場の考え方について学び、パーソナリティの形成に関わる生物学的・心理社会的要因にはどのようなものがあるか、パーソナリティをどのように測るのか、パーソナリティは変わるのか、といったテーマに関して、これまでに蓄積されている知見に触れる。	
		障害者心理学	障害全般の特徴を理解し、彼らが抱える心理的問題を学習する。	
		子どもの言語とコミュニケーション入門	ここでは、子どもとの教育的係わり合いを念頭において、子どもの言語とコミュニケーションに関わる種々の問題について検討する。	
		心理学と人権	人権問題発生の原因となる心理的要因である偏見と差別の問題について講義する。	
	言語習得論	本授業では、母語や外国語がどのように習得されるのか、そのプロセスとメカニズムについて主に言語心理学／心理言語学的観点から概説します。		
	文学領域	日本文学（古典）	上田秋成が著した怪異小説集『雨月物語』（1776年刊、全9篇）を、現代語訳を併用しながら原文で読み解きます。作者の秋成が語りの技術を駆使した作品ですので、細部の表現や構成に十分注意をしながら考察していきます。	
		日本近代文学講読	夏目漱石の論説を読み、作家に関する知識を深めるとともに、考察力を養成する。夏目漱石の関西での講演を主たる教材とし、その近代日本への懐疑の言葉を通して、漱石の思想を読み解く。漱石の短編小説も扱う予定。	
		中国文学	この授業では、新時期文学の河北省の作家・鉄凝(1957～)の3篇の代表的中篇小説を觀賞します。文革後期に河北省で作家活動を始めた鉄凝は、華北大地の自然とそこに暮らす人びとの生活を、時に荒々しいほどに力強く、時に心打ち震えるような細やかな筆致で描いています。中国現代史における中国の農民たちの悲喜交々の想いが、また中国と日本との抜き差しならない深刻な関わりが、そして市場経済下の人びとの欲望と不安の渦巻く世界が、読者の心に忘れがたい版画や映画の一シーンのように深く刻まれることでしょう。	
		韓国文学	韓国文学とは一体何なのか、韓国文化・韓国人の精神世界はどのようにして形成されたのか。「純愛」「子供」「恨」「動物」「愚者」「道」「悪女」「帰郷」「知識人」「戦争」「越境」といったテーマを通して韓国文学のルーツをたどりませう。	
		フランス文学	文学のみならず多岐に渡り学びます。	
		比較文学	比較文学の歴史や研究方法、各国の文学動向を概観しつつ、西欧文学と深くかわりながら発展してきた日本の近代文学が、韓国や中国、台湾といった東アジア地域の近代文学の形成過程に大きな影響を及ぼした事実を明らかにします。と同時に、韓国近代文学の成立過程に深い影響を与えた日本近代文学の知られざる側面を浮き彫りにします。	
		ロシア文学	近くて遠いロシアの文学を通して、この国の人びとの暮らしや文化に理解を深めることを目指す。明治以来、われわれ日本人がこよなく愛してきたロシア文学の代表的な作品（トルストイ、ストエーフスキイ、チェーホフ、プリーシヴィンその他）を題材に、時代背景、芸術思潮をふまえながらロシア文学史を学ぶ。歴史に、民俗文化と（ソヴェート文化）なるものを重ね合わせて、この民族にとって二十世紀とは何だったのかを考える。	
		英文学入門	短編小説の作品を読みながら、作品の構成、表現の特質、修辞法、作者の特質、時代背景について調べます。同時に、英文学の特質について、講義も行います。	
		米文学入門	米文学への入門として、20世紀を中心に主要な小説について概説する。	
		芸術領域	ヨーロッパ地域文化論	ヨーロッパの文化・芸術を形成する様々な側面について広く学ぶ。とりわけ、旧来のハイ・アートには含まれないロウ・アートに注目する。教員が研究の対象としているイギリスが軸となる。
現代美学			近代以降とくに、美学は他の学問領域の成果を取り入れつつ、美的経験について考察を重ねてきた。美学の現代的な動向を踏まえつつ、ますます多様になってきた“芸術”のあり方について検討する。	
芸術学	芸術作品を理解するために、これまでいくつかの方法論が誕生してきた。この授業では、こうした方法論を用いて、芸術作品を多角的に分析していく。また、時代とともに、芸術という概念がどのように変遷してきたのかを振り返り、現代における芸術のあり方について検討していく。			
芸術と自然	芸術の創作活動の中で、自然がいかに取り扱われてきたのか、あるいは自然の中いかに芸術が取り込まれてきたのかについて、庭園と絵画を中心に学ぶ。		隔年	
音楽通論	芸術の評価や鑑賞のための基本を身につけるために、音楽の仕組みに関する基本的事項を学ぶ。			
声楽の魅力	世界には様々な「声」による芸術があります。本科目では、その中から特に西洋クラシック音楽の発声を用いた声楽に焦点を当てて、その魅力に迫ります。特徴のある作品や楽曲の鑑賞を通して、それぞれの音楽表現の違いに触れながら、その魅力がどのような要素から成立しているのかについて考えます。			

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
芸術領域	器楽合奏概論	様々な合奏の形態と楽器の知識について理解する。	
	管打合奏演習	吹奏楽器（管楽器・打楽器群）構造とその奏法を理解し管打合奏の基本を修得する。また、演奏を通じて社会に対してどのように貢献していくか探求する。	
	日本文化A	中世以来、現代まで受け継がれている能は世界遺産にもなっている日本の代表的な伝統芸能である。能を通して、日本の伝統的な音声と身体所作の特性について学ぶ。	
	日本文化B	中世以来、現代まで受け継がれている能は世界遺産にもなっている日本の代表的な伝統芸能である。能を通して、日本の伝統的な音声と身体所作の特性について学ぶ。	
	美術表現基礎	教育学部で開設している「デッサン」や「立体構成」といった授業の入門編として、美術における対象物の「見方・捉え方」を修得し、その「見方・捉え方」をもとに、自分の考えを作品として具現化する美術表現について理解を深める事を目指します。前半を平面表現（絵画）、後半に立体表現（工芸）に焦点をあてて、演習課題を取り入れながら学修していきます。 (オムニバス方式/全15回) (87 松島さくら子・146 株田昌彦/1回) (共同) ガイダンス (146 株田昌彦/7回) 課題1 描く上での「見方」とは、デッサンについて、デッサンと絵画、課題① 簡単なスケッチ（風景）、スケッチの仕上げ・講評、課題② 簡単なデッサン（自然物）、デッサンの仕上げ・講評 (87 松島さくら子/7回) 課題③「陶による立体造形」（テーマあり）説明と立体素材の表現と加工について、テーマに沿ったアイデアスケッチ、陶土の扱いと加工方法、陶土による成形、素焼き・絵付けと施釉、本焼き、仕上げ	オムニバス方式 共同 講義 10時間 演習 20時間
	近現代美術論	広範なジャンルの作品を取り上げ、近代および現代の美術について考察する。批評的言説、美術史、芸術学、美術理論、さらには作家論、作品論なども交え、今日のアートを読み解く。 (オムニバス方式/全15回) (57 梶原良成・135 本田悟郎/1回) (共同) ガイダンス(授業計画、授業方法等の説明) (57 梶原良成/7回) 美術における近現代/芸術と技術の統一 バウハウスとグロピウス、ミース・ファン・デル・ローエ/装飾から機能・合理主義へ ル・コルビュジエ/先導的な実験場オランダ デ・ステイル/社会創造のための美術へ ロシア・アヴァンギャルド/フランク・ロイド・ライトとアメリカ・ミッドセンチュリー/ポストモダニズム以降と現在・未来 (135 本田悟郎/7回) 近現代美術概観/表現主義・キュビズム・抽象/ダダとシュルレアリスム/アヴァンギャルドとモダニズムの理論/抽象表現主義・ミニマルアート・アースワーク/大衆文化と芸術（ポップアート）/現代美術の諸概念（社会的テーマ、物語性、身体性、他者性）	オムニバス方式 共同
	多言語コミュニケーション学A	世界を見渡せば日常的でありふれたことだとさえ言える多言語を用いた意思疎通を、授業の中で実践してみます。多言語状況では、発音や文法の正確さよりも意思疎通の実現が目指されます。そこでは不完全な言語運用能力も工夫ひとつで非常に役に立つのであり、そうしたことを教室活動とおして実体験していただきます。	
	多言語コミュニケーション学B	世界を見渡せば日常的でありふれたことだとさえ言える多言語を用いた意思疎通を、授業の中で実践してみます。多言語状況では、発音や文法の正確さよりも意思疎通の実現が目指されます。そこでは不完全な言語運用能力も工夫ひとつで非常に役に立つのであり、そうしたことを教室活動とおして実体験していただきます。	
	日本語の表記	私たちは日常的に日本語で読み書きを行っていますが、書かれたテキストを通してコミュニケーションができるのは、日本語表記についてのルールを共有しているからです。この授業では、私たちがすでに身につけている日本語表記のルールがどのようなものなのかをあらためて考えます。また、ルールが形成された歴史的な背景も学ぶことになります。	
	論理表現の技術	大学での学びに必要な、論理的文章の書き方の基礎を修得する。具体的には、①短文で書く練習、②情報を取り出し言語化する練習、③情報を整理して表す練習、④根拠を伴った「論証文」を書く練習、の4段階に分けて行う。	
人文総合領域	Japanese Communication Arts	(英文) In this course, we will explore various aspects of Japanese Communication Arts. This course will introduce different communication styles, which are crucial for successfully functioning in Japanese society. Japanese has a set of discourse styles, or registers that can seem complex to newcomers. We will look at the styles of speech used in personal versus public situations, by men and by women, by old people and young people, in a way that will help clarify the differences and offer you a window into Japanese culture. In addition to presenting the different styles, the class will help you situate them in terms of Japanese history, society, culture and education. (和訳) 日本語のコミュニケーションの様々な側面を探索するコースです。日本社会で円滑に生活するため、多様なコミュニケーションスタイルを学修します。日本語の初心者にとっては難解な文体や使用域の違いを、場面（公的な場面か私的な場面か）や話者（男性か女性、年配者か若者か）という視点で解説し、日本文化理解の扉を開きます。授業ではコミュニケーションスタイルの違いを歴史的、社会的、文化的、教育的背景と関連つけて考えます。	
	ことばから見た人間	「ことば」に対する言語学的（科学的）な接近法の初歩を学び、その視点から人間の有様や営みの諸相について考察する。	共同
	社会言語学概論－日本語の変遷	全学生対象の、社会言語学の基礎を学ぶ授業です。社会言語学とは何かを学び、日本語が変わっていく面白さについて考えていきます。	
	成人教育と参加型学習	成人学習者の特徴および教育方法について理解を深め、他者と関わりながら生涯にわたって主体的に学ぶ意欲を喚起する。さらに、学部を問わず他の授業にも役立つ参加型学習の手法（アイデアを考える、プレゼンテーション等）も学ぶ。	
	教育の裏側に光を当てる	教育にまつわる極めて実際のトピックであるにも関わらず、学校教育では真正面から扱われることの少ない事柄をあえて俎上に載せ、徹底的な討論をさせることで、受講生が受けてきた教育をより広い視点から捉えさせ、固定観念を乗り越えてあらたな社会を切り拓く力を身につけさせることを志向するアクティブ・ラーニング科目である。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文科学系科目 人文総合領域	生活美学	わたしたちの美学を藝術に限定することはない。授業では、日常的な文化を個々の感性的な観点、あるいは実践的な視点から美（醜を含む）を観照する「日常（所作）の実践哲学」をお伝えし、共有していきたい。日常の何気ないモノやコト、そしてヒトとの交わりのうちに美を見出し、これらを自らの言葉で客体化し共有して行く、いわば「和文化コミュニケーション」である。	
	ものと文化と社会	文化について考える際に「もの」は非常に重要であるといえる。それはその文化を所有する集団のアイデンティティを端的に示すと同時に、その集団以外の者がそれをどのように読み解くかによって文化、さらにはその集団に対する認識が示されているといえる。本授業では「もの」を通じて文化や社会がそこにとどのように示されているのかについて考察していく。またこれに関連して国内外の博物館についての紹介を行い、その展示を題材に議論していく。	
	映像分析の実践	本授業は、写真、映画、テレビ、インターネットなどを通じて触れることが多い映像が、どのような背景のもと制作されているのか、そこにはどのような「意図」や「時代性」があるのかを、実際に映像を分析する作業を通じて学んでいきます。事例としては、前半は20世紀初頭のアメリカで撮影された映像（写真・映画のワンシーン等）、後半は近年の日本の新聞や雑誌等に掲載された写真を扱います。この授業では、知識を得ることよりも、「議論する」「書く」「発表する」など、自分が考えたことを言語化して発信する力を備えることを重視します。	
	世界のなかの日本文化	日本の映画、アニメ、マンガ、コスプレなどが、イベントや動画サイトなどを通じて世界中に発信され、文化産業の新たな可能性を作りつつあります。本授業は、世界のなかで、「日本」「日本人」「日本文化」が、どのように受容されているのか、あるいは発信されているのかを、「精読」「分析」「議論」などの活動を通じて考えていきます。これらの活動を通じて、思考力、コミュニケーション力、そしてメディア・リテラシーを備えることを目指します。	
	ボディ・ランゲージ	スポーツ科学や健康科学を通して、多様なものの見方を培うのに必要な幅広い基礎的知識を身につけることを目的とします。	
基盤教育科目	日本国憲法	憲法とは、国民の人権を保障するために、国家権力を制限し拘束する規範である。講義では、人権論を中心に検討していく。また、可能な限り最高裁判例等の事例を紹介する。	
	法学入門	この授業では、賛否や意見の分かれる時事問題を主な素材として、「法的に考える」とはどうか、なぜ「法的に考える」ことが必要かを体験してもらうことを主な内容とする。	
	国際化と人権	人権とはhuman rightsという言葉の翻訳です。「人間が人間らしく生きていくために社会によって認められている権利」とでもいえますか。日本では、第2次世界大戦後日本国憲法によってようやく認知された考え方です。しかし、現実の場面でその具体的な内容や解釈を明らかにするのはそう簡単ではありません。まして、人やモノや情報が国境をこえて行き交う「国際化」の時代では、人権も国際的レベルで考えていく必要があります。世界人権宣言や日本も締結している国連の人権諸条約（国際人権規約など）は、まさにそうした客観的普遍的な基準です。本授業では、日本における人権問題をこうした国際的基準に照らして検討します。	
	知的財産権概論	政府が発表した知的財産推進計画2013で謳われたように、大学における知的財産教育が重視されつつある。本講義では、国際知的所有権機関（WIPO）において標準が定められている知的財産権制度、および特許法、商標法、著作権法などの関連する制度や法律を解説しながら、知的財産権の基礎を教授する。	講義 20時間 演習 10時間
	国際政治史	近代ヨーロッパに生まれた国際政治のしくみは、大きな変容を繰り返しながら、二〇世紀には地球全体を包み込んでいくことになる。この授業は、（1）国際政治史を考えるための導入、（2）近現代国際政治の歴史的变化の概観、（3）二〇世紀後半の歴史という三部構成で展開される。特に、（3）に重点をおく。	
社会科学系科目 政治学領域	戦争と平和をめぐる諸問題	戦争と平和をめぐる多様な問題を扱っている教科書を参照しながら、現代世界が抱える国際的問題の歴史的背景と現状を学修する。	
	現代政治の理論と実際	現代政治はまさに生きものであり、刻々と変化する。この授業では、紙媒体の新聞報道やインターネット情報をもとに、とくに新聞報道を素材にして、その時々タイムリーな課題に注目しつつ、日本および世界における政治のダイナミズムを論じる。現在進行形で生じている政治・政策課題や社会的課題について取り上げこれを前半の授業では中心に進める。	
	グローバル・ガバナンス論入門	21世紀に入り、南北問題をはじめ、新興国の台頭など、世界のグローバル化はより一層複雑さを増してきている。IT技術の進展とともに世界中の情報ネットワークは途上国においても進歩している反面、経済活動における格差や貿易不均衡、環境問題などは益々深刻になっている。本授業は、グローバル・ガバナンスの入門編として、世界での様々な具体的な例を挙げながら、世界の急速なグローバル化を背景に、グローバル・ガバナンスとは何か、どのような問題が起きているのかを、討論を交えて考えていく。	
	政治の世界	近年のグローバル化の波は否応なく国家における主権概念の転換を促し、市民の資格をめぐる排除・包摂の問題が提起されている。こうした問題意識から、政治における価値や規範の多様性・流動性を主題としたクリティカルな政治学を講義していきたい。とりわけ後半では、「国家」と「国民」の乖離をめぐる問題として、外国人参政権問題、移民や無国籍者に対する市民権政策について世界各国の事例に関する比較研究を重要課題として提起するとともに、「国民主権」や「国益」といった概念がいかに「政治的」に変容するのかを議論していきたい。	
	現代日本政治論	本講義では、2009年政権交代後の現代に至るまでの日本政治の構造と特質と歴史を学んでいく。1 回完結式で日本政治の重要な論点を取り上げて批判的に論じていく。日本政治の展開をアジアや欧米との比較、国際政治の関係において把握し、政治における理想と現実の関係、内政と外交の不可分性に焦点を当てる。政治学を学ぶ上で、日本の政治はいかに「開かれた」ものであったか、また日本政治は戦前と戦後とでいかなる連続性をもっているのか、といったところが履修者に聞きたいテーマとなる。	
経済学領域	経済学 I	テキストを用いて、経済学の基本的なカテゴリーを学ぶ。	
	経済分析入門	経済学が蓄積してきた分析手法の詳細、経済理論の具体的内容については、専門教育科目で取り上げることとし、この授業では経済を分析するということの射程とその内容についての概要を解説する。	
	資本市場の役割と証券投資	直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か。金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク&リターン考え方、株式資・債券投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目 社会科学系科目	経済学領域	応用経済学入門	経済学の基礎を解説しながら、それが世の中に活かされている事例や、これから活かされることが期待されている分野などを紹介する。	
		数理経済学入門	数学を利用したモデルによって、経済学の考え方を理解する。	
		ゲーム理論入門	経済学、生物学などをはじめ、応用範囲の広いゲーム理論の基礎的知識を学ぶ。	
		農業経営入門	どのような農業経営を行っている人がいるか実例を紹介し、学生が今後農業に関わろうとする際に直面する問題について考え、基本的な素養を身につける。	
	社会学領域	社会学入門	普段無意識のうちにしてしまう常識的な見方を、普段あまり考えないような、そしてあまりにも短すぎて見逃しているようなさまざまなトピックを通して問い直し、社会的な考え方の意義を考える。	
		現代日本の社会	現代日本の社会問題を社会学の視点から論じます。今年度は「家族」「女性」「外国人労働者」をテーマとします。	
		マスコミ入門	授業は前半と後半で二部構成になっています。前半は、主にマスコミ産業とその歴史について概説します。後半は、マス・コミュニケーション研究の代表的業績を紹介し、基礎概念について学んでもらいます。	
		オセアニア民族誌	文化人類学の立場からの地域研究を講義します。本講義では太平洋の島嶼域（ポリネシア・メラネシア・ミクロネシア）の諸社会の比較を行いながら、ミクロネシアのサンゴ環礁社会の文化と都市化、文化変容を紹介しします。	
		文化人類学入門	文化人類学は、自分が属する文化以外の文化を学ぶことによって、人間と文化の多様性を研究する学問です。この授業では、文化人類学の基礎を学ぶことで、異文化との接触が日常的なグローバルな時代を生きるために必要な、基本的態度を身につけます。	
		環境と国際社会	本講義は、戦後から今日にいたるまでの国際的な環境問題の変遷に着目し、国際環境政治の歴史的展開を全体的に通観する。	
		多文化共生論入門	多文化共生という用語で表現される対象を具体的に理解するために、国際比較や理論的検討を通じて、多文化社会の現実と理念を考察するものである。日本だけでなく北米や欧州の動向にも目を向けて、多角的な分析を可能にしたい。	
	地理学領域	人文地理学入門Ⅰ	宇都宮市・栃木県内からいくつかの事例地域を取り上げ、地図や景観写真の判読を通して土地と人間生活との関わり方を検討しながら、人文地理学的な関心や視点を理解させることを目的とする。	
		人文地理学入門Ⅱ	人文地理学の諸分野のうち、とくに文化地理学分野の研究例を紹介しながら、人文地理学の視点と特徴を解説するとともに、生活文化の多様性という面から日本の地理的特性を考察していく。	
		農村空間論	国土のわずかに3、4%にすぎない既成市街地に人口の67%が居住する日本では、第一次産業の担い手不足による農村空間の荒廃が進んでいます。高度な都市化・兼業化の結果、農村住民も社会的属性や生活行動の面で都市住民との区別がなくなり、日本の伝統的な生業や生活文化の継承は高齢者がなんとか支えているという状況です。 このようななかで、農村空間は国土保全という公益的機能を果たしつつ、都市住民の安全な食・観光・保養・二地域居住などの新たなニーズに応える場所としても注目されています。 本授業では、村落立地、農村景観の特性、農村空間の商品化、むらおこしなどについて学び、農村空間の多面的機能を深く理解します。	
	歴史学領域	歴史学入門	歴史学入門といっても、歴史学の抽象的理論を紹介するわけではない。具体的に歴史、つまりヨーロッパの歴史を古代から現代まで概観する。	
		歴史と民族	世界の歴史を「民族」をキーワードに検討します。	
		歴史と文化	前近代の日本史を、文化事象や美術作品に注目しながら概説する。	
		地域の歴史	栃木県（下野国）の歴史と地域特性について、栃木県に現存する資料を通して具体的に考えていきます。主に、現代生活の基盤を形成した江戸時代、時代の主役に躍り出た庶民（百姓・町人）の暮らしや諸活動に焦点をあて、政治・経済・社会・文化など、さまざまな角度から地域史を学びます。適宜、明治時代以降の歴史や県外の事例についても触れていきます。	
	社会総合領域	中東の社会と文化	中東諸国に関する様々なトピックスを入口に、歴史・政治・経済・文化の基本的な知識を修得する。その上で、中東地域を理解するための基本的な視角を得る。	
		社会開発入門	日本、そして世界の多くの国では、経済成長を優先した開発がすすめられてきましたが、環境、そして人々の健康や生活に負の影響をおよぼしてきたことが明らかになっています。 この反省から、経済開発とは異なる概念として1990年代から「社会開発」の重要性が認識されるようになりました。本授業では、「社会開発」の概念を理解するとともに、世界の状況を学びながら、日本における自らの生活や環境を振り返り、見直すことを目的としたアクティブ・ラーニング科目です。	
		遊びの理論とゲーム開発	前半では、遊びとは何か、人はなぜ遊ぶのか、人が「楽しい」と感じるのはなぜなのかを考察してきた理論を学び、後半では、そうした理論に基づいて、既存の（あまり面白くない）ボードゲームをより面白くするためのゲームバランスの調整を行うというかたちで、ゲーム開発の実習を行う。	
		遊び輪と遊び指導	授業では、①子どもの遊びの教育的意義、②歴史的背景、③現状、④論点について講義を行うとともに、遊び指導に関して学び、実践を行う。	
		住まいづくり・まちづくり入門	わたしたちの日常生活を支える住まいとまち環境をどのようにすれば持続可能なものにできるのか、環境共生、超高齢社会、少子化などの観点から体験的に学ぶことにより、それらをより良くしていくための知識と能動的態度を養います。このため、ESD（持続可能な開発のための教育）の観点も取り入れます。この授業は講義、グループワーク、フィールドワークなど、多角的な取り組みを展開します。	講義 10時間 演習 20時間
		オイコス入門	現代社会に資する基本的な学問を取り上げ検討するとともに、学際的な視野から今後の学問について考えます。	
		障害者問題入門	障害者に関する社会問題に関わる内容を扱い、障害者問題や障害児の教育について学ぶ。	隔年

授 業 科 目 の 概 要					
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
基礎 教育 科目	社会科学系 科目	社会科学 総合 領域	数や図形の絵本づくり	本授業では、数学絵本を作成することを最終的な課題として、課題探究のプロセスを経験していく。また、長期にわたる活動を評価する手法の1つとして、ポートフォリオの作成を試みる。	講義 10時間 演習 20時間
			栃木県の歴史と文化	栃木県の歴史と文化の豊かさを認識するとともに、足尾銅毒事件と渡良瀬遊水地の歴史と現在を学ぶ。	講義 10時間 演習 20時間
			社会福祉入門	地域でその人らしい生活を送るというノーマライゼーションの考え方が社会に浸透してきているが、実際には、まだまださまざまなバリアが存在している。この授業では、社会の中のさまざまなバリアとその解消の方策について実践的に考える。	
			災害復興入門	災害から復興するとはどういうことなのか。すでに起こってしまった自然災害の被害を少なくすることはできないが、その後の復興支援のあり方により被害は重くもなれば軽くもなる。おもに東日本大震災を題材として、災害復興のあり方について多角的に検討する。	
			グローバル化と外国人児童生徒教育	授業では、①外国人児童生徒教育の意義、②背景、③現状、④論点について講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (122 丸山剛史・111 鎌田美千子・96 威 傑・39 田巻松雄・202 若林秀樹・115 小原一馬/2回) (共同) 各担当者の授業内容の概要説明、パネルディスカッション：まとめ・質疑応答・討議 (122 丸山剛史/4回) 栃木県における外国人児童生徒教育、外国人児童生徒教育の教育実践一事例研究1、外国人児童生徒教育の教育実践一事例研究2、雇用・就労・進路指導問題 (39 田巻松雄/2回) 本授業開講の背景：重点からHANDSへ、外国につながる子どもたちとは？ (111 鎌田美千子/2回) 年少者日本語教育1：子どもの言語発達と日本語指導、年少者日本語教育2：教科学習に必要な言語能力 (202 若林秀樹/2回) 外国人児童生徒教育現場の実際と抱える問題、これから支援に関わる者がすべきこと (115 小原一馬/1回) 外国人教育における教師のジレンマと葛藤 (96 威 傑/2回) 多文化教育の理論：概説、多文化教育への主なアプローチ	オムニバス方式 共同
			国際協力入門	本授業では、国際協力の定義を説明し、国際協力の背景を考えるため第2次世界大戦後の世界の貧困・開発問題の流れを振り返り、世界の貧困問題を解決するため国際協力の役割、具体的には日本の政府（外務省）による政府開発援助（ODA）を考察し、国際協力の基礎について学びます。	
			伝統染織と感性	各地域で継承されてきた伝統的な染織の技とそれに伴って育まれてきた文化的価値（感性）について述べる。授業ではとくに「染色」を中心に取り扱い、伝統色を通してこれからの社会のあり方やライフスタイルについて考える。	
			著作権法入門	知的財産法の中の著作権法を中心に、権利の保護のあり方、著作物の利用の仕方を知り、文化の発展に寄与することを目的とする著作権法の果たす役割を考えます。	
			教科書に見る歴史と社会	明治期から現在までの小学校教科書の歴史について概観するとともに、小学校社会科（社会系教科目）教科書を事例として、その内容と時期的特色について考える。	
			人と自然の共生を考える	人間は自然からの恵みを受容して社会を発達させてきましたが、自然との共生に関してはいまだに様々な問題を抱えています。その中で、伝統的な知識によって、自然と共生する里山では、過疎化、高齢化により、雑草の繁茂や野生鳥獣被害が顕在しています。 この講義では、雑草や野生鳥獣に起因した問題を抱えつつも、地域住民が積極的に解決に取り組んでいる里山（那須烏山市大木須）を実際に訪問し、課題の抽出から解決策の提案・試行までを実践します。	集中
			希望の地域社会論	少子高齢化、家族など人間関係の疎遠、社会的孤立、ストレスや雇用不安、さらには自然災害など、希望をもちにくいように見える閉塞化した地域社会をどのようにとらえれば希望が生まれ得るのか、人々が希望をもつにはどのようなアプローチが必要か、地域社会におけるまちづくりの現場に即して受講生と共に考える。 (オムニバス方式/全15回) (19 三橋伸夫/6回) 地域社会の現在/協働の地域社会/中山間地域社会/学校教育と地域社会/グラウンドワークと地域社会/まとめ ※平成29年度以降は、130 安森亮雄が（地域社会の現在/協働の地域社会/中山間地域社会/3回）を、142 佐藤栄治が（学校教育と地域社会/グラウンドワークと地域社会/まとめ/3回）を担当する。 (92 大森宣暁/3回) 都市計画と地域社会/震災復興と地域社会①/住民参加と地域社会 (130 安森亮雄/2回) 建築デザインと地域社会①/建築デザインと地域社会② (142 佐藤栄治/2回) 震災復興と地域社会②/超高齢化の地域社会 (165 長田哲平/2回) 交通計画と地域社会/コンパクトシティと地域社会	オムニバス方式
			中国事情	①本授業では世界で益々その影響力を拡大しながら、存在力を増している中国社会全般について歴史、政治、経済、地理環境、民族、文化などの側面から理解を深めてもらう。②著しい経済発展の裏に隠されている課題について、問題意識を持って考察する。③周辺国、特に日本との交流、関係の現状を踏まえながらその課題について分析し、共に議論する場を持つ。相手国を知ることとは、お互いの間に生ずる諸々のリスクを和らげ豊かな相互理解を増進するためのもっとも有効な手段である。	
			グローバル韓国学	本授業では①グローバルな視点から今日の韓国・朝鮮の国と社会、人々の意識を知る上でヒントとなりそうな諸事象を紹介し、多様な切り口から理解を深め、②近年目まぐるしく変化する周辺環境の中で、表出された韓国社会の動態と政治的葛藤、抱える課題についても原文資料に基づいて考察し、③これらに基づいて、日韓関係及び朝鮮半島全般の情勢、朝鮮半島をめぐる国際環境について理解を深める。	
			科学・技術・教育・社会を考える	本授業では、科学と技術をめぐるさまざまな社会的諸問題を取り上げ、教育と社会との関係を問いながら、それらがどのような形をとって現れているのかを、メカニズムも含めて明らかにし、問題克服の手がかりを考えることを目的としている。	
セクソロジー入門	セクソロジーとは、人間の性に関する科学的な理解と性をめぐる人間関係の学習であり、具体的には、1) 人間の性に関する理論のミニマム・エッセンスを講義する。2) 性に関する健康と人権の現実を紹介する。3) タイムリーな性的問題を取り上げて問題提起する。	講義 10時間 演習 20時間			

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目 自然科学系科目	数学領域	現代数学入門	現代数学入門として統計学を講ずる。	
		電気電子数学入門	電気電子工学科の学生にとって必須である数学科目の学習は、1年次前期の線形代数及演習Ⅰ、微積分学及演習Ⅰから始まります。これらと同時進行する本講義では、上記数学科目を履修する上で土台となる数学の知識を学びます。	講義 10時間 演習 20時間
		Mathematicaによる微積分入門	数式処理ソフトウェア Mathematica は数理的思考の道具である。数式処理や数値計算およびグラフィックス機能を利用して、微積分の問題を解くことを通して理解を深める。	
		Mathematicaによるデータ解析入門	数式処理ソフトウェア Mathematica は数理的思考の道具である。数式処理、数値計算、グラフィックス機能を利用してデータ処理と統計解析の初歩を学び数理的思考を深める。	
		振動の科学	大多数の学生向けに、振動や波とは何か、オイラーの公式・等式を眺めてみて、どのような数字から成り立っているかなどについて理解を深めていけるように解説します。振動と波は密接に関係しているだけでなく、楽器の仕組みも空気振動を使っていますし、建物には免震構造が採用されています。また、携帯電話などの無線や光通信でも電波や光として伝わってきます。振動や波の現象の科学に触れて自分の頭で考えるための基礎を築いて、振動の科学に興味をもっていくことができるようにと願っています。	
	物理学領域	教養物理	自然界で生じる様々な現象を理解するためには物理的に理解することが重要である。この講義では身近に生じる現象の解説を含め、教養として必要な物理を広く浅く解説する。 (オムニバス方式/全15回) (106 柏倉隆之/全5回) ガイダンスと単位系の基礎、力学の基礎、材料の強度、力の釣り合いと構造物の形式、1 - 4週のみまとめ・小テスト (109 中野達也/全5回) 流れの基本的な概念、熱の基本的な概念、熱と流れの身近な現象解析Ⅰ、熱と流れの身近な現象解析Ⅱ、6 - 9週のみまとめ・小テスト (27 杉山 均/全5回) 電気と磁気の基本的性質、場の考え方・クーロンの法則、電気と磁気の関係、電磁誘導と電磁波・ローレンツ力、11 - 14週のみまとめ・小テスト	オムニバス方式
		物理学入門	物理学の基礎であるニュートン力学について講義する。	
		理工学最前線	現代社会で用いられている科学技術のうち、物理学を用いているものについて、その基礎的な物理現象を理解する。	
		Mathematica入門	数式処理ソフトウェア Mathematica は数理的思考の道具である。数式処理、数値計算、グラフィックス機能を利用して演習問題を解くことを通して理解を深める。	
		放射線科学入門	大多数の学生向けに、放射線とは何かなど、身近にある放射線について理解を深めていけるように解説します。本来、放射線のはたらきは物理学であることから、数式が多く出てくるかと思われていますが、本講義では、なんとなくこう思っている、という感覚や思い込みを、少しでも正しく理解できるようになることを目指しています。医療分野などで使われている放射線などについても知って、世の中にある多くの情報を呑みこみせず、その背景にも触れて、放射線の科学に興味をもっていくことができるようにと願っています。	
		エレクトロニクス科学史	エレクトロニクスは、現代社会を支える重要な基盤であり、将来にわたって人々が豊かな社会生活を営むために不可欠なものである。本講義では、エレクトロニクスの歴史を概観することにより、如何にして新しい技術が誕生したか、また、その意義について解説する。	
	バイオメティクス入門	生物が持つ高度な機能や製造過程を模倣して、技術開発に活かす学問領域バイオメティクス(生物模倣技術)に関して体系づけて解説する。基本的な生物の組織構造から地球環境全体から見た「技術体系」、そしてこの学問領域の研究・市場動向、生物が進化によって得てきた効率的な動きや構造がいかに技術開発に用いられているのかを学ぶ。		
	化学領域	地球環境と化学	今騒がれている「地球環境の問題」を化学的な視野から捉え、最新のデータ、サンプルを明示しながら、また視聴覚教材を使いながら、わかりやすく解説します。調査発表を通して、学生側から発信してもらい、全員参加型の授業にしたいと考えています。	
		環境と生物化学	環境と生物のかかわりを、特に生物化学的な視点から取り上げる。地球規模での物質循環には、さまざまな生物、生命反応がかかわっている。また、地球の環境は、生物、特に微生物によって整えられてきた。一方、現在の環境の大きな問題として、環境汚染がある。地球環境の歴史および現状、そして、環境汚染の要因および環境汚染修復技術について、主に微生物学、生物化学、生物工学の観点から概説する。	
		不思議な化学	現代社会には、化学に関連した事柄が多く登場する。この授業では、化学の不思議な面を実際に行う実験で確かめ、考えながらその内容を理解する。	
		水素とエネルギー	エネルギー・環境問題について、その歴史的経緯を学ぶことで、それらが表裏一体の関係にあり、人類が引き起こしている大きな地球規模の問題であることを歴史的に追跡する。近年、水素がクリーンなエネルギーとして家庭用燃料電池や自動車燃料への利用が注目されているが、水素はどのように作られるのかを知ることで、エネルギー・環境問題を同時に解決できるものであるのかどうかを考える。	
		リメディアル化学	高校化学の内容に自信が持てない学生を対象に、基礎・基本の理解の徹底と、大学の化学へのスムーズな移行をめざす。	
		物質・材料の機器分析入門	大学の研究室や分析の現場に常備されているような汎用型の分析機器を多数取り上げ、各機器に対して原理、機能、特徴などを横断的に概括する。	
		ノーベル化学賞周辺の化学	ノーベル化学賞に関連した化学における重要な知見や分析手法を講義で説明し、また、2つの主要な化学機器分析法を実習を通して説明する。	
		生物学領域	人間生活と植物	私たちの生活となじみが深い植物たちのルーツを探り、世界の自然と文化的側面に思いをはせ、植物の持つ特性やそれらを利用発展させる農業、造園、庭園技術などを、暮らしに潤いや彩を与える「くだもの」と「花、庭園、野菜」などをテーマに紹介し、さらに食糧資源としての食べ物の生物学と世界的な需給関係、食料を脅かす放射線対策などを取り上げます。
食料生産の生物学	本講義では、私たちの食料の来し方、行く末について考えながら生物学を学びます。			

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目	生物学領域	21世紀を支える熱帯植物	授業では、特に麻葉や香辛料作物、そして綿や熱帯雨林などの植物資源が世界の歴史と経済に及ぼした影響に着目し、現在の世界と社会が成立する上で重要な役割を担った熱帯植物とその歴史について学修することで、植物資源に関して幅広い知識を得る。そして、その知識を通して現代社会のあり方について改めて見つめ直し、21世紀における日本/世界のあるべき姿を、学生各自が自身の知識に基づいて考えることを目指す。	
		野外における鳥獣識別テクニックの基礎	日本では、人間と野生動物との軋轢が激化する一方で、絶滅に瀕した種が存在するなど、自然に関連する事象が社会問題として注目されつつあります。こうした問題の本質を理解するためには、日本の自然に何が起きているのかを認識できる技術が必要です。本講義では、自然の変化を捉えるために欠かせない野生動物識別技術についての基礎を解説します。	
		基礎生物学	高等学校までで学習する生物学の内容を、大学での基礎科目として解説・説明する。	
		ウイルスの世界と生物の世界	本講義では、風邪の原因であり健康を害する最も身近な存在であるウイルスについて、そもそもウイルスとは何なのか、生物との関わりは病気だけなのか、ワクチンとは何なのかといった疑問について幅広く概説します。	
	情報科学領域	美味しさを科学するーミシュランガイド宇都宮をつくらうー	我々人類は生きるために常に食べています。自らエネルギー源を作り出す植物の真似は誰にもできません。この授業では、「ミシュランガイド宇都宮」を作るために、食に対する知識を増やしながら、自らの味覚を研ぎ澄まし、さらにそれを表現する技術を学ぶことを目指します。	講義 10時間 演習 20時間
		C言語・プログラミング入門	パソコン、ゲーム機、携帯電話等、ソフトウェア無しでは機能しない機械が身の回りにいっぱいあります。本授業では、ソフトウェアの作成に欠かせないプログラム言語の一つ、C言語について、多くの課題をこなすことにより、その基礎知識・基本文法を学びます。C言語をある程度マスターすれば、他の言語はほとんどがC言語の影響を強く受けているので、他言語の修得にも役立ちます。	
		プログラミング応用	コンピュータの使い方を覚えても、コンピュータについて学んだことにはならない。この科目では、プログラミングの側面からコンピュータへの理解を深め、能動的に使う姿勢を養う。そのために、まずプログラミングの初歩を学んだうえで、実社会の中での我々とコンピュータとの係わりについて学んでいく。	
		グラフィックス入門	コンピュータグラフィックス (CG) に関する講義と、CGモデリングソフトMetasequoiaによる3次元世界の記述の作成実習、プログラミング環境ProcessingによるCGプログラミング実習からなります。中間と期末の2回に分けて制作した作品の発表会を行います。	
		インターネットのしくみ	インターネットの基本的な「しくみ」を修得し、世界の情報通信について実例を通じて理解を深めます。	
		We bのしくみ	World Wide Web (ワールドワイドウェブ) の基本的な「しくみ」を修得し、世界の情報通信について実例を通じて理解を深めます。	
		身のまわりのICT	身のまわりにあり私たちの生活や社会を支えているICTについて、幅広い事例学習を通じ、その基本的なしくみを修得するとともに、ICT関連企業が求める人材像や栃木県内のICT企業の活動、方向性などを学びます。	
		ワイヤレス通信のしくみ	携帯電話に代表されるワイヤレス通信システムの基本をやさしく紹介します。簡単な通信システムを作ってみましょう。	
地球科学系科目	医用画像工学入門	患者の体内を痛みなしに可視化できる医用画像は、現代の医療において欠くことのできないものになっています。本講義では、X線CT、MRI、超音波診断、PETなどについて撮像原理を学び、その特徴、応用などについて学びます。理解を深める実際に計算機を使用したシミュレーションを実施します。		
	地球環境と生物事件史	地球環境と生物事件史の講義では、長い地質時代における顕著な生物の絶滅事件や爆発的進化などの大きなイベントに焦点を当てて、地球環境と生命の歴史を解説します。		
	身近な気象学	本来、気象学は物理学の一分野であることから、数式がたくさん出てきて小難しいイメージがある。本授業ではこのような堅苦しさを取り払い、天気図、天気予報や身近な天気変化、大きな社会問題である地球温暖化などに焦点をあてて、「実生活に役に立つ」気象学を解説することに努める。全学が対象の科目であり、文系の学生にとってもわかりやすい説明を心がける。		
健康科学領域	肥満の科学	スポーツ科学や健康科学を通して、多様なものの見方を培うのに必要な幅広い基礎的知識を身につけることを目的とする。		
	健康管理学概論	健康に関する知識・情報を提供する。生涯にわたる健康管理に役立ててもらえるような内容になっている。		
	バレーボールの科学	本講では、実際に収録した国際ゲーム等を用いて各国の戦術的特徴を分析するとともに、各人の実践に寄与する基本的なバレーボールの個人技術とチーム戦術について概説する。		
自然総合領域	人間の感覚を測る	この授業では「人間の感覚」をテーマに実際に受講生たち自らが考えた実験を行い、この実験から得られたデータに対して、統計的手法を用いて分析を行います。その結果を考察し、発表してもらいます。この授業はグループワークによる実験の計画立案、実施、分析、考察を行いこれらの一連の作業を通して、受講生間のコミュニケーション能力、自主性の育成、統計学の実践的応用例の体験を目的としたアクティブラーニング科目です。	講義 10時間 演習 20時間	
	生物の多様性とは何か	環境破壊の中でも、回復が最も難しいのが生物多様性の破壊です。野生で生活する個体が失われると、その個体群を回復させるのは非常に困難で、絶滅すれば、その種は二度と戻りません。人間は生態系がもたらす様々なサービスに完全に依存していて、そのサービスの相当部分を生物多様性がもたらしています。本講義では、「生物多様性を失うと、こうしたサービスも失われるのか」という問いかけに応じた様々な研究事例と、それらから得られた知見を平易に紹介します。		
	雑草と人の暮らし	水田や芝生に生育している代表的な雑草を覚えるとともに、その生態学的な特性と人の暮らしとの関係を理解する。また、除草剤や植物成長調整剤などの防除資材の特性を理解する。本授業では、普段、注目されることが少ない反面、人々の日常生活と密接に関連している雑草を例に挙げて、物事を多様な観点から科学する能力を養うことを到達目標に、教室だけでなく時には野外に出て、雑草の人の暮らしとの関係について講義をする。		
	雑草観察入門	私たちの身の回りには様々な種類の雑草が暮らしに寄り添っており、その観察は最も手軽に自然や多様性を感じられる手段の一つです。この手軽さから、雑草は生態や進化を研究する材料として古くから利用され、多くの知見が蓄積されてきました。本講義では、大学キャンパスに分布する雑草を観察材料として使い、植物の生態と進化、そしてそれらに及ぼす人の役割について学びます。	講義 10時間 演習 20時間	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
自然科学系科目	自然総合領域	雑草と里山のフィールド演習Ⅰ	生態系保全の体験を通して、保全のための社会活動に対する実際的な理解度を深める。また、さまざまな考え方を有する人々とのコミュニケーション能力を養うとともに、問題解決のための工夫や発想力を養う。オリエンテーションにおいて、演習を実施する場所や施設について説明の後、野外演習を行う。各演習において、コーディネーターや地元の方々からの指導を受け、緑地保全に関する課題を整理するとともに課題解決の方法を考え、レポートにまとめて提出する。	集中
	雑草と里山のフィールド演習Ⅱ	生態系保全の体験を通して、保全のための社会活動に対する実際的な理解度を深める。また、さまざまな考え方を有する人々とのコミュニケーション能力を養うとともに、問題解決のための工夫や発想力を養う。オリエンテーションにおいて、演習を実施する場所や施設について説明の後、野外演習を行う。各演習において、コーディネーターや地元の方々からの指導を受け、緑地保全に関する課題を整理するとともに課題解決の方法を考え、レポートにまとめて提出する。	集中・共同	
基盤教育科目	初習外国語系科目	ドイツ語基礎Ⅰ	ドイツ語初修者向けの授業です。ドイツ語の「読み」「書き」「聴く」「話す」基本的能力を養成します。	
		ドイツ語基礎Ⅱ	大学生活におけるドイツ人留学生やドイツ人講師との交流場面を通してドイツ語を学んでいく。話す・聞くのひととおりのコミュニケーションが成り立つ程度の基本的な語彙や文型を学ぶ。	
		ドイツ語基礎Ⅲ	1年生対象科目としての「ドイツ語基礎Ⅲ」です。大学入学前にドイツ語を学習したことがない初習者を対象にドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」基礎的能力を養うことが目的です。ドイツ語圏諸国の学生生活や人々の日常生活がわかりやすい教材を使用します。後期開講の「ドイツ語基礎Ⅳ」とともに履修してください。	
		ドイツ語基礎Ⅳ	「ドイツ語基礎Ⅳ」は「ドイツ語基礎Ⅲ」(前期)の継続的科目であり、教科書および授業方法は「ドイツ語Ⅲ」と同様です。また、「ドイツ語Ⅱ」も履修をお薦めします。週に4時間1年間ドイツ語を学修することによりドイツ語の基礎的能力が確実に身に付きます。	
		ドイツ語応用Ⅰ	ドイツ語の基礎的能力の向上、ドイツ語の実践的表現力を養います。	
		ドイツ語応用Ⅱ	「ドイツ語応用Ⅰ」に続き、ドイツ語の実践的トレーニングを行い、ドイツ語の総合的能力の向上を目指します。	
		フランス語基礎Ⅰ	フランス語をはじめて学ぶ学生を対象とし、初歩的なことばの規則や基本的な語句・表現の用法を解説します。また、聴覚教材を用いて聞き取りや発音の練習を繰り返すと同時に、筆記の練習問題により知識の定着を図ります。	
		フランス語基礎Ⅱ	前期開講の「フランス語基礎Ⅰ」に引き続き、フランス語に初めて接する者を対象として、フランス語の会話と読み書きのために最低限これだけは必要である、という要素を中心に、1年間でフランス語文法の基礎を徹底的に学修します。	
		フランス語基礎Ⅲ	フランス語を初めて学ぶ人を対象に、基本的なフランス語の会話表現を学びます。またそのために必要なフランス語文法の学習を並行して進めます。	
		フランス語基礎Ⅳ	フランス語を初めて学ぶ人を対象に、基本的なフランス語の会話表現を学びます。またそのために必要なフランス語文法の学習を並行して進めます。	
		フランス語応用Ⅰ	この授業は、フランス語の基礎知識を持つ者を対象とします。講義は原則としてフランス語で行います。教科書や映画などの会話シーンをともに、日常的な場面におけるフランス語の基本的な表現を学びます。会話のまね、聞き取り、自己紹介など、履修者の積極的な参加を求める授業です。	
		フランス語応用Ⅱ	フランス語応用Ⅰの修了者を対象とする授業です。前期にひきつづき、講義は原則としてフランス語で行います。教科書や映画などの会話のシーンをともに、日常的な場面におけるフランス語の基本的な表現を学びます。会話のまね、聞き取り、自己紹介など、履修者の積極的な参加を求める授業です。	
		スペイン語基礎Ⅰ	動詞の使い方など、基本的な文法事項の説明が中心になりますが、毎回の授業内容と関連した会話文も読み解きます。さらには、テキストにある練習問題を解きながら、文法に関する理解を深めます。	
		スペイン語基礎Ⅱ	動詞の使い方など、基本的な文法事項の説明が中心になりますが、毎回の授業内容と関連した会話文も読み解きます。さらには、テキストにある練習問題を解きながら、文法に関する理解を深めます。	
		スペイン語基礎Ⅲ	テキストの各レッスンには7～8行程度の短い会話文があります。まず主な会話表現について、それぞれの意味と使い方を確認します。必要に応じて文法的な解説を行ったのち、会話文に関する応用問題、動詞活用の練習問題などを解いていきます。反復練習が必要な場合には、プリントを使って補足練習したり、受講生どうしが向き合って会話練習したりします。	
		スペイン語基礎Ⅳ	テキストの各レッスンには7～8行程度の短い会話文があります。まず主な会話表現について、それぞれの意味と使い方を確認します。必要に応じて文法的な解説を行ったのち、会話文に関する応用問題、動詞活用の練習問題などを解いていきます。発音練習・反復練習が必要な場合には、受講生同士が向き合って会話練習を行います。	
		スペイン語応用Ⅰ	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を読み、日常的な会話できるように練習します。	
		スペイン語応用Ⅱ	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を読み、日常的な会話ができるように練習します。	
		中国語基礎Ⅰ	初心者を対象に中国語の発音からスタートし、やさしい挨拶と日常会話、また、初歩的な文法事項などを教えます。	
		中国語基礎Ⅱ	「中国語基礎Ⅰ」を終えた方を対象に、中国語の基礎文法を本格的に学びます。文法事項を理解した上で応用を通してしっかりと身につけてもらいます。文の排列順序、実用的な慣用・会話表現などを学習する傍ら、中国の文化と歴史に関する基礎的な知識を折りにふれて話します。	
中国語基礎Ⅲ	本授業は、はじめて中国語を学習する学生が正確な発音や基本文型の使い方を修得することを目的とした入門の講義です。現代中国語のやさしくかつ基本的な重要文法事項について解説を加えるのはもちろん、とくに基礎的会話能力醸成を重視します。このため、日本人の中国語学習者がかつとも苦手とする発音の訓練、及び日常的に使用する頻度の高い語彙の修得を授業の中心に据えることとなります。			

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
初習外国語系科目	中国語基礎Ⅳ	本授業は、中国語基礎Ⅰ及びⅢを履修した学生が正確な発音や基本文型の使い方を修得することを目的とした入門の講義です。現代中国語のやさしくかつ基本的な重要文法事項について解説を加えるのももちろん、とくに基礎的会話能力醸成を重視します。このため、日本人の中国語学習者がもっとも苦手とする発音の訓練、及び日常的に使用する頻度の高い語彙の修得を授業の中心に据えることになります。	
	中国語応用Ⅰ	中国語基礎Ⅰ～Ⅳを履修し、中国語の発音、初級文法を一通り習得した学習者を対象に、初歩文法を復習しながら、中級中国語への橋渡しをする授業です。	
	中国語応用Ⅱ	中国語応用Ⅰを履修した学習者を対象に、中級中国語への橋渡しをする授業です。	
	タイ語基礎Ⅰ	タイ語を初めて学ぶ学生を対象にタイ語の基礎知識を学びます。具体的には、子音、母音、タイ語の特徴の声調、単語の構成と発音規則を修得するとともに、簡単な挨拶や自己紹介の表現を学びます。また、タイの生活、文化、伝統、経済、歴史を紹介しします。	
	タイ語基礎Ⅱ	タイ語基礎Ⅰを学習した学生を対象に、日常的によく使われる単語、表現や基礎的文法を用い、簡単な会話や作文を学びます。また、授業では、タイの生活、文化、伝統、経済、歴史を紹介しします。	
	タイ語基礎Ⅲ	初めてタイ語を学ぶ受講者を対象に、タイ語の文字、単語の構成要素である子音、母音、声調規則を学び、読み書きでき、また正確に発音できるように訓練します。また、初歩の基本文法を学習することにより、簡単な文章の読解力を養います。	
	タイ語基礎Ⅳ	「タイ語基礎Ⅰ」「タイ語基礎Ⅲ」を受講した学生を対象に、引き続きタイ語の表現や基本文法を学びます。タイ語の正確な発音を訓練するとともに、初級程度の文章の読解力と作文力を養成します。	
	タイ語応用Ⅰ	タイ語入門を学んだ者を対象に、タイ語の類別詞、形容詞、動詞連続、助動詞、依頼、比較などのさまざまな中級程度の文法を学びます。	
	タイ語応用Ⅱ	タイ語のアスペクト、助動詞、モダリティ、とさまざまな接続詞などの中級程度の文法を学びます。	
	朝鮮語基礎Ⅰ	朝鮮語の基礎を学びます。朝鮮語は世界の言語の中で日本語にもっとも近い言語です。語順が日本語と同じであり、助詞や漢字語も共通しています。ですから日本人にとってもっとも覚えやすい外国語なのです。授業では、そのような朝鮮語の文字・発音・文法を学ぶと同時に、その背景にある韓国の社会や文化などを紹介しします。	
	朝鮮語基礎Ⅱ	朝鮮語の基礎的な文法を学びます。後期が終了する頃には短い文章ぐらいは聞けて、書けるようになります。簡単な文章を読んだり書いたりすることによって朝鮮語に慣れ、自信をつけます。言葉を学ぶと同時に韓国の文化や習慣にも触れ、楽しく学びます。	
	朝鮮語基礎Ⅲ	朝鮮語は日本語に最も近い言語です。朝鮮語には日本語と同じく助詞や漢字語、尊敬語などがあるほか日本語と語順が一致しています。それゆえ、朝鮮語は日本人（日本語は韓国人）にとって最も学習しやすい言語の一つと言われていますが、本授業を通してその事実を確かめます。まず、文字（基礎文字24＋合成文字16＝40文字）と、その発音をしっかりと学びます。1学期終了後には意味は分からなくても地下鉄のハングル表記やK-POP歌手のハングルの名前がすらすらと読めます。	
	朝鮮語基礎Ⅳ	前期の『朝鮮語基礎Ⅲ』に引き続き、文字と発音に重点を置きながら基礎文法をマスターします。文法が分かってくると基礎的な朝鮮語の文章の構造が理解でき、自己紹介や簡単な会話ができるようになります。12月頃には韓国の留学生や韓流スターに韓国語でクリスマスカードや年賀状、e-mailを書くことができます。	
	朝鮮語応用Ⅰ	朝鮮語を学び始めて2年目の学習者用に中級の文法を学びます。さまざまな文法を学ぶことによって朝鮮語に慣れ、自信をつけます。言葉を学ぶと同時に韓国の文化や習慣にも触れ、楽しく学びます。	
	朝鮮語応用Ⅱ	朝鮮語を学び始めて2年目の学習者を対象に、中級の文法を学びます。さまざまな文章を読んだり、書いたり、会話をしたりすることによって朝鮮語に慣れ、自信を深めるようにします。言葉だけでなく、その背景にある韓国の社会や文化についても触れ、楽しく学びます。	
	基盤教育科目	野外調査論	社会科学、自然科学を問わず、どんな分野でも、町や自然の中に出かけ、自らの手足でデータを集める必要に迫られるかもしれません。この授業ではその手法と考え方を、野外調査の実践を通じて学びます。
里山のサステナビリティを考える		栃木県南東部の茂木町を専門的な観点で調査研究します。茂木の里山を自然環境と農村社会の2つの面から調査し、価値を理解し、こうした環境を持続させるために何ができるのかを考え最後に提案してもらいます。	集中・共同 講義 10時間 演習 20時間
人と自然をつなぐ・人と人をつなぐA		『人と自然をつなぐ、人と人をつなぐ』人になるための基礎知識と技能を、実践を通じて学びます。 ・自然体験プログラムを通して環境教育の大切さを学びます。 ・体験を通して、今ここで起こったことをふりかえり、次にどう進めていくか、その「人が学ぶ」過程を体験学習法の考え方で進めます。 ・自然体験プログラムを体験するだけではなく、自らプログラムを実施することで「プログラムの指導演法」を学びます。 ・環境教育の教材のひとつである「プロジェクト・ワイルド」の指導者（エドューケーター）の養成をします（資格取得）。	集中・共同
人と自然をつなぐ・人と人をつなぐB		『人と自然をつなぐ、人と人をつなぐ』人になるための基礎知識と技能を、実践を通じて学びます。小学校での総合的な学習の時間での実施例やアメリカでのProject Learning Tree(PLT、森林環境教育)やProject WET(WET、水環境教育)の事例や指導演法を修得し、子ども達の自然体験活動の指導者としての、また、市民の環境活動等の指導者としての、環境意識啓発の手法と技術を学びます。PLTのファシリテーター資格、WETのエドューケーター資格、自然体験活動指導者NEALリーダーの資格が取得できます。	集中 講義 10時間 演習 20時間
実践・宇都宮のまちづくり		人口減少や超高齢化などの課題が山積する時代の変革期において、宇都宮市がどのような政策を立案し、実行しているのか、市の担当職員が実体験を交えながら講義することで、データや情報と実社会での行政活動との融合を理解するアクティブ・ラーニング科目です。最終回には、宇都宮市長がまちづくり全般について授業を行う予定です。 ※※特に宇都宮市職員（公務員）を指す方にはおすすめです※※	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤 教育 科目	総合 系科 目	一地方銀行の歴史に学ぶ“金融経済の仕組み”と“地域金融機関の役割”	明治28年（1895年）の創業以来、100年を超える歴史を有する地方銀行「足利銀行」の歴史を通じて、金融論の主要なテーマである貨幣や金融市場の仕組みとその機能を学ぶとともに、地域金融機関の役割や金融政策など今日的な話題についても考えるアクティブ・ラーニング科目です。加えて、受講者が将来、銀行取引、資産形成、起業などといった金融と関わる場面に出会った時、実際に役立てることができること（金融リテラシーの醸成）もこの授業の大きなねらいとしています。	
		危機を見つめる力	科学技術の発展により高度・複雑化した社会では、私たちの身の回りには思いもよらない種々の危険が存在している。これらの危険を察知し、その影響の程度を理解・判断し、対応する能力を身につけることを目指すアクティブ・ラーニング科目である。	
		3. 1 1 と学問の不確かさ	未曾有の災害を現代日本にもたらした東日本大震災（3.11）は学問の在り方について多くの問題を提起しています。現在の問題は何か、今後いかなる道を進むべきなのかについて多くの「専門家」が異なる見解を主張するなか、先行きの不透明感が強まっています。 この授業では、確固とした体系をもつと考えられている学問の「不確かさ」に取って目を留め、この共通テーマについて多様な分野から考察することで、3.11後の大学における学びについて考えることを目的としています。なお、本授業はアクティブ・ラーニング科目です。 (オムニバス方式/全15回) (54 大久保達弘・53 飯塚和也・89 山本美穂/1回) (共同) 森林の放射線汚染 (85 飯郷雅之/6回) イントロダクション: 「東日本大震災:地震と津波と東京電力福島第一原子力発電所の事故を振り返る」,放射線リテラシー,放射線測定の実際:「測定と施設の見学」, ゲストスピーカー講演(2回), 宇都宮大学学生の取り組み (77 長谷川万由美/1回) 災害の援助 (91 尾崎功一/1回) 工学における測定の不確かさ (143 清水奈名子/3回) 原発事故をめぐる国際関係と公害, 栃木県と原発事故:「県内の被災,放射能汚染問題について」, 福島からの避難者証言を読む (118 上原秀一/1回) 東日本大震災と教育学 (85 飯郷雅之・143 清水奈名子・118 上原秀一・91 尾崎功一・53 飯塚和也・54 大久保達弘・89 山本美穂・77 長谷川万由美/2回) (共同) 水俣病患者を招聘したシンポジウム, 最終発表会	オムニバス方式 共同
		食と生命のフィールド実践演習	附属農場における実習と関連する事前事後学習を通じて、我々の生活を支える食・環境・生命について体験的に学ぶことを目的としたアクティブ・ラーニング科目である。	共同
		男女共同参画社会を生きる	男女共同参画社会の歴史、社会的背景、現状についての概説を行った上で、多様性、ジェンダー、セクシュアリティ、性別役割分業、多様化する家族、DV等のテーマの理解を、聴き取り調査を経験させ、それらをまとめ報告することを通じて促していく。	集中・共同 講義 20時間 演習 10時間
		ものづくり体験	本授業では「ものづくり」を通して、ものづくりのセンス、ものづくりの精神、問題発見と解決能力、そして最も大切な、新しいものを創り出す創造性を身に付けることを目的とし、特に専門知識を必要としない「ものづくり」の製作体験をする。受講生は設定されたテーマに取組み、グループで自主的に「問題発見」「設計」「製作」「評価」をし、成果の「発表」を行うことを目的としたアクティブ・ラーニング科目である。	共同
		宇大を学ぶ	自らが学ぶ大学について関心を持ち理解を深めることは、大学生活をより豊かなものにしていくことにつながるという理念のもと、宇都宮大学の歴史や現状について高等教育制度の概要を交えながら講義するアクティブ・ラーニング科目である。	
		栃木の里山に学ぶ（春夏編）	地域住民と学生間、あるいは学生間同士の双方向型の討論を積極的に取り入れ、学生の参画により課題解決に向けた知の統合と実践を行います。 具体的には、栃木県東部に位置する那須烏山市大木須において、里山の保全と利活用を地域住民と連携して行いながら、里山が抱えている課題を学修し、地域住民とともに実践を通じて、その課題を解決する方法を考案することを目的としたアクティブ・ラーニング科目です。	集中
		栃木の里山に学ぶ（秋冬編）	地域住民と学生間、あるいは学生間同士の双方向型の討論を積極的に取り入れ、学生の参画により課題解決に向けた知の統合と実践を行います。 具体的には、栃木県東部に位置する那須烏山市大木須において、里山の保全と利活用を地域住民と連携して行いながら、里山が抱えている課題を学修し、地域住民とともに実践を通じて、その課題を解決する方法を考案することを目的としたアクティブ・ラーニング科目です。	集中
		ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会の中の私たち」	この授業は、現代社会が直面する貧困や格差、環境破壊や人権侵害、文化摩擦や地域紛争などの“グローバル”な問題をテーマとしたワークショップを実際に体験しながら、アクティブ・ラーニングや参加型学習の基本的な考え方ははじめ、その方法論であるアクティビティやファシリテーションの手法や教材について概説することを目的としたアクティブ・ラーニング科目です。	
		ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	現代社会が直面する様々な社会問題の解決に向けては、政府や自治体をはじめ、NGOやNPOなどの市民組織が「ボランティア」な活動を展開しています。この授業では「ボランティア」や「ボランティア」の意味をはじめ、国内外で展開されてきた多様な社会運動や市民活動の歴史や現状について検討します。また、「市民による海外援助」をテーマとしたワークショップを通じて、「援助すること」や「寄付すること」の意義や課題、そして、日本の市民組織が抱えてきた組織運営上の現状や問題点などについても検討していきます。	
		生きるということ	この世に生まれ、ここまで成長を遂げてきた奇跡について考えるとともに、恋愛、就職、正しい食生活等について、具体的事例をとりあげ、グループワークを行います。また、誰もが避けることができない人生の終わりについても、事例を踏まえて議論し、あえて死というものをも考えることで、今を生きることの大切さを自ら思い描きます。	
「ぶろじゅくと」をやってみる	「ぶろじゅくと」ってなんだろう。でも卒業して社会に出れば、大小の違いはあっても、周囲はプロジェクトばかりです。この授業では、受講者の主体性に基づき、チームごとにプロジェクトの企画を立て、メンバーと共働しながら、実際に実行してみます。「実行する」と簡単に言っても、企画の実現までには、様々な制約や困難があります。それをいかにして乗り越えるかを体験する授業です。そして、その体験の共有を通じて、これからの大学生活を共に学びあう仲間を得ることも目的としています。			
体験！ぶろじゅくと	卒業して社会に出れば、大小の違いはあっても、周囲はプロジェクトばかりです。この授業では、受講者の主体性に基づき、チームごとにプロジェクトの企画を立て、メンバーと共働しながら、実際に実行してみます。「実行する」と簡単に言っても、企画の実現までには、様々な制約や困難があります。それをいかにして乗り越えるかを体験する授業です。そして、その体験の共有を通じて、これからの大学生活を共に学びあう仲間を得ることも目的としています。			

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合系科目	感じる・考える・話す	自然と人間との共生をテーマに、人間社会と対峙する対象としての自然と、自然と共生して生きる人々の営みについて具体的な事例を紹介し、グループワークを通じて、全体での議論の共有を図ります。その際、授業の材料として、スタジオジブリ作品の「もののけ姫」と「風の谷のナウシカ」を鑑賞し、そこに描かれている人間対自然の関係について討論し、理解と深化を図ります。		
	アクティブにとらえる現代社会	現代社会の様々な事象と向き合い、主体的に行動し、自らあらたな社会を創造できる人材を養成するために宇都宮大学で推進している「アクティブ・ラーニング」型の授業として、4名の担当教員がそれぞれの立場から現代社会の具体的な問題を取り上げ、能動的な学修を促す手法で授業を行います。この授業では、ただ講義を聞くのではなく、「感じる・考える・書く・伝える」という段階を経て、自分と他人の価値観の共通性や差異を理解したうえで、それらを表現したり、合意形成したりするコミュニケーションの向上を目指します。		
	とちぎ終章学特講	人生の最終章を迎えても、より充実した生活を営むことのできる社会を創り上げていくためには、様々な課題を幅広い視野で捉え直し、それぞれの専門領域や生活との関わり、諸課題の関係を理解することが重要である。そこで、本学教員の専門領域からのアプローチにより高齢社会の特性を浮き彫りにし、課題解決の方策を検討していく。	講義 5時間 演習 10時間	
	とちぎ終章学演習Ⅰ	超高齢社会に関する課題を自らの問題として捉え、地域の中で各人にどのような役割があるか気づき、今後どのように活かしていくのかを学び、地域で必要とされる活動を行うための素養を身につける。授業は地域住民との対話やフィールドワークを取り入れて展開する。	共同 講義 10時間 演習 20時間	
	とちぎ終章学演習Ⅱ	高齢者と共に生きるために地域でできることを考え、コミュニティワークの手法を用い、地域の情報収集やまちづくり活動の企画を行う。授業は学外の実践者による講義と学生同士の対話を中心に展開する。	講義 10時間 演習 20時間	
基盤教育科目	キャリア教育科目	人間と社会	経済・社会の変化に伴って、働き方・働きせ方が大きく変化している。その中で生涯を通じてどのようにどんな職業と関わるのか、どう生きるのかを考え、主体的に選択していくこととなる。そのためにはまず、自分が船出していくこの社会や経済、産業、職業など働くことに関する現実を正しく理解することがとても大切である。この授業はこうした働くことに関するさまざまなテーマについて最新の情報により、その実態と課題を正しく理解するとともに、視野を広げ、自分の進路について考えるきっかけを得ることができる基礎的なキャリア教育科目である。	
		キャリアデザイン	経済・社会の大きな変化に伴い、働き方、働きせ方も大きく変化している中であって、自分らしく生き活きと生きるために生涯を通じてどのように職業とかかわるのか、どのような職業人生を生きるのか、そのために大学生活をどう送るのか、など、自らのキャリアデザインを描き、行動することが大切である。この授業は、自分の将来を考えキャリアデザインを具体的に描くための考え方、きっかけ、知識、方法等を提供する基礎的なキャリア科目である。	共同
		働くことの意味と実際	仕事の中にやりがいを感じながら自己の成長を図り、グローバルな時代の中で逞しく生きていくためには何を身につけるべきか。日本IBMの人事に所属する担当教員と共に、グローバルな企業行動の実態をリアルに捉えながら「働くこと」について考えていきます。	
		実践企業人材論	社会に出てから、いかに「自分を生きるか?」。そして、「夢と理想に向かった力強い人生を歩むか?」を共に考えていく講座です。その上で、企業で仕事をしていくこと、また、組織で働くことの意味や価値について、できる限り実践的に学修します。「自分が自分にならなくて誰が自分になるのか?」を基本テーマに「自分らしさの追求」をスタートして行って欲しい。	
		起業の実際と理論	ベンチャー企業の事例や、実際の起業家との対話を通じ、「起業」という社会活動について学修し、これからの若者に必要とされる資質や起業家精神（アントレプレナーシップ）を養う。また、実際に自らのビジネスアイデアを考え、他者にプレゼンテーションすることで、企画・提案の楽しさを体験するとともに、ビジネスに必要な基礎的なスキルを修得する。	
	キャリア創造科目	先輩に学ぶ	学長自らが代表を務める唯一の科目です。ゲストスピーカーが、皆様に対して人生の先輩として、これまでのキャリアを振り返りながらメッセージを伝えます。それぞれの先輩がこれまで歩んできた道でどのようなことに悩み、それをいかに乗り越えてきたのかについて聞くことで、これから先の人生について考えを深めることを目指します。	
		より良く生きる	数百万年の昔から人類は、食料その他生活に必要なものを、自然に対して熱心にはたらきかけることによって初めて手にしてきた。その本質は現代でも変わらない。「はたらく」ことは「生きる」ことと表裏一体なのである。したがって、就職とは就「社」によって終わる受験活動ではなく、より良く生きようとする不断の活動の始まりに他ならない。では、「より良く生きる」とはどのようなことなのか? この講義では、①「自分にとって価値ある生き方」をキーワードに「人は何のために生きているのか」を考え、②「目標達成」をキーワードに、そのためのスキル（自分の力に気づき、伸ばす）を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (100 上原伸夫/7回) はじめに「この授業について、“人は何のために生きているのか その1”」/「自分らしく生きること」と「親との関係」/「働くこと」と「より良く生きること」/「人生の逆風（障害、病気など）」と「より良く生きる」/夢と、やりたいことと、現実と①（事例紹介、パネルディスカッション）/夢と、やりたいことと、現実と②（「仕事」をとりまく理想と現実）/生きる主体である「自分」に気づく；（Part 1まとめ；中間振り返り） (109 大庭 亨/6回) 生きるエネルギーについて/夢を見つける/夢を実現する/リミッターを解除する/ツッコミを入れる/振り返り/ (175 西田治子/2回) アサーション（自分を伝える・相手を受け入れる）/心のしくみ	オムニバス方式
		企業のグローバル戦略とキャリア形成	企業のグローバル戦略、とりわけ人材マネジメントを中心に学びながら、グローバルな時代における仕事に対するリアリティを高めます。その上で、日本IBMの人事に所属する担当教員と共に、自己の成長を図りながら、逞しく生きていくためには何を身につけるべきか考えていきます。	
		グローバル時代の企業経営	グローバル化が進行する現代社会においてなくてはならない存在であり、多くが職業人としてその一員となる「企業」とはどのようなもので、どのように運営されているのかについての基礎知識を学ぶ。	集中

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤キャリア教育科目	自由科目	社会奉仕活動	事前に活動期間及び活動内容を定めて提出した申請書に基づく、社会福祉団体等での社会福祉活動について、教育上の実績を活動報告書等により評価し、自由科目として単位認定する。	
		国際協力活動	事前に活動期間及び活動内容を定めて提出した申請書に基づく、青年海外協力隊等における国際協力活動について、教育上の実績を活動報告書等により評価し自由科目として単位認定する。	
		実務体験活動	事前に活動期間及び活動内容を定めて提出した申請書に基づく、特定の授業科目に対応付けされないインターンシップ制による実務体験活動について、教育上の実績を活動報告書等により評価し自由科目として単位認定する。	
		特別体験活動	事前に活動期間及び活動内容を定めて提出した申請書に基づく、教務委員会が認めた体験活動について、教育上の実績を活動報告書等により評価し自由科目として単位認定する。	
留学生日本語科目	アカデミック・ジャパニーズ	1年次及び編入学の留学生を対象に、大学の勉学に必要な日本語能力を総合的に身につけます。大学生生活を想定した種々の日本語運用場面を取り上げるとともに、学術的な場面での話し言葉と書き言葉の違いについても学び、日本語能力の向上を図ります。		
	日本語アカデミック・ライティング	大学で書くレポートや論文は、手紙や感想文、作文の文章とは異なり、事実や意見を客観的・論理的に述べる必要があります。この授業では、1年次及び編入学の留学生を対象に、学術的な文章の書き方と日本語表現を学びます。また、話し言葉との違いにも着目し、レポートや論文を書く上で必要となる語彙の修得を目指した問題演習も行います。		
	日本語アカデミック・プレゼンテーション	本授業では、大学のゼミや演習科目での発表場面を想定し、プレゼンテーション全般に必要な日本語表現を総合的に学びます。日本語による文章表現と口頭表現の違いに留意しながら発表練習を行うとともに、発表レジュメやスライド資料の作成に必要な日本語表現を形式・語彙・文法等の各側面から取り上げます。留学生を対象にした授業です。		
	科学技術のための専門日本語	本授業では、科学技術分野で必要とされる日本語を総合的に学びます。科学技術に関連するトピックを取り上げ、日本語能力の向上を図ります。		
	人文社会系のための専門日本語	本授業では、人文社会系の分野で必要とされる日本語を総合的に学びます。人文社会に関連するトピックを取り上げ、日本語能力の向上を図ります。		
	日本事情	(英文) This is a hands-on course through which we will be experiencing Japan. Be prepared to engage yourselves fully with Japanese culture. (和訳) このコースは日本を体験して日本文化に親しむ実践学習です。		
基盤教育科目	専門導入科目	地域デザイン学序論A	<p>地域社会分野の地域分析の基礎を学修するため、社会システム、地域資源、地域生活や実践等を調査分析する学問の視座と方法に関して、経済学、行政学、公共政策、観光地理学、地域生態学、文化マネジメント、食育学、心理学、社会教育学、社会学、農村マネジメント、公共マネジメント、まちづくり論、社会福祉学それぞれの序論を解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 塚本 純/2回) ガイダンス、経済学の視座と方法、まとめ (③ 中村祐司/1回) 行政学の視座と方法 (⑨ 三田妃路佳/1回) 公共政策論の視座と方法 (⑬ 鈴木富之/1回) 観光地理学の視座と方法 (⑮ 高橋俊守/1回) 地域生態学の視座と方法 (⑲ 中島 望/1回) 文化マネジメントの視座と方法 (㉑ 大森玲子/1回) 食育学の視座と方法 (㉓ 白石智子/1回) 心理学の視座と方法 (㉕ 若園雄志郎/1回) 社会教育学の視座と方法 (㉗ 中川 敦/1回) 社会学の視座と方法 (㉙ 原田 淳/1回) 農村マネジメントの視座と方法 (㉛ 阪田和哉/1回) 公共マネジメントの視座と方法 (㉝ 石井大一郎/1回) まちづくり論の視座と方法 (㉟ 永島徹/1回) 社会福祉学の視座と方法</p> <p>AL20：学部学生が合同で学際的に学修する。異分野の交流をもたらすディスカッション、グループワークを取り入れる。</p>	オムニバス方式
		地域デザイン学序論B	<p>建築と地域デザインに関するトピックスを手掛かりとして、人間の居住環境としての建築や都市・地域を建設、維持管理、更新・再生していく上でのハードテクノロジー、ソフトテクノロジーについて、初學者向けにわかりやすく解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(142 佐藤栄治/3回) ガイダンス、都市の成長管理、まとめ (19 三橋伸夫/1回) 地域のコミュニティ開発・再生 ※平成29年度以降は142 佐藤栄治が(地域のコミュニティ開発・再生/1回)を担当する。 (38 郡 公子/1回) 室内環境制御技術 (㉑ 増田浩志/1回) 建築構造技術の進化 (84 杉山 央/1回) 建築材料の高機能化 (79 中島史郎/1回) 建築リサイクル (116 横尾昇剛/1回) 建築の環境性能評価 (107 古賀誉章/1回) 建築空間と環境心理 (130 安森亮雄/1回) 建築デザインと都市 (㉙ 中野達也/1回) 鉄骨構造の技術進化 (150 藤本郷史/1回) 建築材料の長寿命化 (168 糸井川高徳/1回) 建築設備の進化 (171 中島昌一/1回) C L Tの動向と普及</p> <p>AL20：学部学生が合同で学際的に学修する。毎回の授業で異分野の交流をもたらすディスカッション、グループワークを取り入れる。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要					
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
基盤 教育 科目	専 門 導 入 科 目	地域デザイン学序論C	<p>社会基盤整備による良好な社会環境の実現およびそのための社会基盤技術について、専門分野ごとに初学者向けに解りやすく紹介・解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(92 大森宣暁/3回) ガイダンス、未来都市の創造、交通計画と土地利用 (36 中島章典/2回) 橋梁と構造力学、橋梁建造物の耐震 (68 池田裕一/2回) 河川と治水、水域生態系と社会基盤整備 (169 飯村耕介/1回) 海岸防災工学序論 (21 海野寿康/1回) 地盤工学序論 (104 清木隆文/1回) 地下空間の有効利用 (59 藤原浩巳/1回) コンクリートの高機能化 (110 丸岡正知/2回) 身近な建設材料、建設材料のリサイクル (15 山岡 暁/1回) 海外における地域課題と社会基盤 (20 近藤伸也/1回) 防災マネジメントと地域デザイン</p> <p>AL20: 学部学生が合同で学際的に学修する。毎回の授業で異分野の交流をもたらすディスカッション、グループワークを取り入れる。</p>	オムニバス方式	
		地域デザイン訪問	<p>地域社会を自然、歴史、文化的側面から見つめ、これらと地域デザインの知識や技術、対応方策との関連について議論を深めることで、デザイン能力育成の端緒とする。このため、学外見学を行い、地域社会のコミュニティや種々の施設、技術や対策の取組みに直接触れる機会を設ける。見学後には、学科混成グループに分かれ、地域社会の特性や課題についてグループディスカッションの後、その結果を発表する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(68 池田裕一/1回) ガイダンス (68 池田裕一・15 山岡 暁・59 藤原浩巳/3回) (共同) 社会基盤と地域デザインについて討議・発表 (130 安森亮雄・84 杉山 央・150 藤本郷史/3回) (共同) 建築と地域デザインについて討議・発表 (2 中島 望・7 阪田和哉・13 鈴木富之/3回) (共同) 地域コミュニティと地域デザインについて討議・発表 (68 池田裕一・15 山岡 暁・59 藤原浩巳・ 130 安森亮雄・84 杉山 央・150 藤本郷史・ 2 中島 望・7 阪田和哉・13 鈴木富之/5回) (一部共同) 学外見学(学科毎に実施)</p> <p>AL80: 学外の見学と学科混成グループによるディスカッション、プレゼンテーションによって、学生が主体的に地域の主題や課題を見出すアクティブ・ラーニングを主要要素とする。</p>	オムニバス方式 共同	
		地域の姿と課題 I	<p>市町村長や担当行政職員、金融業、建設業、サービス業、製造業等の各種企業、マスメディア、農林水産業、社会福祉や環境NPO/NGO等の実務者を外部講師として招いたオムニバス講座を提供する。地域社会の多様なステークホルダーから直接話を聞く機会を設けることで、地域の現状や課題について幅広い視点から理解する力を養うための導入授業。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(3 中村 祐司・9 三田妃路佳・19 中野達也・21 海野寿康/2回) (共同) ガイダンス、全体の振り返りを、討論し最後に班別発表でまとめる。 (3 中村 祐司/1回) 広域自治体の役割と課題 (9 三田妃路佳/1回) 行政関連の諸制度に関わる課題 (19 中野 達也/2回) 地域ジャーナリズムの役割、地域経済と地域雇用 (21 海野 寿康/2回) まちづくり中間支援組織とは、行政職員は市民サービスの支援者</p> <p>AL50: ゲストスピーカーによる講演と学生によるグループ討論を交えた双方向型の授業を行う。</p>	オムニバス方式 共同	
		地域コミュニケーション演習	<p>学科混成グループに分かれ、円滑な対人関係づくりの上で地域と連携するのに必要なコミュニケーションスキルを身に付けるための知識と手法を学び、グループワーク等を通して学修した手法を実践し、手法の体験的な修得を行う。具体的には、地域の特性を数量的に伝える手法、論理的な文章として伝える手法、地域の地理的特性を読み解く手法などを体験し、それぞれが独自の問いを発見しそれを表現できるようにし、地域でのコミュニケーションに必要な基礎力を養う。</p> <p>AL80: 初回講義時にグループ編成を行う。グループによる発表会をおこなって修得した手法を能動的に活用するとともに、発表会の討議を通じて修得した論理的コミュニケーションを体験的に活用する。</p>	共同	
専 門 教 育 科 目	共 通 専 門 科 目	必 修 科 目	ワークショップ演習	<p>学科混成グループを形成して、設定された課題解決に対する科学的で総合的な対策に向けて、グループで情報収集、討議、まとめ、発表を行う実践力を養う。また、実社会で必要となる、課題解決を進める上で必要なファシリテーションや目的に応じたワークショップのデザインについてその意義を学ぶとともに、ロールプレイなどの体験を通して実践的な技術を身に付ける。ロールプレイでは、宇都宮市の社会・地域課題を取り上げ、課題解決を協働で行うことを想定し、地域住民、行政、企業などの役割を演じるなど社会実相に即した模擬体験的な学習を行う。</p> <p>AL80: 初回講義時にグループ編成を行う。グループは、期間中、数回再編成し、様々なメンバーによるグループ学習をできるようにする。また最終的に行う発表の機会においては、様々な意見・主張を真剣に批判検討する訓練としてディベート形式による発表を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 専門科目	必修科目 地域プロジェクト演習	<p>学科混成グループに分かれて、これまでに修得した学部の共通専門科目や各学科の専門科目の内容を総合して、地域における実問題を扱った問題解決型の演習を行う。具体的には、宇都宮市を中心とした栃木県内の他自治体などを対象とし、自らの力で地域探索やヒアリングや各種調査を実施し、収集したデータを分析し問題の原因の特定や、それに対する解決策を提案する能力を身につける。各グループが携わる問題に応じて、それぞれの分野の教員がサポートする。</p> <p>本演習では、(1) 適切な調査設計や調査分析、(2) 地域探索において自主的に行動し、具体的な解決策を提案、(3) グループ単位の口頭発表会において、資料作成およびプレゼンテーションができることを目標とする。</p> <p>AL80：初回講義時に班編成を行い、その後は、班単位の個別指導、班単位の調査を行う。適宜、調査概要書、調査計画書を提出し、教員とディスカッションしながら進める。</p>	共同
	選択科目 GIS演習	<p>地理情報システム (GIS) は、社会統計や環境情報を始めとする地域の様々な空間情報を収集して整理するとともに、解析評価するために有効なコンピュータシステムである。本演習では、GIS やリモートセンシングについて基本的な理論を学習するとともに、コンピュータを用いた演習を行うことで、地域の調査や研究でGIS を実際に活用するために必要な初歩的な技能を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑤ 高橋俊守/7回) GIS・リモートセンシングの基礎、地域資源分析・地域コミュニティ活動でのGISの活用 (142 佐藤栄治/4回) 建築・都市計画でのGISの活用 (165 長田哲平/4回) 社会基盤整備でのGISの活用、GIS技術の都市計画、社会基盤分野での活用</p> <p>AL80：GISを用いて、行政機関等から提供されている各種統計データや地域環境情報を処理する演習を行う。また、GISやリモートセンシングを用いてテーマに即した空間情報データの構築を行う。</p>	オムニバス方式
	地域 の 姿 と 課題II	<p>地域の現状や課題とその対策および最新技術等についてオムニバス講座を提供し、幅広い視点から地域デザインについて理解する力を養う。「地域の姿と課題I」より進んだ内容とし、より高い専門的レベルでの学習を目指す。必要に応じて外部講師を招き、地域の実践家や技術者と交流し学習を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(③ 中村祐司・⑩ 中野達也・⑫ 海野寿康/3回) (共同) ガイダンス、地域の現状と課題(1)(行政職員他)、 地域デザイン技術の最新事情(1)(社会基盤技術など) (③ 中村祐司・⑩ 中野達也・⑫ 近藤伸也/2回) (共同) 地域の現状と課題(2)(まちづくり、防災デザイン他)、 行政諸制度の最新事情(1)(都市計画に関わる法と実際他) (③ 中村祐司・⑩ 増田浩志・⑫ 山岡 暁/3回) (共同) 地域デザイン技術の最新事情(2)(建築技術など)、 行政諸制度の最新事情(2)(廃棄物処理など環境問題の実際他)、 振り返りとまとめ</p> <p>AL50：講義と学生によるグループ討論を交えた双方向型の授業を行う。</p>	オムニバス方式 共同
専門 教育科目	地域デザイン倫理	<p>高度な技術、巨大な組織、複雑な利権構造から成る現代の地域デザインの現場で、これに携わる技術者および地域のリーダーの立場や役割を理解し判断することを学び、倫理観を確立させる。授業は学部合同で、倫理観が求められる事例についてオムニバス形式で種々の分野の教員より紹介がなされ、どのように判断すべきか説明がなされる。</p> <p>また、倫理が問われる具体的なケースについて課題として示され、学科混成のグループに分かれて議論を深め、プレゼンを行う。倫理が問われる具体的な分野およびケースは以下の通りである。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(92 大森 宣暁/4回) 計画分野：地域デザインの在り方について計画を策定する分野 (36 中島 章典/4回) 構造分野：橋梁等を含む地域デザイン構造物を建設する分野 (68 池田 裕一/4回) 水工分野：洪水対策、水利事業などにおいて社会資本を構築する分野 (59 藤原 浩巳/3回) 材料分野：社会基盤整備に必要な建設材料を選定、施工していく分野</p> <p>AL80：教員から倫理的課題の説明の後、4人程度のグループに分かれてディスカッションを実施し、プレゼンテーションを行う。これを分野ごとに実施する。</p>	オムニバス方式
コミュニティ デザイン 学科 専門 科目	基礎 科目 群 地域社会総論	<p>「地域」あるいは「地域社会」とは、単に行政的な区画について示したものではなく、多様な関係性によって個人や集団が結びついている空間であるということが出来る。そこで本時では「地域」「地域社会」とはどのようなものか、各教員の専門から見た地域の姿について学び、地域についての基礎的・多角的な知識を養うことを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑩ 若園雄志郎/3回) 「社会教育学からみた地域」、ガイダンス、授業のまとめ (① 塚本 純/1回) 「経済学からみた地域」 (③ 中村祐司/1回) 「行政学と地方自治からみた地域」 (⑨ 三田妃路佳/1回) 「政治学からみた地域」 (⑬ 鈴木富之/1回) 「観光地理学からみた地域」 (⑤ 高橋俊守/1回) 「地域生態学からみた地域」 (② 中島 望/1回) 「感性学からみた地域」 (⑥ 大森玲子/1回) 「食生活学からみた地域」 (⑫ 白石智子/1回) 「心理学からみた地域」 (⑪ 中川 敦/1回) 「福祉社会学からみた地域」 (④ 原田 淳/1回) 「農業と農村地域」 (⑦ 阪田和哉/1回) 「公共事業評価論からみた地域」 (⑧ 石井大一郎/1回) 「NPOからみた地域」</p> <p>AL50：ディスカッションやグループ調査およびプレゼンテーションによる主体的な参加を促す。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
コミュニティ デザイン 学科 専門 科目	基礎 科目 目録	まちづくり論	<p>まちづくり論は、身近なまちづくりに参加して活動していくための知識を歴史的背景や制度的背景を知り、社会問題・社会構造の変容との関係から理解を深め、まちづくりを科学的に捉えることを目標とする。</p> <p>本授業では、公害問題や計画策定における市民参加・参画といった従来の運動論的な「まちづくり」を踏まえつつ、昨今の協働のまちづくりの現状を知る。さらに協働のまちづくりを進める上で重要となる制度・政策としての「地域ガバナンス」の視点を重視し、地域的まとまりに着目したコミュニティの持続的な仕組みづくりを学ぶ。持続的な仕組みづくりを担う、コミュニティ組織、コミュニティ組織が対象とする問題領域、またそれらを支える制度について、日欧米の相違を整理しつつ、理解を深める。</p> <p>AL30：講義形式を基本とする。3回に1回程度、講義の振り返りや課題について発表し、グループで意見交換する機会を設ける。</p>	
		ソーシャルスキル演習	<p>まちづくりの現場などの現実社会で行われている、人と人との関わりや、そこでの主体形成と合意形成などについて、それらを効果的に行うための能力を獲得することを目的とする。</p> <p>授業は、大学生が世代や価値観の異なる相手と円滑に関係を結び、社会・地域課題の解決に向けて集団として効果的に協働するためのソーシャルスキルを集中的に養成するとともに、ワークショップをデザインする際に必要となる多様なアクターの視点を持つこと、そして主体形成と合意形成とは何かを体験的に学ぶ。</p> <p>ロールプレイでは、宇都宮市の社会・地域課題を取り上げ、課題解決を協働で行うことを想定し、地域住民、行政、企業などの役割を演じるなど社会実相に即した模擬体験的な学習を行う。</p> <p>AL80：初回講義時にグループ編成を行い、グループワーク・ロールプレイ・ディベート等をメインとした授業を行う。また、各グループによるプレゼンテーションも数回実施する。</p>	
		社会調査と地域	<p>地域社会を構成する人々の考え方や行動を把握するためには、地域に関するデータや資料を収集し可視化した上で、それらを分析することが必要となる。本時では社会調査に関する基礎的な事項について学ぶ。具体的には社会調査の歴史的な経緯、目的、方法論、量的調査と質的調査、その他統計とはどのようなものか、などについての学習を深めていく。なお、本時は社会調査士資格のA科目に相当する。</p> <p>AL50：グループに分かれての基礎的なアンケート調査演習を行う。</p>	
		社会調査法	<p>本時では社会調査の企画・設計、資料・データ収集、収集されたデータの整理について具体的な方法について理解することを目的とする。具体的には調査目的と方法、調査方法の決定、調査企画と設計、仮説の構成、全数・標本調査、質問文・調査票の作成、配布・回収やインタビューなど調査の実施方法、フィールドノート作成やエディティングなど調査データの整理等について解説を加える。なお、本時は社会調査士資格のB科目に相当する。</p> <p>AL50：グループに分かれ、実際に調査票を作成し、模擬的な回収・分析を行う。</p>	講義 20時間 演習 10時間
		まちづくり特講	<p>地方都市やその周縁部地域における社会構造や人口・世帯構造の変化を整理しつつ、地域問題の傾向を把握する。そして、典型的な地域問題に対するまちづくりの実践例を学び、問題解決に向けて、まちづくりの今後の方向性を議論し、受講生自らがまちづくりリーダーとなることを想定したまちづくりプランを作成する。講義では複数の教員によるオムニバス授業とワークショップを行う。全体の構成と扱うテーマは次の通り。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>⑧ 石井大一郎/9回)「社会構造の変容とまちづくり」、プランづくりワークショップ(3回)、「経済空間のまちづくり」②コミュニティビジネス、「まちづくり組織の組織マネジメントとネットワーク形成、まちづくりプランの発表とディスカッション」</p> <p>⑥ 大森玲子/1回)「ケア空間のまちづくり」①地域食育</p> <p>③ 中村祐司/1回)「ケア空間のまちづくり」②スポーツと余暇</p> <p>④ 原田 淳/1回)「農空間のまちづくり」①農業経営</p> <p>⑤ 高橋俊守/1回)「農空間のまちづくり」②ランドスケープ</p> <p>⑬ 鈴木富之/1回)「経済空間のまちづくり」①ツーリズム</p> <p>⑦ 阪田和哉/1回)「まちづくりの評価」</p> <p>AL:50 オムニバス授業では、各テーマごとにレポートの提出を求める。</p>	オムニバス方式 講義 20時間 演習 10時間
		統計学基礎	<p>本時では官庁資料や簡単な調査報告、フィールドワーク論文が理解できるための基礎的な知識について学習する。具体的には統計学に必要な基礎的な数学の知識について確認を行った上で、平均、分散、標準偏差等の主要な記述統計量の意味を理解し、計算できるようにする。また、相関関係について、クロス集計や相関係数を用いて評価でき、その意味の解釈についても学修する。これらにより統計を分析するための基礎を養う。</p> <p>AL20：統計データの初歩的な分析に関する相互発表を行う。</p>	
		社会統計学	<p>社会調査に必要な統計学と基本的な多変量解析について学習する。</p> <p>統計学として、確率論の基礎、集合、確率変数と確率分布、標本分布と基本統計量、点推定と区間推定、平均の差の検定、独立性の検定、分散分析、属性相関係数、偏相関係数といった項目を取り扱う。</p> <p>多変量解析としては、量的データの分析のために、単回帰分析、重回帰分析、質的データの分析のために、ロジスティック回帰分析を取り扱う。併せて、主要なパラメータ推定方法である最小二乗法と最尤法について学ぶ。また、多様な変数を整理、分類する分析方法として、因子分析・主成分分析を取り扱う。</p> <p>本科目の内容は、社会調査士資格のためのD科目(社会調査に必要な統計学に関する科目)の内容を満たすものとするを想定している。</p> <p>AL50：理解を確かなものとするため、予習・復習のための課題に取り組む。必要に応じ、データセットを配布して、コンピューター等にて、集計や分析の課題に取り組む。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目群 コミュニティデザイン学科専門科目 専門教育科目 社会システム領域科目群	社会調査実習Ⅰ	本授業及び、社会調査実習Ⅱを合わせて、社会調査の企画から報告書の発行までの調査の全過程をひと通り実習する。すなわち、これまでに習得した社会調査に関する知識の集大成となる。 社会調査実習Ⅰでは、本実習が対象とするテーマに関して、まず、政府統計や既往論文など既存資料をもとに理解を深める。そして、問題設定、あるいは仮説の組み立てなどの検討をもとに、調査方法の検討と調査計画づくりを行う。作成した調査計画については、既往研究などと比較検討しどのような特徴を持つ調査になるのか整理する。必要に応じて予備調査を実施する。なお、社会調査実習Ⅰと同Ⅱを合わせて履修することで、社会調査士資格のG科目となる。社会調査士資格のA～D及び、EないしはF科目を履修していない学生は本授業を履修することができない。また、社会調査実習Ⅱを履修するものは本社会調査実習Ⅰを履修しなければならない。 AL80：グループによる調査について報告を行う。また調査対象地・対象者・調査方法に関して基礎的な課題を課す。	共同
	社会調査実習Ⅱ	社会調査実習Ⅰ及び、本授業を合わせて、社会調査の企画から報告書の発行までの調査の全過程をひと通り実習する。 社会調査実習Ⅱでは、実習Ⅰで決定、検討したテーマをもとにグループをつくる。その上で調査・分析方法の精緻化を行い、決定した調査方法に応じて、量的な調査であれば、調査票作成に関する議論（質問対象者と質問項目の設定・選択肢の作成・レイアウトなど）を行い、質的な調査であれば、インタビュー、参与観察、ビデオ撮影などの準備を行う。そして、実際に調査を実施し、得られた調査データの精緻化、分析、考察といった一連の作業を行い、報告書の作成を行う。なお、社会調査実習Ⅰと同Ⅱを合わせて履修することで、社会調査士資格のG科目となる。社会調査士資格のA～D及びEないしはF科目を履修していない学生は本授業を履修することができない。また、社会調査実習Ⅱを履修するものは本社会調査実習Ⅰを履修しなければならない。 AL80：調査に当たっての各分担を決め、データ分析作業、報告書作成を行う。調査結果は調査対象地・団体にフィードバックを行う。	共同
	公共政策入門	公共政策にはどのような形式があり、どのような分野に及び、どのように作られ、どのような過程で決定され、決定には誰が関わるのだろうか。また、決定内容は市民や企業にどのような影響をもたらすのだろうか。 この授業では、学生にとって、比較的身近な様々な題材を毎回提供し、学生の題材に関する議論やその後の解説を通じて、法律、予算といった公共政策の形式、中央省庁や自治体における政策の担当部局、決定過程での政治家・官僚・利益団体・市民の関係や、国と地方の関係、さらに、規制などによる企業への影響について学ぶ。加えて、行政や政治と政策との関係、政策による経済への影響、政策と財政の関係についても説明し、学生が今後4年間学修する各科目のつながりを理解することも目指す。 AL:50 事前に示す題材は賛否が分かれるものとなっているため、学生は賛否、その理由、制度等について明確にしたうえで授業に望む。授業では題材への賛否、決定の背景などについて議論する。	
	経済学概論	地域の課題解決のために必要となる社会システムの理解のうち、経済分野の基礎的な知識を会得するための科目である。ミクロ経済学とマクロ経済学の初歩的な経済分析の手法を解説しながら、経済学の視座と経済学的分析力を獲得する。さらに、現実の経済問題にも触れながら、多面的な社会認識の能力を身につける。 AL20：授業形態は、テキストを用いレジュメにより授業の展開を提示し、必要に応じて資料等を配布して講義を行う。提出レポートに対する添削、授業時間内外での演習など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。	
	行政学	現代行政学の基礎的な考え方と体系的視点について、事例を紹介しつつ、制度論、管理論、政策論の側面から説明する。現在進行形で生じている行政課題・公共政策・政治的課題についても取り上げる。具体的には行政の概念から始めて、現代行政学が成立するに至った現代国家の特質、政治と行政との関係、行政サービスの範囲、国と地方との関係（政府間関係論）、行政官僚制、行政管理、行政計画、行政効率、行政裁量といった行政学の基礎を理解させた上で、現代政府（地方自治体と中央政府）の多岐にわたる諸活動について興味関心を持たせる。また、とくに新公共管理論（NPM）、民間委託、第3セクター、PFI、指定管理者制度、さらには地方創生事業といったように地方に直接的な影響が及ぶ公共サービス展開の新たな動態に注目する。震災復興などのテーマを事前に設定して、グループ討議を3回程度実施する。 AL20：授業で取り上げた諸課題の中から、テーマを設定し、解決策の提示に向けたグループワークと発表を行う。	
	公共経済学	ミクロ経済学の初学者を対象に、家計の選好、効用最大化、利潤最大化、需要、供給、完全競争市場、余剰分析、不完全競争、バレート基準などのミクロ経済学の基礎に加え、市場の失敗、外部性、公共財、社会厚生関数など、ミクロ経済学のうち、地域づくり、まちづくり、社会基盤などとの関連が深い公共性の高い分野を中心に学習する。 地域経済学、費用便益分析など、まちづくりや地域づくりへの実務的な応用事例の多いトピックの基礎を学習する。 AL20：復習のためのレポート課題により、学習内容の定着を図る。	
	政治学概論	日本を含め先進国では高齢化が進み、政府の財政赤字は、年々増加し、国民への負担増が避けられない状況になってきている。多くの国では、民主主義に基づいて政治、経済などに関わる決定がなされている。民主主義の理念はどのようなものであり、民主主義を支える制度はどのようなものだろうか。国民の代表を選出する制度はどのようなものだろうか。誰が、どこで、どのような過程で予算や法律を決定しているのだろうか。講義では、選挙制度、政党、大統領制・議院内閣制、議会制度等の制度について日本を中心とした事例を取り上げながら説明する。 AL20：講義形式を基本とする。授業の最後には学生が選んだ国の選挙制度、立法制度について報告を求める。	
	ミクロ経済学	ミクロ経済学の基本概念である、市場、消費者行動、企業行動についての理解を深める。 ミクロ経済学の基礎を修得し、経済学の考え方、センスを身につける。 AL20：講義を中心としつつも、受講生と教員とのやり取りを通じて、理解を深めるものとする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティデザイン学科専門科目 社会システム領域科目群	法学概論	本講義では、法学を学ぶ基礎を修得したうえで、わが国の司法制度をその担い手や手続の観点から概観する。また、憲法学、民法学および刑法学について、基本的な考え方を学ぶとともに、各法分野における論点をひとつずつ取り上げ、さまざまな角度から検討する。さらに、最高裁判例などの事例も可能な限り紹介し、考察を加える。 AL20：提出レポートに対する添削、授業時間での討論等参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。	
	憲法	講義では、基本的人権や平和主義を中心に検討していく。また、可能な限り最高裁判例等の事例を紹介する。憲法の基本概念を修得し、重要判例を理解し、批判的に考察できるようにする。具体的には、宇都宮東署誤認逮捕事件、非嫡出子法定相続分差別事件、国民・国家・憲法の関係、日本国憲法の人権および統治機構を取り上げ、さらに、公務員と憲法尊重擁護義務等についても対象とする。最後に日本国憲法制定から冷戦終結までと冷戦終結以降における平和主義について考察する。 AL20：上記課題についてグループ討議を実施する。	
	民法	日常生活に直結する、非常に身近な法律である民法の基本原則や基礎知識を学びながら、日常生活とどのように関わるのか、これらの知識を用いて日々の生活において直面する問題にどのように対応したらいいのかについて考える。具体的には、民法とは何か、意思表示（契約はどのように成立するか）、契約総論、売買契約、賃貸借契約（アパートの賃貸借契約など）、消費貸借契約（時効・保証など）、雇用契約、不法行為、物に対する権利（所有権など）、さらには担保権、婚姻・離婚、親子関係、相続についても取り上げる。 AL20：上記課題についてグループ討議を複数回実施する。	
	経済政策論	経済分野の社会システム理解のうち、地域経済の活動の背景にある経済変動とそれへ働きかける経済政策について理解するための科目である。財政政策・金融政策などか、景気や雇用・物価などの経済に与える影響を、マクロ経済学の理論的裏付けを理解した上で学ぶ。財政政策や金融政策がGDPに与える影響について、経済理論としてはどのように説明されるのか、さらに、それが失業やインフレーション・デフレーションとどのように結びつき、どのような意味をもつのかについて明らかとする。さらに、現実の経済問題にも触れながら、応用的な社会認識の能力を身につける。 AL20：授業形態は、テキストを用いレジュメにより授業の展開を提示し、必要に応じて資料等を配布して講義を行う。提出レポートに対する添削、授業時間内外での演習など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。	
	地方自治論	日本における地方分権改革の流れを把握し、市町村合併をめぐる国の誘導政策と地方の対応、過疎化の問題、人口減少、地方創生事業などについて、具体例を挙げつつ説明する。地域社会における身近な地域資源を提示しつつ、担当教員がこれまでに経験した地方自治活動の経験にもとづき、特定の課題領域に限定しない形で、住民、企業、行政、NPOといった諸アクター間の連携・協働のあり方を探る。教員が作成した地方自治関連の論文、報告書、資料を教材として用いる中で、対象とする地方自治体は大都市、地方中小都市、過疎町村など多岐にわたる。また、行政、企業、公的団体、住民など多様かつ多元的なセクターが公共サービスの担い手となりつつある動向に焦点を当て、栃木県内で実際に展開されている諸事業の事例を挙げ、受講生が当該事業の関係者だと仮定した場合にどのような課題が存在しその解決・克服策は何かを考えさせる。ほぼ毎回、地域資源の活用策などテーマを設定して、グループ討議の機会を設ける。 AL80：講義で紹介した課題についての論点整理と課題解決の施策提案に向けたグループワークを行い、各グループ毎の発表および全体討議を実施する。	
	政策過程論	公共政策を立案し、決定し、実施する過程で利害関係者はどのように関わり、現行政策の変更が困難であるならその理由はどこにあるのだろうか。 この授業では、政治家あるいは市民・企業が政策実現をする場合や自治体が新規政策の採用をする場合に必要となる要素、直面する壁を理解するために、政策過程の理論や制度論の視点を学ぶ。政策過程における政治家・官僚・利益団体や市民、中央・地方関係については、公共政策入門や政治学概論で一度学んでいる。復習を行いつつ、政策決定、政策実施、政策転換や政策・制度の粘性といった政策過程に関するモデルや理論、リーダーシップや市民参加の視点を説明し、それらの理論への学生のより深い理解を目指す。加えて、日本、米国の実際の改革の成功事例、失敗事例を取り上げ、何が影響したのかについて議論しながら、政策過程の実態を理解する。最終的には、政策に関する研究報告を行い、公共政策に関する分析力の定着を図る。 AL:50 学生が複数のグループを作り、政策を調査し、講義で学んだ理論などを基に、政策の内容・経緯、決定過程でのキーパーソンやそのリーダーシップ、他の制度との関係、政策が抱える課題を解決するために必要となる要素について検討し報告行う。	
	行政法	本授業においては、行政法に関する基礎知識を学習する。いわゆる「行政法総論」のうち、行政法に関する基本原則、重要法律の概要、行政活動の仕組み、行政過程論等を学ぶ。また、行政救済法に関しても、基本的な仕組み（制度の概要等）を学ぶ。地域創生に関しても、行政主体、特に地方自治体による積極的な政策実現が不可欠となるが、政策実現のための手段や関連する法的問題について十分な知識がなければ掛け声倒れに終わるおそれがある。そのため、本授業では、他の地方自治体における先進的な取り組みも紹介しながら、生きた行政法の知識を得られるようにする。 AL20:上記課題について複数回のグループ討議を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会システム領域 科目群 コミュニティデザイン学科 専門科目	公共マネジメント	<p>人口減少社会において、地域の課題に取り組むためのマネジメント手法について学習する。この科目では、以下のマネジメント手法を取り上げ、背景・目的、制度、事例、効果の捉え方や経済評価の方法、課題等について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセットマネジメント、ライフサイクルマネジメントなどのインフラ維持管理のマネジメント手法 ・総合評価落札方式、最低制限価格制度、PFI、指定管理者制度などの、入札・契約のマネジメント手法 ・公会計、財政健全化、政策・事業評価などの、自治体財務のマネジメント手法 ・NPO、CSR、市民協働などの、官民協働のマネジメント手法に関して、制度、事例、効果の捉え方などについて学習する。 <p>AL20：復習のためのレポート課題により、学習内容の定着を図る。</p>	
	スポーツ・余暇政策	<p>スポーツおよび余暇の領域は世界の縮図(microcosm)であるという前提に立って、この領域におけるダイナミックな動態と他領域を考察する際の応用性について学ぶ。具体的にはスポーツ・余暇(レジャー、趣味、くつろぎ行動など)をめぐる政府政策、消費者選好、それら相互の作用・依存関係といった側面から、たとえば、スポーツ施設の多用途利用、総合型地域スポーツクラブと住民参加、スポーツ関連市場の現代の変容、震災復興と地域スポーツ、地域密着型プロスポーツの可能性、2020年東京五輪の波及効果と社会変容(以上スポーツ領域)、東京ディズニーワールド等の集客マネジメント、余暇活動と若者市場、地域観光戦略、余暇と公共施設、レジャーの変容、祭りなど地域の伝統的文化事業(以上余暇領域)といった具体的な諸課題を取り上げる。受講生自ら関心のあるテーマを設定し、解決の方向性や事業の提案に向けたグループ討議を行う。スポーツ・余暇政策領域における資源(財源、組織、専門知識、正当性)の活用方策などについて、異なるセクター間の相互連携の視点から考察する。</p> <p>AL80:授業で取り上げた諸課題からテーマを設定し、現状認識や特徴、今後の方向性、解決策などをめぐりグループワークを行い、具体的な提案をグループ毎に報告させる。</p>	
	都市計画法	<p>本講義では、都市計画法及び関連する法令に関する基礎的な理解をはかるとともに、都市計画とコミュニティ形成との関係で現実的な問題となっている諸事例を取り上げて検討することで、都市計画において、いかに法と政策を融合的に理解し、活用するかという視点を修得する道筋を示す。憲法、民法及び行政法といった基本科目を習得していることが望ましいが、導入部分で最低限度の知識の伝授は行う。</p> <p>AL20:受講者からの発言を求めるなど双方向の授業を展開し、学際的な議論・理解が行われるように努める。</p>	
	プロジェクト評価論	<p>まちづくり、地域づくりのプロジェクト(公共事業やイベントなど)を経済評価する手法を学習する。費用便益分析を中心に、便益の計測手法や、実務的に活用されている事業評価マニュアルの内容、理論的・実務的背景、課題などを学習する。プロジェクトの経済評価の際には、効果・便益の計測手法が難しいとされており、この科目では、便益計測手法として、CVM、TCM、ヘドニックアプローチ、コンジョイント分析を取り上げ、その理論、手順、適用・研究事例、課題について学習する。</p> <p>AL20：便益計測や費用便益分析の学習にあたっては、データを用いて自身で分析・計算を行うことで、技術の修得を図る。</p>	
	財政学	<p>財政が果たすべき役割、および、それを成し遂げるための財政制度を理解し、増減税や公債発行による経済効果を考察するための基礎的な知識を学習する。併せて、歳出に関する経済理論や財政制度を理解し、歳出の規模や構成が変化することによる経済効果を考察するための基礎的な知識を学習する。また、制度面でも財源面でも国家財政と不可分の関係にある地方財政について、地方財政と国家財政間の機能分担および財政移転のあり方を考察し、併せて、地域の日常生活に不可欠な行政サービスを担う地方財政のあり方について地域の暮らしや活力の観点から学習する。</p> <p>AL20：レポート課題等を通じて知識の定着を図るとともに、暮らしと財政のかかわりについて身近な事例や地域の事例などを通じて考える機会を設ける。</p>	集中
	環境・資源経済学	<p>経済学(主にミクロ経済学)の理論をベースに、環境・資源問題がなぜ起こっているのか、どのような方法で解決することが可能であるかを理解する。その上で、環境税や排出権取引制度など環境政策手段の基本的な考え方を理解するとともに、現状の環境・資源問題と経済との関係を知る。</p> <p>1) 経済成長と持続可能な発展/2) 競争市場の効率性/3) 市場の失敗と環境問題/4) 環境政策その1、環境税/5) 環境政策その2、排出権取引制度/6) プロパティライトと環境問題/7) 自然資源の最適利用/8) 再生可能資源/9) 再生可能資源の最適利用/10) 漁業資源管理/11) コモンズ/12) 費用便益分析と環境評価/13) 農産物貿易と日本農業/14) 農産物貿易と農村環境/15) 貧困問題と環境・資源</p> <p>AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。</p>	
	地域資源論	<p>地域の再生や活性化を実現するには、地域資源を活用した地域による持続的な取り組みが求められる。本論では、地域資源活用の歴史を踏まえた上で、国連の主導で行われたミレニアム生態系評価や、日本の里山里海評価の成果をもとに、地域の多様な資源を生態系サービスの視点から体系的に整理する。さらに、地域資源を見出し、活用するための手法や、近年充実してきたこれらを支援するための社会的施策について、事例を示しながら解説を加える。</p> <p>AL50：グループワークによって地域の特徴的な地域資源を調査し、現状と課題点について整理した結果を発表させる。</p>	
	地域食育論	<p>食育基本法が制定されて以降、食育推進基本計画のもと、様々な食に関わる取組が展開されている。食育を効果的に推進するためには、地域の特性を生かした施策を立案するとともに、地域を担う関係者間の緊密な連携協力が求められる。また、食育は、他の施策の手段として用いることにより、潜在的な地域力を引出す可能性を有するほか、地域課題解決の糸口にもなる。</p> <p>授業では、食に関わる現状と課題を探り、食育の背景について理解を深めるとともに、地域や学校等で展開されている取り組みやライフステージに応じた食育のあり方を整理する。また、どのような食育が効果的か評価と検証を行い、地域の食の課題に留まらず、種々の課題に対応可能な食育活動を構想する。</p> <p>AL50：学生によるグループ討論を交えた双方向型の授業を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティデザイン学科専門科目 地域資源領域科目群	農村マネジメント	農村社会における組織的特徴や経済循環の仕組みの特徴を理解し、歴史的にどのように変容してどのような課題が生じているかを学び、自分たちで調べたことを基に課題の解決策について議論を深める。そのために必要な質的調査の方法についても学ぶ。なお、本時は社会調査士資格のF科目に相当する。 ①農村社会の特徴／②農村社会を知るための参与観察＊／③質的調査の方法＊／④農村社会の変容／⑤ライフヒストリー調査にみる農村社会の変容＊／⑥社会と経済／⑦農村での経済循環の仕組み／⑧聞き取り調査による農村の経済循環の把握＊／⑨農村調査のための調査票作成法／⑩農村経済の変容／⑪文献調査にみる農村経済の変容／⑫農村社会の課題とは／⑬農村社会の課題発見のためのフィールドワークの方法＊／⑭課題解決をともに考えるインタビュー調査の方法＊／⑮農村社会の課題解決を考える AL50：農村社会を知るための参与観察、聞き取り調査による農村の経済循環の把握、農村調査のための調査票作成等の実地調査を学ぶ。	講義 20時間 演習 10時間
	観光概論	観光概論では、観光を学習・研究する際に必要となる基礎的な知識を習得することを目的とする。観光は複雑かつ多様な行動であり、これらを取り扱う産業や観光資源も多岐にわたる。そこで、本授業では、多様な視点から観光の概念や歴史、観光に関する制度や政策、さまざまな観光関連産業の特徴などを多面的に捉え、「観光」の全体像を把握する。本授業の到達目標は、学生自らが観光やその関連産業の将来展望を理解する能力を備えることである。 AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証し、最終的には、観光やその関連産業の将来展望を理解する能力を身につける。	
	文化マネジメント	文化は人間性を涵養し創造性を育む。よって人々に心豊かな生活を実現していく上で不可欠なものである。なかでも地域文化の振興には、居住する地域にかかわらず様々な文化を等しく鑑賞できる機会を拡充する必要がある。地域文化が持つ豊かさが日本文化の基盤を成しており、地域文化の振興こそが日本の魅力を一層高めて行くことにつながるのである。授業では「日本特有の様々な文化をいかに国内外に向けて発信するか」をテーマに、地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科における理論的諸科目と並行して、【より多くの知識を個々の独創的な知恵へと結びつける力】を養う。特に授業の後半は事業シミュレーションを演習形式で行い、それぞれの発表から課題や問題点を指摘し、今後のヒントとなるような具体的な事例とその改善点を挙げて行く。 AL50：講義形式を基本とするが、文化事業のプレゼンテーションを通して具体的な問題解決力を養う。	講義 20時間 演習 10時間
	地域生態学	地域生態学は、人間と地域のかかわりを生態学的視点から分析・評価するとともに、これらの関係を総合的に捉えることで、人間と地域の関係を持続可能にする手法を研究する学問領域である。地域の全体像をとらえるためのランドスケープの概念と地域区分について解説するとともに、人為による地域環境の変化や、地域環境を保全、再生するための手法について、身近な事例を踏まえて解説する。生態学的な視点から地域を見ることが出来る幅広い知見を養うことを目標とする。 AL20：学生が感心を持った地域環境について、生態学的な視点から解説したレポートを作成し、講義の中で発表する機会を設ける。	
	農村起業論	経営学の基本的な考えから学び、それが農村での課題解決にどのように結びつくかを考える。さらに、土地を基盤としていることから生じる農業経営問題の特殊性を理解し、それでも企業的に発展している経営があることを学ぶ。これらを総合して、農村に特有のコミュニティビジネスのあり方を考える。 経営学の考え方（3回）／農村でなぜ経営学が必要か（3回）／土地をベースとした農業経営学（3回）／農業経営の企業的发展の特徴（3回）／コミュニティビジネスの考え方（3回） AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。	講義 20時間 演習 10時間
	食文化論	和食がユネスコ世界無形文化遺産に登録され、日本人の伝統的な食文化が広く認知され始めた。食文化は、時代や環境により影響を受けながら、長い歳月をかけて、その土地で育まれてきた生活様式に関わる文化の一つとされる。各地域で伝承されてきた食文化を守り継承していくためには、自らの食習慣を分析し、習慣化した背景要因を探ることも重要な過程である。 授業では、日本の食文化形成の要因に対する理解を深め、他の文化同様に、自然環境や社会環境に大きく影響を受けることを学ぶとともに、和食の基本的な食事スタイル「一汁三菜」の原点である日本料理の系譜についても取り上げる。また、受講者に関わりのある地域の食文化について調査し、伝統的な食文化を継承するために必要な要因について整理し、共有する。 AL50：各自の調査に基づいてプレゼンテーションを実施後、グループワークを取り入れ共有化をはかる。	
	観光地理学	観光地理学では、主に日本について取り上げ、自然環境、歴史文化環境、社会経済環境などの複合的な視点から、さまざまな観光地域の形成と実態、魅力を理解することを目的とする。とくに、日本における観光の歴史、観光地域の広域的な分布パターン、さまざまな観光地域の形成過程とその実態、観光客の行動パターンなどに重点をおく。本授業の到達目標は、複合的な視点からさまざまな観光地域の動向を正しく理解し、観光地域の将来展望や観光まちづくりのあり方を理解できる能力を身につけることである。 AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、最終的には、観光地域の将来展望を理解できる能力を備える。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
地域資源 領域科目 群 コミュニティ デザイン 学科専門 科目 専門教育 科目	食資源活用実習	<p>地域には様々な資源が存在しているが、なかでも潜在的な食資源を発掘して、その活用を模索し付加価値を高めることは、地域が自立し発展していく上で鍵となるプロセスである。地域力を向上させるために、未利用の食材や既存の食材の栄養学的調理学的特徴を捉え、食資源の活用のある実習を通して提案することは、地域社会への貢献にもつながる。</p> <p>授業では、食資源を活用する際に大切となる調理における基本的な知識と技術を修得するとともに、食物のおいしさに影響する要因について理解を深め、食資源の商品開発へとつなげる。また、各自が調査して抽出した食資源について、対象として設定した年代や地域に応じた活用のあり方を検討し提案する。</p> <p>AL80：初回にグループ編成を行う。グループ毎に実習を進め、最終的に食資源活用の提案を行う</p>	
	観光学実習	<p>バブル経済崩壊後1990年代半ば以降、経済不況に伴う企業による社員旅行の縮小、観光政策の転換、インターネットの普及、余暇活動の多様化などのさまざまな要因により、日本人の観光形態に質的变化がみられている。こうした状況下、地域資源を活かした観光振興が全国で行われており、その地域を熟知した観光まちづくりの担い手の育成が不可欠となっている。そこで、本授業では、巡検形式のフィールドワークを行い、対象地域の産業、文化、観光地域の構造などを把握することを目的とする。本授業の到達目標は、対象地域の産業、文化、観光地域の構造などを正しく理解し、その将来展望やまちづくりのあり方について理解できる能力を身につけることである。</p> <p>AL80：フィールドワークを中心とした実習形式を基本とする。最終的には、特定地域の将来展望やまちづくりのあり方について理解できる能力を備える。</p>	
	地域史	<p>地域に関する史料を実際に読み、そこから何が読み取れるのかを考えることで、地域の成り立ちや歴史に対する理解を深める科目である。宇都宮藩の歴史、大名戸田家の経済事情、宇都宮藩の幕末維新ほかの江戸時代のさまざまなテーマの史料をもとに、それをどのように読み解くことができるのか、そこからどのような歴史がわかるのか、そして歴史的経緯から地域がどのようにして形成されていくのかといった点について、講義形式で解説する。</p> <p>AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。</p>	
	生物多様性論	<p>生物多様性を巡る科学の進展は著しく、遺伝子から種、個体群、群集、そして景観に至るまで、あらゆるレベルの生物多様性がもたらす機能及び役割について、様々な研究が行われてきた。その歴史はまだ浅いが、生態的な過程が我々人類に食糧、水、エネルギーなどのサービスを提供する際、生物が重要な役割、機能を果たすことを明らかにした。その中でも注目すべき成果は、単に種が多ければ良いわけではなく、生物種が占める生態的位置、構成する生物種間の相互作用が重要であることを示した点かもしれない。本講義では、こういった研究の進展を踏まえ、「生物多様性を失うと、どんなサービスの低下が起こるのか」という問いかけに応じた様々な研究事例と、それらから得られた知見を平易に紹介する。</p> <p>AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。</p>	
	景観解析	<p>景観とは私たち人間を取り巻く環境の眺めであり、同時に私たちと環境との関係を理解するための有効な指標である。本講義では、景観工学的な視点からまず景観とは何かについて学び、景観の物理的な解析方法を学習する。さらに環境生理・心理学的な視点から人間の反応・評価を通じた景観の解析手法について学習する。</p> <p>AL50：解析手法を学んだ後、演習として履修者各自で実際の景観の解析を行う。その後、発表会を通じて各自の景観解析結果の共通性や相違性に触れることで、景観に対する本質的な理解を深めるとともに、良い景観とは何かを提案できる実践的な能力を養成する。</p>	集中
	文化マネジメント演習	<p>これまで、地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科における講義科目で学んだ理論は、各分野における知識として貴重な「財産」となっている。また、それら知識を基にした演習科目では、より多くの知恵を授かり、さらに実践を踏んでこそ深い見識「資産」へとつながるのである。授業では、これらの過程を通して「文化の持つ力と必要性を社会に対してどのように説明し、その機会を設けることができるか。」をテーマに、実際に文化事業の企画・運営を行なうなかで、【文化「モノ」と諸論「コト」を結びつけ、従事活動「ホンモノ」へと向かう本格的実践力】を養う。なお、文化マネジメント演習は、前期のコミュニケーション演習（文化マネジメント）を履修した者が望ましい。そこでの直接的な感性を今後の文化及び文化事業振興に資する力としてほしい。</p> <p>AL80:文化事業参加により企画・運営のノウハウを学ぶ。</p>	
地域実践 領域科目 群	高齢社会学	<p>本講義では現代社会における最も重要なテーマである、高齢社会の問題について社会学の視点から学ぶ。まず、高齢社会の到来の背景を取り上げ、それらが問題化される理由を、戦後日本の歴史の中に位置づける。その上で、「若い衰えゆくこと」そして「呆けゆくこと」がどのような経験であるのか、当事者の立場に降り立った形で理解する。以上の理解の上で、高齢者福祉政策の歴史的な変化および、現代日本の高齢者福祉を支える介護保険制度について、理解を深める。さらに、高齢化する日本社会の中で、地域の民間レベルで始まり、介護システム全体に大きな影響を与えた、小規模ケアの展開、新しい認知症ケアのあり方を学びながら、それらの今後の可能性を探る。最後に、高齢者介護における新しい家族介護の形態として注目される遠距離介護について考察を行う。以上の作業を通じて、現代社会における高齢社会の問題を解決するための方向性を、学生自身が見出せるようになることを、到達目標とする。</p> <p>AL20：講義形式を基本とする。最終的には、学生各人が自ら見いだした高齢社会の問題の、その解決の方向性を提示する作業を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティ デザイン学科 専門科目 地域実践 領域科目群	地域福祉の実際	<p>地域生活において、様々な人たちとのつながりの中で、歳をとっても、障害があっても、自分らしい生き方を全うできることが、その人の尊厳を支えることであり、地域福祉の目指すところである。それは、専門職だけでは、実現できないことである。そこで本講義では、住民自らが地域課題に気づき、その解決・改善に向け取り組む様子を、専門職が働きかけた実践事例を用いて地域福祉の実際を学ぶ。</p> <p>この学びから、学生自身が地域課題解決のために必要な視点を見いだすことを目標とする。</p> <p>AL50：事例に基づく学生どおし相互のディスカッション、グループワーク等を積極的に取り入れ、アクティブラーニングを用いて講義を進めていく。</p>	
	生涯学習社会論	<p>現代は急速な社会変容が起こっているということが出来る。そのため社会ないしは地域を作り上げていくためには、学校での学習だけではなく、社会教育・生涯学習の視点を持つことにより、自ら考えたり他者からの意見を踏まえた合意の形成などが重要となっている。そこで、社会教育・生涯学習の理念・歴史を踏まえ、具体的な事例を提示しながら現代社会における社会教育・生涯学習の現状と課題について考察し、現代社会に必要とされている力量の形成を目指す。</p> <p>AL20：4～5名を1グループとした「社会教育」「生涯学習」に関するグループディスカッション、およびリアクションペーパーの提出を求める。</p>	
	地域実践心理学	<p>地域実践心理学は、地域の中で、地域に生きる私たちが心理学の知識を実践的に活かす、すなわち「地域社会という視点から対人援助や地域の活性化を行う」（中田・串崎、2005）ことを目的としている。地域に生きる人々がどのように成長し、どのような課題を抱えるのか、その成長や課題に対し、どのように支え合うことができるか、について学び、考え、実践することは、対人援助の専門家にならない多くの人々（私たち）にとっても重要である。</p> <p>本授業では、受胎から死に至るまでの人間の発達の特徴について「生涯発達心理学」の知見を学び、また、そのプロセスを取り巻く種々の課題や心身の問題の理解と援助について「臨床心理学」から学ぶ。また、学んだ知識を地域でどのように実践することができるかについて検討する。</p> <p>AL50：講義を基に、4～5名程度からなるグループで地域における実践課題について調べ、相互支援の在り方について提案・発表を行う。</p>	講義 20時間 演習 10時間
	生涯学習概論	<p>教育そのものを根底から問い返すという問題意識を常に背景に置きながら、「生涯学習」が、どのように理解され、どのようにして実践されるべきかについて考察を行う。授業で重視している目標は、①生涯学習および社会教育についての基礎知識の習得、②生涯学習時代への主体的・能動的対応として「考える方法」を考えること、③生涯学習実践の中心的課題として「自分自身を学ぶ」ということの学習、の3点である。</p> <p>AL20：生涯学習の前提、現代的課題についてグループ討議・発表を行う。</p>	
	社会学概論	<p>社会学の三つの考え方によって、中学校社会科で扱う様々な社会現象がどのように分析できるか見ていく。これにより小中学校の社会科で扱うさまざまな社会現象を、社会的な観点から見るようになる。</p> <p>AL20：授業ごとにリフレクションシートの提出を求める。</p>	
	地域社会学	<p>近年の急激な高齢化・少子化の進行、世帯の縮小化と家族機能の変化等は地域社会にどのような影響を及ぼしているのだろうか。本講義では、まず日本の社会学と「地域社会」概念の変遷について学びつつ、ネットワークと集団・階層など地域社会を理解する上で必要な視点を学ぶ。そして、地域社会を「居住に伴って発生する種々の共同的生活問題を処理するシステムが存立しうる地域空間」と整理し、現代の都市や農村における具体的な社会問題とその活動事例を示しつつ、これからの地域社会像を展望する。</p> <p>AL20：受講者からの発言を求めるなど双方向の授業を展開し、学際的な議論・理解が行われるように努める。</p>	
	社会福祉学概論	<p>社会福祉を援助するために必要な要素として社会福祉に関する知識、援助のための技術、何を大事にして援助をするのかという倫理の三つがある。この授業では、そのうち知識に焦点をあてて、社会福祉の理念、制度、歴史を考えていく。</p> <p>AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。</p>	
	地域福祉論	<p>地域福祉の現状と課題を把握し、社会福祉援助技術としての地域援助の方法について学ぶ。自ら主体的に地域の課題を見つけ、解決の方法を検討できる知識と技術を身につける。</p> <p>AL50：授業計画に沿って、調査設計や実査を行う。</p>	隔年
社会教育計画 I	<p>本時では「社会教育の対象の理解と組織化」、「社会教育施設の経営」、「社会教育調査とデータの活用」、「社会教育事業計画」について理解を深める。具体的には地域における住民の学習活動、地域自治活動を促進するための、地域の生涯学習・社会教育計画の策定やその実践、およびそれらのコーディネートを行う意義や手法を理解したうえで、様々な課題に即した実践事例から考察する。そして、今後、社会教育について研究を進めていくための基礎的な力量の形成を目指す。本時は社会教育計画IIと合わせて受講すること。また社会教育、生涯学習に関連する講義についても受講することが望ましい。なお、本時は社会教育主事資格取得のために必要な科目のうちの1科目である。</p> <p>AL50：学習プログラムの作成と事業の運営、評価を行う。</p>	講義 20時間 演習 10時間	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティデザイン学科専門科目 地域実践領域科目群 専門教育科目	NPO論	<p>NPO論では、NPOが出現する社会的・歴史的背景を踏まえつつ、サービスの領域を把握する。国内外を問わず、地域社会において身近な生活課題に取り組むNPOの事例を通して、組織的特徴と課題を把握する。特にNPOのリーダー層に着目し、活動を始めたきっかけや団体の運営マネジメントに着目して理解を深める。そしてこれらの活動・組織を支援する「インターメディアリ」や国内外の政策動向について整理し、今後のNPOの展開の方向性を議論する。学生自らが社会的な事業に取り組むという切り口から、自らがNPO活動に関わることを想定し、どのような選抜肢、方向性があるのかを見出すことを本授業の到達目標とする。</p> <p>AL20：講義形式を基本とする。最終的には、学生各人がNPOを設立することを想定した事業プラン作成を行う。</p>	
	倫理学概論	<p>思想家の名前や著作の内容の単なる暗記ではない、いかに生きるかという、あらかじめ正解が用意されていない問いを考えるという、倫理学の発想法になじむ。同時に、それを考える手がかりとなる東西の思想について、発想の違いや特色について実際に触れてみる。</p> <p>AL20：講義を中心としつつも、受講生と教員とのやり取りを通じて、理解を深めるものとする。</p>	
	会話分析入門	<p>本講義では、少子化、人口減少などの困難な課題を抱える現代社会において、受講生自身が今後「どう生きるのか」、といった困難な課題に関して、大学で学ぶ学問はどのように答えることができるのか、社会学における「会話分析 (Conversation Analysis)：以下CA」という研究の方法論、知見、精神／姿勢を学ぶことを通じて、その一例を受講生が追体験することを目標とする。前半はCAがその分析の基盤としている、自分自身、また自らを取り巻く「日常世界」におけるコミュニケーションの構造について、CAの研究の歴史や方法とともに学ぶ。その後、CAが応用的に取り組んでいった現代社会の重要な「制度的場面」(科学、経営、教育、医療、福祉、法律、NPO、ボランティアなど)についての分析の知見を、特に、受講生が今後経験するかもしれないライフコース上の課題(就職活動、留学、不妊治療、子育て、介護、看取りなど)や、地域活動(ボランティア、サイエンスカフェ、サービスエンカウンターなど)を念頭に置きながら、学ぶ。以上のような作業を通じて、受講生が社会に参与する当事者の一員として、現代社会の課題に実践的のどのように関わるべきか、その認識の基盤を、受講生一人一人が自らの手でがつかみ取っていく。</p> <p>AL50：極力本物のコミュニケーションのデータを使用して、CAの練習を行いながら授業を進める。</p>	
	多文化理解論	<p>現代社会におけるキーワードとして「多様性」が挙げられる。地域社会においては多文化・多民族化の進展が挙げられ、そのような状況下において文化や言語の権利を住民が相互に尊重し、学習していくことは避けられないと考えられる。本講義ではこのような観点から多文化理解・多文化教育の理念や具体的な活動に対する考察を行っていく。</p> <p>AL20：4～5名を1グループとした「文化」「多様性」に関するグループディスカッション、およびリアクションペーパーの提出を求める。</p>	
	福祉社会学	<p>本講義では現代社会の福祉の重要な問題として、「障害者問題」「貧困問題」「児童虐待」「生命の選択」等を主要テーマとして設定して学ぶ。どのテーマにおいても、それらが問題になる背景としての歴史的・制度的・政策的な背景について説明を行った上で、そうした福祉の問題に直面している当事者の人たちの経験について理解を深める。以上の作業を通じて、現代社会の福祉の問題について、その背景を理解すると同時に、現代社会における福祉の問題を自ら発見し、その解決のためにどのような方向性が存在するのを見出せるようになることを、到達目標とする。</p> <p>AL20：講義形式を基本とする。最終的には、学生各人が自ら見いだした福祉の問題について、その解決の方向性を提示する作業を行う。</p>	
	現代日本社会論	<p>ホームレスの人々の現実を目を向けながら、他者に対する想像力や共感について考えるとともに、自分自身の価値観や日本社会の仕組みなどを批判的にみる力を養うとともに、日本のホームレス問題を様々な角度から検討していく。</p> <p>AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。</p>	
	社会教育計画Ⅱ	<p>本時は「地域社会と社会教育」「学習情報提供と学習相談」「社会教育と広報・広聴」「社会教育の評価」について深めることを目標とするものである。社会教育主事有資格者にふさわしい実力を着実に身につけるために、応用的・実践的な授業を進め、学生が自らを研鑽する中で、「生涯学習まちづくり」における有効な手法として社会教育計画を作成することの意義を学ぶ。実際に社会教育主事として働く場合には、どのような力量や心構えが必要かを自覚し、それを実行・実現できるようにする。また、社会人基礎能力の習得も視野に入れて、授業を進める。また、原則として、生涯学習概論・生涯学習社会論・社会教育計画Ⅰを履修しておくこと。なお、本時は社会教育主事資格取得のために必要な科目のうちの1科目である。</p> <p>AL80：指定されたテーマについて学習した成果をグループ発表し相互評価し合うことが要求される。また、司会として発表全体を調整する機会も設ける。</p>	講義 20時間 演習 10時間
	ストレスマネジメント	<p>社会に生きる私たちは、常に自分中心に物事が進み、自分だけが快適に生活することなどできないということを知っている。周囲の人々も同様であり、皆、思い通りにはならない現実と折り合いをつけながら生活している。その意味で、誰もストレスと無縁に生活することはできない。しかし、ストレスの感じ方・表出の仕方には大きな個人差があり、ストレスにうまく対処できている人もいれば、悩み続けて、本来の能力を発揮できない人もいる。</p> <p>本授業では、ストレスについての理論を学んだ上で、自己のストレスについての理解を図り、各自に適したストレス・マネジメント法を実践を通して身につける。授業で取り扱うストレス・マネジメントには、自己の内面の調整、対人関係の調整、環境の調整が含まれる。そのようなストレス・マネジメントスキルを身につけることで、地域社会において対人関係を円滑にし、個人としてのみではなく、集団としても、うまく機能できるようにすることを目的とする。</p> <p>AL80：ストレス・マネジメントについて、個人ワークと4名程度からなるグループワークを行い、実践的に学ぶ。</p>	講義 20時間 演習 10時間

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
他 学 科 目 コ ミ ュ ニ テ ィ デ ザ ィ ン 学 科 専 門 科 目 専 門 教 育 科 目	防災マネジメント I	近年、地震、津波、洪水、土石流、高潮、竜巻など過去に例をみないような自然災害が頻発している。これらの自然災害の発生メカニズム、防御・軽減対策、災害時の危機管理および災害後の復旧に向けた地域防災計画の立案・策定に必要な基礎知識を習得させる。 授業ではまず、地震、地盤、土石流、洪水、高潮、津波等の災害について、過去の災害事例を踏まえながらそれぞれの特性や発生メカニズムを解説するとともに、防災対策の基本事項を解説する。そして、災害時の危機管理の基本や災害後の復旧も視野に入れたレジリエント社会の構築について説明した後、実効性のある防災対策を進めるために持つべき視点と留意点を解説する。 AL20：各回の授業で、その授業内容に即した宿題（練習問題と疑問点・意見）を課しその日のうちに提出させる。次回授業までに提出物をチェックし、次回授業時にコメントを述べ、理解度の向上を図る。	
	流域環境学 I	河川はもとよりその流域と社会とのかかわりを、地形、治水、利水、環境などの視点から理解を深める。また実際に起こっている問題を取り上げて、クラスで討議する。 本講義では、河川工学について、地球規模から砂一粒にいたる多様な基礎事項を理解する、河川工学が取り組む具体的問題を把握し、自分の考えを述べることができる、を達成目標とする。 AL50：水文統計と断面設計について個人向けの課題を出す。また4人程度のグループに分かれて、洪水対策、水資源、河川環境、津波対策、社会的問題について討議し発表する。	
	都市計画	都市計画は、身近な日常生活の問題や社会状況と深く関連があり、我々の生活を支えるルールの一つといえる。また歴史的経過や時代の大きな変化のなかで、新しい都市計画のシステムが模索されている。本講座では、歴史的な背景に基づく都市の形成過程を学ぶとともに、近年の社会変化に伴う新しい都市計画制度や都市システムを学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (142 佐藤栄治／7回) 都市基本計画／土地利用計画／都市交通計画／都市基盤施設の計画／都市の防災計画／持続可能な都市構造／期末試験 (92 大森宣暁／8回) 都市概論／古代、中世から現代までの都市計画の歴史／公園、緑地、オープンスペースの計画と住環境計画／中間試験／都市環境の計画／被災地の住宅再建計画／都市の景観設計／福祉と都市計画 AL20：基本的な知識を講義によって習得した上で、授業ごとに小レポートを課す。そのレポートを基に受講者と議論を行い、都市の形成要因や都市を計画する手法について、知識を深める。	オムニバス方式
	地区計画	日常生活の身近な範囲である地区を主な対象として、まちづくりとコミュニティの概念の基礎的な理解をもとに、住民参加を推進するコミュニティ計画、地区計画のあり方を解説する。さらに、市街地の具体的な事例を通して計画の進め方と事業制度の根拠を学ぶ。 授業は必要に応じて資料やパワーポイントなどのAV教材を使用し、受講生の理解を促す。前半は主に資料に基づいて講義を行う。毎回、最後に講義内容について小レポートを課す。後半は、教科書の解説と宇都宮市での事例の解説を行い、課題に関するレポートを課す。 AL50：前半では毎回小レポートを行うとともに、後半の講義では毎回、講義内容の理解を促すために講義メモを配布し、記入回収する。適宜、コメントなどを記入させて、学生の理解度を確認しながら講義を進める。また、それとは別に課題レポートを課して地区計画について自身で探求をさせる。	
	高齢者防災論	心身機能が衰えてくる高齢期には、それまでにない災厄に見舞われやすくなってしまふ。災厄といっても、天災・人災から事故や犯罪などさまざまある。本科目では、高齢者をはじめとする乳幼児・障がい者ら災害弱者に対する防災について広く学び考えることで、万人の安心と安全につながる知識を得ることを目指す。具体的には、災厄の種類と特徴、安心と安全の関係、高齢者等の感覚・知覚・行動・心理の特性、日常生活での予防、罹災時の対応、罹災後のケアなどをテーマにしていく。 AL50：原則毎回、自ら考えるような小課題を出題する。さらに数回ごとにグループに分かれて、調べ学習や議論・提案発表などを行う。	
	コミュニティデザイン演習（経済政策分野）	1年次の地域コミュニケーション演習、3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに、各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には、地域の経済に関わるテーマの中で、学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見出し、文献研究と同時に現地に身を置く中で、自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読、地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。 AL80：輪読と討論を通じて、理論の理解と応用力を高め、定性・定量データを収集し分析し報告するための手法を身に付ける。	
	コミュニティデザイン演習（文化マネジメント分野）	1年次の地域コミュニケーション演習、3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに、各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には文化事業に関わるテーマの中で、学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見出し、文献研究と同時に現地に身を置く中で、自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読、地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。 AL80：輪読と討論を通じて、理論の理解と応用力を高め、定性・定量データを収集し分析し報告するための手法を身に付ける。	
	コミュニティデザイン演習（地方自治分野）	1年次の地域コミュニケーション演習、3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに、各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には地方自治に関わるテーマの中で、学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見出し、文献研究と同時に現地に身を置く中で、自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読、地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。 AL80：輪読と討論を通じて、理論の理解と応用力を高め、定性・定量データを収集し分析し報告するための手法を身に付ける。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コミュニティデザイン学科専門科目	主題探求科目群	コミュニティデザイン演習（農村マネジメント分野）	1年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には農業・農村の社会と経済に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。 AL80：輪読と討論を通じて，理論の理解と応用力を高め，定性・定量データを収集し分析し報告するための手法を身に付ける。
		コミュニティデザイン演習（地域生態学分野）	1年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には地域のランドスケープや生態系サービスに関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。 AL80：輪読と討論を通じて，理論の理解と応用力を高め，定性・定量データを収集し分析し報告するための手法を身に付ける。
		コミュニティデザイン演習（食生活学分野）	1年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には食生活学に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。 AL80：輪読と討論を通じて，理論の理解と応用力を高め，定性・定量データを収集し分析し報告するための手法を身に付ける。
		コミュニティデザイン演習（まちづくり分野）	1年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には住民主体のまちづくりに関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。 AL80：輪読と討論を通じて，理論の理解と応用力を高め，定性・定量データを収集し分析し報告するための手法を身に付ける。
		コミュニティデザイン演習（公共マネジメント分野）	1年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には公共性の高いプロジェクトの計画・管理・評価などに関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。 AL80：輪読と討論を通じて，理論の理解と応用力を高め，定性・定量データを収集し分析し報告するための手法を身に付ける。
		コミュニティデザイン演習（公共政策分野）	1年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には地域の政治に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。 AL80：輪読と討論を通じて，理論の理解と応用力を高め，定性・定量データを収集し分析し報告するための手法を身に付ける。
		コミュニティデザイン演習（社会教育分野）	1年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には社会教育に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。 AL80：輪読と討論を通じて，理論の理解と応用力を高め，定性・定量データを収集し分析し報告するための手法を身に付ける。
		コミュニティデザイン演習（福祉社会学分野）	1年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には福祉社会学に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。 AL80：輪読と討論を通じて，理論の理解と応用力を高め，定性・定量データを収集し分析し報告するための手法を身に付ける。
		コミュニティデザイン演習（心理学分野）	1年次の地域コミュニケーション演習，3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに，各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には心理学に関わるテーマの中で，学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見出し，文献研究と同時に現地に身を置く中で，自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読，地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。 AL80：輪読と討論を通じて，理論の理解と応用力を高め，定性・定量データを収集し分析し報告するための手法を身に付ける。

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 コミュニティデザイン学科専門科目 主題探求科目群	コミュニティデザイン演習（観光地理学分野）	1年次の地域コミュニケーション演習、3年次の地域プロジェクト演習などにおいて養った理論的な知識と実践的な能力をもとに、各担当教員の専門分野における少人数による演習形式の授業を行う。具体的には観光および地理学に関わるテーマの中で、学生が課題を実際の現場との関わりにおいて見出し、文献研究と同時に現地に身を置く中で、自ら設定した課題の解決を目指す。関連文献・理論の輪読、地域調査・分析の方法など実践的な理論と手法に関する知識・技術を深める。 AL80：輪読と討論を通じて、理論の理解と応用力を高め、定性・定量データを収集し分析し報告するための手法を身に付ける。	
	外国語文献講読	地域に関わる英語の文献を講読し、専門的な知識を深めるとともに、関連する専門英語の知識を深める。対象とする教材は各担当教員が選定することで、教員の個性や問題意識が反映された形での文献講読を行う。また、対象とする外国語文献についても書籍、新聞、資料、報告書といったように統一・限定しないものとする。また、対象とする内容についても狭義の地域に限定しない。英字新聞の解説を教材とした場合の題目には、たとえば、“The Japan Times Weekly”掲載の”Hamas is asking for trouble””Putin’s game inUkraine””Flawed vetting system””U.S. renews involvement in Iraq amid crisis”などが挙げられる。 AL50：グループのメンバーが協力し合いながら正確に訳していく。その際、教員は各グループを回りながら、質問に回答する。授業の終盤には各グループのまとめの報告を行う。	
	卒業研究準備演習	卒業研究に結びつく研究テーマの絞り込みを目的として、学生は地域の課題または教員の研究テーマから主指導教員1名を選択し、その指導の下で、自己の興味関心に関連した文献収集、先行文献の整理、現場視察、関連する統計資料の収集と整理などを本格的に行う。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化する力を養う。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行う。上記の事柄に必要な外国語や情報科学の習熟も目指す。 AL80：グループ討論、現場視察、統計資料の統計処理など実践的な学びを行う。	
	卒業研究	専門分野に関する創造的な学修・研究活動を行い、専門知識・技術の実践的な応用力を培うことを目的とする。具体的には、学生が自ら研究テーマを設定し、そのテーマに基づいて、先行研究の整理、関連する理論的検討を重ね、フィールド調査、定性・定量データの収集と解析、分析結果のまとめ、提言等の作業を総体として行う。学部学生の集大成である卒業論文の完成を目指して毎回の指導で段階的に文章を書き上げる形で進めていく。コミュニティデザインの領域において、各自が設定したテーマについて、現場での調査や文献研究を徹底的に掘り下げつつ行う。 AL80：グループ学修、フィールドでのアンケート調査、データの解析と結果のまとめ、提言の発表などを行う。	
	リフレクション	4年間の学修を省察し、自らの学びの軌跡をまとめながら、基盤教育・専門教育で培った学生個人の能力を確認する。学生は、ポートフォリオの集約を基に内容をまとめ、最終的にはポスター発表する。 AL80：教員の支援のもと、学生が主体となって振り返りを行い、自らの学びの軌跡をまとめる。発表は公開し、多くの人の評価を得るようにする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目	初期導入科目 新入生セミナー	<p>大学における学修を進めるにあたり、その基礎となるさまざまなスキル（予習・復習、レポート作成、図書の利用、ICTなど）について習得するとともに、専門への導入として、建築分野に関して、その成立の基礎となる社会や経済とのかかわり、都市や地域とのかかわり、建築の発展とその技術的裏づけ、技術者としての倫理などについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 佐藤栄治/3回) ガイダンス・学修スキル、都市と建築、まとめ (1 三橋伸夫/1回) 地域社会と建築 ※平成29年度以降は10 佐藤栄治が(地域社会と建築/1回)を担当する。 (2 郡 公子/1回) 居住環境と建築 ① 増田浩志/1回) 災害と建築 (5 杉山 央/1回) 建設材料と建築 (3 中島史郎/1回) 地球温暖化と建築 (7 横尾昇剛/1回) 地域エネルギーと建築 (6 古賀誉章/1回) 人間と建築 (8 安森亮雄/1回) 芸術と建築 ② 中野達也/1回) 構造技術と建築 (11 藤本郷史/1回) 廃棄物と建築 (12 糸井川高穂/1回) 環境制御と建築 (13 中島昌一/1回) 木材と建築</p> <p>AL50: 授業ごとに、前半は講義をして、後半は講義内容に関するグループディスカッションとレポートの提出を課す。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>講義 20時間 演習 10時間</p>	
	リテラシー科目	Integrated English I A	<p>(英文) Classes will be conducted in English, twice a week by the same instructor to the same students. Students are always expected to use English in class. Although both sections are aimed at developing integrated skills, one is mainly focused on reading skills, while the other is focused on listening and speaking skills using authentic language from movies.</p> <p>In the first stage of the class, students will acquire the study skills necessary for success in English studies. Students will be provided guidelines for efficient use of a dictionary, reading and using English handwriting, understanding phonetic transcriptions, taking notes, etc.</p> <p>In the reading section, students will develop the skills necessary to use professional journals, books, websites, and other media in order to conduct academic research after advancing to their major area.</p> <p>In the section using movies, students will develop oral communication skills. They will also be introduced to various foreign cultures through these movies in order to promote intercultural understanding.</p> <p>(和訳) 授業は全て英語で行う。はじめに辞書の使い方、筆記体の読み書き、発音記号、ノートの取り方など英語学習の基本を解説。総合的な英語力を伸ばすため、リーディング、リスニング&スピーキングに重点を置く。リーディングの授業では専門課程での研究に備えて学術雑誌、専門誌、書籍、ウェブサイトやその他の媒体の読み方を学び、リスニング&スピーキングの授業では映画を使って「生の英語」に触れ、会話の力を向上させると同時に、映画が発信する様々な異文化への理解を深める。</p>	
	リテラシー科目	Integrated English I B	<p>(英文) Students will be able to: (1) use a full range of explicit and implicit communication strategies (questioning, repetition, clarification, etc.) to improve speaking fluency and listening abilities, (2) discover unspecified facts and inferred meaning as they develop their own opinions about topics and situations, (3) speak the target language relatively fluently by identifying and using a substantial range of real world vocabulary and a variety commonly used idiomatic expressions, (4) use a variety of structures with few grammar errors, although communication breakdowns may occasionally occur, (5) recognize and practice native-like pronunciation patterns to make communication clear, and (6) develop and organize written language using a wide variety of structures to support and prepare for functional communication.</p> <p>(和訳) この授業は以下の能力の修得を目指す。(1) 直接的、間接的なコミュニケーション戦略(質問、反復、説明)を使って流暢に会話し、(2) 話題や状況に対する自分の意見を持ち、明記されていない事柄や隠された意味を推測でき、(3) 広範囲な口語表現や慣用句を理解し使うことができ、(4) 文法的な間違いが多少あっても、誤解を招くような大きな間違いなしに多様な文章構造で表現でき、(5) ネイティブの発音パターンを聞き取り、同じように発音でき、(6) 複雑な構文を使って実践的な文を書き文章を編集できる。</p>	
リテラシー科目	Integrated English II A	<p>(英文) Classes will be conducted in English, twice a week by the same instructor to the same students. Students are always expected to use English in class. Although both sections are aimed at developing integrated skills, one is mainly focused on reading skills, while the other is focused on listening and speaking skills using authentic language from movies.</p> <p>In the reading section, students will develop the skills necessary to use professional journals, books, websites, and other media in order to conduct academic research after advancing to their major area.</p> <p>In the section using movies, students will develop oral communication skills. They will also be introduced to various foreign cultures through these movies in order to promote intercultural understanding.</p> <p>(和訳) 授業は全て英語で行い、週に2回同じ教員が担当する。総合的な英語力を伸ばすために、リーディングとリスニング&スピーキングに重点を置いた授業をする。リーディングの授業では専門課程での研究に備えて、学術雑誌、専門誌、書籍、ウェブサイトやその他の媒体の読み方を学ぶ。リスニング&スピーキングの授業では映画を使って「生の英語」に触れ英語を話す力を伸ばすと同時に、映画が発信する様々な異文化への理解を深める。</p>		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤 教育 科目	リ テ ラ シ ー 科 目	Integrated English II B	(英文) Students will be able to: (1) use a full range of explicit and implicit communication strategies (questioning, repetition, clarification, etc.) to improve speaking fluency and listening abilities, (2) discover unspecified facts and inferred meaning as they develop their own opinions about topics and situations, (3) speak the target language relatively fluently by identifying and using a substantial range of real world vocabulary and a variety commonly used idiomatic expressions, (4) use a variety of structures with few grammar errors, although communication breakdowns may occasionally occur, (5) recognize and practice native-like pronunciation patterns to make communication clear, and (6) develop and organize written language using a wide variety of structures to support and prepare for functional communication. (和訳) この授業は次のことを目的とする。(1) 直接的、間接的なコミュニケーション戦略(質問、反復、説明)を使って流暢に会話できる。(2) 明記されていない事柄や隠された意味が推測でき、話題や状況に応じた自分の意見を展開できる。(3) 広範囲な口語表現や慣用句を理解し、使うことができる。(4) コミュニケーションがうまくいかない場合が時折あっても、多様な文章構造を使い文法的な間違いをほとんど犯さずに表現できる。(5) ネイティブの発音パターンを聞き取り、同じように発音できる。(6) 様々な構文を使って実践的な文を書き、編集できる。
		Advanced English I (Intensive Reading)	(英文) This is an intermediate to advanced integrated course with the primary focus on reading in English. In this course, students will learn reading skills by reading newspaper articles. (和訳) リーディングを重視した中・上級向けの総合英語コースで、新聞の記事や論説を読むことで読解力をつける。
		Advanced English I (Pleasure Reading)	(英文) This course aims at developing reading skills by reading English extensively and enjoyably. The course consists of two sections: One is the classroom activities — using a textbook, the students learn how to read fast and get the ideas of the contents quickly. The other is the reading lab activities — The EPUU reading laboratory has some 5,000 English graded readers: The students are to check out those books, and read a large number of books assigned to each student according to his/her reading ability. (和訳) このコースは楽しみながら多くの本を読むことで読解力の向上を目指す。授業の中では英文をさっと読んで内容を把握する練習を行う。さらに受講生はEPUUリーディングラボに蔵書された5000冊のgraded readers(英語学習者の語彙レベルに合わせた本)の中から自分の英語力に合わせた本を大量に借りて読むことになる。
		Advanced English I (Academic Writing)	(英文) Students employ a process writing approach using a number of writing formats to gain the skills needed to progress towards writing academic papers. (和訳) フォーマットを使ったプロセス・ライティングアプローチを学び、研究論文を書ける英語力をつける。
		Advanced English I (Essay Writing)	(英文) Students practice using a process approach to essay writing in English. (和訳) プロセス・ライティングアプローチを練習し、小論文を書ける英語力をつける。
		Advanced English I (Public Speaking)	(英文) Students focus on speaking and organizational skills for use in front of an audience. (和訳) 聴衆を前に話すスキルや、その内容を構成するスキルに焦点をあてる。
		Advanced English I (Presentation)	(英文) Students focus on organizational and speaking skills to give clear and effective presentations. (和訳) プレゼンテーションを効果的にするための構成や話し方のスキルに焦点をあてる。
		Advanced English I (Discussion&Debate)	(英文) Students focus on speaking and organizational skills for discussions and debates. (和訳) ディスカッションやディベートで話すスキルや、その内容を構成するスキルに焦点をあてる。
		Advanced English I (Speech Clinic)	(英文) Students focus on improving English pronunciation and listening skills. (和訳) 英語の発音とリスニングの上達に焦点を置く。
		Advanced English I (Vocabulary Building)	(英文) Students increase their ability to use the most common vocabulary for reading and speaking English. (和訳) 英語を「読む」「話す」際に使用頻度の高い語彙を使う能力を高める。
		Advanced English I (Communicative Grammar)	(英文) This is an advanced integrated course with the primary focus on English grammar. More specifically, students learn how to identify, analyze, and use phrasal verbs and other multi-word verbs in English. (和訳) 文法に焦点をあてた総合英語のアドバンスコース。具体的な目標としては、句動詞や多語動詞をマスターする。
		Advanced English I (Media English)	(英文) Students use authentic English materials from various media to practice reading, writing, speaking, and listening. (和訳) 新聞、テレビ、WEBなど様々な媒体で入手した正しい英語で書かれた資料を使って、その英語を読み、書き、話し、聴き取れるよう練習する。

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	リテラシー科目	Advanced English I (Cinema English)	(英文) In this course, using a movie as a learning material, students will improve their oral communication abilities, and deepen intercultural understanding. (和訳) 映画視聴によって受講生の会話をUPさせ、異文化理解を深める。
		Advanced English I (TOEIC)	(英文) Students practice higher level listening and reading strategies for success when taking TOEIC. (和訳) リスニングとリーディングを強化してTOEICテスト高得点を目指す。
		Advanced English I (TOEFL)	(英文) Students practice strategies for success on the TOEFL iBT Speaking Section. (和訳) TOEFL iBTのスピーキングセクション強化対策。
		Advanced English I (EAP)	(英文) Students study the discipline of Community in English (和訳) コミュニティ学を英語で学ぶ。
		Honors English A	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力を身につけて、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English B	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力を身につけて、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English C	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力を身につけて、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English D	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力を身につけて、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English E	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力を身につけて、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English F	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力を身につけて、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English G	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力を身につけて、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English H	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力を身につけて、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors Camp A	(英文) Students will do individual and group research before the camp. At the camp they will work in groups, presenting and sharing their information and opinions. After the camp they will turn in academic papers based on their research and conclusions. (和訳) キャンプ前に受講生は個別にそしてグループで研究を行う。キャンプではグループの中でお互いの情報や意見を共有する。キャンプ後に結果を論文にまとめて提出する。
		Honors Camp B	(英文) Students will do individual and group research before the camp. At the camp they will work in groups, presenting and sharing their information and opinions. After the camp they will turn in academic papers based on their research and conclusions. (和訳) キャンプ前に受講生は個別にそしてグループで研究を行う。キャンプではグループの中でお互いの情報や意見を共有する。キャンプ後に結果を論文にまとめて提出する。
Honors Camp C	(英文) Students will do individual and group research before the camp. At the camp they will work in groups, presenting and sharing their information and opinions. After the camp they will turn in academic papers based on their research and conclusions. (和訳) キャンプ前に受講生は個別にそしてグループで研究を行う。キャンプではグループの中でお互いの情報や意見を共有する。キャンプ後に結果を論文にまとめて提出する。		

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎教育科目	リテラシー科目	Honors Camp D	(英文) Students will do individual and group research before the camp. At the camp they will work in groups, presenting and sharing their information and opinions. After the camp they will turn in academic papers based on their research and conclusions. (和訳) キャンプ前に受講生は個別にそしてグループで研究を行う。キャンプではグループの中でお互いの情報や意見を共有する。キャンプ後に結果を論文にまとめて提出する。	
		Overseas Study A	英語圏の大学や英語学校等における学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当と思われる単位数を授与します。各個人で手続きをして学修してきた場合と、EPUU 主催の短期語学研修の場合の、両方を対象としています。	
		Overseas Study B	英語圏の大学や英語学校等における学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当と思われる単位数を授与します。各個人で手続きをして学修してきた場合と、EPUU 主催の短期語学研修の場合の、両方を対象としています。	
		Overseas Study C	英語圏の大学や英語学校等における学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当と思われる単位数を授与します。各個人で手続きをして学修してきた場合と、EPUU 主催の短期語学研修の場合の、両方を対象としています。	
		Overseas Study D	英語圏の大学や英語学校等における学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当と思われる単位数を授与します。各個人で手続きをして学修してきた場合と、EPUU 主催の短期語学研修の場合の、両方を対象としています。	
		スポーツと健康	(バレーボール) (222 吉野 聡) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。バレーボールを楽しむ上で、個人的な基礎技能の修得は必須です。そのため、授業の前半はアンダーハンドパス・オーバーハンドパス・サーブ及びサーブレシーブ・スパイク・ブロック等に関する基礎的個人技能の修得を中心に進めます。こうした個人技能の修得を前提に、後半では受講者数に応じたチーム編成を行い、リーグ戦によるチーム戦術の修得を中心に進めます。また、バレーボールを行う上での戦術・ルール・基本的な体力トレーニング法等についても、講義・演習形式で、授業の中に適宜取り入れて行く予定です。	
		スポーツと健康	(フライングディスク) (199 花園 賢一郎) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。屋外ではフライングディスクに関連するゲームを行いません。ディスクを操作する(投げる・受ける)技能を身につけ、コンビネーションプレーや戦術(作戦)を考え、ゲームではパフォーマンスを向上させ、楽しんで行なうことができるようになることをめざします。屋内(雨天時)では、体力トレーニング、ストレッチ等で体調維持に努め、また、種々のフライングディスク競技の説明、ルールや戦術の解説を行いません。	
		スポーツと健康	(サッカー) (184 石川 栄壽) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。サッカーの経験者であるとか、サッカーをしたことがないとかは関係ありません。ゲームを中心にレベルに応じた授業をします。	
		スポーツと健康	(サッカー) (181 村上 修) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。サッカーの経験者の有無は関係ありません。時間があればサッカーの試合をたくさん観て下さい。	
		スポーツと健康	(ソフトボール) (218 名古屋 光彦) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。競技の特徴や基本的技術を学んだ後に試合を実施します。また、楽しく円滑に試合を進めるためにスローピッチの特別ルールを取り入れ試合を行います。	
		スポーツと健康	(ソフトボール) (252 小倉 圭) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。競技の特徴やルール、基本的技術を学び、段階的な練習により技能の修得を図ります。さらに、課題練習やゲームを通して、他者と積極的にコミュニケーションをとり、仲間と協同して課題解決に取り組む能力養成を目指します。	
		スポーツと健康	(テニス) (251 石井 幹人) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。初心者には、簡易ゲームを発展していく展開を通して基礎技術を修得し、ダブルスゲームを行えるようになります。経験者は、毎授業の前半は初心者指導法を学習し、後半は技能向上のためのゲーム練習に取り組みます。また、ルール、審判法や体力トレーニングなどは講義・演習形式で適宜取り入れま。なお、雨天時は講義やVTR教材等による学習を行います。	

授 業 科 目 の 概 要					
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
リテラシー科目	情報処理基礎	情報化社会において共通に持つべき情報リテラシーの修得を図る。具体的には、ウェブ、電子メール、オフィス系ソフトウェアの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、本学の総合メディア基盤センターのコンピュータおよびネットワーク環境について、実習を主とした授業形式で学習する。 AL80：毎回、総合メディア基盤センターのパーソナルコンピュータ（PC）を実際に操作し、課題を提出させる。授業中に操作方法や課題内容について教員やティーチングアシスタントに質問・意見交換する。			
	とちぎ終章学総論	2025年から日本は超高齢社会となり、65歳以上の高齢者が国の総人口の30%を超えると予想されている。今後ますます様々な環境において高齢者と共に生きる社会になる。そこで、高齢者に関する課題を自らの問題として捉え、高齢者と共に生きるため、また、自分自身も豊かな終章を生きるための知識について学ぶ。 「とちぎ終章学」という言葉には、人生の最後の時期を困難や苦しさの中で過ごしていくのではなく、どのように豊かに、幸せに暮らしていくのかという問いと、栃木県の地域課題である高齢化をポジティブに捉え直していくという願いが込められている。	講義 5時間 演習 10時間		
基盤教育科目 人文科学系科目	哲学領域	西洋思想	「西洋」「近代」思想が現代社会に与えてきた影響は、宗教、政治、経済、科学技術等々の多方面において無視できない多大なものがある。本講義では、「西洋とは何か」「思想とは何か」という大前提を問い、次に、古代ギリシャから現代思想にいたるまでを概観した上で「近代」に着目し、「科学」と「自由」をキーワードに、「西洋思想」の本質およびその問題点を探る。先人たちの思想と我々のそれとの比較および影響について考えながら、現代社会が抱える具体的諸問題（環境問題、先端医療技術にまつわる倫理問題）にも言及する。		
		現代思想	「現代思想」という名のもとに包括される現代の様々な思想を概観する。概観を通じて「現代思想」の特性を検討し、どのような点で近代の思想などと異なるのかを考える。こうした作業を通じて、私たちが生きる現代の思考様式がいかなるものであるのかを学ぶ。		
	人文科学系科目	東洋思想	過去の日本人がどのようなことを考え、想ってきたかを考察する。本授業は狭義には日本思想史、つまり歴史的な「日本の思想」だが、基本的に日本の人たちが参照してきたものは、儒教や仏教といった「東洋」のテキストであったため、「東洋思想」と直結する。 東日本大震災は、私たちに多くの問いを投げかけた。それらに少しでも応えられるように、私たちがその社会を培ってきた思想的背景を、できるだけ広く学び、そこから確かに繋がっている「今」の自分の「思想」を見直したいと思う。		
		論理学	この講義では「どのようにして論理的思考をおこなうか」を学ぶと共に、論理的に思考する能力を向上させる練習を行います。論理的思考は、与えられた情報の相互関係の正しさを評価しながら、情報を分析・総合する過程に存します。この過程が具体的にどのようにおこなわれるか、また、この過程をどのように自分自身が実行すればよいのかを学ぶのに最も適した題材として「自然演繹」と呼ばれる形式体系の推論規則について学びます。		
		西洋の倫理思想	自己の生を、どうすれば肯定することができるだろうか。本講義では、「生」の問題に関する倫理学的な背景を踏まえながら、人間一般ではなく、個人（単独者、超人）の生＝「一つの生」について考えたスピノザ、ニーチェ、ドゥルーズなどの議論を概観することで、西洋の倫理思想における最も重要で根本的な問題である「生」について考える。特に〈善/悪〉と〈よい/わるい〉との違い、精神と身体の並行論、遠近法主義、自由意志批判（無意志主義）について検討します。		
		科学思想史	科学の歴史的発展には、科学方法論、すなわち「科学研究はどのような手続きによって進められるべきか」という問題に関する反省的思考の発展が伴ってきた。科学的方法論の歴史的展開を通して科学的思考を反省的に分析する視座について講義する。		
		東アジアの宗教と文化	東アジアの社会において、宗教はどのような役割を担ってきたのであろうか。本講義では、特に中国に焦点を当て、その宗教、文化に関する基本的な知識を紹介する。授業の中では、中国南部や台湾、香港でのフィールドワークの成果に基づく具体的な文化事例を示し、多角的な視点から中国における伝統社会と宗教との関係を示したい。		
		仏教における人間形成論	仏教は基本的に人生を苦と捉える宗教であり、世俗的な成功や幸福の価値を否定する。そのような思想に強く影響された社会で、人間がいかに自己を形成し、自分の生き方に納得していくかを、仏陀自身およびインド・中国・日本の高僧や信者の事例をもとに考える。		
		心理学領域	認知心理学入門	私たちの行動の背景には、自覚することが難しいにもかかわらず大きな影響力を持つさまざまな心理的要因が関与しています。この授業では、認知心理学の研究成果を紹介しながら、このような心理的要因のいくつかについて考えます。	
			行動心理学入門	行動心理学における種々の領域について講義を行い、行動心理学という領域の大枠や、研究例を紹介いたします。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目	心理学領域	実験心理学入門	本講義では、心理学の基礎領域における実証科学的な実験法の解説を行います。さらに、各実験計画について具体例を挙げながら説明し、心理学の研究がどのように行われるかを概観していきます。	
		発達と学習の心理学	現代社会では子どもへの教育が重視され、その中で、子どもの心を理解することが不可欠となっています。それと同時に、大人自身の心を客観的に捉えることができることも重要となっています。本授業では、人間が成長する過程における発達と学習に関する知見を提供し、自らが学び、考え、成長する態度を養えるよう基礎的知識を概説します。	
		パーソナリティ心理学概論	本授業では、心理学がパーソナリティ（日本では、「性格」「人格」と表現されることが多いが、アカデミックには「パーソナリティ」という用語が定着している）をどのように捉えているのかについていくつかの代表的立場の考え方について学び、パーソナリティの形成に関わる生物学的・心理社会的要因にはどのようなものがあるか、パーソナリティをどのように測るのか、パーソナリティは変わるのか、といったテーマに関して、これまでに蓄積されている知見に触れる。	
		障害者心理学	障害全般の特徴を理解し、彼らが抱える心理的問題を学習する。	
		子どもの言語とコミュニケーション入門	ここでは、子どもとの教育的係わり合いを念頭において、子どもの言語とコミュニケーションに関わる種々の問題について検討する。	
		心理学と人権	人権問題発生の原因となる心理学的要因である偏見と差別の問題について講義する。	
		言語習得論	本授業では、母語や外国語がどのように習得されるのか、そのプロセスとメカニズムについて主に言語心理学／心理言語学的観点から概説します。	
	文学領域	日本文学（古典）	上田秋成が著した怪異小説集『雨月物語』（1776年刊、全9篇）を、現代語訳を併用しながら原文で読み解きます。作者の秋成が語りの技術を駆使した作品ですので、細部の表現や構成に十分注意をしながら考察していきます。	
		日本近代文学講読	夏目漱石の論説を読み、作家に関する知識を深めるとともに、考察力を養成する。夏目漱石の関西での講演を主たる教材とし、その近代日本への懐疑の言葉を通して、漱石の思想を読み解く。漱石の短編小説も扱う予定。	
		中国文学	この授業では、新時期文学の河北省の作家・鉄凝(1957～)の3篇の代表的中篇小説を觀賞します。文革後期に河北省で作家活動を始めた鉄凝は、華北大地の自然とそこに暮らす人びとの生活を、時に荒々しいほどに力強く、時に心打ち震えるような細やかな筆致で描いています。中国現代史における中国の農民たちの悲喜交々の想いが、また中国と日本との抜き差しならない深刻な関わりが、そして市場経済下の人びとの欲望と不安の渦巻く世界が、読者の心に忘れがたい版画や映画のシーンのように深く刻まれることでしょう。	
		韓国文学	韓国文学とは一体何なのか。韓国文化・韓国人の精神世界はどのようにして形成されたのか。「純愛」「子供」「恨」「動物」「愚者」「道」「悪女」「帰郷」「知識人」「戦争」「越境」といったテーマを通して韓国文学のルーツをたどりませう。	
		フランス文学	文学のみならず多岐に渡り学びます。	
		比較文学	比較文学の歴史や研究方法、各国の文学動向を概観しつつ、西歐文学と深くかわりながら発展してきた日本の近代文学が、韓国や中国、台湾といった東アジア地域の近代文学の形成過程に大きな影響を及ぼした事実を明らかにします。と同時に、韓国近代文学の成立過程に深い影響を与えた日本近代文学の知られざる側面を浮き彫りにします。	
		ロシア文学	近くて遠いロシアの文学を通して、この国の人びとの暮らしや文化に理解を深めることを目指す。明治以来、われわれ日本人がこよなく愛してきたロシア文学の代表的な作品（トルストイ、ストエーフスキイ、チェーホフ、プリーシヴィンその他）を題材に、時代背景、芸術思潮をふまえながらロシア文学史を学ぶ。歴史に、民俗文化と（ソヴェート文化）なるものを重ね合わせて、この民族にとって二十世紀とは何だったのかを考える。	
英文学入門	短編小説の作品を読みながら、作品の構成、表現の特質、修辞法、作者の特質、時代背景について調べます。同時に、英文学の特質について、講義も行います。			
米文学入門	米文学への入門として、20世紀を中心に主要な小説について概説する。			

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目 人文科学系科目 芸術領域	ヨーロッパ地域文化論	ヨーロッパの文化・芸術を形成する様々な側面について広く学ぶ。とりわけ、旧来のハイ・アートには含まれないロウ・アートに注目する。教員が研究の対象としているイギリスが軸となる。	
	現代美学	近代以降とくに、美学は他の学問領域の成果を取り入れつつ、美的経験について考察を重ねてきた。美学の現代的な動向を踏まえつつ、ますます多様になってきた“芸術”のあり方について検討する。	
	芸術学	芸術作品を理解するために、これまでいくつかの方法論が誕生してきた。この授業では、こうした方法論を用いて、芸術作品を多角的に分析していく。また、時代とともに、芸術という概念がどのように変遷してきたのかを振り返り、現代における芸術のあり方について検討していく。	
	芸術と自然	芸術の創作活動の中で、自然がいかに取り扱われてきたのか、あるいは自然の中いかに芸術が取り込まれてきたのかについて、庭園と絵画を中心に学ぶ。	隔年
	音楽通論	芸術の評価や鑑賞のための基本を身につけるために、音楽の仕組みに関する基本的事項を学ぶ。	
	声楽の魅力	世界には様々な「声」による芸術があります。本科目では、その中から特に西洋クラシック音楽の発声を用いた声楽に焦点を当てて、その魅力に迫ります。特徴のある作品や楽曲の鑑賞を通して、それぞれの音楽表現の違いに触れながら、その魅力がどのような要素から成立しているのかについて考えます。	
	器楽合奏概論	様々な合奏の形態と楽器の知識について理解する。	
	管打合奏演習	吹奏楽器（管楽器・打楽器群）構造とその奏法を理解し管打合奏の基本を修得する。また、演奏を通じて社会に対してどのように貢献していくか探求する。	
	日本文化A	中世以来、現代まで受け継がれている能は世界遺産にもなっている日本の代表的な伝統芸能である。能を通して、日本の伝統的な音声と身体所作の特性について学ぶ。	
	日本文化B	中世以来、現代まで受け継がれている能は世界遺産にもなっている日本の代表的な伝統芸能である。能を通して、日本の伝統的な音声と身体所作の特性について学ぶ。	
	美術表現基礎	教育学部で開設している「デッサン」や「立体構成」といった授業の入門編として、美術における対象物の「見方・捉え方」を修得し、その「見方・捉え方」をもとに、自分の考えを作品として具現化する美術表現について理解を深める事を目指します。前半を平面表現（絵画）、後半に立体表現（工芸）に焦点をあてて、演習課題を取り入れながら学修していきます。 (オムニバス方式／全15回) (86 松島さくら子・146 株田昌彦／1回) (共同) ガイダンス (146 株田昌彦／7回) 課題1 描く上での「見方」とは、デッサンについて、デッサンと絵画、課題① 簡単なスケッチ（風景）、スケッチの仕上げ・講評、課題② 簡単なデッサン（自然物）、デッサンの仕上げ・講評 (86 松島さくら子／7回) 課題③「陶による立体造形」（テーマあり）説明と立体素材の表現と加工について、テーマに沿ったアイデアスケッチ、陶土の扱いと加工方法、陶土による成形、素焼き・絵付けと施釉、本焼き、仕上げ	オムニバス方式 共同 講義 10時間 演習 20時間
	近現代美術論	広範なジャンルの作品を取り上げ、近代および現代の美術について考察する。批評的言説、美術史、芸術学、美術理論、さらには作家論、作品論なども交え、今日のアートを読み解く。 (オムニバス方式／全15回) (56 梶原良成・136 本田悟郎／1回) (共同) ガイダンス(授業計画、授業方法等の説明) (56 梶原良成／7回) 美術における近現代／芸術と技術の統一 バウハウスとグロピウス、ミース・ファン・デル・ローエ／装飾から機能・合理主義へ ル・コルビュジエ／先導的な実験場オランダ デ・ステイル／社会創造のための美術へ ロシア・アヴァンギャルド／フランク・ロイド・ライトとアメリカ・ミッドセンチュリー／ポストモダニズム以降と現在・未来 (136 本田悟郎／7回) 近現代美術概観／表現主義・キュビズム・抽象／ダダとシュルレアリスム／アヴァンギャルドとモダニズムの理論／抽象表現主義・ミニマルアート・アースワーク／大衆文化と芸術（ポップアート）／現代美術の諸概念（社会的テーマ、物語性、身体性、他者性）	オムニバス方式 共同

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目 人文科学系科目 人文総合領域	多言語コミュニケーション学A	世界を見渡せば日常的でありふれたことだとさえ言える多言語を用いた意思疎通を、授業の中で実践してみます。多言語状況では、発音や文法の正確さよりも意思疎通の実現が目指されます。ここでは不完全な言語運用能力も工夫ひとつで非常に役に立つのであり、そうしたことを教室活動とおして実体験していただきます。	
	多言語コミュニケーション学B	世界を見渡せば日常的でありふれたことだとさえ言える多言語を用いた意思疎通を、授業の中で実践してみます。多言語状況では、発音や文法の正確さよりも意思疎通の実現が目指されます。ここでは不完全な言語運用能力も工夫ひとつで非常に役に立つのであり、そうしたことを教室活動とおして実体験していただきます。	
	日本語の表記	私たちは日常的に日本語で読み書きを行っています。書かれたテキストを通してコミュニケーションができるのは、日本語表記についてのルールを共有しているからです。この授業では、私たちがすでに身につけている日本語表記のルールがどのようなものなのかをあらためて考えます。また、ルールが形成された歴史的な背景も学ぶことにします。	
	論理表現の技術	大学での学びに必要な、論理的文章の書き方の基礎を修得する。具体的には、①短文で書く練習、②情報を取り出し言語化する練習、③情報を整理して表す練習、④根拠を伴った「論証文」を書く練習、の4段階に分けて行う。	
	Japanese Communication Arts	(英文) In this course, we will explore various aspects of Japanese Communication Arts. This course will introduce different communication styles, which are crucial for successfully functioning in Japanese society. Japanese has a set of discourse styles, or registers that can seem complex to newcomers. We will look at the styles of speech used in personal versus public situations, by men and by women, by old people and young people, in a way that will help clarify the differences and offer you a window into Japanese culture. In addition to presenting the different styles, the class will help you situate them in terms of Japanese history, society, culture and education. (和訳) 日本語のコミュニケーションの様々な側面を探索するコースです。日本社会で円滑に生活するため、多様なコミュニケーションスタイルを学修します。日本語の初心者にとっては難解な文体や使用域の違いを、場面（公的な場面か私的な場面か）や話者（男性か女性、年配者か若者か）という視点で解説し、日本文化理解の扉を開きます。授業ではコミュニケーションスタイルの違いを歴史的、社会的、文化的、教育的背景と関連づけて考えます。	
	ことばから見た人間	「ことば」に対する言語学的（科学的）な接近法の初歩を学び、その視点から人間の有様や営みの諸相について考察する。	共同
	社会言語学概論－日本語の変遷－	全学生対象の、社会言語学の基礎を学ぶ授業です。社会言語学とは何かを学び、日本語が変わっていく面白さについて考えていきます。	
	生涯学習概論	教育そのものを根底から問い返すという問題意識を常に背景に置きながら、「生涯学習」が、どのように理解され、どのようにして実践されるべきかについて、受講者自身が考えていけるように講義する。なお、本科目は、国際・教育・農・工学部の教養科目でもある。	
	成人教育と参加型学習	成人学習者の特徴および教育方法について理解を深め、他者と関わりながら生涯にわたって主体的に学ぶ意欲を喚起する。さらに、学部を問わず他の授業にも役立つ参加型学習の手法（アイデアを考える、プレゼンテーション等）も学ぶ。	
	教育の裏側に光を当てる	教育にまつわる極めて実際のトピックであるにも関わらず、学校教育では真正面から扱われることの少ない事柄をあえて俎上に載せ、徹底的な討論をさせることで、受講生が受けてきた教育をより広い視点から捉えさせ、固定観念を乗り越えてあらたな社会を切り拓く力を身につけさせることを志向するアクティブ・ラーニング科目である。	
	生活美学	わたしたちの美学を藝術に限定することはない。授業では、日常的な文化を個々の感性的な観点、あるいは実践的な視点から美（醜を含む）を観照する「日常（所作）の実践哲学」をお伝えし、共有していきたい。日常の何気ないモノやコト、そしてヒトとの交わりのうちに美を見出し、これらを自らの言葉で客体化し共有して行く、いわば「和文化コミュニケーション」である。	
	ものと文化と社会	文化について考える際に「もの」は非常に重要であるといえる。それはその文化を所有する集団のアイデンティティを端的に示すと同時に、その集団以外の者がそれをどのように読み解くかによって文化、さらにはその集団に対する認識が示されているといえる。本授業では「もの」を通じて文化や社会がそこにどのように示されているのかについて考察していく。またこれに関連して国内外の博物館についての紹介を行い、その展示を題材に議論していく。	
	映像分析の実践	本授業は、写真、映画、テレビ、インターネットなどを通じて触れることが多い映像が、どのような背景のもと制作されているのか、そこにはどのような「意図」や「時代性」があるのかを、実際に映像を分析する作業を通じて学んでいきます。事例としては、前半は20世紀初頭のアメリカで撮影された映像（写真・映画のワンシーン等）、後半は近年の日本の新聞や雑誌等に掲載された写真を扱います。この授業では、知識を得ることよりも、「議論する」「書く」「発表する」など、自分が考えたことを言語化して発信する力を備えることを重視します。	
	世界のなかの日本文化	日本の映画、アニメ、マンガ、コスプレなどが、イベントや動画サイトなどを通じて世界中に発信され、文化産業の新たな可能性を作りつつあります。本授業は、世界のなかで、「日本」「日本人」「日本文化」が、どのように受容されているのか、あるいは発信されているのかを、「精読」「分析」「議論」などの活動を通じて考えていきます。これらの活動を通じて、思考力、コミュニケーション力、そしてメディア・リテラシーを備えることを目指します。	
ボディ・ランゲージ	スポーツ科学や健康科学を通して、多様なものの見方を培うのに必要な幅広い基礎的知識を身につけることを目的とします。		

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目	法学領域	日本国憲法	憲法とは、国民の人権を保障するために、国家権力を制限し拘束する規範である。講義では、人権論を中心に検討していく。また、可能な限り最高裁判例等の事例を紹介する。	
		法学入門	この授業では、賛否や意見の分かれる時事問題を主な素材として、「法的に考える」とはどうか、なぜ「法的に考える」が必要かを体験してもらうことを主な内容とする。	
		国際化と人権	人権とはhuman rightsという言葉の翻訳です。「人間が人間らしく生きていくために社会によって認められている権利」とでもいえますか。日本では、第2次世界大戦後日本国憲法によってようやく認知された考えです。しかし、現実の場面でその具体的な内容や解釈を明らかにするのはそう簡単ではありません。まして、人やモノや情報が国境をこえて行き交う「国際化」の時代では、人権も国際的レベルで考えていく必要があります。世界人権宣言や日本も締結している国連の人権諸条約（国際人権規約など）は、まさにそうした客観的普遍的な基準です。本授業では、日本における人権問題をこうした国際的基準に照らして検討します。	
		知的財産権概論	政府が発表した知的財産推進計画2013で謳われたように、大学における知的財産教育が重視されつつある。本講義では、国際知的所有権機関（WIPO）において標準が定められている知的財産権制度、および特許法、商標法、著作権法などの関連する制度や法律を解説しながら、知的財産権の基礎を教授する。	講義 20時間 演習 10時間
		法学概論	本講義では、わが国の司法制度をその担い手や手続の観点から概観する。また、最高裁判例などの事例も可能な限り紹介し、考察を加える。	
	政治学領域	国際政治史	近代ヨーロッパに生まれた国際政治のしくみは、大きな変容を繰り返しながら、二〇世紀には地球全体を包み込んでいくことになる。この授業は、(1) 国際政治史を考えるための導入、(2) 近現代国際政治の歴史的变化の概観、(3) 二〇世紀後半の歴史という三部構成で展開される。特に、(3)に重点をおく。	
		戦争と平和をめぐる諸問題	戦争と平和をめぐる多様な問題を扱っている教科書を参照しながら、現代世界が抱える国際的問題の歴史的背景と現状を学修する。	
		現代政治の理論と実際	現代政治はまさに生きものであり、刻々と変化する。この授業では、紙媒体の新聞報道やインターネット情報をもとに、とくに新聞報道を素材にして、その時々タイムリーな課題に注目しつつ、日本および世界における政治のダイナミズムを論じる。現在進行形で生じている政治・政策課題や社会的課題について取り上げこれを前半の授業では中心に進める。	
		グローバル・ガバナンス論入門	21世紀に入り、南北問題をはじめ、新興国の台頭など、世界のグローバル化はより一層複雑さを増してきている。IT技術の進展とともに世界中の情報ネットワークは途上国においても進歩している反面、経済活動における格差や貿易不均衡、環境問題などは益々深刻になっている。本授業は、グローバル・ガバナンスの入門編として、世界での様々な具体的な例を挙げながら、世界の急速なグローバル化を背景に、グローバル・ガバナンスとは何か、どのような問題が起きているのかを、討論を交えて考えていく。	
		政治の世界	近年のグローバル化の波は否応なく国家における主権概念の転換を促し、市民の資格をめぐる排除・包摂の問題が提起されている。こうした問題意識から、政治における価値や規範の多様性・流動性を主題としたクリティカルな政治学を講義していきたい。とりわけ後半では、「国家」と「国民」の乖離をめぐる問題として、外国人参政権問題、移民や無国籍者に対する市民権政策について世界各国の事例に関する比較研究を重要課題として提起するとともに、「国民主権」や「国益」といった概念がいかに「政治的」に変容するのかを議論していきたい。	
		現代日本政治論	本講義では、2009年政権交代後の現代に至るまでの日本政治の構造と特質と歴史を学んでいく。1 回完結式で日本政治の重要な論点を取り上げて批判的に論じていく。日本政治の展開をアジアや欧米との比較、国際政治の関係において把握し、政治における理想と現実の関係、内政と外交の不可分性に焦点を当てる。政治学を学ぶ上で、日本の政治はいかに「開かれた」ものであったか、また日本政治は戦前と戦後とでいかなる連続性をもっているのか、といったところが履修者に問いたいテーマとなる。	
	経済学領域	経済学 I	テキストを用いて、経済学の基本的なカテゴリーを学ぶ。	
		経済分析入門	経済学が蓄積してきた分析手法の詳細、経済理論の具体的内容については、専門教育科目で取り上げることとし、この授業では経済を分析するということの射程とその内容についての概要を解説する。	
		資本市場の役割と証券投資	直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か。金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク&リターン考え方、株式投資・債券投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説する。	
		応用経済学入門	経済学の基礎を解説しながら、それが世の中に活かされている事例や、これから活かされることが期待されている分野などを紹介する。	
		数理経済学入門	数学を利用したモデルによって、経済学の考え方を理解する。	
		ゲーム理論入門	経済学、生物学などをはじめ、応用範囲の広いゲーム理論の基礎的知識を学ぶ。	
農業経営入門		どのような農業経営を行っている人がいるか実例を紹介し、学生が今後農業に関わろうとする際に直面する問題について考え、基本的な素養を身につける。		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目	社会学領域	社会学入門	普段無意識のうちにしてしまう常識的な見方を、普段あまり考えないような、そしてあまりにも短すぎて見逃しているようなさまざまなトピックを通して問い直し、社会的な考え方の意義を考える。
		現代日本の社会	現代日本の社会問題を社会学の視点から論じます。今年度は「家族」「女性」「外国人労働者」をテーマとします。
		マスコミ入門	授業は前半と後半で二部構成になっています。前半は、主にマスコミ産業とその歴史について概説します。後半は、マス・コミュニケーション研究の代表的業績を紹介し、基礎概念について学んでもらいます。
		オセアニア民族誌	文化人類学の立場からの地域研究を講義します。本講義では太平洋の島嶼域（ポリネシア・メラネシア・ミクロネシア）の諸社会の比較を行いながら、ミクロネシアのサンゴ環礁社会の文化と都市化、文化変容を紹介しします。
		文化人類学入門	文化人類学は、自分が属する文化以外の文化を学ぶことによって、人間と文化の多様性を研究する学問です。この授業では、文化人類学の基礎を学ぶことで、異文化との接触が日常的なグローバルな時代を生きるために必要な、基本的態度を身につけます。
		環境と国際社会	本講義は、戦後から今日にいたるまでの国際的な環境問題の変遷に着目し、国際環境政治の歴史的展開を全体的に通観する。
		多文化共生論入門	多文化共生という用語で表現される対象を具体的に理解するために、国際比較や理論的検討を通じて、多文化社会の現実と理念を考察するものである。日本だけでなく北米や欧州の動向にも目を向けて、多角的な分析を可能にしたい。
	地理学領域	人文地理学入門Ⅰ	宇都宮市・栃木県内からいくつかの事例地域を取り上げ、地図や景観写真の判読を通して土地と人間生活との関わり方を検討しながら、人文地理学的な関心や視点を理解させることを目的とする。
		人文地理学入門Ⅱ	人文地理学の諸分野のうち、とくに文化地理学分野の研究例を紹介しながら、人文地理学の視点と特徴を解説するとともに、生活文化の多様性という面から日本の地理的特性を考察していく。
		農村空間論	国土のわずか3、4%にすぎない既成市街地に人口の67%が居住する日本では、第一次産業の担い手不足による農村空間の荒廃が進んでいます。高度な都市化・兼業化の結果、農村住民も社会的属性や生活行動の面で都市住民との区別がなくなり、日本の伝統的な生業や生活文化の継承は高齢者がなんとか支えているという状況です。 このようななかで、農村空間は国土保全という公益的機能を果たしつつ、都市住民の安全な食・観光・保養・二地域居住などの新たなニーズに応える場所としても注目されています。 本授業では、村落立地、農村景観の特性、農村空間の商品化、むらおこしなどについて学び、農村空間の多面的機能を深く理解します。
	歴史学領域	歴史学入門	歴史学入門といっても、歴史学の抽象的理論を紹介するわけではない。具体的に歴史、つまりヨーロッパの歴史を古代から現代まで概観する。
		歴史と民族	世界の歴史を「民族」をキーワードに検討します。
		歴史と文化	前近代の日本史を、文化事象や美術作品に注目しながら概説する。
		地域の歴史	栃木県（下野国）の歴史と地域特性について、栃木県に現存する資料を通して具体的に考えていきます。主に、現代生活の基盤を形成した江戸時代、時代の主役に躍り出た庶民（百姓・町人）の暮らしや諸活動に焦点をあて、政治・経済・社会・文化など、さまざまな角度から地域史を学びます。適宜、明治時代以降の歴史や県外の事例についても触れていきます。
	社会総合領域	中東の社会と文化	中東諸国に関する様々なトピックスを入口に、歴史・政治・経済・文化の基本的な知識を修得する。その上で、中東地域を理解するための基本的な視角を得る。
		社会開発入門	日本、そして世界の多くの国では、経済成長を優先した開発がすすめられてきましたが、環境、そして人々の健康や生活に負の影響をおよぼしてきたことが明らかになっています。 この反省から、経済開発とは異なる概念として1990年代から「社会開発」の重要性が認識されるようになりました。本授業では、「社会開発」の概念を理解するとともに、世界の状況を学びながら、日本における自らの生活や環境を振り返り、見直すことを目的としたアクティブ・ラーニング科目です。
		遊びの理論とゲーム開発	前半では、遊びとは何か、人はなぜ遊ぶのか、人が「楽しい」と感じるのはなぜなのかを考察してきた理論を学び、後半では、そうした理論に基づいて、既存の（あまり面白くない）ボードゲームをより面白くするためのゲームバランスの調整を行うというかたちで、ゲーム開発の実習を行う。
		遊び論と遊び指導	授業では、①子どもの遊びの教育的意義、②歴史的背景、③現状、④論点について講義を行うとともに、遊び指導に関して学び、実践を行う。

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目 社会科学系科目 社会総合領域	住まいづくり・まちづくり入門	わたしたちの日常生活を支える住まいとまち環境をどのようにすれば持続可能なものにできるのか、環境共生、超高齢社会、少子化などの観点から体験的に学ぶことにより、それらをより良くしていくための知識と能動的態度を養います。このため、E S D（持続可能な開発のための教育）の観点も取り入れます。この授業は講義、グループワーク、フィールドワークなど、多角的な取り組みを展開します。	講義 10時間 演習 20時間
	オイコス入門	現代社会に資する基本的な学問を取り上げ検討するとともに、学際的な視野から今後の学問について考えます。	
	障害者問題入門	障害者に関する社会問題に関わる内容を扱い、障害者問題や障害児の教育について学ぶ。	隔年
	数や図形の絵本づくり	本授業では、数学絵本を作成することを最終的な課題として、課題探究のプロセスを経験していく。また、長期にわたる活動を評価する手法の1つとして、ポートフォリオの作成を試みる。	講義 10時間 演習 20時間
	栃木県の歴史と文化	栃木県の歴史と文化の豊かさを認識するとともに、足尾鉾毒事件と渡良瀬遊水地の歴史と現在を学ぶ。	講義 10時間 演習 20時間
	社会福祉入門	地域でその人らしい生活を送るというノーマライゼーションの考え方が社会に浸透してきているが、実際には、まだまださまざまなバリアが存在している。この授業では、社会の中のさまざまなバリアとその解消の方策について実践的に考える。	
	災害復興入門	災害から復興するとはどういうことなのか。すでに起こってしまった自然災害の被害を少なくすることはできないが、その後の復興支援のあり方により被害は重くもなれば軽くもなる。おもに東日本大震災を題材として、災害復興のあり方について多角的に検討する。	
	グローバル化と外国人児童生徒教育	授業では、①外国人児童生徒教育の意義、②背景、③現状、④論点について講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (123 丸山剛史・111 鎌田美千子・99 威 傑・41 田巻松雄・207 若林秀樹・46 小原一馬/2回) (共同) 各担当者の授業内容の概要説明、パネルディスカッション：まとめ・質疑応答・討議 (123 丸山剛史/4回) 栃木県における外国人児童生徒教育、外国人児童生徒教育の教育実践—事例研究1、外国人児童生徒教育の教育実践—事例研究2、雇用・就労・進路指導問題 (41 田巻松雄/2回) 本授業開講の背景：重点からHANDSへ、外国につながる子どもたちとは？ (111 鎌田美千子/2回) 年少者日本語教育1：子どもの言語発達と日本語指導、年少者日本語教育2：教科学習に必要な言語能力 (207 若林秀樹/2回) 外国人児童生徒教育現場の実際と抱える問題、これから支援に関わる者がすべきこと (46 小原一馬/1回) 外国人教育における教師のジレンマと葛藤 (威 傑/2回) 多文化教育の理論：概説、多文化教育への主なアプローチ	オムニバス方式 共同
	国際協力論入門	本授業では、国際協力の定義を説明し、国際協力の背景を考えるため第2次世界大戦後の世界の貧困・開発問題の流れを振り返り、世界の貧困問題を解決するため国際協力の役割、具体的には日本の政府（外務省）による政府開発援助（ODA）を考察し、国際協力の基礎について学びます。	
	伝統染織と感性	各地域で継承されてきた伝統的な染織の技とそれに伴って育まれてきた文化的価値(感性)について述べる。授業ではとくに「染色」を中心に取り扱い、伝統色を通してこれからの社会のあり方やライフスタイルについて考える。	
	著作権法入門	知的財産法の中の著作権法を中心に、権利の保護のあり方、著作物の利用の仕方を知り、文化の発展に寄与することを目的とする著作権法の果たす役割を考えます。	
	教科書に見る歴史と社会	明治期から現在までの小学校教科書の歴史について概観するとともに、小学校社会科(社会系教科目)教科書を事例として、その内容と時期的特色について考える。	
	人と自然の共生を考える	人間は自然からの恵みを受けて社会を発達させてきましたが、自然との共生に関してはいまだに様々な問題を抱えています。その中で、伝統的な知識によって、自然と共生する里山では、過疎化、高齢化により、雑草の繁茂や野生鳥獣被害が顕在しています。 この講義では、雑草や野生鳥獣に起因した問題を抱えつつも、地域住民が積極的に解決に取り組んでいる里山（那須烏山市大木須）を実際に訪問し、課題の抽出から解決策の提案・試行までを実践します。	集中

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
社会科学系科目	社会科学総合領域	希望の地域社会論	<p>少子高齢化、家族など人間関係の疎遠、社会的孤立、ストレスや雇用不安、さらには自然災害など、希望をもちにくいように見える閉塞化した地域社会をどのようにとらえれば希望が生まれ得るのか、人々が希望をもつにはどのようなアプローチが必要か、地域社会におけるまちづくりの現場に即して受講生と共に考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 三橋伸夫/6回) 地域社会の現在/協働の地域社会/中山間地域社会/学校教育と地域社会/グラウンドワークと地域社会/まとめ ※平成29年度以降は、8 安森亮雄が(地域社会の現在/協働の地域社会/中山間地域社会/3回)を、10 佐藤栄治が(学校教育と地域社会/グラウンドワークと地域社会/まとめ/3回)を担当する。</p> <p>(93 大森宣暁/3回) 都市計画と地域社会/震災復興と地域社会①/住民参加と地域社会</p> <p>(8 安森亮雄/2回) 建築デザインと地域社会①/建築デザインと地域社会②</p> <p>(10 佐藤栄治/2回) 震災復興と地域社会②/超高齢化の地域社会</p> <p>(167 長田哲平/2回) 交通計画と地域社会/コンパクトシティと地域社会</p>	オムニバス方式
		中国事情	<p>①本授業では世界で益々その影響力を拡大しながら、存在力を増している中国社会全般について歴史、政治、経済、地理環境、民族、文化などの側面から理解を深めてもらう。②著しい経済発展の裏に隠れている課題について、問題意識を持って考察する。③周辺国、特に日本との交流、関係の現状を踏まえながらその課題について分析し、共に議論する場を持つ。相手国を知ること、お互いの間に生ずる諸々のリスクを和らげ豊かな相互理解を増進するためのもっとも有効な手段である。</p>	
		グローバル韓国学	<p>本授業では①グローバルな視点から今日の韓国・朝鮮の国と社会、人々の意識を知る上でヒントとなりそうな諸事象を紹介し、多様な切り口から理解を深め、②近年目まぐるしく変化する周辺環境の中で、表出された韓国社会の動態と政治的葛藤、抱える課題についても原文資料に基づいて考察し、③これらに基づいて、日韓関係及び朝鮮半島全般の情勢、朝鮮半島をめぐる国際環境について理解を深める。</p>	
		科学・技術・教育・社会を考える	<p>本授業では、科学と技術をめぐるさまざまな社会的諸問題を取り上げ、教育と社会との関係を問いながら、それらがどのような形をとって現れているのかを、メカニズムも含めて明らかにし、問題克服の手がかりを考えることを目的としている。</p>	
		セクソロジー入門	<p>セクソロジーとは、人間の性に関する科学的な理解と性をめぐる人間関係の学習であり、具体的には、1)人間の性に関する理論のミニマム・エッセンスを講義する。2)性に関する健康と人権の現実を紹介する。3)タイムリーな性の問題を取り上げて問題提起する。</p>	講義 10時間 演習 20時間
基礎教育科目	数学領域	現代数学入門	現代数学入門として統計学を講ずる。	
		電気電子数学入門	電気電子工学科の学生にとって必須である数学科目の学習は、1年次前期の線形代数及演習Ⅰ、微積分学及演習Ⅰから始まります。これらと同時進行する本講義では、上記数学科目を履修する上で土台となる数学の知識を学びます。	講義 10時間 演習 20時間
		Mathematicaによる微積分入門	数式処理ソフトウェア Mathematica は数理的思考の道具である。数式処理や数値計算およびグラフィックス機能を利用して、微積分の問題を解くことを通して理解を深める。	
		Mathematicaによるデータ解析入門	数式処理ソフトウェア Mathematica は数理的思考の道具である。数式処理、数値計算、グラフィックス機能を利用してデータ処理と統計解析の初歩を学び数理的思考を深める。	
		振動の科学	<p>大多数の学生向けに、振動や波とは何か、オイラーの公式・等式を眺めてみて、どのような数字から成り立っているかなどについて理解を深めていけるように解説します。振動と波は密接に関係しているだけでなく、楽器の仕組みも空気振動を使っていますし、建物には免震構造が採用されています。また、携帯電話などの無線や光通信でも電波や光として伝わってきます。振動や波の現象の科学に触れて自分の頭で考えるための基礎を築いて、振動の科学に興味をもっていくことができると願っています。</p>	
自然科学系科目	物理学領域	教養物理	<p>自然界で生じる様々な現象を理解するためには物理的に理解することが重要である。この講義では身近に生じる現象の解説を含め、教養として必要な物理を広く浅く解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(106 柏倉隆之/全5回) ガイダンスと単位系の基礎、力学の基礎、材料の強度、力の釣り合いと構造物の形式、1 - 4週のみ・小テスト (② 中野達也/全5回) 流れの基本的な概念、熱の基本的な概念、熱と流れの身近な現象解析Ⅰ、熱と流れの身近な現象解析Ⅱ、6 - 9週のみ・小テスト (27 杉山均/全5回) 電気と磁気の基本的性質、場の考え方・クーロンの法則、電気と磁気の関係、電磁誘導と電磁波・ローレンツ力、11 - 14週のみ・小テスト</p>	オムニバス方式
		物理学入門	物理学の基礎であるニュートン力学について講義する。	
		物理学最前線	現代社会で用いられている科学技術のうち、物理学を用いているものについて、その基礎的な物理現象を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎教育科目	物理学領域	Mathematica入門	数式処理ソフトウェア Mathematica は数理的思考の道具である。 数式処理, 数値計算, グラフィックス機能を利用して演習問題を解くことを通して理解を深める。	
		放射線科学入門	大多数の学生向けに, 放射線とは何かなど, 身近にある放射線について理解を深めていけるように解説します。本来, 放射線の分野は物理学であることから, 数式が多く出てくると思っているかもしれませんが, 本講義では, なんとなくこう思っている, という感覚や思い込みを, 少しでも正しく理解できるようになることを目指しています。医療分野などで使われている放射線などについても知って, 世の中にある多くの情報を鵜呑みにせず, その背景にも触れて, 放射線の科学に興味をもっていくことができるようにと願っています。	
		エレクトロニクス科学史	エレクトロニクスは, 現代社会を支える重要な基盤であり, 将来にわたって人々が豊かな社会生活を営むために不可欠なものである。本講義では, エレクトロニクスの歴史を概観することにより, 如何にして新しい技術が誕生したか, また, その意義について解説する。	
		バイオメティクス入門	生物が持つ高度な機能や製造過程を模倣して, 技術開発に活かす学問領域バイオメティクス(生物模倣技術)に関して体系づけ解説する。基本的な生物の組織構造から地球環境全体から見た「技術体系」, そしてこの学問領域の研究・市場動向, 生物が進化によって得てきた効率的な動きや構造がいかに技術開発に用いられているのかを学ぶ。	
	化学領域	地球環境と化学	今騒がれている「地球環境の問題」を化学的な視野から捉え, 最新のデータ, サンプルを明示しながら, また視聴覚教材を使いながら, わかりやすく解説します。調査発表を通して, 学生側から発信してもらい, 全員参加型の授業にしたいと考えています。	
		環境と生物化学	環境と生物のかかわりを, 特に生物化学的な視点から取り上げる。地球規模での物質循環には, さまざまな生物, 生命反応がかかわっている。また, 地球の環境は, 生物, 特に微生物によって整えられてきた。一方, 現在の環境の大きな問題として, 環境汚染がある。地球環境の歴史および現状, そして, 環境汚染の要因および環境汚染修復技術について, 主に微生物学, 生物化学, 生物工学の観点から概説する。	
		不思議な化学	現代社会には, 化学に関連した事柄が多く登場する。この授業では, 化学の不思議な面を実験で実験で確かめ, 考えながらその内容を理解する。	
		水素とエネルギー	エネルギー・環境問題について, その歴史的経緯を学ぶことで, それらが表裏一体の関係にあり, 人類が引き起こしている大きな地球規模の問題であることを歴史的に追跡する。近年, 水素がクリーンなエネルギーとして家庭用燃料電池や自動車燃料への利用が注目されているが, 水素はどのように作られるのかを知ることで, エネルギー・環境問題を同時に解決できるものであるのかどうかを考える。	
		リメディアル化学	高校化学の内容に自信が持てない学生を対象に, 基礎・基本の理解の徹底と, 大学の化学へのスムーズな移行をめざす。	
		物質・材料の機器分析入門	大学の研究室や分析の現場に常備されているような汎用型の分析機器を多数取り上げ, 各機器に対して原理, 機能, 特徴などを横断的に概括する。	
		ノーベル化学賞周辺の化学	ノーベル化学賞に関連した化学における重要な知見や分析手法を講義で説明し, また, 2つの主要な化学機器分析法を実習を通して説明する。	
	生物学領域	人間生活と植物	私たちの生活となじみが深い植物たちのルーツを探り, 世界の自然と文化的側面に思いをはせ, 植物の持つ特性やそれを利用発展させる農業, 造園, 庭園技術などを, 暮らしに潤いや彩を与える「くだもの」と「花, 庭園, 野菜」などをテーマに紹介し, さらに食糧資源としての食べ物生物学と世界的な需給関係, 食料を脅かす放射線対策などを取り上げます。	
		食料生産の生物学	本講義では, 私たちの食料の来し方, 行く末について考えながら生物学を学びます。	
		21世紀を支える熱帯植物	授業では, 特に麻薬や香辛料作物, そして綿や熱帯雨林などの植物資源が世界の歴史と経済に及ぼした影響に着目し, 現在の世界と社会が成立する上で重要な役割を担った熱帯植物とその歴史について学修することで, 植物資源に関して幅広い知識を得る。そして, その知識を通して現代社会のあり方について改めて見つめ直し, 21世紀における日本/世界のあるべき姿を, 学生各自が自身の知識に基づいて考えることを目指す。	
		野外における鳥獣識別テクニックの基礎	日本では, 人間と野生動物との軋轢が激化する一方で, 絶滅に瀕した種が存在するなど, 自然に関連する事象が社会問題として注目されつつあります。こうした問題の本質を理解するためには, 日本の自然に何が起きているのかを認識できる技術が必要です。本講義では, 自然の変化を捉えるために欠かせない野生動物識別技術についての基礎を解説します。	
		基礎生物学	高等学校までで学習する生物学の内容を, 大学での基礎科目として解説・説明する。	
ウイルスの世界と生物の世界		本講義では, 風邪の原因であり健康を害する最も身近な存在であるウイルスについて, そもそもウイルスとは何なのか, 生物との関わりは病気だけなのか, ワクチンとは何なのかといった疑問について幅広く概説します。		
	美味しさを科学するーミシュランガイド宇都宮をつくらうー	我々人類は生きるために常に食べています。自らエネルギー源を作り出す植物の真似は誰にもできません。この授業では, 「ミシュランガイド宇都宮?」を作るために, 食に対する知識を増やしながら, 自らの味覚を研ぎ澄まし, さらにそれを表現する技術を学ぶことを目指します。	講義 10時間 演習 20時間	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目	情報科学領域	C言語・プログラミング入門	パソコン、ゲーム機、携帯電話等、ソフトウェア無しでは機能しない機械が身の回りにいっぱいあります。本授業では、ソフトウェアの作成に欠かせないプログラム言語の一つ、C言語について、多くの課題をこなすことにより、その基礎知識・基本文法を学びます。C言語をある程度マスターすれば、他の言語はほとんどがC言語の影響を強く受けているので、他言語の修得にも役立ちます。	
		プログラミング応用	コンピュータの使い方を覚えても、コンピュータについて学んだことにはならない。この科目では、プログラミングの側面からコンピュータへの理解を深め、能動的に使う姿勢を養う。そのために、まずプログラミングの初歩を学んだうえで、実社会の中での我々とコンピュータとの係わりについて学んでいく。	
		グラフィックス入門	コンピュータグラフィックス (CG) に関する講義と、CGモデリングソフトMetasequoiaによる3次元世界の記述の作成実習、プログラミング環境ProcessingによるCGプログラミング実習からなります。中間と期末の2回に分けて制作した作品の発表会を行います。	
		インターネットのしくみ	インターネットの基本的な「しくみ」を修得し、世界の情報通信について実例を通じて理解を深めます。	
		We bのしくみ	World Wide Web (ワールドワイドウェブ) の基本的な「しくみ」を修得し、世界の情報通信について実例を通じて理解を深めます。	
		身のまわりのICT	身のまわりにあり私たちの生活や社会を支えているICTについて、幅広い事例学習を通じ、その基本的なしくみを修得するとともに、ICT関連企業が求める人材像や栃木県内のICT企業の活動、方向性などを学びます。	
		ワイヤレス通信のしくみ	携帯電話に代表されるワイヤレス通信システムの基本をやさしく紹介します。簡単な通信システムを作ってみましょう。	
	自然科学系科目	医用画像工学入門	患者の体内を痛みなしに可視化できる医用画像は、現代の医療において欠くことのできないものになっています。本講義では、X線CT、MRI、超音波診断、PETなどについて撮像原理を学び、その特徴、応用などについて学びます。理解を深める実際に計算機を使用したシミュレーションを実施します。	
		地球環境と生物事件史	地球環境と生物事件史の講義では、長い地質時代における顕著な生物の絶滅事件や爆発的進化などの大きなイベントに焦点を当てて、地球環境と生命の歴史を解説します。	
		身近な気象学	本来、気象学は物理学の一分野であることから、数式がたくさん出てきて小難しいイメージがある。本授業ではこのような堅苦しさを取り払い、天気図、天気予報や身近な天気変化、大きな社会問題である地球温暖化などに焦点をあてて、「実生活に役に立つ」気象学を解説することに努める。全学が対象の科目であり、文系の学生にとってもわかりやすい説明を心がける。	
	健康科学領域	肥満の科学	スポーツ科学や健康科学を通して、多様なものの見方を培うのに必要な幅広い基礎的知識を身につけることを目的とする。	
		健康管理学概論	健康に関する知識・情報を提供する。生涯にわたる健康管理に役立ててもらえるような内容になっている。	
		バレーボールの科学	本講では、実際に収録した国際ゲーム等を用いて各国の戦術的特徴を分析するとともに、各人の実践に寄与する基本的なバレーボールの個人技術とチーム戦術について概説する。	
	自然総合領域	人間の感覚を測る	この授業では「人間の感覚」をテーマに実際に受講生たち自らが考えた実験を行い、この実験から得られたデータに対して、統計的手法を用いて分析を行います。その結果を考察し、発表してもらいます。この授業はグループワークによる実験の計画立案、実施、分析、考察を行いこれらの一連の作業を通して、受講生間のコミュニケーション能力、自主性の育成、統計学の実践的応用例の体験を目的としたアクティブラーニング科目です。	講義 10時間 演習 20時間
生物の多様性とは何か		環境破壊の中でも、回復が最も難しいのが生物多様性の破壊です。野生で生活する個体が失われると、その個体群を回復させるのは非常に困難で、絶滅すれば、その種は二度と戻りません。人間は生態系がもたらす様々なサービスに完全に依存していて、そのサービスの相当部分を生物多様性がもたらしています。本講義では、「生物多様性を失うと、こうしたサービスも失われるのか」という問いかけに応じた様々な研究事例と、それらから得られた知見を平易に紹介します。		
雑草と人の暮らし		水田や芝生に生育している代表的な雑草を覚えるとともに、その生態学的な特性と人の暮らしとの関係を理解する。また、除草剤や植物成長調整剤などの防除資材の特性を理解する。本授業では、普段、注目されることが少ない反面、人々の日常生活と密接に関連している雑草を例に挙げて、物事を多様な観点から科学する能力を養うことを到達目標に、教室だけでなく時には野外に出て、雑草の人の暮らしとの関係について講義をする。		
雑草観察入門		私たちの身の回りには様々な種類の雑草が暮らしに寄り添っており、その観察は最も手軽に自然や多様性を感じられる手段の一つです。この手軽さから、雑草は生態や進化を研究する材料として古くから利用され、多くの知見が蓄積されてきました。本講義では、大学キャンパスに分布する雑草を観察材料として用い、植物の生態と進化、そしてそれらに及ぼす人の役割について学びます。	講義 10時間 演習 20時間	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
自然科学系科目	自然総合領域	雑草と里山のフィールド演習Ⅰ	生態系保全の体験を通して、保全のための社会活動に対する実際的な理解度を深める。また、さまざまな考え方を有する人々とのコミュニケーション能力を養うとともに、問題解決のための工夫や発想力を養う。オリエンテーションにおいて、演習を実施する場所や施設について説明の後、野外演習を行う。各演習において、コーディネーターや地元の方々の指導を受け、緑地保全に関する課題を整理するとともに課題解決の方法を考え、レポートにまとめて提出する。	集中
		雑草と里山のフィールド演習Ⅱ	生態系保全の体験を通して、保全のための社会活動に対する実際的な理解度を深める。また、さまざまな考え方を有する人々とのコミュニケーション能力を養うとともに、問題解決のための工夫や発想力を養う。オリエンテーションにおいて、演習を実施する場所や施設について説明の後、野外演習を行う。各演習において、コーディネーターや地元の方々の指導を受け、緑地保全に関する課題を整理するとともに課題解決の方法を考え、レポートにまとめて提出する。	共同集中
基盤教育科目	初習外国語系科目	ドイツ語基礎Ⅰ	ドイツ語初修者向けの授業です。ドイツ語の「読み」「書き」「聴く」「話す」基本的能力を養成します。	
		ドイツ語基礎Ⅱ	大学生活におけるドイツ人留学生やドイツ人講師との交流場面を通してドイツ語を学んでいく。話す・聞くのひととおりのコミュニケーションが成り立つ程度の基本的な語彙や文型を学ぶ。	
		ドイツ語基礎Ⅲ	1年次生対象科目としての「ドイツ語基礎Ⅲ」です。大学入学前にドイツ語を学習したことがない初修者を対象にドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」基礎的能力を養うことが目的です。ドイツ語圏諸国の学生生活や人々の日常生活がわかりやすい教材を使用します。後期開講の「ドイツ語基礎Ⅳ」とともに履修してください。	
		ドイツ語基礎Ⅳ	「ドイツ語基礎Ⅳ」は「ドイツ語基礎Ⅲ」（前期）の継続的科目であり、教科書および授業方法は「ドイツ語Ⅲ」と同様です。また、「ドイツ語Ⅱ」も履修をお勧めします。週に4時間1年間ドイツ語を学修することによりドイツ語の基礎的能力が確実に身に付きます。	
		ドイツ語応用Ⅰ	ドイツ語の基礎的能力の向上、ドイツ語の実践的表現力を養います。	
		ドイツ語応用Ⅱ	「ドイツ語応用Ⅰ」に続き、ドイツ語の実践的トレーニングを行い、ドイツ語の総合的能力の向上を目指します。	
		フランス語基礎Ⅰ	フランス語をはじめて学ぶ学生を対象とし、初歩的なことばの規則や基本的な語句・表現の用法を解説します。また、聴覚教材を用いて聞き取りや発音の練習を繰り返すと同時に、筆記の練習問題により知識の定着を図ります。	
		フランス語基礎Ⅱ	前期開講の「フランス語基礎Ⅰ」に引き続き、フランス語に初めて接する者を対象として、フランス語の会話と読み書きのために最低限これだけは必要である、という要素を中心に、1年間でフランス語文法の基礎を徹底的に学修します。	
		フランス語基礎Ⅲ	フランス語を初めて学ぶ人を対象に、基本的なフランス語の会話表現を学びます。またそのために必要なフランス語文法の学習を並行して進めます。	
		フランス語基礎Ⅳ	フランス語を初めて学ぶ人を対象に、基本的なフランス語の会話表現を学びます。またそのために必要なフランス語文法の学習を並行して進めます。	
		フランス語応用Ⅰ	この授業は、フランス語の基礎知識を持つ者を対象とします。講義は原則としてフランス語で行います。教科書や映画などの会話シーンをもとに、日常的な場面におけるフランス語の基本的な表現を学びます。会話のまね、聞き取り、自己紹介など、履修者の積極的な参加を求める授業です。	
		フランス語応用Ⅱ	フランス語応用Ⅰの修了者を対象とする授業です。前期にひきつづき、講義は原則としてフランス語で行います。教科書や映画などの会話のシーンをもとに、日常的な場面におけるフランス語の基本的な表現を学びます。会話のまね、聞き取り、自己紹介など、履修者の積極的な参加を求める授業です。	
		スペイン語基礎Ⅰ	動詞の使い方など、基本的な文法事項の説明が中心になりますが、毎回の授業内容と関連した会話文も読み解きます。さらには、テキストにある練習問題を解きながら、文法に関する理解を深めます。	
		スペイン語基礎Ⅱ	動詞の使い方など、基本的な文法事項の説明が中心になりますが、毎回の授業内容と関連した会話文も読み解きます。さらには、テキストにある練習問題を解きながら、文法に関する理解を深めます。	
		スペイン語基礎Ⅲ	テキストの各レッスンには7～8行程度の短い会話文があります。まず主な会話表現について、それぞれの意味と使い方を確認します。必要に応じて文法的な解説を行ったのち、会話文に関する応用問題、動詞活用の練習問題などを解いていきます。反復練習が必要な場合には、プリントを使って補足練習したり、受講生どうしが向き合って会話練習したりします。	
		スペイン語基礎Ⅳ	テキストの各レッスンには7～8行程度の短い会話文があります。まず主な会話表現について、それぞれの意味と使い方を確認します。必要に応じて文法的な解説を行ったのち、会話文に関する応用問題、動詞活用の練習問題などを解いていきます。発音練習・反復練習が必要な場合には、受講生同士が向き合って会話練習を行います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目 初習外国語系科目	スペイン語応用Ⅰ	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単で短い実用的な文章を読め、日常的な会話ができるように練習します。	
	スペイン語応用Ⅱ	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単で短い実用的な文章を読め、日常的な会話ができるように練習します。	
	中国語基礎Ⅰ	初心者を対象に中国語の発音からスタートし、やさしい挨拶と日常会話、また、初歩的な文法事項などを教えます。	
	中国語基礎Ⅱ	「中国語基礎Ⅰ」を終えた方を対象に、中国語の基礎文法を本格的に学びます。文法事項を理解した上で応用を通してしっかりと身につけてもらいます。文の排列順序、実用的な慣用・会話表現などを学習する傍ら、中国の文化と歴史に関する基礎的な知識を折りにふれて話します。	
	中国語基礎Ⅲ	本授業は、はじめて中国語を学習する学生が正確な発音や基本文型の使い方を修得することを目的とした入門の講義です。現代中国語のやさしくかつ基本的な重要文法事項について解説を加えるのはもちろん、とくに基礎的会話能力醸成を重視します。このため、日本人の中国語学習者がかもとも苦手とする発音の訓練、及び日常的に使用する頻度の高い語彙の修得を授業の中心に据えることとなります。	
	中国語基礎Ⅳ	本授業は、中国語基礎Ⅰ及びⅢを履修した学生が正確な発音や基本文型の使い方を修得することを目的とした入門の講義です。現代中国語のやさしくかつ基本的な重要文法事項について解説を加えるのはもちろん、とくに基礎的会話能力醸成を重視します。このため、日本人の中国語学習者がかもとも苦手とする発音の訓練、及び日常的に使用する頻度の高い語彙の修得を授業の中心に据えることとなります。	
	中国語応用Ⅰ	中国語基礎Ⅰ～Ⅳを履修し、中国語の発音、初級文法を一通り習得した学習者を対象に、初歩文法を復習しながら、中級中国語への橋渡しをする授業です。	
	中国語応用Ⅱ	中国語応用Ⅰを履修した学習者を対象に、中級中国語への橋渡しをする授業です。	
	タイ語基礎Ⅰ	タイ語を初めて学ぶ学生を対象にタイ語の基礎知識を学びます。具体的には、子音、母音、タイ語の特徴の声調、単語の構成と発音規則を修得するとともに、簡単な挨拶や自己紹介の表現を学びます。また、タイの生活、文化、伝統、経済、歴史を紹介しします。	
	タイ語基礎Ⅱ	タイ語基礎Ⅰを学習した学生を対象に、日常的によく使われる単語、表現や基礎的文法を用い、簡単な会話や作文を学びます。また、授業では、タイの生活、文化、伝統、経済、歴史を紹介しします。	
	タイ語基礎Ⅲ	初めてタイ語を学ぶ受講者を対象に、タイ語の文字、単語の構成要素である子音、母音、声調規則を学び、読み書きでき、また正確に発音できるように訓練します。また、初歩の基本文法を学習することにより、簡単な文章の読解力を養います。	
	タイ語基礎Ⅳ	「タイ語基礎Ⅰ」「タイ語基礎Ⅲ」を受講した学生を対象に、引き続きタイ語の表現や基本文法を学びます。タイ語の正確な発音を訓練するとともに、初級程度の文章の読解力と作文力を養成します。	
	タイ語応用Ⅰ	タイ語入門を学んだ者を対象に、タイ語の類別詞、形容詞、動詞連続、助動詞、依頼、比較などのさまざまな中級程度の文法を学びます。	
	タイ語応用Ⅱ	タイ語のアスペクト、助動詞、モダリティ、とさまざまな接続詞などの中級程度の文法を学びます。	
	朝鮮語基礎Ⅰ	朝鮮語の基礎を学びます。朝鮮語は世界の言語の中で日本語にもっとも近い言語です。語順が日本語と同じであり、助詞や漢字語も共通しています。ですから日本人にとってもっとも覚えやすい外国語なのです。授業では、そのような朝鮮語の文字・発音・文法を学ぶと同時に、その背景にある韓国の社会や文化などを紹介しします。	
	朝鮮語基礎Ⅱ	朝鮮語の基礎的な文法を学びます。後期が終了する頃には短い文章ぐらいは聞けて、書けるようになります。簡単な文章を読んだり書いたりすることによって朝鮮語に慣れ、自信をつけます。言葉学を学ぶと同時に韓国の文化や習慣にも触れ、楽しく学びます。	
	朝鮮語基礎Ⅲ	朝鮮語は日本語に最も近い言語です。朝鮮語には日本語と同じく助詞や漢字語、尊敬語などがあるほか日本語と語順が一致しています。それゆえ、朝鮮語は日本人(日本語は韓国人)にとってもっとも学習しやすい言語の一つと言われていますが、本授業を通してその事実を確かめます。まず、文字(基礎文字24+合成文字16=40文字)と、その発音をしっかりと学びます。1学期終了後には意味は分からなくても地下鉄のハングル表記やK-POP歌手のハングルの名前がすらすらと読めます。	
	朝鮮語基礎Ⅳ	前期の『朝鮮語基礎Ⅲ』に引き続き、文字と発音に重点を置きながら基礎文法をマスターします。文法が分かってくるにつれて基礎的な朝鮮語の文章の構造が理解でき、自己紹介や簡単な会話ができるようになります。12月頃には韓国の留学生や韓流スターに韓国語でクリスマスカードや年賀状、e-mailを書くことができます。	
	朝鮮語応用Ⅰ	朝鮮語を学び始めて2年目の学習者用に中級の文法を学びます。さまざまな文法を学ぶことによって朝鮮語に慣れ、自信をつけます。言葉学を学ぶと同時に韓国の文化や習慣にも触れ、楽しく学びます。	
	朝鮮語応用Ⅱ	朝鮮語を学び始めて2年目の学習者を対象に、中級の文法を学びます。さまざまな文章を読んだり、書いたり、会話をしたりすることによって朝鮮語に慣れ、自信を深めるようにします。言葉だけでなく、その背景にある韓国の社会や文化についても触れ、楽しく学びます。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基 盤 教 育 科 目	綜 合 系 科 目	野外調査論	社会科学、自然科学を問わず、どんな分野でも、町や自然の中に出かけ、自らの手足でデータを集める必要に迫られるかもしれません。この授業ではその手法と考え方を、野外調査の実践を通じて学びます。	共同 講義 10時間 演習 20時間
		里山のサステイナビリティを考える	栃木県南東部の茂木町を専門的な観点で調査研究します。茂木の里山を自然環境と農村社会の2つの面から調査し、価値を理解し、こうした環境を持続させるために何ができるのかを考え最後に提案してもらいます。	集中・共同 講義 10時間 演習 20時間
		人と自然をつなぐ・人と人をつなぐA	『人と自然をつなぐ、人と人をつなぐ』人になるための基礎知識と技能を、実践を通じて学びます。 ・自然体験プログラムを通して環境教育の大切さを学びます。 ・体験を通して、今ここで起こったことをふりかえり、次にどう進めていくか、その「人が学ぶ」過程を体験学習法の考え方で進めます。 ・自然体験プログラムを体験するだけではなく、自らプログラムを実施することで「プログラムの指導演法」を学びます。 ・環境教育の教材のひとつである「プロジェクト・ワイルド」の指導者（エデュケーター）の養成をします（資格取得）。	集中・共同
		人と自然をつなぐ・人と人をつなぐB	『人と自然をつなぐ、人と人をつなぐ』人になるための基礎知識と技能を、実践を通じて学びます。小学校での総合的な学習の時間での実施例やアメリカでのProject Learning Tree (PLT、森林環境教育)やProject WET (WET、水環境教育)の事例や指導演法を修得し、子ども達の自然体験活動の指導者としての、また、市民の環境活動等の指導者としての、環境意識啓発の手法と技術を学びます。PLTのファシリテーター資格、WETのエデュケーター資格、自然体験活動指導者NEALリーダーの資格が取得できます。	集中 講義 10時間 演習 20時間
		実践・宇都宮のまちづくり	人口減少や超高齢化などの課題が山積する時代の変革期において、宇都宮市がどのような政策を立案し、実行しているのか、市の担当職員が実体験を交えながら講義することで、データや情報と実社会での行政活動との融合を理解するアクティブ・ラーニング科目です。最終回は、宇都宮市長がまちづくり全般について授業を行う予定です。 ※※特に宇都宮市職員（公務員）を目指す方にはおすすめです※※	
		一地方銀行の歴史に学ぶ“金融経済の仕組み”と“地域金融機関の役割”	明治28年（1895年）の創業以来、100年を超える歴史を有する地方銀行「足利銀行」の歴史を通じて、金融論の主要なテーマである貨幣や金融市場の仕組みとその機能を学ぶとともに、地域金融機関の役割や金融政策など今日的な話題についても考えるアクティブ・ラーニング科目です。加えて、受講者が将来、銀行取引、資産形成、起業などといった金融と関わる場面に会った時、実際に役立てることができること（金融リテラシーの醸成）もこの授業の大きなねらいとしています。	
		危機を見つめる力	科学技術の発展により高度・複雑化した社会では、私たちの身の回りには思いもよらない種々の危険が存在している。これらの危険を察知し、その影響の程度を理解・判断し、対応する能力を身につけることを目指すアクティブ・ラーニング科目である。	
		3. 1 1と学問の不確かさ	未曾有の災害を現代日本にもたらした東日本大震災（3.11）は学問の在り方について多くの問題を提起しています。現在の問題は何なのか、今後いかなる道を進むべきなのかについて多くの「専門家」が異なる見解を主張するなか、先行きの不透明感が強まっています。 この授業では、確固とした体系をもつと考えられている学問の「不確かさ」に敢えて目を留め、この共通テーマについて多様な分野から考察することで、3.11後の大学における学びについて考えることを目的としています。なお、本授業はアクティブ・ラーニング科目です。 (オムニバス方式/全15回) (53 大久保達弘・52 飯塚和也・89 山本美穂/1回) (共同) 森林の放射線汚染 (84 飯塚雅之/6回) インタロダクション：「東日本大震災：地震と津波と東京電力福島第一原子力発電所の事故を振り返る」、放射線リテラシー、放射線測定の実際：「測定と施設の見学」、ゲストスピーカー講演（2回）、宇都宮大学学生の取り組み (78 長谷川万由美/1回) 災害の援助 (91 尾崎功一/1回) 工学における測定の不確かさ (143 清水奈名子/3回) 原発事故をめぐる国際関係と公害、栃木県と原発事故：「県内の被災、放射能汚染問題について」、福島からの避難者証言を読む (116 上原秀一/1回) 東日本大震災と教育学 (84 飯塚雅之・143 清水奈名子・116 上原秀一・91 尾崎功一・52 飯塚和也・53 大久保達弘・89 山本美穂・78 長谷川万由美/2回) (共同) 水俣病患者を招聘したシンポジウム、最終発表会	オムニバス方式 共同
		食と生命のフィールド実践演習	附属農場における実習と関連する事前事後学習を通じて、我々の生活を支える食・環境・生命について体験的に学ぶことを目的としたアクティブ・ラーニング科目である。	共同
		男女共同参画社会を生きる	男女共同参画社会の歴史、社会的背景、現状についての概説を行った上で、多様性、ジェンダー、セクシュアリティ、性別役割分業、多様化する家族、DV等のテーマの理解を、聴き取り調査を経験させ、それらをまとめ報告することを通じて促していく。	集中・共同 講義 20時間 演習 10時間
ものづくり体験	本授業では「ものづくり」を通して、ものづくりのセンス、ものづくりの精神、問題発見と解決能力、そして最も大切な、新しいものを創り出す創造性を身に付けることを目的とし、特に専門知識を必要としない「ものづくり」の製作体験をする。受講生は設定されたテーマに取り組み、グループで自主的に「問題発見」「設計」「製作」「評価」をし、成果の「発表」を行うことを目的としたアクティブ・ラーニング科目である。	共同		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目 総合系科目	宇大を学ぶ	自らが学ぶ大学について関心を持ち理解を深めることは、大学生活をより豊かなものにしていくことにつながるという理念のもと、宇都宮大学の歴史や現状について高等教育制度の概要を交えながら講義するアクティブ・ラーニング科目である。	
	栃木の里山に学ぶ（春夏編）	地域住民と学生間、あるいは学生間同士の双方向型の討論を積極的に取り入れ、学生の参画により課題解決に向けた知の統合と実践を行います。 具体的には、栃木県東部に位置する那須烏山市大木須において、里山の保全と利活用を地域住民と連携して行いながら、里山が抱えている課題を学修し、地域住民とともに実践を通じて、その課題を解決する方法を考案することを目的としたアクティブ・ラーニング科目です。	集中
	栃木の里山に学ぶ（秋冬編）	地域住民と学生間、あるいは学生間同士の双方向型の討論を積極的に取り入れ、学生の参画により課題解決に向けた知の統合と実践を行います。 具体的には、栃木県東部に位置する那須烏山市大木須において、里山の保全と利活用を地域住民と連携して行いながら、里山が抱えている課題を学修し、地域住民とともに実践を通じて、その課題を解決する方法を考案することを目的としたアクティブ・ラーニング科目です。	集中
	ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会の中の私たち」	この授業は、現代社会が直面する貧困や格差、環境破壊や人権侵害、文化摩擦や地域紛争などの“グローバル”な問題をテーマとしたワークショップを実際に体験しながら、アクティブ・ラーニングや参加型学習の基本的な考え方ははじめ、その方法論であるアクティビティやファシリテーションの手法や教材について概説することを目的としたアクティブ・ラーニング科目です。	
	ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	現代社会が直面する様々な社会問題の解決に向けては、政府や自治体をはじめ、NGOやNPOなどの市民組織が「ボランティア」な活動を展開しています。この授業では「ボランティア」や「ボランティア」の意味をはじめ、国内外で展開されてきた多様な社会運動や市民活動の歴史や現状について検討します。また、「市民による海外援助」をテーマとしたワークショップを通じて、“援助する”ことや“寄付する”ことの意義や課題、そして、日本の市民組織が抱えてきた組織運営上の現状や問題点などについても検討していきます。	
	生きるということ	この世に生まれ、ここまで成長を遂げてきた奇跡について考えるとともに、恋愛、就職、正しい食生活等について、具体的事例をとりあげ、グループワークを行います。また、誰もが避けることができない人生の終わりについても、事例を踏まえて議論し、あえて死というものを考えることで、今を生きることの大切さを自ら思い描きます。	
	「ぶろじゅくと」をやってみる	「ぶろじゅくと」ってなんだろ。でも卒業して社会に出れば、大小の違いはあっても、周囲はプロジェクトばかりです。この授業では、受講者の主体性に基づき、チームごとにプロジェクトの企画を立て、メンバーと共働しながら、実際に実行してみます。「実行する」と簡単に言っても、企画の実現までには、様々な制約や困難があります。それをいかにして乗り越えるかを体験する授業です。そして、その体験の共有を通じて、これからの大学生活を共に学びあう仲間を得ることも目的としています。	
	体験！ぶろじゅくと	卒業して社会に出れば、大小の違いはあっても、周囲はプロジェクトばかりです。この授業では、受講者の主体性に基づき、チームごとにプロジェクトの企画を立て、メンバーと共働しながら、実際に実行してみます。「実行する」と簡単に言っても、企画の実現までには、様々な制約や困難があります。それをいかにして乗り越えるかを体験する授業です。そして、その体験の共有を通じて、これからの大学生活を共に学びあう仲間を得ることも目的としています。	
	感じる・考える・話す	自然と人間との共生をテーマに、人間社会と対峙する対象としての自然と、自然と共生して生きる人々の営みについて具体的事例を紹介し、グループワークを通じて、全体での議論の共有を図ります。その際、授業の材料として、スタジオジブリ作品の「もののけ姫」と「風の谷のナウシカ」を鑑賞し、そこに描かれている人間対自然の関係について討論し、理解と深化を図ります。	
	アクティブにとらえる現代社会	現代社会の様々な事象と向き合い、主体的に行動し、自らあらたな社会を創造できる人材を養成するために宇都宮大学で推進している「アクティブ・ラーニング」型の授業として、4名の担当教員がそれぞれの立場から現代社会の具体的な問題を取り上げ、能動的な学修を促す手法で授業を行います。この授業では、ただ講義を聞くのではなく、「感じる・考える・書く・伝える」という段階を経て、自分と他人の価値観の共通性や差異を理解したうえで、それらを表現したり、合意形成したりするコミュニケーション力の向上を目指します。	
	とちぎ終章学特講	人生の最終章を迎えても、より充実した生活を営むことのできる社会を創り上げていくためには、様々な課題を幅広い視野で捉え直し、それぞれの専門領域や生活との関わり、諸課題の関係性を理解することが重要である。そこで、本学教員の専門領域からのアプローチにより高齢社会の特性を浮き彫りにし、課題解決の方策を検討していく。	講義 5時間 演習 10時間
	とちぎ終章学演習Ⅰ	超高齢社会に関する課題を自らの問題として捉え、地域の中で各人にどのような役割があるか気づき、今後どのように活かしていくのかを学び、地域で必要とされる活動を行うための素養を身につける。授業は地域住民との対話やフィールドワークを取り入れて展開する。	共同 講義 10時間 演習 20時間
	とちぎ終章学演習Ⅱ	高齢者と共に生きるために地域でできることを考え、コミュニティワークの手法を用い、地域の情報収集やまちづくり活動の企画を行う。授業は学外の実践者による講義と学生同士の対話を中心に展開する。	講義 10時間 演習 20時間

授 業 科 目 の 概 要					
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
基盤教育科目	キャリア創造科目 基盤キャリア教育科目	人間と社会	経済・社会の変化に伴って、働き方・働き方が大きく変化している。その中で生涯を通じてどのようにどんな職業と関わるのか、どう生きるのかを考え、主体的に選択していくこととなる。そのためにはまず、自分が船出していくこの社会や経済、産業、職業など働くことに関する現実を正しく理解することがとても大切である。この授業はこうした働くことに関するさまざまなテーマについて最新の情報により、その実態と課題を正しく理解するとともに、視野を広げ、自分の進路について考えるきっかけを得ることができる基礎的なキャリア教育科目である。		
		キャリアデザイン	経済・社会の大きな変化に伴い、働き方、働き方も大きく変化している中において、自分らしく生き活きと生きるために生涯を通じてどのように職業とかかわるのか、どのような職業人生を生きるのか、そのために大学生活をどう送るのか、など、自らのキャリアデザインを描き、行動することが大切である。この授業は、自分の将来を考えキャリアデザインを具体的に描くための考え方、きっかけ、知識、方法等を提供する基礎的なキャリア科目である。	共同	
		働くことの意味と実際	仕事の中にやりがいを感じながら自己の成長を図り、グローバルな時代の中で逞しく生きていくためには何を身につけるべきか。日本IBMの人事に所属する担当教員と共に、グローバルな企業行動の実態をリアルに捉えながら「働くこと」について考えていきます。		
		実践企業人材論	社会に出てから、いかに「自分を生きるか?」。そして、「夢と理想に向かった力強い人生を歩むか?」を共に考えていく講座です。その上で、企業で仕事をしていくこと、また、組織で働くことの意味や価値について、できる限り実践的に学修します。「自分が自分にならなくて誰が自分になるのか?」を基本テーマに「自分らしさの追求」をスタートして行って欲しい。		
		起業の実際と理論	ベンチャー企業の事例や、実際の起業家との対話を通じ、「起業」という社会活動について学修し、これからの若者に必要とされる資質や起業家精神（アントレプレナーシップ）を養う。また、実際に自らのビジネスアイデアを考え、他者にプレゼンテーションすることで、企画・提案の楽しさを体験するとともに、ビジネスに必要な基礎的なスキルを修得する。		
		先輩に学ぶ	学長自らが代表を務める唯一の科目です。ゲストスピーカーが、皆様に対して人生の先輩として、これまでのキャリアを振り返りながらメッセージを伝えます。それぞれの先輩がこれまで歩んできた道でどのようなことに悩み、それをいかに乗り越えてきたのかについて聞くことで、これから先の人生について考えを深めることを目指します。		
		より良く生きる	数百年の昔から人類は、食料その他生活に必要なものを、自然に対して熱心にはたらきかけることによって初めて手にしてきた。その本質は現代でも変わらない。「はたらく」ことは「生きる」と表裏一体なのである。したがって、就職とは就「社」によって終わる受働活動ではなく、より良く生きようとする不断の活動の始まりに他ならない。では、「より良く生きる」とはどのようなことなのか? この講義では、①「自分にとって価値ある生き方」をキーワードに「人は何のために生きているのか」を考え、②「目標達成」をキーワードに、そのためのスキル（自分の力に気づき、伸ばす）を身に付けることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (103 上原信伸夫/7回) はじめに「この授業について、“人は何のために生きているのか その1”」/“自分らしく生きること”と“親との関係”/“働くこと”と“より良く生きること”/“人生の逆風（障害、病気など）”と“より良く生きる”/夢と、やりたいことと、現実と①（事例紹介、パネルディスカッション）/夢と、やりたいことと、現実と②（“仕事”をとりまく理想と現実）/生きる主体である“自分”に気づく；（Part 1まとめ；中間振り返り） (109 大庭 亨/6回) 生きるエネルギーについて/夢を見つける/夢を実現する/リミッターを解除する/ツッコミを入れる/振り返り/ (175西田治子/2回) アサーション（自分を伝える・相手を受け入れる）/心のしくみ	オムニバス方式	
		企業のグローバル戦略とキャリア形成	企業のグローバル戦略、とりわけ人材マネジメントを中心に学びながら、グローバルな時代における仕事に対するリアリティを高めます。その上で、日本IBMの人事に所属する担当教員と共に、自己の成長を図りながら、逞しく生きていくためには何を身につけるべきか考えていきます。		
		グローバル時代の企業経営	グローバル化が進行する現代社会においてなくてはならない存在であり、多くが職業人としてその一員となる「企業」とはどのようなもので、どのように運営されているのかについての基礎知識を学ぶ。	集中	
		自由科目	社会奉仕活動	事前に活動期間及び活動内容を定めて提出した申請書に基づく、社会福祉団体等での社会福祉活動について、教育上の実績を活動報告書等により評価し、自由科目として単位認定する。	
			国際協力活動	事前に活動期間及び活動内容を定めて提出した申請書に基づく、青年海外協力隊等における国際協力活動について、教育上の実績を活動報告書等により評価し自由科目として単位認定する。	
			実務体験活動	事前に活動期間及び活動内容を定めて提出した申請書に基づく、特定の授業科目に対応付けされないインターンシップ制による実務体験活動について、教育上の実績を活動報告書等により評価し自由科目として単位認定する。	
			特別体験活動	事前に活動期間及び活動内容を定めて提出した申請書に基づく、教務委員会が認めた体験活動について、教育上の実績を活動報告書等により評価し自由科目として単位認定する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
留学生 日本語科目	アカデミック・ジャパニーズ	1年次及び編入学の留学生を対象に、大学の勉学に必要な日本語能力を総合的に身につけます。大学生生活を想定した種々の日本語運用場面を取り上げるとともに、学術的な場面での話し言葉と書き言葉の違いについても学び、日本語能力の向上を図ります。	
	日本語アカデミック・ライティング	大学で書くレポートや論文は、手紙や感想文、作文の文章とは異なり、事実や意見を客観的・論理的に述べることが必要です。この授業では、1年次及び編入学の留学生を対象に、学術的な文章の書き方と日本語表現を学びます。また、話し言葉との違いにも着目し、レポートや論文を書く上で必要となる語彙の修得を目指した問題演習も行います。	
	日本語アカデミック・プレゼンテーション	本授業では、大学のゼミや演習科目での発表場面を想定し、プレゼンテーション全般に必要な日本語表現を総合的に学びます。日本語による文章表現と口頭表現の違いに留意しながら発表練習を行うとともに、発表レジュメやスライド資料の作成に必要な日本語表現を形式・語彙・文法等の各側面から取り上げます。留学生を対象にした授業です。	
	科学技術のための専門日本語	本授業では、科学技術分野で必要とされる日本語を総合的に学びます。科学技術に関連するトピックを取り上げ、日本語能力の向上を図ります。	
	人文社会系のための専門日本語	本授業では、人文社会系の分野で必要とされる日本語を総合的に学びます。人文社会に関連するトピックを取り上げ、日本語能力の向上を図ります。	
	日本事情	(英文) This is a hands-on course through which we will be experiencing Japan. Be prepared to engage yourselves fully with Japanese culture. (和訳) このコースは日本を体験して日本文化に親しむ実践学習です。	
基盤教育科目 専門導入科目	地域デザイン学序論A	地域社会分野の地域分析の基礎を学修するため、社会システム、地域資源、地域生活や実践等を調査分析する学問の視座と方法に関して、経済学、行政学、公共政策、観光地理学、地域生態学、文化マネジメント、食育学、心理学、社会教育学、社会学、農村マネジメント、公共マネジメント、まちづくり論、社会福祉学それぞれの序論を解説する。 (オムニバス方式/全15回) ③ 塚本 純/2回) ガイダンス、経済学の視座と方法、まとめ ⑥ 中村祐司/1回) 行政学の視座と方法 ⑬ 三田妃路佳/1回) 公共政策論の視座と方法 ⑱ 鈴木富之/1回) 観光地理学の視座と方法 ⑧ 高橋俊守/1回) 地域生態学の視座と方法 ⑤ 中島 望/1回) 文化マネジメントの視座と方法 ⑨ 大森玲子/1回) 食育学の視座と方法 ⑰ 白石智子/1回) 心理学の視座と方法 ⑭ 若園雄志郎/1回) 社会教育学の視座と方法 ⑮ 中川 敦/1回) 社会学の視座と方法 ⑦ 原田 淳/1回) 農村マネジメントの視座と方法 ⑩ 阪田和哉/1回) 公共マネジメントの視座と方法 ⑫ 石井大一朗/1回) まちづくり論の視座と方法 ⑳ 永島徹/1回) 社会福祉学の視座と方法 AL20：学部学生が合同で学際的に学修する。異分野の交流をもたらすディスカッション、グループワークを取り入れる。	オムニバス方式
	地域デザイン学序論B	建築と地域デザインに関するトピックスを手掛かりとして、人間の居住環境としての建築や都市・地域を建設、維持管理、更新・再生していく上でのハードテクノロジー、ソフトテクノロジーについて、初学者向けにわかりやすく解説する。 (オムニバス方式/全15回) (10 佐藤栄治/3回) ガイダンス、都市の成長管理、まとめ (1 三橋伸夫/1回) 地域のコミュニティ開発・再生 ※平成29年度以降は10 佐藤栄治が(地域のコミュニティ開発・再生/1回)を担当する。 (2 郡 公子/1回) 室内環境制御技術 ① 増田浩志/1回) 建築構造技術の進化 (5 杉山 央/1回) 建築材料の高機能化 (3 中島史郎/1回) 建築リサイクル (7 横尾昇剛/1回) 建築の環境性能評価 (6 古賀晋章/1回) 建築空間と環境心理 (8 安森亮雄/1回) 建築デザインと都市 ② 中野達也/1回) 鉄骨構造の技術進化 (11 藤本郷史/1回) 建築材料の長寿命化 (12 糸井川高穂/1回) 建築設備の進化 (13 中島昌一/1回) C L Tの動向と普及 AL20：学部学生が合同で学際的に学修する。毎回の授業で異分野の交流をもたらすディスカッション、グループワークを取り入れる。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要					
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
基盤教育科目	専門導入科目	<p>社会基盤整備による良好な社会環境の実現およびそのための社会基盤技術について、専門分野ごとに初学者向けに解りやすく紹介・解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(93 大森宣暁/3回) ガイダンス、未来都市の創造、交通計画と土地利用 (35 中島章典/2回) 橋梁と構造力学、橋梁構造物の耐震 (72 池田裕一/2回) 河川と治水、水域生態系と社会基盤整備 (170 飯村耕介/1回) 海岸防災工学序論 (8 海野寿康/1回) 地盤工学序論 (107 清木隆文/1回) 地下空間の有効利用 (58 藤原浩巳/1回) コンクリートの高機能化 (113 丸岡正知/2回) 身近な建設材料、建設材料のリサイクル (4 山岡 暁/1回) 海外における地域課題と社会基盤 (106 近藤伸也/1回) 防災マネジメントと地域デザイン</p> <p>AL20：学部学生が合同で学際的に学修する。毎回の授業で異分野の交流をもたらすディスカッション、グループワークを取り入れる。</p>	オムニバス方式		
		<p>地域デザイン学序論C</p>			
専門教育科目	共通専門科目	必修科目	<p>地域社会を自然、歴史、文化的側面から見つめ、これらと地域デザインの知識や技術、対応方策との関連について議論を深めることで、デザイン能力育成の端緒とする。このため、学外見学を行い、地域社会のコミュニティや種々の施設、技術や対策の取組みに直接触れる機会を設ける。見学後には、学科混成グループに分かれ、地域社会の特性や課題についてグループディスカッションの後、その結果を発表する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(72 池田裕一/1回) ガイダンス (72 池田裕一・4 山岡 暁・58 藤原浩巳/3回) (共同) 社会基盤と地域デザインについて討議・発表 (8 安森亮雄・5 杉山 央・11 藤本郷史/3回) (共同) 建築と地域デザインについて討議・発表 (5 中島 望・11 阪田和哉・9 鈴木富之/3回) (共同) 地域コミュニティと地域デザインについて討議・発表 (72 池田裕一・4 山岡 暁・58 藤原浩巳・ 8 安森亮雄・5 杉山 央・11 藤本郷史・ 5 中島 望・11 阪田和哉・9 鈴木富之/5回) (一部共同) 学外見学(学科毎に実施)</p> <p>AL80：学外の見学と学科混成グループによるディスカッション、プレゼンテーションによって、学生が主体的に地域の主題や課題を見出すアクティブラーニングを主な要素とする。</p>	オムニバス方式 共同	
			<p>地域デザイン訪問</p>		
			<p>地域の姿と課題 I</p>	<p>市町村長や担当行政職員、金融業、建設業、サービス業、製造業等の各種企業、マスメディア、農林水産業、社会福祉や環境NPO/NGO等の実務者を外部講師として招いたオムニバス講座を提供する。地域社会の多様なステークホルダーから直接話を聞く機会を設けることで、地域の現状や課題について幅広い視点から理解する力を養うための導入授業。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 中村 祐司・13 三田妃路佳・2 中野達也・18 海野寿康/2回) (共同) ガイダンス、全体の振り返りを、討論し最後に班別発表でまとめとする。 (6 中村 祐司/1回) 広域自治体の役割と課題 (13 三田妃路佳/1回) 行政法関連の諸制度に関わる課題 (2 中野 達也/2回) 地域ジャーナリズムの役割、地域経済と地域雇用 (18 海野 寿康/2回) まちづくり中間支援組織とは、行政職員は市民サービスの支援者</p> <p>AL50：ゲストスピーカーによる講演と学生によるグループ討論を交えた双方向型の授業を行う。</p>	オムニバス方式 共同
			<p>地域コミュニケーション演習</p>	<p>学科混成グループに分かれ、円滑な対人関係づくりの上で地域と連携するのに必要なコミュニケーションスキルを身に付けるための知識と手法を学び、グループワーク等を通して学修した手法を実践し、手法の体験的な修得を行う。具体的には、地域の特性を数量的に伝える手法、論理的な文章として伝える手法、地域の地理的特性を読み解く手法などを体験し、それぞれが独自の問いを発見しそれを表現できるようにし、地域でのコミュニケーションに必要な基礎力を養う。</p> <p>AL80：初回講義時にグループ編成を行う。グループによる発表会をおこなって修得した手法を能動的に活用するとともに、発表会の討議を通じて修得した論理的コミュニケーションを体験的に活用する。</p>	共同
		<p>地域の現状や課題とその対策および最新技術等についてオムニバス講座を提供し、幅広い視点から地域デザインについて理解する力を養う。「地域の姿と課題 I」より進んだ内容とし、より高い専門的レベルでの学習を目指す。必要に応じて外部講師を招き、地域の実践家や技術者と交流し学習を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 中村祐司・2 中野達也・18 海野寿康/3回) (共同) ガイダンス、地域の現状と課題(1)(行政職員他)、 地域デザイン技術の最新事情(1)(社会基盤技術など) (6 中村祐司・2 中野達也・10 近藤伸也/2回) (共同) 地域の現状と課題(2)(まちづくり、防災デザイン他)、 行政諸制度の最新事情(1)(都市計画に関わる法と実際他) (6 中村祐司・1 増田浩志・4 山岡 暁/3回) (共同) 地域デザイン技術の最新事情(2)(建築技術など)、 行政諸制度の最新事情(2)(廃棄物処理など環境問題の実際他)、 振り返りとまとめ</p> <p>AL50：講義と学生によるグループ討論を交えた双方向型の授業を行う。</p>	オムニバス方式		
		<p>地域の姿と課題 II</p>			

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	必修科目	ワークショップ演習	<p>学科混成グループを形成して、設定された課題解決に対する科学的で総合的な対策に向けて、グループで情報収集、討議、まとめ、発表を行う実践力を養う。また、実社会で必要となる、課題解決を進める上で必要なファシリテーションや目的に応じたワークショップのデザインについてその意義を学ぶとともに、ロールプレイなどの体験を通して実践的な技術を身に着ける。ロールプレイでは、宇都宮市の社会・地域課題を取り上げ、課題解決を協働で行うことを想定し、地域住民、行政、企業などの役割を演じるなど社会実相に即した模擬体験的な学習を行う。</p> <p>AL80：初回講義時にグループ編成を行う。グループは、期間中、数回再編成し、様々なメンバーによるグループ学習をできるようにする。また最終的に行う発表の機会においては、様々な意見・主張を真剣に批判検討する訓練としてディベート形式による発表を行う。</p>	共同
		地域プロジェクト演習	<p>学科混成グループに分かれて、これまでに修得した学部の共通専門科目や各学科の専門科目の内容を総合して、地域における実問題を扱った問題解決型の演習を行う。具体的には、宇都宮市を中心とした栃木県内の他自治体などを対象とし、自らの力で地域探索やヒアリングや各種調査を実施し、収集したデータを分析し問題の原因の特定や、それに対する解決策を提案する能力を身につける。各グループが携わる問題に応じて、それぞれの分野の教員がサポートする。</p> <p>本演習では、(1) 適切な調査設計や調査分析、(2) 地域探索において自主的に行動し、具体的な解決策を提案、(3) グループ単位の口頭発表会において、資料作成およびプレゼンテーションができることを目標とする。</p> <p>AL80：初回講義時に班編成を行い、その後は、班単位の個別指導、班単位の調査を行う。適宜、調査概要書、調査計画書を提出し、教員とディスカッションしながら進める。</p>	共同
	選択科目	G I S 演習	<p>地理情報システム (G I S) は、社会統計や環境情報を始めとする地域の様々な空間情報を収集して整理するとともに、解析評価するために有効なコンピュータシステムである。本演習では、G I S やリモートセンシングについて基本的な理論を学習するとともに、コンピュータを用いた演習を行うことで、地域の調査や研究で G I S を実際に活用するために必要な初歩的な技能を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑧ 高橋俊守/7回) G I S ・リモートセンシングの基礎、地域資源分析・地域コミュニティ活動での G I S の活用 (10 佐藤栄治/4回) 建築・都市計画での G I S の活用 (167 長田哲平/4回) 社会基盤整備での G I S の活用、G I S 技術の都市計画、社会基盤分野での活用</p> <p>AL80：G I S を用いて、行政機関等から提供されている各種統計データや地域環境情報を処理する演習を行う。また、G I S やリモートセンシングを用いてテーマに即した空間情報データの構築を行う。</p>	オムニバス方式
		地域デザイン倫理	<p>高度な技術、巨大な組織、複雑な利権構造から成る現代の地域デザインの現場で、これに携わる技術者および地域のリーダーの立場や役割を理解し判断することを学び、倫理観を確立させる。授業は学部合同で、倫理観が求められる事例についてオムニバス形式で種々の分野の教員より紹介がなされ、どのように判断すべきか説明がなされる。</p> <p>また、倫理が問われる具体的なケースについて課題として示され、学科混成のグループに分かれて議論を深め、プレゼンを行う。倫理が問われる具体的な分野およびケースは以下の通りである。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(93 大森 宣暁/4回) 計画分野：地域デザインの在り方について計画を策定する分野 (35 中島 章典/4回) 構造分野：橋梁等を含む地域デザイン構造物を建設する分野 (72 池田 裕一/4回) 水工分野：洪水対策、水利事業などにおいて社会資本を構築する分野 (58 藤原 浩巳/3回) 材料分野：社会基盤整備に必要な建設材料を選定、施工していく分野</p> <p>AL80：教員から倫理的課題の説明の後、4人程度のグループに分かれてディスカッションを実施し、プレゼンテーションを行う。これを分野ごとに実施する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築都市デザイン学科 専門教育科目 必修科目	微積分学及演習	<p>解析学の初歩を学ぶ。解析学はひろく連続的に変化する量を扱う分野で、その基本的な道具立てが微積分である。本講義では、連続性や極限などの理論的基盤を築くとともに、専門分野への応用にむけて種々の関数の性質や微積分の基本概念、計算技術を学ぶ。基本事項を確実に修得できるように、以下の分担で講義と演習を組み合わせる。</p> <p>(矢嶋 徹/15回) 実数の連続性、数列の収束の定義、関数列、級数、整級数、級数の収束判定などを学ぶ[3-4時間]。</p> <p>(海老原 亨/15回・津田 求/15回) (共同) 1変数関数の微分と不定積分を学習する。今後の物理・工学への応用を視野に入れ、演習を頻繁に行う[1-2時間]。</p> <p>AL20：講義において例題を用いて解説し、関連する基礎的な問題を解かせることにより、学生の能動的な修学に寄与する。必要に応じて、学生同士の話し合いの場を持たせ、相互の理解を確認させるとともに、様々な視点による知識の修得を目指す。</p>	共同 講義 15時間 演習 30時間
	建築構造力学 I	<p>建築物の安全性を検討する構造設計の基本となる構造力学の基礎について講義を行う。具体的には、片持ち梁、単純梁、静定ラーメン、3ヒンジ架構、静定トラスを対象としており、静定構造物における力のつり合い、応力の算定、応力度と歪度の関係などが内容である。本講義は建築構造力学演習 I と組み合わせることで履修することになる。</p> <p>AL20：講義で例題を用いて解説するのでこれに関連した基本的な問題を解くことになり、この場合に学生とやりとりが生じる。また、特に体感的に応力と変形を理解するために個々の学生が骨組の模型づくりを行って学ぶ。</p>	
	建築構造力学演習 I	<p>建築構造力学演習Iは、建築物の安全性を検討する構造設計の基本となる構造力学の基礎を学ぶものである。具体的には、静定構造物における力のつり合い、応力の算定、応力度とひずみ度の関係などを学ぶ、本演習では建築構造力学 I と組み合わせることで履修することとし、演習では自分の手を動かして実際に問題を解くことで、講義内容を体感的に理解する。</p> <p>AL80：授業の始めに、前回の建築構造力学Iの授業で学習した内容に関する演習プリントを配る。疑問点や興味を持った点などを、教員やTAに質問したり、学生間で相談したりしながら、解答する。進み具合をみながら、適宜解説を加え、個人のレベルに合わせた方法で構造力学の習得を計る。</p>	
	建築図学	<p>本演習では、幾何学的な形態を平面に描写する方法について学び、空間図形の理解を容易に空間の把握力を養うことを目標としている。授業形態は、各回で手法概説の講義と対応する演習課題を組み合わせる形式である。講義の前半では、正投影図法(線・面・立体)について学び、講義の後半では、軸測投影図法、斜投影図法、透視図法などを学んで、建築製図の基礎的技術を修得する。授業計画は以下の通りである。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 糸井川高穂/8回) 正投影図法(線、面、立体、平面図、立面図、断面図、相貫、陰影)</p> <p>(11 藤本郷史/7回) 軸測投影図法(1回)、斜投影図法(2回)、透視図(3回)、総合演習(1回)</p> <p>AL50：毎回の授業で課題(問題を解く、質問事項を書く)を出し、次の授業では問題を解く際によく間違えていた箇所を説明したり質問事項に答えたりする。また、2~3回の授業時間を問題設定型演習として、各図法を適用する対象物を自ら設定した上で作図する課題を設定する。これにより、問題設定能力が要求される建築設計製図への円滑な移行を図る。</p>	オムニバス方式
	建築設計基礎	<p>建築設計の基礎となるスケッチや立体構成についての技法を修得し、また、設計図面の作成(トレース)や模型の制作によって、建築の基礎的な表現方法を学び、建築空間の把握力と表現力を養う。</p> <p>AL80：スケッチ、立体構成、製図などの実技を中心とする授業を行う。</p>	
	建築構造力学 II	<p>建築構造力学 I に引き続いて構造力学の基礎を学び、構造設計の基本となる静定構造物の応力と応力度の関係、応力と変形の関係について理解を深める。具体的には、断面図形の諸性質の算定法、応力度の算定法、変形の算定法を修得する。</p> <p>AL20：本講義は建築構造力学演習 II と組み合わせることで履修するため、講義内では前回の演習問題で間違えの多かった箇所を説明したり、例題の解説で部分的な答えを指名して答えさせたりする。</p>	
	建築構造力学演習 II	<p>建築構造力学演習IIは、建築構造力学Iに引き続き、構造設計の基本となる静定構造物の応力と応力度の関係、応力と変形の関係について理解を深めるものである。具体的には、断面図形の性質、静定構造物の応力度や変形の算定、長柱の座屈、ひずみエネルギーと仮想仕事の原理などを学ぶ。</p> <p>AL80：授業の始めに、前回の建築構造力学IIの授業で学習した内容に関する演習プリントを配る。疑問点や興味を持った点などを、教員やTAに質問したり、学生間で相談したりしながら、解答する。進み具合をみながら、適宜解説を加え、個人のレベルに合わせた方法で構造力学の習得を計る。</p>	
	線形代数学及演習	<p>ベクトルと行列の抽象的理論、 ベクトル・行列等の数学的意味について理解することを目的とする。</p> <p>AL20：講義において例題を用いて解説し、関連する基礎的な問題を提示し、学生同士のディスカッションを促し、相互の理解を深める。</p>	講義 15時間 演習 30時間

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築都市デザイン学科専門科目 必修科目	建築計画学Ⅰ	<p>建築計画は建築企画・構想を受け、建築設計の前段階として行われ、建築する建物に求められる機能・性能・運営組織と管理者・利用者の関係づけ、計画・設計思想の歴史の変遷、社会の動向と今後に予測される事項などを建物一般、および個々の建物種類ごとの特性をふまえて検討する過程である。本科目はその考え方や方法について解説する。</p> <p>AL20：3～4回の授業に1回の割合で学生を数グループに分けて議論させる。予定されるテーマとして、①建物の建築計画における技術者倫理とは何か、②建物の利用者と管理者・所有者による要求の相違とは、③小学校における校舎と学年との関係、④人体寸法と建築計画の関係、などである。議論した結果をグループごとに発表させ質疑応答を行う過程で建築計画の具体的な役割を学ばせ、講義内容の理解を深めさせる。</p>	
	建築コンバージョン論	<p>我が国は戦後建設された膨大な量の建築ストックを保有している。資源消費の削減、廃棄物排出の削減、CO2排出の削減という視点から既存建築ストックの継続的な利用が課題となっており、用途変更や一住戸の規模変更などの建築物のコンバージョンに対する技術と知見が必要になってきている。本科目では既存建築ストックの継続使用に必要な建築物のコンバージョンについて知識を習得することを目標とする。本科目で学習する主な項目は、1)既存建物ストックの実態、2)既存建物ストックに対するコンバージョンの事例、3)コンバージョン手法の分類、4)コンバージョンを行う際の法的な課題、5)コンバージョンを行う際の技術的な課題、6)コンバージョンによる環境負荷低減効果、である。</p> <p>AL50：4人のグループで、特定の建物に対する具体のコンバージョンの方法について検討し発表する。発表は講義期の前半と後半において行い、後半の発表では受講で得た知識をもとに前半で発表した内容を修正し発表する。</p>	
	環境工学Ⅰ	<p>建築の室内外の環境（熱、光、空気、音）に関する基礎的事項について講義を行なう。講義と演習が中心的な授業であるが、先進的な環境配慮建築物のデザイン事例、技術事例を解説する。室内環境を形成する物理的要素と外界からの影響を理解するとともに、それらを定量的に求める計算方法と建築的な対策方法や技術を理解する。</p> <p>AL50：毎回の授業で環境工学に関わる小課題を出し、次の授業では小課題の解答事例や考え方について振り返る。また2～3回程度のグループ課題を行い、共同作業を通じて課題を解き発表させる。</p>	
	建築構法	<p>本講義では、建築物の構成と仕組みを理解し、建築に関する基礎知識を身に付けることを目標としている。授業形態は、配布資料による講義と視聴覚資料による具体例の紹介を組み合わせた講義形式である。</p> <p>講義前半では木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造などの躯体構法ごとに構成部品と構成方法について概説する。講義の後半では、床、屋根、開口部、天井などの部位別の構法についてその仕組みや特徴を学修する。</p> <p>AL50：毎回の授業で実際の建築物の写真（例：工事写真、地震被害、劣化の様子等）を見せ、その構造形式や部位の構成方法が持つ意味（耐久性や耐震性、温熱環境、音環境などの建築物の性能との対応、文化的背景や歴史的な経緯）を問いかけ、学生が討議する時間帯を設ける。この時間帯を活用して、実際の建築物の各構成方法がもつ特徴と課題を、能動的・問題発見的に学修する。</p>	
	建築設計製図Ⅰ	<p>建築設計基礎に引き続き、設計図面の作成（トレース）によって、建築の基礎的な表現方法を学び、建築空間の把握力と表現力を養う。また、それを基本として、住宅の設計課題を通して、居住空間の空間構成や木造の架構法をふまえた、設計手法と作図の表現方法を修得する。</p> <p>AL80：課題条件に応じて自ら建築設計を行い、図面と模型の作成を通じた対面指導（エスキス）を経て、最終回に設計作品の発表と講評を行う。</p>	
	建築計画学Ⅱ	<p>建築計画の方法は空間のスケールにより異なる。空間スケールが大きくなるに従い、建築計画の対象は個々の人間生活から人間活動の集合としての地域コミュニティや土地利用、地区さらには都市に移る。その一連の考え方や方法を歴史的な変遷を含め、具体的に解説する。本講義の達成目標は、集合住宅の住戸計画を始めとして、住棟、住宅団地、街区、都市など各スケールでの建築・都市計画の基本的な考え方や方法を習得することにある。</p> <p>AL20：3～4回の授業に1回の割合で学生を数グループに分けて議論させる。予定されるテーマとして、①集合住宅の建築計画における技術者倫理とは何か、②戸建て住宅と集合住宅との建築計画の相違とは、③集合住宅における共用スペースとそこでの行為との関係、④住宅地における地域施設のあり方、などである。議論した結果をグループごとに発表させ質疑応答を行う過程で建築計画の具体的な役割を学ばせ、講義内容の理解を深めさせる。</p>	
	バリアフリー建築論	<p>あらゆる人々が自立した社会生活を送れるようになることが、現代社会においては理想とされている。そのための障壁を取り除くのが、バリアフリーであり、ユニバーサルデザインである。</p> <p>そこで、本科目では建物・空間におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、学び考えるものとする。具体的には、バリアフリー・ユニバーサルデザインの考え方、体験、バリアフリー法の概要、事例紹介、点検などを通じて、新しい手法の提案まで行う。</p> <p>AL50：原則毎回、自ら考え理解するための小課題をだす。また、数回ごとにグループ作業をさせる。テーマとしては、高齢者等の疑似体験、施設や街のバリアの点検、新しいバリアフリー・ユニバーサルデザインの手法を議論して提案する、等を予定している。</p>	
	設備工学Ⅰ	<p>建築設備は、建築室内環境を良好にし、人の活動を支援するためにある。ただし、室内環境を良好にするには、建築設備以前に建築自体の性能をも高くする必要がある。設備工学Ⅰでは、建築と設備の環境調整性能について、電気設備・給排水設備・空気調和設備の使命、仕組み、主要な機器構成など設備全般の概要について学習する。</p> <p>AL20：環境共生住宅の事例を収集し、グループ別にディスカッションを通してその特徴を分析して、これからの時代の環境共生住宅を提案する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築都市デザイン学科専門科目 必修科目	建築材料Ⅰ	建築物を構成する種々の材料のうち、主要な構造材料であるコンクリートおよび鋼材の特性、性能基準、使用方法等を学習する。建築物の設計・施工において不可欠なコンクリートおよび鋼材に関する知識を習得することが目標である。本科目で学習する主な項目は、1) コンクリートの構成材料、2) フレッシュコンクリートの性質、3) 硬化したコンクリートの性質、4) コンクリートの耐久性、5) コンクリートの調査設計、6) 鉄類の分類・製造・加工、7) 炭素鋼の性質・種類、8) 炭素鋼以外の金属・合金、9) 金属製品である。 AL20：3～4回の授業に1回の割合で問題演習の時間を設け、グループで解答を作成して発表させる。それに対して、他のグループからの質疑を受ける。最後に、教員から解答の解説を行う。	
	建築設計製図Ⅱ	公共施設や集合住宅の設計課題を通して、多人数が利用する建築の空間や動線の構成、周辺環境との関係、コンクリート構造の一般的な納まり等をふまえた、設計手法と表現方法を修得する。 AL80：課題条件に応じて自ら建築設計を行い、図面と模型の作成を通じた対面指導（エスキス）を経て、最終回に設計作品の発表と講評を行う。	
	建築材料実験	本実験・演習では、建築材料の特性や性状変化のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力の修得を目標としている。また、日本工業規格（JIS）で規定されている各種材料の試験・評価、品質管理方法を学習することで、建築技術者としての倫理観を養うことを目標としている。授業形態は、グループに分けた学生ごとに実験をおこなう実験・実習形式である。本授業では、主要な構造材料であるコンクリート、鋼材、木材などの諸性質について各種の実験を行い、建築材料の特性や性能等を学習する。 AL80：学生のグループワークによる討議を通じて、独自の材料設計を提案させ、これに基づく実験を実施する。例えば、コンクリート実験では、独自のコンクリートの調査設計を提案し、この調査設計をもとにコンクリートの製造・施工・品質評価などの実験を体験する。これにより、能動的な学習と、体験にも基づく知識の汎用化を達成する。	
	建築設計製図Ⅲ	各種の建築の設計課題を通して、建築の空間構成、また、計画、構造、設備、材料といった建築の諸側面の統合化による設計手法と意匠表現を修得する。 AL80：課題条件に応じて自ら建築設計を行い、図面と模型の作成を通じた対面指導（エスキス）を経て、最終回に設計作品の発表と講評を行う。	
	建築法規	建築法規の基本である建築基準法の沿革を学び建築基準法を体系的に理解する。建築物の最低の基準を定めた「建築基準法」の理解を深めることは、建築に携わる技術者にとって極めて大切なことである。本授業の目標は「建築基準法」と建築に関連する他の法令等の基本的な知識を習得し、具体的な建築物の設計・施工の際に、その知識を生かすことにある。 AL20：3～4回の授業に1回の割合で問題演習の時間を設け、グループで解答を作成して発表させる。それに対して、他のグループからの質疑を受ける。最後に、教員から解答の解説を行う。	
	建築生産	日本の建設業の歴史と現状及び請負契約などの基本を理解し、建物を作る方法すなわち施工計画の立案から竣工までの建設工事の一連の流れと各専門工事の方法を学習する。本科目で学習する主な項目は、1) 仮設工事、2) 山留工事、3) 基礎工事、4) 鉄骨工事、5) 型枠工事・鉄筋工事、6) コンクリート工事、7) P C工事、8) 仕上げ工事、9) 外装工事、10) 内装工事、11) 設備工事である。 AL20：3～4回の授業に1回の割合で問題演習の時間を設け、グループで解答を作成して発表させる。それに対して、他のグループからの質疑を受ける。最後に、教員から解答の解説を行う。	
	建築地域設計製図	建築設計製図Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに続いて、計画、意匠、構造、環境、材料等の現代的な課題をふまえた建築設計や、地域地区の設計を行う。現代社会における建築と地域についての問題意識の向上を図るとともに、地域社会に対する新しい設計提案を求める。また、図面表現、発表表現における高度な修練を行う。 AL80：課題条件に応じて自ら建築や地域の設計を行い、図面と模型の作成を通じた対面指導（エスキス）を経て、最終回に設計作品の発表と講評を行う。	
	建築環境実験	本講義は、熱・光・音・空気などの自然の要素が建築内外においてどのような現象を示すかを定量的に測定する。また、方法や分析・評価する方法を学び、自然現象と建築技術の調和を図るための基礎的知識を習得する。さらに、自主的に自由に実験目的を設定して測定を行い考察する能力を身につける。 (オムニバス方式／全15回) (12 糸井川高穂, 7 横尾昇剛／12回) (共同) 熱・光・音・空気質などの建築物に関わる環境要素について、課題を設定し、実測・分析し、考察した結論を表現する一連の能力を養う。 (2 郡公子／3回) エネルギー、室内環境、身近な熱の現象に関する課題に対し、各自が自由に対象を選んで調査を行い、結果を考察し問題点の抽出や解決策の提案を試みる。 AL80：本講義は、8つの実験項目と3つの調査項目からなる。実験は、グループごとに自由に実験目的を設定し、実験目的に適する測定方法を計画し測定を行う。調査は、各自が調査目的を設定し調査を行う。各実験・調査項目についてレポートを作成する。	オムニバス方式 共同

授 業 科 目 の 概 要					
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門教育科目 建築都市デザイン学科専門科目	必修科目	卒業研究	卒業研究は、それまでの授業で学習した知識や経験の応用として、建築・都市デザインに関するテーマの研究に取り組み、問題解決のための分析と提案を行うものである。具体的には、配属される研究室において、指導教員による指導の下、実験、実測、現地調査、数値計算などを行い、得た資料・データを整理、分析し、有用で新しい提案を行い、論文としてとりまとめ発表審査を受ける。 AL80：研究チームの一員として、協力しながら実験、実測、調査、数値計算などを行い、定期的に行う研究室のゼミで成果を発表するとともに、ディスカッションを通して問題解決の方針を決める。最終的な成果を卒業論文として書き上げ、審査会で発表する。		
		卒業設計	卒業設計は、設計製図をはじめとする授業で修得した建築・都市デザインに関する知識・技術にもとづき、建築や地域の設計提案を行うものである。具体的には、自ら設計テーマや敷地、建物用途などを自由に設定し、配属される研究室の指導教員のほか、計画・構造・環境・材料各分野の教員の指導も受けながら提案をまとめ、与えられた枚数の建築図面として表現して発表審査を受ける。 AL80：自らテーマを設定しその問題解決の方法を考え、提案内容を模型や図面の作成を通して表現する。定期的に行う研究室のゼミで成果発表とディスカッションを行い、自らの判断で各分野の教員からアドバイスを得る。最終的な成果を作品として完成させ、審査会で発表する。		
	選択科目	高齢社会学	本講義では現代社会における最も重要なテーマである、高齢社会の問題について社会学の視点から学ぶ。まず、高齢社会の到来の背景を取り上げ、それらが問題化される理由を、戦後日本の歴史の中に位置づける。その上で、「老い衰えゆくこと」そして「呆けゆくこと」がどのような経験であるのか、当事者の立場に降り立った形で理解する。以上の理解の上で、高齢者福祉政策の歴史的な変化および、現代日本の高齢者福祉を支える介護保険制度について、理解を深める。さらに、高齢化する日本社会の中で、地域の民間レベルで始まり、介護システム全体に大きな影響を与えた、小規模ケアの展開、新しい認知症ケアのあり方を学びながら、それらの今後の可能性を探る。最後に、高齢者介護における新しい家族介護の形態として注目される遠距離介護について考察を行う。以上の作業を通じて、現代社会における高齢社会の問題を解決するための方向性を、学生自身が見出せるようになることを、到達目標とする。 AL20：講義形式を基本とする。最終的には、学生各人が自ら見いだした高齢社会の問題の、その解決の方向性を提示する作業を行う。		
		まちづくり論	まちづくり論は、身近なまちづくりに参加して活動していくための知識を歴史的背景や制度的背景を知り、社会問題・社会構造の変容との関係から理解を深め、まちづくりを科学的に捉えることを目標とする。 本授業では、公害問題や計画策定における市民参加・参画といった従来の運動論的な「まちづくり」を踏まえつつ、昨今の協働のまちづくりの現状を知る。さらに協働のまちづくりを進める上で重要となる制度・政策としての「地域ガバナンス」の視点を重視し、地域的まとまりに着目したコミュニティの持続的な仕組みづくりを学ぶ。持続的な仕組みづくりを担う、コミュニティ組織、コミュニティ組織が対象とする問題領域、またそれらを支える制度について、日欧米の相違を整理しつつ、理解を深める。 AL30：講義形式を基本とする。3回に1回程度、講義の振り返りや課題について発表し、グループで意見交換する機会を設ける。		
		建築構造力学Ⅲ	建築物の安全性を検討する構造設計の基本となる構造力学について講義を行う。この講義では、不静定構造を対象として、実際の設計で用いる応力と変形の解析手法を解説し、また、構造設計の概要と耐震設計ルートを解説する。骨組みを対象として、たわみ角法、固定モーメント法による応力解析手法を身に付け、骨組みの崩壊機構と保有水平耐力が算出できることを目的としている。 AL20：講義で例題を用いて解説するのでこれに関連した基本的な問題を解くことになり、この場合に学生とやりとりが生じる。演習問題には構造設計の内容が含まれており、各自が自由に設計できるため回答はひとつではなく、学生は質疑応答をとおして学ぶことになる。		
		社会調査法	地域社会を構成する人々の考え方や行動を把握するためには、地域に関するデータや資料を収集し可視化した上で、それらを分析することが必要となる。この授業では社会調査に関する基礎的な事項について学ぶ。具体的には社会調査の歴史的な経緯、目的、方法論、量的調査と質的調査、その他統計とはどのようなものか、などについての学習を深めていく。 (オムニバス方式/全15回) (10 佐藤栄治/7回) 社会調査法のご概念と種類/データの量と質/情報の視覚化 (6 古賀善章/4回) 種々の環境心理と評価 (12 糸井川高穂/4回) マーケティングと製品 AL50：グループに分かれてのデータ分析、プレゼンテーションを行う。	オムニバス方式 講義 20時間 演習 10時間	
		建築史Ⅰ	建築史Ⅰは、現代の設計行為やデザインをする際に、基本的な概念と現代の問題解決に必要なヒントを与えようとするもので、この授業は古代ギリシャ建築を西洋の源とし、ルネッサンス、バロック期までの「西洋建築」の形成、及び発展の過程を理解し、歴史的背景を含む各時代の様式、造形、構造、技術、意匠等の特徴を修得することを目標としている。 AL20：文献調査や、事例見学、問題演習の時間を設ける。その内容について、学生による発表や教員による解説を行う。	隔年	
		建築構造力学Ⅳ	構造設計に役立つ弾性論、塑性論、座屈論などの基礎理論を学び、部材や骨組の弾塑性挙動に関する理解を深める。具体的には、部材の弾塑性挙動の算定法、仮想仕事の原理による変形や板の塑性耐力の算定法、単一圧縮材の曲げ座屈耐力の算定法を修得する。 AL50：毎回の授業で宿題（問題を解く、質問事項を書く）を出し、次の授業では問題を解く際によく間違えていた箇所を説明したり質問事項に答えたりする。また2～3回の授業時間を問題演習の時間として、グループで問題を解き発表させる。		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築都市デザイン学科専門科目 専門教育科目 選択科目	環境工学Ⅱ	建築の室内外の環境に関する講義。主として光、熱、気流、音に関する計算方法とパッシブデザインを行うための基礎について取り扱う。講義と演習が主体であるが、パッシブデザインを取り入れた先進的な建物事例を紹介する。授業の到達目標は、1. 建築空間に関する室内外の環境を構成する物理的要素を理解し、優れた室内環境を創造するための技術を学ぶ。2. 建物が外部環境に及ぼす影響と環境負荷削減方法について学ぶ。 AL50：毎回の授業で環境工学に関わる小課題を出し、次の授業では小課題の解答事例や考え方について振り返る。またグループ課題を行い、共同作業を通じて課題を解き発表させる。熱負荷対策、昼光利用、自然換気利用、再生可能エネルギー利用、資源消費対策等についてのアイデアを討議し発表する。	
	防災マネジメントⅠ	近年、地震、津波、洪水、土石流、高潮、竜巻など過去に例をみないような自然災害が頻発している。これらの自然災害の発生メカニズム、防御・軽減対策、災害時の危機管理および災害後の復旧に向けた地域防災計画の立案・策定に必要な基礎知識を習得させる。 授業ではまず、地震、地盤、土石流、洪水、高潮、津波等の災害について、過去の災害事例を踏まえながらそれぞれの特性や発生メカニズムを解説するとともに、防災対策の基本事項を解説する。そして、災害時の危機管理の基本や災害後の復旧も視野に入れたレジリエント社会の構築について説明した後、実効性のある防災対策を進めるために持つべき視点と留意点を解説する。 AL20：各回の授業で、その授業内容に即した宿題（練習問題と疑問点・意見）を課しその日のうちに提出させる。次回授業までに提出物をチェックし、次回授業時にコメントを述べ、理解度の向上を図る。	
	まちづくり特講	地方都市やその周縁部地域における社会構造や人口・世帯構造の変化を整理しつつ、地域問題の傾向を把握する。そして、典型的な地域問題に対するまちづくりの実践例を学び、問題解決に向けて、まちづくりの今後の方向性を議論し、受講生自らがまちづくりリーダーとなることを想定したまちづくりプランを作成する。講義では複数の教員によるオムニバス授業とワークショップを行う。全体の構成と扱うテーマは次の通り。 （オムニバス方式／全15回） ⑫ 石井大一朗／9回 「社会構造の変容とまちづくり」、プランづくりワークショップ（3回）、「経済空間のまちづくり」②コミュニティビジネス、「まちづくり組織の組織マネジメントとネットワーク形成、まちづくりプランの発表とディスカッション」 ⑬ 大森玲子／1回 「ケア空間のまちづくり」①地域食育 ⑭ 中村祐司／1回 「ケア空間のまちづくり」②スポーツと余暇 ⑮ 原田 淳／1回 「農空間のまちづくり」①農業経営 ⑯ 高橋俊守／1回 「経済空間のまちづくり」②ランドスケープ ⑰ 鈴木富之／1回 「経済空間のまちづくり」①ツーリズム ⑱ 阪田和哉／1回 「まちづくりの評価」 AL:50 オムニバス授業では、各テーマごとにレポートの提出を求める。	オムニバス方式 講義 20時間 演習 10時間
	学外実習Ⅰ	本科目は全学年を対象としており、実習の担当教員は、学年担任および研究指導教員である。また、開講時期も各担当教員との相談で適宜対応できる。建築学は実社会との結び付きが極めて強く、学内における講義、演習、実験だけではなく実社会での体験、知識の習得が重要である。本科目では、学外における実社会での体験を通して建築学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会として位置付ける。多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身につける。 AL80：企業などの学外組織である実習先を、自ら候補を選びその情報を収集した上で、担当教員と相談して決める。実習先では、責任をもって役割分担の仕事を経験する。実習後は報告書をまとめ、発表会にて発表、ディスカッションを行う。	
	学外実習Ⅱ	本科目は全学年を対象としており、実習の担当教員は、学年担任および研究指導教員である。また、開講時期も各担当教員との相談で適宜対応できる。建築学は実社会との結び付きが極めて強く、学内における講義、演習、実験だけではなく実社会での体験、知識の習得が重要である。本科目では、学外における実社会での体験を通して建築学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会として位置付ける。多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身につける。 AL80：企業などの学外組織である実習先を、自ら候補を選びその情報を収集した上で、担当教員と相談して決める。実習先では、責任をもって役割分担の仕事を経験する。実習後は報告書をまとめ、発表会にて発表、ディスカッションを行う。	
	社会統計学	社会調査に必要な統計学と基本的な多変量解析について学習する。 統計学として、確率論の基礎、集合、確率変数と確率分布、標本分布と基本統計量、点推定と区間推定、平均の差の検定、独立性の検定、分散分析、属性相関係数、偏相関係数といった項目を取り扱う。 多変量解析としては、量的データの分析のために、単回帰分析、重回帰分析、質的データの分析のために、ロジスティック回帰分析を取り扱う。併せて、主要なパラメータ推定方法である最小二乗法と最尤法について学ぶ。また、多様な変数を整理、分類する分析方法として、因子分析・主成分分析を取り扱う。 本科目の内容は、社会調査士資格のためのD科目（社会調査に必要な統計学に関する科目）の内容を満たすものとするを想定している。 AL50：理解を確実なものとするため、予習・復習のための課題に取り組む。必要に応じ、データセットを配布して、コンピューター等にて、集計や分析の課題に取り組む。	
	建築計画学Ⅲ	建築設計の基礎となる各種公共建築物に関する専門的、技術的な事項について解説する。本講義の達成目標は、公共建築物の計画に関する専門技術の知識とそれらを設計デザインに応用できる能力を養うことである。具体的な公共建築物としては、就学前児童施設、図書館、各種学校、博物館、美術館、複合施設等とし、社会的な需要と課題について総論的に講義するとともに、専門性を高める。 AL20：基本的な知識を講義によって習得した上で、公共建築物に関する立地や計画内容、地域資源としての位置付け等の議論を行う。少人数でのグループディスカッションとし、その成果をプレゼンテーションする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築都市デザイン学科 専門教育科目 選択科目	都市計画	<p>都市計画は、身近な日常生活の問題や社会状況と深く関連があり、我々の生活を支えるルールの一つといえる。また歴史的経過や時代の大きな変化のなかで、新しい都市計画のシステムが模索されている。本講座では、歴史的な背景に基づく都市の形成過程を学ぶとともに、近年の社会変化に伴う新しい都市計画制度や都市システムを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 佐藤栄治/7回) 都市基本計画/土地利用計画/都市交通計画/都市基盤施設の計画/都市の防災計画/持続可能な都市構造/期末試験</p> <p>(93 大森宣暁/8回) 都市概論/古代、中世から現代までの都市計画の歴史/公園、緑地、オープンスペースの計画と住環境計画/中間試験/都市環境の計画/被災地の住宅再建計画/都市の景観設計/福祉と都市計画</p> <p>AL20: 基本的な知識を講義によって習得した上で、授業ごとに小レポートを課す。そのレポートを基に受講者と議論を行い、都市の形成要因や都市を計画する手法について、知識を深める。</p>	オムニバス方式
	建築リサイクル学	<p>資源の枯渇、廃棄物の最終処分場の逼迫が資源利用における課題となっており、建築物の分別解体と解体材の再資源化は、国と地域にとって重要な課題となっている。本科目は建築物の解体、解体材等のリユース・リサイクルに関する知識を習得することを目標とする。本科目で学習する主な項目は、1)建築物由来の廃棄物の現状、2)建築物の解体方法、3)建築解体材のリユース・リサイクル技術、4)建築物の解体・再資源化に関する法令、5)分別解体・再資源化に配慮した建築物の設計法、6)リサイクルによる環境負荷低減効果、7)震災廃棄物の実態と処理、である。</p> <p>AL50: 授業のうちの1~2回は、再生建材の製造工場、再資源化工場などの見学を行う。事前にどのようなことに着目して見学するのかについて課題を設定し、見学後は、課題に対するレポートを作成し、発表させる。</p>	
	建築史Ⅱ	<p>建築史Ⅱは、近代建築史の思潮の変遷及び近代建築家作品を対象としている。本講義は19世紀近代建築思潮から現・近代建築まで、建築作品及び建築思潮を通して設計概念と建築思想の変遷過程を理解することが目標である。まだ結末が示されていない時代の建築と同じ目で、より創造的であろうとする立場から、近代建築の思想の流れを分析し、解釈することを目指している。</p> <p>AL20: 文献調査や、事例見学、問題演習の時間を設ける。その内容について、学生による発表や教員による解説を行う。</p>	隔年
	鉄骨構造	<p>建築構造物の主要な構造形式である鉄骨構造による構造体を設計するための基本的な項目について解説し、鉄骨構造骨組の構造設計の内容を解説する。構造形式として鉄骨構造の特徴を理解すること、構造物に生じる座屈と破断について理解すること、引張力、圧縮力、曲げモーメントを受ける部材の設計ができることを目的としている。建築物の建て方、施工方法、地震被害事例についても解説する。</p> <p>AL20: 講義で例題を用いて解説するのでこれに関連した基本的な問題を解くことになり、この場合に学生とやりとりができること、演習問題には構造設計の内容が含まれており、各自が自由に設計するため回答はひとつではなく、学生は質疑応答をとおして学ぶことになる。</p>	
	鉄筋コンクリート構造	<p>鉄筋コンクリート造建築物の構造計算を学び、構造設計の理解を深める。具体的には、鉄筋コンクリート構造の構造的特徴、部材の主筋の設計法、部材のせん断補強筋の設計法、構造設計ルートを修得する。</p> <p>AL50: 毎回の授業で宿題(問題を解く、質問事項を書く)を出し、次の授業では問題を解く際によく間違えていた箇所を説明したり質問事項に答えたりする。また2~3回の授業時間を問題演習の時間として、グループで問題を解き発表させる。</p>	
	設備工学Ⅱ	<p>設備工学Ⅱでは、空調調和設備について、冷暖房の原理を説明した上で、エネルギー有効利用として、自然エネルギー利用、排熱回収、ロスの回避などがあること、具体的なエネルギー有効利用の手法とその考え方を説明する。</p> <p>AL20: 熱源システムのエネルギー有効利用に関する文献調査を行い、その特徴について発表、ディスカッションを行うとともに、環境配慮建築への応用法の提案を行う。また、自らの設計製図の課題の作品に対して、環境配慮の計画を付加し、発表、ディスカッションを行う。</p>	
	設備設計論	<p>建築と設備の境界領域、最新の環境技術・社会動向、実物件への導入事例を中心に、建築における設備設計の役割と重要性、設備設計の基礎知識について解説する。実務者からの視点で建築設備の現状と設計への対処例を紹介することで、建築業界への理解を深めるとともに建築設備設計の基礎的知識を習得する。</p> <p>AL20: 環境・設備設計に関する学外での事例見学や、課題演習の時間を設け、グループで解答を作成して発表させる。それに対して、他のグループからの質疑を受ける。最後に、教員から解説を行う。</p>	隔年
	建築材料Ⅱ	<p>建築物を構成する種々の材料のうち、木材・木質材料、各種仕上材料および機能性材料の特性、性能、製造法等を学習する。建築物を構成する種々の材料の性能や機能を理解し、建築物の設計・施工において適切な種類・品質の材料を選択することのできる知識を習得することが目標である。本科目で学習する主な項目は、1) 木材、2) 石材、3) ガラス、4) セラミックス、5) 石灰・石こう系材料、6) プラスチック、7) 塗料、8) 断熱材、9) 防耐火材料、10) 音響材料、11) インテリア材料である。</p> <p>AL50: 授業のうちの1~2回は、建材製造工場、建材メーカーの研究所などの見学を行う。事前にどのようなことに着目して見学するのか課題を与えておく。見学後は、課題に対するレポートを作成し、発表させる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築都市デザイン学科専門科目 専門教育科目 選択科目	生物多様性論	生物多様性を巡る科学の進展は著しく、遺伝子から種、個体群、群集、そして景観に至るまで、あらゆるレベルの生物多様性をもたらす機能及び役割について、様々な研究が行われてきた。その歴史はまだ浅いが、生態的な過程が我々人類に食糧、水、エネルギーなどのサービスを提供する際、生物が重要な役割、機能を果たすことを明らかにした。その中でも注目すべき成果は、単に種が多ければ良いわけではなく、生物種が占める生態的位置、構成する生物種の間相互作用が重要であることを示した点かもしれない。本講義では、こういった研究の進展を踏まえ、「生物多様性を失うと、どんなサービスの低下が起こるのか」という問いかけに応じた様々な研究事例と、それらから得られた知見を平易に紹介する。 AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。	
	建築計画学IV	建築設計の基礎となる各種公共的建築物のうち、高齢者福祉施設と保健医療施設の建築計画に関する歴史、背景となる社会的動向および計画に関する専門的、技術的な事項について解説する。本講義の達成目標は、公共建築物および業務施設の計画に関する専門技術の知識とそれらを設計デザインに応用できる能力を養うことである。 AL20：3～4回の授業に1回の割合で学生を数グループに分けて課題を与え、各自のレポートにもとづき議論させる。予定されるテーマとして、①高齢者の行動特性・意識特性、②高齢者施設と一般建物との建築計画における相違、③医療施設（病院）の建築計画の特徴、などである。議論した結果をグループごとに発表させ質疑応答を行う過程で建築計画の具体的な役割を学ばせ、講義内容の理解を深めさせる。また、車椅子の試乗を校舎内外で行わせ、建築計画で考慮すべき諸事項を体験させる。	
	地区計画	日常生活の身近な範囲である地区を主な対象として、まちづくりとコミュニティの概念の基礎的な理解をもとに、住民参加を推進するコミュニティ計画、地区計画のあり方を解説する。さらに、市街地の具体的な事例を通して計画の進め方と事業制度の根拠を学ぶ。 授業は必要に応じて資料やパワーポイントなどのAV教材を使用し、受講生の理解を促す。前半は主に資料に基づいて講義を行う。毎回、最後に講義内容について小レポートを課す。後半は、教科書の解説と宇都宮市での事例の解説を行い、課題に関するレポートを課す。 (オムニバス方式/全15回) (10 佐藤栄治/8回) 地区計画とは、地区計画の諸タイプ、まちづくり条例と地区計画、まちづくり規範、コミュニティと地区計画、住民参加による地区計画、震災復興としての地区計画、まとめと中間試験 (167 長田哲平/7回) 身体尺度、市街地再開発授業の位置づけ概要、土地区画整理事業、市街地再開発事業、法定地区計画、市街地開発事業と交通、景観計画 AL50：前半では毎回小レポートを行うとともに、後半の講義では毎回、講義内容の理解を促すために講義メモを配布し、記入回収する。適宜、コメントなどを記入させて、学生の理解度を確認しながら講義を進める。また、それとは別に課題レポートを課して地区計画について自身で探求をさせる。	オムニバス方式
	建築デザイン	建築や都市のデザインにおいては、要素の技術に留まらず、多様な人間活動や社会条件を前提に、複数の条件を調整し諸要素を統合する方法が必要である。この授業では、建築における内部と外部、室と動線、架構と形態、また、建築と都市空間の関係における立地環境、外部空間、建築の集合形式などの観点から、建築と都市の諸要素の統合および空間構成の方法について解説し、あわせてそのデザイン演習を行う。 AL50：発表形式の講義やデザイン演習等を行う。	
	建築史III	本講義は、古代から近世に至る日本建築の形成および発展過程を捉え、日本建築の特徴あるいは日本的な意匠とはどのようなものかについて解説する。過去の歴史において、どのような建物が建てられ、どのような意味で歴史に残っているのか、またその意匠はどのような歴史的背景と技術的変遷を経て建てられたものかについて学ぶもので、現代の設計行為やデザインをする際に、基本的な概念と現代の問題解決に必要なヒントを与えようとするものである。 AL20：文献調査や、事例見学、問題演習の時間を設ける。その内容について、学生による発表や教員による解説を行う。	隔年
	高齢者防災論	心身機能が衰えてくる高齢期には、それまでにない災厄に見舞われやすくなってしまいます。災厄といっても、天災・人災から事故や犯罪などさまざまなものがある。本科目では、高齢者をはじめとする乳幼児・障がい者ら災害弱者に対する防災について広く学び考えることで、万人の安心と安全につながる知識を得ることを目指す。具体的には、災厄の種類と特徴、安心と安全の関係、高齢者等の感覚・知覚・行動・心理の特性、日常生活での予防、罹災時の対応、罹災後のケアなどをテーマにしていく。 AL50：原則毎回、自ら考えるような小課題を出題する。さらに数回ごとにグループに分かれて、調べ学習や議論・提案発表などを行う。	
	構造設計論	実務設計における建築計画のアプローチ概論(Technical Approach in Design Development Phase)、各種の基礎技術が如何に有効に設計行為の中で生かされていくかを具体的に示す。建築設計は美とサイエンス・テクノロジーの結晶であり、構造設計はその重要な要素であることを解説し、各種の基礎技術が如何に有効に設計行為の中で生かされていくかを具体的に示し、基礎技術習得のモチベーションとする。 AL20：具体建築事例を取り上げ、課題演習とディスカッションの時間を設け、グループで解答を作成して発表させる。それに対して、他のグループからの質疑を受ける。最後に、教員から解説を行う。	隔年

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育 科 目 建 築 都 市 デ ザ イ ン 学 科 専 門 科 目 選 択 科 目	土質基礎工学	建物を設計・施工する上で必要な基本的な地盤・基礎に関する知識や考え方、計算法だけでなく、液状化などの地盤災害、基礎や地下の構築技術、環境問題など、建築物と地盤の係わりについて、幅広い知識を習得する。基礎構造は、建物からの応力を地盤に伝達する重要な部分であり、建物の安全性に重要な役割を担っている。本講義では、建物を設計・施工する上で必要な基本的な地盤・基礎に関する知識や考え方の習得を目標とする。 AL20：3～4回の授業に1回の割合で問題演習の時間を設け、グループで解答を作成して発表させる。それに対して、他のグループからの質疑を受ける。最後に、教員から解答の解説を行う。	
	設備工学Ⅲ	設備工学Ⅲでは、空気調和設備のうち、主に室内環境を良好に保つためのシステムを講義する。用途に応じた空調方式、建築空調一体化手法、空調ゾーニングや空調装置設計法、環境建築設計のための各種手法と設計事例について講義する。 AL20：設計製図の授業と連携し、設計作品に導入する環境配慮手法のための技術や事例について文献調査を行い、発表、ディスカッションを行う。この結果をもとに、作品に導入する環境配慮手法を説明する環境配慮コンセプト図を作成する。	
	地域環境エネルギー計画	エネルギー消費の削減が求められる中、地域、都市、地区レベルでのエネルギー利用計画の重要性が高まっている。地域レベル、都市レベルで、エネルギー需要の抑制計画とともにエネルギー供給システム計画に関する考え方、方法について講義を行う。 【授業の到達目標】 ・地域、都市レベルでのエネルギー供給、需給について理解する。 ・地域、都市レベルでのエネルギーシステム計画について理解する。 ・未利用エネルギー活用方法について理解する。 AL50：地域エネルギー計画について個人向けの課題を出す。またグループに分かれて、地域環境、地域エネルギー、エネルギー活用方策、エネルギー需要抑制方策について討議し発表する。学外での現地見学・調査も行なう。	
	建築インターンシップ	実習の担当教員は、学年担任である。また、開講時期も各担当教員との相談で適宜対応できる。建築・都市デザイン学は実社会との結び付きが極めて強く、学内における講義、演習、実験だけではなく実社会での体験、知識の習得が重要である。本科目では、学外における実社会での体験を通して建築学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会として位置付ける。多様な主体との間で意思疎通が図れる能力を身につける。 AL80：企業などの学外組織である実習先を、自ら候補を選びその情報を収集した上で、学年担当と相談して決める。実習先では、責任をもって役割分担の仕事を経験する。実習後は報告書をまとめ、発表会にて発表、ディスカッションを行う。	
	建築学外実習	古建築や伝統的町並みの見学、あるいは最新の技術を駆使した建築の見学を通して、今後の建築のあり方を考察することに役立つ建築文化や建築技術について学ぶ。歴史文化を尊重し、目標を立てて建築を創造するデザイン能力を身につける。 AL80：見学候補の建築・町並みを抽出し事前に文献調査を行い、学生同士のディスカッションにより、見学対象を決定する。また、旅行のための具体的な計画や種々の手配を学生が協力して行う。見学後は、報告書を作成して、発表、ディスカッションを行う。	
	国土計画	我が国の国土づくりの基本的な指針である国土計画について、これまで果たしてきた役割とその評価、国土の将来像、課題等に精通し、また国土建設の公共部門を担う国土交通省や県庁の行政の仕組み等について理解できるように講義する。 (オムニバス方式／全15回分) (180 川上 征雄／7.5回分) 国土交通行政の仕組み、国土建設の主要課題、国土計画等の系譜と展望、社会資本整備の仕組み、国土交通行政をとりまく最近の動向に関する講義を行う。 (183 印南 洋之／7.5回分) 栃木県における建設行政の仕組み、栃木県における建設行政の主要課題、栃木県における建設行政をとりまく最近の話題、技術者倫理に関する講義を行う。 AL20：レポート課題により、国土計画の現状・事例についての知識や、今後の課題に対する認識を深める。	オムニバス方式
	工業日本語基礎Ⅰ	工学系留学生対象の、科学技術に特化した日本語の授業です。ホームページを作成し、学んだ口頭表現を使って発表します。 以下を到達目標とします。 (1)口頭表現力を身につける (2)資料を作成する (3)科学技術分野で使われる語彙用語や文章表現を習得する (4)チームワークでより良い作品を作り上げる (5)異なる文化や考え方を理解する AL80：口頭発表は、各自でテーマを選び、ホームページを作成します。発表前には作成したホームページおよび原稿の日本語チェックを行います。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部建築都市デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択科目	工業日本語基礎Ⅱ	工学系留学生対象の、科学技術に特化した日本語の授業です。研究発表のプレゼンテーション技術の向上を目指します。 以下を到達目標とします。 (1) パワーポイント作成技術習得 (2) プレゼンテーションおよび質疑応答 (3) 口頭表現力を伸ばす (4) 科学技術分野の専門用語や文章表現習得 (5) 異なる文化や考え方を理解する AL80：各自テーマを決め、パワーポイントで発表資料を作成し、プレゼンテーションと質疑応答を行います。発表前にはPPTおよび原稿の日本語チェックを行います。
		工業日本語応用	工学系留学生対象の、科学技術に特化した日本語の授業です。4年間の日本語学習の集大成であり、4技能「読む・書く・聞く・話す」について、総合的な日本語能力の向上を図ります。 以下を到達目標とします。 (1) 科学技術分野の文章から構成・表現方法を学ぶ (2) 口頭表現力の向上を図る (3) 多面的発想力や問題解決法、技術者の在り方について考える (4) 異文化や、各国の考え方を理解する AL80：「読む・書く・聞く・話す」4技能の総合的な向上を図ります。特に、研究発表ができるように、発表技術だけでなく質疑応答やパフォーマンスについても力をつけます。

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤 教育 科目	初期 導 入 科 目	<p>大学での生活、学習方法、キャリア形成などの基礎的スキルを習得するとともに、社会基盤の各専門領域の成り立ちと変遷を、社会の歴史あるいは環境的側面から解説するとともに、社会基盤技術と社会との関わりを通して、技術者としての倫理観を養成する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 中島章典/5回) 大学での学習方法とキャリア形成、橋梁建設の歴史と環境との関わり (4 池田裕一/2回) 河川と社会との関わり (3) 海野寿康/1回) 人間生活と地盤との関わり (6 清木隆文/1回) 地下空間構造の歴史 (5 大森宣暁/2回) 都市計画の変遷と環境との関わり (3 藤原浩巳/1回) コンクリートの歴史 (7 丸岡正知/1回) コンクリートと環境 (1) 山岡 暁/1回) 海外プロジェクトの歴史 (2) 近藤伸也/1回) 防災マネジメントの歴史</p> <p>AL50: 授業ごとに、前半は講義をして、後半は講義内容に関するグループディスカッションとレポートの提出を課す。</p>	オムニバス方式 講義 20時間 演習 10時間	
	リテラシー 科 目	Integrated English I A	<p>(英文) Classes will be conducted in English, twice a week by the same instructor to the same students. Students are always expected to use English in class. Although both sections are aimed at developing integrated skills, one is mainly focused on reading skills, while the other is focused on listening and speaking skills using authentic language from movies.</p> <p>In the first stage of the class, students will acquire the study skills necessary for success in English studies. Students will be provided guidelines for efficient use of a dictionary, reading and using English handwriting, understanding phonetic transcriptions, taking notes, etc.</p> <p>In the reading section, students will develop the skills necessary to use professional journals, books, websites, and other media in order to conduct academic research after advancing to their major area.</p> <p>In the section using movies, students will develop oral communication skills. They will also be introduced to various foreign cultures through these movies in order to promote intercultural understanding.</p> <p>(和訳) 授業は全て英語で行う。はじめに辞書の使い方、筆記体の読み書き、発音記号、ノートの取り方など英語学習の基本を解説。総合的な英語力を伸ばすため、リーディング、リスニング&スピーキングに重点を置く。リーディングの授業では専門課程での研究に備えて学術雑誌、専門誌、書籍、ウェブサイトやその他の媒体の読み方を学び、リスニング&スピーキングの授業では映画を使って「生の英語」に触れ、会話の力を向上させると同時に、映画が発信する様々な異文化への理解を深める。</p>	
	Integrated English I B	<p>(英文) Students will be able to: (1) use a full range of explicit and implicit communication strategies (questioning, repetition, clarification, etc.) to improve speaking fluency and listening abilities, (2) discover unspecified facts and inferred meaning as they develop their own opinions about topics and situations, (3) speak the target language relatively fluently by identifying and using a substantial range of real world vocabulary and a variety commonly used idiomatic expressions, (4) use a variety of structures with few grammar errors, although communication breakdowns may occasionally occur, (5) recognize and practice native-like pronunciation patterns to make communication clear, and (6) develop and organize written language using a wide variety of structures to support and prepare for functional communication.</p> <p>(和訳) この授業は以下の能力の修得を目指す。(1) 直接的、間接的なコミュニケーション戦略(質問、反復、説明)を使って流暢に会話し、(2) 話題や状況に対する自分の意見を持ち、明記されていない事柄や隠された意味を推測でき、(3) 広範囲な口語表現や慣用句を理解し使うことができ、(4) 文法的な間違いが多少あっても、誤解を招くような大きな間違いなしに多様な文章構造で表現でき、(5) ネイティブの発音パターンを聞き取り、同じように発音でき、(6) 複雑な構文を使って実践的な文を書き文章を編集できる。</p>		
Integrated English II A	<p>(英文) Classes will be conducted in English, twice a week by the same instructor to the same students. Students are always expected to use English in class. Although both sections are aimed at developing integrated skills, one is mainly focused on reading skills, while the other is focused on listening and speaking skills using authentic language from movies.</p> <p>In the reading section, students will develop the skills necessary to use professional journals, books, websites, and other media in order to conduct academic research after advancing to their major area.</p> <p>In the section using movies, students will develop oral communication skills. They will also be introduced to various foreign cultures through these movies in order to promote intercultural understanding.</p> <p>(和訳) 授業は全て英語で行い、週に2回同じ教員が担当する。総合的な英語力を伸ばすために、リーディングとリスニング&スピーキングに重点を置いた授業をする。リーディングの授業では専門課程での研究に備えて、学術雑誌、専門誌、書籍、ウェブサイトやその他の媒体の読み方を学ぶ。リスニングとスピーキングの授業では映画を使って「生の英語」に触れ英語を話す力を伸ばすと同時に、映画が発信する様々な異文化への理解を深める。</p>			

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤 教育 科目	リ テ ラ シー 科 目	Integrated English II B	(英文) Students will be able to: (1) use a full range of explicit and implicit communication strategies (questioning, repetition, clarification, etc.) to improve speaking fluency and listening abilities, (2) discover unspecified facts and inferred meaning as they develop their own opinions about topics and situations, (3) speak the target language relatively fluently by identifying and using a substantial range of real world vocabulary and a variety commonly used idiomatic expressions, (4) use a variety of structures with few grammar errors, although communication breakdowns may occasionally occur, (5) recognize and practice native-like pronunciation patterns to make communication clear, and (6) develop and organize written language using a wide variety of structures to support and prepare for functional communication. (和訳) この授業は次のことを目的とする。(1) 直接的、間接的なコミュニケーション戦略(質問、反復、説明)を使って流暢に会話できる。(2) 明記されていない事柄や隠された意味が推測でき、話題や状況に応じた自分の意見を展開できる。(3) 広範囲な口語表現や慣用句を理解し、使うことができる。(4) コミュニケーションがうまくいかない場合が時折あっても、多様な文章構造を使い文法的な間違いをほとんど犯さずに表現できる。(5) ネイティブの発音パターンを聞き取り、同じように発音できる。(6) 様々な構文を使って実践的な文を書き、編集できる。
		Advanced English I (Intensive Reading)	(英文) This is an intermediate to advanced integrated course with the primary focus on reading in English. In this course, students will learn reading skills by reading newspaper articles. (和訳) リーディングを重視した中・上級向けの総合英語コースで、新聞の記事や論説を読むことで読解力をつける。
		Advanced English I (Pleasure Reading)	(英文) This course aims at developing reading skills by reading English extensively and enjoyably. The course consists of two sections: One is the classroom activities — using a textbook, the students learn how to read fast and get the ideas of the contents quickly. The other is the reading lab activities — The EPUU reading laboratory has some 5,000 English graded readers: The students are to check out those books, and read a large number of books assigned to each student according to his/her reading ability. (和訳) このコースは楽しみながら多くの本を読むことで読解力の向上を目指す。授業の中では英文をさっと読んで内容を把握する練習を行う。さらに受講生はEPUUリーディングラボに蔵書された5000冊のgraded readers(英語学習者の語彙レベルに合わせた本)の中から自分の英語力に合わせた本を大量に借りて読むことになる。
		Advanced English I (Academic Writing)	(英文) Students employ a process writing approach using a number of writing formats to gain the skills needed to progress towards writing academic papers. (和訳) フォーマットを使ったプロセス・ライティングアプローチを学び、研究論文を書ける英語力をつける。
		Advanced English I (Essay Writing)	(英文) Students practice using a process approach to essay writing in English. (和訳) プロセス・ライティングアプローチを練習し、小論文を書ける英語力をつける。
		Advanced English I (Public Speaking)	(英文) Students focus on speaking and organizational skills for use in front of an audience. (和訳) 聴衆を前に話すスキルや、その内容を構成するスキルに焦点をあてる。
		Advanced English I (Presentation)	(英文) Students focus on organizational and speaking skills to give clear and effective presentations. (和訳) プレゼンテーションを効果的にするための構成や話し方のスキルに焦点をあてる。
		Advanced English I (Discussion&Debate)	(英文) Students focus on speaking and organizational skills for discussions and debates. (和訳) ディスカッションやディベートで話すスキルや、その内容を構成するスキルに焦点をあてる。
		Advanced English I (Speech Clinic)	(英文) Students focus on improving English pronunciation and listening skills. (和訳) 英語の発音とリスニングの上達に焦点を置く。
		Advanced English I (Vocabulary Building)	(英文) Students increase their ability to use the most common vocabulary for reading and speaking English. (和訳) 英語を「読む」「話す」際に使用頻度の高い語彙を使う能力を高める。
		Advanced English I (Communicative Grammar)	(英文) This is an advanced integrated course with the primary focus on English grammar. More specifically, students learn how to identify, analyze, and use phrasal verbs and other multi-word verbs in English. (和訳) 文法に焦点をあてた総合英語のアドバンスコース。具体的な目標としては、句動詞や多語動詞をマスターする。
		Advanced English I (Media English)	(英文) Students use authentic English materials from various media to practice reading, writing, speaking, and listening. (和訳) 新聞、テレビ、WEBなど様々な媒体で入手した正しい英語で書かれた資料を使って、その英語を読み、書き、話し、聴き取れるよう練習する。
		Advanced English I (Cinema English)	(英文) In this course, using a movie as a learning material, students will improve their oral communication abilities, and deepen intercultural understanding. (和訳) 映画視聴によって受講生の会話力をUPさせ、異文化理解を深める。

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基 盤 教 育 科 目	リ テ ラ シー 科 目	Advanced English I (TOEIC)	(英文) Students practice higher level listening and reading strategies for success when taking TOEIC. (和訳) リスニングとリーディングを強化してTOEICテスト高得点を目指す。
		Advanced English I (TOEFL)	(英文) Students practice strategies for success on the TOEFL iBT Speaking Section. (和訳) TOEFL iBTのスピーキングセクション強化対策。
		Advanced English I (EAP)	(英文) Students study the discipline of Community in English (和訳) コミュニティ学を英語で学ぶ。
		Honors English A	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力をつかって、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English B	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力をつかって、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English C	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力をつかって、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English D	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力をつかって、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English E	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力をつかって、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English F	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力をつかって、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English G	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力をつかって、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors English H	(英文) Advanced students use the four skills in English for discussion, listening comprehension, reading, and writing in order to complete classroom tasks and class projects. (和訳) 英語の上級者向けクラス。ディスカッション力、聴解力、読解力、ライティング能力をつかって、クラスに与えられた課題や研究に取り組む。
		Honors Camp A	(英文) Students will do individual and group research before the camp. At the camp they will work in groups, presenting and sharing their information and opinions. After the camp they will turn in academic papers based on their research and conclusions. (和訳) キャンプ前に受講生は個別にそしてグループで研究を行う。キャンプではグループの中でお互いの情報や意見を共有する。キャンプ後に結果を論文にまとめて提出する。
		Honors Camp B	(英文) Students will do individual and group research before the camp. At the camp they will work in groups, presenting and sharing their information and opinions. After the camp they will turn in academic papers based on their research and conclusions. (和訳) キャンプ前に受講生は個別にそしてグループで研究を行う。キャンプではグループの中でお互いの情報や意見を共有する。キャンプ後に結果を論文にまとめて提出する。
		Honors Camp C	(英文) Students will do individual and group research before the camp. At the camp they will work in groups, presenting and sharing their information and opinions. After the camp they will turn in academic papers based on their research and conclusions. (和訳) キャンプ前に受講生は個別にそしてグループで研究を行う。キャンプではグループの中でお互いの情報や意見を共有する。キャンプ後に結果を論文にまとめて提出する。
Honors Camp D	(英文) Students will do individual and group research before the camp. At the camp they will work in groups, presenting and sharing their information and opinions. After the camp they will turn in academic papers based on their research and conclusions. (和訳) キャンプ前に受講生は個別にそしてグループで研究を行う。キャンプではグループの中でお互いの情報や意見を共有する。キャンプ後に結果を論文にまとめて提出する。		
Overseas Study A	英語圏の大学や英語学校等における学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当と思われる単位数を授与します。各個人で手続きをして学修してきた場合と、EPIU 主催の短期語学研修の場合の、両方を対象としています。		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目 リテラシー科目	Overseas Study B	英語圏の大学や英語学校等における学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当と思われる単位数を授与します。各個人で手続きをして学修してきた場合と、EPUU 主催の短期語学研修の場合の、両方を対象としています。	
	Overseas Study C	英語圏の大学や英語学校等における学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当と思われる単位数を授与します。各個人で手続きをして学修してきた場合と、EPUU 主催の短期語学研修の場合の、両方を対象としています。	
	Overseas Study D	英語圏の大学や英語学校等における学修に対し、授業シラバス、授業時間数、成績を確認し、適当と思われる単位数を授与します。各個人で手続きをして学修してきた場合と、EPUU 主催の短期語学研修の場合の、両方を対象としています。	
	スポーツと健康	(バレーボール) (217 吉野 聡) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。バレーボールを楽しむ上で、個人的な基礎技能の修得は必須です。そのため、授業の前半はアンダーハンドパス・オーバーハンドパス・サーブ及びサーブレシーブ・スパイク・ブロック等に関する基礎的個人技能の修得を中心に進めます。こうした個人技能の修得を前提に、後半では受講者数に応じたチーム編成を行い、リーグ戦によるチーム戦術の修得を中心に進めます。また、バレーボールを行う上での戦術・ルール・基本的な体力トレーニング法等についても、講義・演習形式で、授業の中に適宜取り入れて行く予定です。	
	スポーツと健康	(フライングディスク) (197 花園 賢一郎) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。屋外ではフライングディスクに関連するゲームを行いません。ディスクを操作する(投げる・受ける)技能を身につけ、コンビネーションプレーや戦術(作戦)を考え、ゲームではパフォーマンスを向上させ、楽しんで行なうことができるようになることをめざします。屋内(雨天時)では、体力トレーニング、ストレッチ等で体調維持に努め、また、種々のフライングディスク競技の説明、ルールや戦術の解説を行いません。	
	スポーツと健康	(サッカー) (182 石川 栄壽) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。サッカーの経験者であるとか、サッカーをしたことがないとかは関係ありません。ゲームを中心にレベルに応じた授業をします。	
	スポーツと健康	(サッカー) (179 村上 修) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。サッカーの経験者の有無は関係ありません。時間があればサッカーの試合をたくさん観て下さい。	
	スポーツと健康	(ソフトボール) (224 名古屋 光彦) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。競技の特徴や基本的技術を学んだ後に試合を実施します。また、楽しく円滑に試合を進めるためにスローピッチの特別ルールを取り入れ試合を行います。	
	スポーツと健康	(ソフトボール) (248 小倉 圭) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。競技の特徴やルール、基本的技術を学び、段階的な練習により技能の修得を図ります。さらに、課題練習やゲームを通して、他者と積極的にコミュニケーションをとり、仲間と協同して課題解決に取り組む能力養成を目指します。	
	スポーツと健康	(テニス) (247 石井 幹人) 生涯にわたり適切なスポーツを楽しく行えるように、選択した運動種目の技術及び知識の修得と実践力を身につけ、身体活動を通して豊かなライフスタイルを形成できる能力を高めます。初心者には、簡易ゲームを発展していく展開を通して基礎技術を修得し、ダブルスゲームを行えるようにします。経験者は、毎授業の前半は初心者指導法を学習し、後半は技能向上のためのゲーム練習に取り組みます。また、ルール、審判法や体力トレーニングなどは講義・演習形式で適宜取り入れます。なお、雨天時は講義やVTR教材等による学習を行います。	
	情報処理基礎	情報化社会において共通の持つべき情報リテラシーの修得を図る。具体的には、ウェブ、電子メール、オフィス系ソフトウェアの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、本学の総合メディア基盤センターのコンピュータおよびネットワーク環境について、実習を主とした授業形式で学習する。 (オムニバス方式/全15回) (4 池田裕一/3回) ガイダンス、総合メディア基盤センターおよびネットワーク環境の利用方法、Webブラウザと電子メールの利用 (10 長田哲平/4回) ワードプロセッサによる文書の作成方法 (11 飯村耕介/4回) 表計算ソフトウェアの活用方法およびワードプロセッサとの連携 (② 近藤伸也/4回) プレゼンテーションソフトの活用方法および発表のテクニック AL80: 毎回、総合メディア基盤センターのパーソナルコンピュータ(PC)を実際に操作し、課題を提出させる。授業中に操作方法や課題内容について教員やティーチングアシスタントに質問・意見交換する。	オムニバス方式
	とちぎ終章学総論	2025年から日本は超高齢社会となり、65歳以上の高齢者が国の総人口の30%を超えると予想されている。今後ますます様々な環境において高齢者と共に生きる社会になる。そこで、高齢者に関する課題を自らの問題として捉え、高齢者と共に生きるため、また、自分自身も豊かな終章を生きるための知識について学ぶ。 「とちぎ終章学」という言葉には、人生の最後の時期を困難や苦しさの中で過ごしていくのではなく、どのように豊かに、幸せに暮らしていくのかという問いと、栃木県の地域課題である高齢化をポジティブに捉え直していくという願いが込められている。	講義 5時間 演習 10時間

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目 人文科学系科目	哲学領域	西洋思想	「西洋」「近代」思想が現代社会に与えてきた影響は、宗教、政治、経済、科学技術等々の多方面において無視できない多大なものがある。本講義では、「西洋とは何か」「思想とは何か」という大前提を問ひ、次に、古代ギリシャから現代思想にいたるまでを概観した上で「近代」に着目し、「科学」と「自由」をキーワードに、「西洋思想」の本質およびその問題点を探る。先人たちの思想と我々のそれとの比較および影響について考えながら、現代社会が抱える具体的諸問題（環境問題、先端医療技術にまつわる倫理問題）にも言及する。
		現代思想	「現代思想」という名のもとに包括される現代の様々な思想を概観する。概観を通じて「現代思想」の特性を検討し、どのような点で近代の思想などと異なるのかを考える。こうした作業を通じて、私たちが生きる現代の思考様式がいかなるものであるのかを学ぶ。
		東洋思想	過去の日本人がどのようなことを考え、想ってきたかを考察する。本授業は狭義には日本思想史、つまり歴史的な「日本の思想」だが、基本的に日本人たちが参照してきたものは、儒教や仏教といった「東洋」のテキストであったため、「東洋思想」と直結する。東日本大震災は、私たちに多くの問いを投げかけた。それらに少しでも応えられるように、私たちとその社会を培ってきた思想的背景を、できるだけ広く学び、そこから確かに繋がっている「今」の自分の「思想」を見直したいと思う。
		論理学	この講義では「どのようにして論理的思考をおこなうか」を学ぶと共に、論理的に思考する能力を向上させる練習を行います。論理的思考は、与えられた情報の相互関係の正しさを評価しながら、情報を分析・総合する過程に存します。この過程が具体的にどのようにおこなわれるか、また、この過程をどのように自分自身が実行すればよいのかを学ぶのに最も適した題材として「自然演繹」と呼ばれる形式体系の推論規則について学びます。
		西洋の倫理思想	自己の生を、どうすれば肯定することができるだろうか。本講義では、「生」の問題に関する倫理学的な背景を踏まえながら、人間一般ではなく、個人（単独者、超人）の生＝「一つの生」について考えたスピノザ、ニーチェ、ドゥルーズなどの議論を概観することで、西洋の倫理思想における最も重要で根本的な問題である「生」について考える。特に〈善/悪〉と〈よい/わるい〉との違い、精神と身体の並行論、遠近法主義、自由意志批判（無意志主義）について検討します。
		科学思想史	科学の歴史的発展には、科学方法論、すなわち「科学的研究はどのような手続きによって進められるべきか」という問題に関する反省的思考の発展が伴ってきた。科学的方法論の歴史的展開を通して科学的思考を反省的に分析する視座について講義する。
		東アジアの宗教と文化	東アジアの社会において、宗教はどのような役割を担ってきたのであろうか。本講義では、特に中国に焦点を当て、その宗教、文化に関する基本的な知識を紹介する。授業の中では、中国南部や台湾、香港でのフィールドワークの成果に基づく具体的な文化事例を示し、多角的な視点から中国における伝統社会と宗教との関係を示したい。
	仏教における人間形成論	仏教は基本的に人生を苦と捉える宗教であり、世俗的な成功や幸福の価値を否定する。そのような思想に強く影響された社会で、人間がいかに自己を形成し、自分の生き方に納得していくかを、仏陀自身およびインド・中国・日本の高僧や信者の事例をもとに考える。	
	心理学領域	認知心理学入門	私たちの行動の背景には、自覚することが難しいにもかかわらず大きな影響力を持つさまざまな心理的要因が関与しています。この授業では、認知心理学の研究を紹介しながら、このような心理的要因のいくつかについて考えます。
		行動心理学入門	行動心理学における種々の領域について講義を行い、行動心理学という領域の大枠や、研究例を紹介いたします。
		実験心理学入門	本講義では、心理学の基礎領域における実証科学的な実験法の解説を行います。さらに、各実験計画について具体例を挙げながら説明し、心理学の研究がどのように行われるかを概観していきます。
		発達と学習の心理学	現代社会では子どもへの教育が重視され、その中で、子どもの心を理解することが不可欠となっています。それと同時に、大人自身の心を客観的に捉えることができることも重要となっています。本授業では、人間が成長する過程における発達と学習に関する知見を提供し、自らが学び、考え、成長する態度を養えるよう基礎的知識を概説します。
		パーソナリティ心理学概論	本授業では、心理学がパーソナリティ（日本では、「性格」「人格」と表現されることが多いが、アカデミックには「パーソナリティ」という用語が定着している）をどのように捉えているのかについていくつかの代表的立場の考え方について学び、パーソナリティの形成に関わる生物学的・心理社会的要因にはどのようなものがあるか、パーソナリティをどのように測るのか、パーソナリティは変わるのか、といったテーマに関して、これまでに蓄積されている知見に触れる。
		障害者心理学	障害全般の特徴を理解し、彼らが抱える心理的問題を学習する。
子どもの言語とコミュニケーション入門		ここでは、子どもとの教育的係わり合いを念頭において、子どもの言語とコミュニケーションに関わる種々の問題について検討する。	
心理学と人権	人権問題発生の原因となる心理的要因である偏見と差別の問題について講義する。		
言語習得論	本授業では、母語や外国語がどのように習得されるのか、そのプロセスとメカニズムについて主に言語心理学/心理言語学的観点から概説します。		

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目 人文科学系科目	文学領域	日本文学（古典）	上田秋成が著した怪異小説集『雨月物語』（1776年刊、全9篇）を、現代語訳を併用しながら原文で読み解きます。作者の秋成が語りの技術を駆使した作品ですので、細部の表現や構成に十分注意をしながら考察していきます。	
		日本近代文学講読	夏目漱石の論説を読み、作家に関する知識を深めるとともに、考察力を養成する。夏目漱石の関西での講演を主たる教材とし、その近代日本への懐疑の言葉を通して、漱石の思想を読み解く。漱石の短編小説も扱う予定。	
		中国文学	この授業では、新時期文学の河北省の作家・鉄凝(1957～)の3篇の代表的中篇小説を視賞します。文革後期に河北省で作家活動を始めた鉄凝は、華北大地の自然とそこに暮らす人びとの生活を、時に荒々しいほどに力強く、時に心打ち震えるような細やかな筆致で描いています。中国現代史における中国の農民たちの悲喜交々の想いが、また中国と日本との抜き差しならない深刻な関わりが、そして市場経済下の人びとの欲望と不安の渦巻く世界が、読者の心に忘れがたい版画や映画の一シーンのように深く刻まれることでしょう。	
		韓国文学	韓国文学とは一体何なのか。韓国文化・韓国人の精神世界はどのようにして形成されたのか。「純愛」「子供」「恨」「動物」「愚者」「道」「悪女」「帰郷」「知識人」「戦争」「越境」といったテーマを通して韓国文学のルーツをたどります。	
		フランス文学	文学のみならず多岐に渡り学びます。	
		比較文学	比較文学の歴史や研究方法、各国の文学動向を概観しつつ、西欧文学と深くかかわりながら発展してきた日本の近代文学が、韓国や中国、台湾といった東アジア地域の近代文学の形成過程に大きな影響を及ぼした事実を明らかにします。と同時に、韓国近代文学の成立過程に深い影響を与えた日本近代文学の知られざる側面を浮き彫りにします。	
		ロシア文学	近くて遠いロシアの文学を通して、この国の人びとの暮らしや文化に理解を深めることを目指す。明治以来、われわれ日本人がこよなく愛してきたロシア文学の代表的な作品（トルストイ、ストエーフスキイ、チェーホフ、プリーシヴィンその他）を題材に、時代背景、芸術思潮をふまえながらロシア文学史を学ぶ。歴史に、民俗文化と〈ソヴェート文化〉なるものを重ね合わせて、この民族にとって二十世紀とは何だったのかを考える。	
		英文学入門	短編小説の作品を読みながら、作品の構成、表現の特質、修辭法、作者の特質、時代背景について調べます。同時に、英文学の特質について、講義も行います。	
		米文学入門	米文学への入門として、20世紀を中心に主要な小説について概説する。	
	芸術領域	ヨーロッパ地域文化論	ヨーロッパの文化・芸術を形成する様々な側面について広く学ぶ。とりわけ、旧来のハイ・アートには含まれないロウ・アートに注目する。教員が研究の対象としているイギリスが軸となる。	
		現代美学	近代以降とくに、美学は他の学問領域の成果を取り入れつつ、美的経験について考察を重ねてきた。美学の現代的な動向を踏まえつつ、ますます多様になってきた“芸術”のあり方について検討する。	
		芸術学	芸術作品を理解するために、これまでいくつかの方法論が誕生してきた。この授業では、こうした方法論を用いて、芸術作品を多角的に分析していく。また、時代とともに、芸術という概念がどのように変遷してきたのかを振り返り、現代における芸術のあり方について検討していく。	
		芸術と自然	芸術の創作活動の中で、自然がいかに取り扱われてきたのか、あるいは自然の中にかかに芸術が取り込まれてきたのかについて、庭園と絵画を中心に学ぶ。	隔年
		音楽通論	芸術の評価や鑑賞のための基本を身につけるために、音楽の仕組みに関する基本的事項を学ぶ。	
		声楽の魅力	世界には様々な「声」による芸術があります。本科目では、その中から特に西洋クラシック音楽の発声を用いた声楽に焦点を当てて、その魅力に迫ります。特徴のある作品や楽曲の鑑賞を通して、それぞれの音楽表現の違いに触れながら、その魅力がどのような要素から成立しているのかについて考えます。	
		器楽合奏概論	様々な合奏の形態と楽器の知識について理解する。	
		管打合奏演習	吹奏楽器（管楽器・打楽器群）構造とその奏法を理解し管打合奏の基本を習得する。また、演奏を通じて社会に対してどのように貢献していくか探求する。	
		日本文化A	中世以来、現代まで受け継がれている能は世界遺産にもなっている日本の代表的な伝統芸能である。能を通して、日本の伝統的な音声と身体所作の特性について学ぶ。	
日本文化B	中世以来、現代まで受け継がれている能は世界遺産にもなっている日本の代表的な伝統芸能である。能を通して、日本の伝統的な音声と身体所作の特性について学ぶ。			

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
芸術領域	美術表現基礎	<p>教育学部で開設している「デッサン」や「立体構成」といった授業の入門編として、美術における対象物の「見方・捉え方」を修得し、その「見方・捉え方」をもとに、自分の考えを作品として具現化する美術表現について理解を深める事を目指します。前半を平面表現（絵画）、後半に立体表現（工芸）に焦点をあてて、演習課題を取り入れながら学修していきます。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(86 松島さくら子・147 株田昌彦/1回) (共同) ガイダンス</p> <p>(147 株田昌彦/7回) 課題1 描く上での「見方」とは、デッサンについて、デッサンと絵画、課題① 簡単なスケッチ（風景）、スケッチの仕上げ・講評、課題② 簡単なデッサン（自然物）、デッサンの仕上げ・講評</p> <p>(86 松島さくら子/7回) 課題③「陶による立体造形」（テーマあり）説明と立体素材の表現と加工について、テーマに沿ったアイデアスケッチ、陶土の扱いと加工方法、陶土による成形、素焼き・絵付けと施釉、本焼き、仕上げ</p>	オムニバス方式 共同 講義 10時間 演習 20時間
	近現代美術論	<p>広範なジャンルの作品を取り上げ、近代および現代の美術について考察する。批評的言説、美術史、芸術学、美術理論、さらには作家論、作品論なども交え、今日の美術を読み解く。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(54 梶原良成・132 本田悟郎/1回) (共同) ガイダンス(授業計画、授業方法等の説明)</p> <p>(54 梶原良成/7回) 美術における近現代/芸術と技術の統一 バウハウスとグロピウス、ミース・ファン・デル・ローエ/装飾から機能・合理主義へ ル・コルビュジエ/先導的な実験場オランダ デ・ステイル/社会創造のための美術へ ロシア・アヴァンギャルド/フランク・ロイド・ライトとアメリカ・ミッドセンチュリー/ポストモダニズム以降と現在・未来</p> <p>(132 本田悟郎/7回) 近現代美術概観/表現主義・キュビズム・抽象/ダダとシュルレアリスム/アヴァンギャルドとモダニズムの理論/抽象表現主義・ミニマルアート・アースワーク/大衆文化と芸術(ポップアート)/現代美術の諸概念(社会的主題、物語性、身体性、他者性)</p>	オムニバス方式 共同
基盤教育科目 人文科学系科目 人文総合領域	多言語コミュニケーション学A	世界を見渡せば日常的でありふれたことだとさえ言える多言語を用いた意思疎通を、授業の中で実践してみます。多言語状況では、発音や文法の正確さよりも意思疎通の実現が目指されます。ここでは不完全な言語運用能力も工夫ひとつで非常に役に立つのであり、そうしたことを教室活動をとおして実体験していただきます。	
	多言語コミュニケーション学B	世界を見渡せば日常的でありふれたことだとさえ言える多言語を用いた意思疎通を、授業の中で実践してみます。多言語状況では、発音や文法の正確さよりも意思疎通の実現が目指されます。ここでは不完全な言語運用能力も工夫ひとつで非常に役に立つのであり、そうしたことを教室活動をとおして実体験していただきます。	
	日本語の表記	私たちは日常的に日本語で読み書きを行っていますが、書かれたテキストを通してコミュニケーションができるのは、日本語表記についてのルールを共有しているからです。この授業では、私たちがすでに身につけている日本語表記のルールがどのようなものなのかをあらためて考えます。また、ルールが形成された歴史的な背景も学ぶことにします。	
	論理表現の技術	大学での学びに必要な、論理的文章の書き方の基礎を修得する。具体的には、①短文で書く練習、②情報を取り出し言語化する練習、③情報を整理して表す練習、④根拠を伴った「論証文」を書く練習、の4段階に分けて行う。	
	Japanese Communication Arts	(英文) In this course, we will explore various aspects of Japanese Communication Arts. This course will introduce different communication styles, which are crucial for successfully functioning in Japanese society. Japanese has a set of discourse styles, or registers that can seem complex to newcomers. We will look at the styles of speech used in personal versus public situations, by men and by women, by old people and young people, in a way that will help clarify the differences and offer you a window into Japanese culture. In addition to presenting the different styles, the class will help you situate them in terms of Japanese history, society, culture and education. (和訳) 日本語のコミュニケーションの様々な側面を探求するコースです。日本社会で円滑に生活するため、多様なコミュニケーションスタイルを学修します。日本語の初心者にとっては難解な文体や使用域の違いを、場面(公的な場面か私的な場面か)や話者(男性か女性、年配者か若者か)という視点で解説し、日本文化理解の扉を開きます。授業ではコミュニケーションスタイルの違いを歴史的、社会的、文化的、教育的背景と関連づけて考えます。	
	ことばから見た人間	「ことば」に対する言語学的(科学的)な接近法の初歩を学び、その視点から人間の有様や営みの諸相について考察する。	共同
	社会言語学概論ー日本語の変遷ー	全学生対象の、社会言語学の基礎を学ぶ授業です。社会言語学とは何かを学び、日本語が変わっていく面白さについて考えていきます。	
	生涯学習概論	教育そのものを根底から問い返すという問題意識を常に背景に置きながら、「生涯学習」が、どのように理解され、どのようにして実践されるべきかについて、受講者自身が考えていけるように講義する。なお、本科目は、国際・教育・農・工学部の教養科目でもある。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
人文科学系科目 人文総合領域	成人教育と参加型学習	成人学習者の特徴および教育方法について理解を深め、他者と関わりながら生涯にわたって主体的に学ぶ意欲を喚起する。さらに、学部を問わず他の授業にも役立つ参加型学習の手法（アイデアを考える、プレゼンテーション等）も学ぶ。		
	教育の裏側に光を当てる	教育にまつわる極めて実際のトピックであるにも関わらず、学校教育では真正面から扱われることの少ない事柄をあえて俎上に載せ、徹底的な討論をさせることで、受講生が受けてきた教育をより広い視点から捉えさせ、固定観念を乗り越えてあらたな社会を切り拓く力を身につけさせることを志向するアクティブ・ラーニング科目である。		
	生活美学	わたしたちの美学を藝術に限定することはない。授業では、日常的な文化を個々の感性的な観点、あるいは実践的な視点から美（醜を含む）を観照する「日常（所作）の実践哲学」をお伝えし、共有していきたい。日常の何気ないモノやコト、そしてヒトとの交わりのうちに美を見出し、これらを自らの言葉で客体化し共有して行く、いわば「和文化コミュニケーション」である。		
	ものと文化と社会	文化について考える際に「もの」は非常に重要であるといえる。それはその文化を所有する集団のアイデンティティを端的に示すと同時に、その集団以外の者がそれをどのように読み解くかによって文化、さらにはその集団に対する認識が示されているといえる。本授業では「もの」を通じて文化や社会がそこにどのように示されているのかについて考察していく。またこれに関連して国内外の博物館についての紹介を行い、その展示を題材に議論していく。		
	映像分析の実践	本授業は、写真、映画、テレビ、インターネットなどを通じて触れることが多い映像が、どのような背景のもと制作されているのか、そこにはどのような「意図」や「時代性」があるのかを、実際に映像を分析する作業を通じて学んでいきます。事例としては、前半は20世紀初頭のアメリカで撮影された映像（写真・映画のワンシーン等）、後半は近年の日本の新聞や雑誌等に掲載された写真を扱います。この授業では、知識を得ることよりも、「議論する」「書く」「発表する」など、自分が考えたことを言語化して発信する力を備えることを重視します。		
	世界のなかの日本文化	日本の映画、アニメ、マンガ、コスプレなどが、イベントや動画サイトなどを通じて世界中に発信され、文化産業の新たな可能性を作りつつあります。本授業は、世界のなかで、「日本」「日本人」「日本文化」が、どのように受容されているのか、あるいは発信されているのかを、「精読」「分析」「議論」などの活動を通じて考えていきます。これらの活動を通じて、思考力、コミュニケーション力、そしてメディア・リテラシーを備えることを目指します。		
	ボディ・ランゲージ	スポーツ科学や健康科学を通して、多様なものの見方を培うのに必要な幅広い基礎的知識を身につけることを目的とします。		
	社会科学系科目	日本国憲法	憲法とは、国民の人権を保障するために、国家権力を制限し拘束する規範である。講義では、人権論を中心に検討していく。また、可能な限り最高裁判例等の事例を紹介する。	
		法学入門	この授業では、賛否や意見の分かれる時事問題を主な素材として、「法的に考える」とはどういうことか、なぜ「法的に考える」ことが必要かを体験してもらうことを主な内容とする。	
		国際化と人権	人権とはhuman rightsという言葉の翻訳です。「人間が人間らしく生きていくために社会によって認められている権利」とでもいえますか。日本では、第2次世界大戦後日本国憲法によってようやく認知された考えです。しかし、現実の場面でその具体的な内容や解釈を明らかにするのはそう簡単ではありません。まして、人やモノや情報が国境をこえて行き交う「国際化」の時代では、人権も国際的レベルで考えていく必要があります。世界人権宣言や日本も締結している国連の人権諸条約（国際人権規約など）は、まさにそうした客観的普遍的な基準です。本授業では、日本における人権問題をこうした国際的基準に照らして検討します。	
		知的財産権概論	政府が発表した知的財産推進計画2013で謳われたように、大学における知的財産教育が重視されつつある。本講義では、国際知的所有権機関（WIPO）において標準が定められている知的財産権制度、および特許法、商標法、著作権法などの関連する制度や法律を解説しながら、知的財産権の基礎を教授する。	講義 20時間 演習 10時間
		法学概論	本講義では、わが国の司法制度をその担い手や手続の観点から概観する。また、最高裁判例などの事例も可能な限り紹介し、考察を加える。	
国際政治史		近代ヨーロッパに生まれた国際政治のしくみは、大きな変容を繰り返しながら、二〇世紀には地球全体を包み込んでいくことになる。この授業は、（1）国際政治史を考えるための導入、（2）近現代国際政治の歴史的变化の概観、（3）二〇世紀後半の歴史という三部構成で展開される。特に、（3）に重点をおく。		
政治学領域	戦争と平和をめぐる諸問題	戦争と平和をめぐる多様な問題を扱っている教科書を参照しながら、現代世界が抱える国際的問題の歴史的背景と現状を学修する。		
	現代政治の理論と実際	現代政治はまさに生きものであり、刻々と変化する。この授業では、紙媒体の新聞報道やインターネット情報をもとに、とくに新聞報道を素材にして、その時々々のタイムリーな課題に注目しつつ、日本および世界における政治のダイナミズムを論じる。現在進行形で生じている政治・政策課題や社会的課題について取り上げこれを前半の授業では中心に進める。		

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目 社会科学系科目	政治学領域	グローバル・ガバナンス論入門	21世紀に入り、南北問題をはじめ、新興国の台頭など、世界のグローバル化はより一層複雑さを増してきている。IT技術の進展とともに世界中の情報ネットワークは途上国においても進歩している反面、経済活動における格差や貿易不均衡、環境問題などは益々深刻になっている。本授業は、グローバル・ガバナンスの入門編として、世界での様々な具体的な例を挙げながら、世界の急速なグローバル化を背景に、グローバル・ガバナンスとは何か、どのような問題が起きているのかを、討論を交えて考えていく。	
		政治の世界	近年のグローバル化の波は否応なく国家における主権概念の転換を促し、市民の資格をめぐる排除・包摂の問題が提起されている。こうした問題意識から、政治における価値や規範の多様性・流動性を主題としたクリティカルな政治学を講義していきたい。とりわけ後半では、「国家」と「国民」の乖離をめぐる問題として、外国人参政権問題、移民や無国籍者に対する市民権政策について世界各国の事例に関する比較研究を重要課題として提起するとともに、「国民主権」や「国益」といった概念がいかに「政治的」に変容するのかを議論していきたい。	
		現代日本政治論	本講義では、2009年政権交代後の現代に至るまでの日本政治の構造と特質と歴史を学んでいく。1回完結式で日本政治の重要な論点を取り上げて批判的に論じていく。日本政治の展開をアジアや欧米との比較、国際政治的関係において把握し、政治における理想と現実の関係、内政と外交の不可分性に焦点を当てる。政治学を学ぶ上で、日本の政治はいかに「開かれた」ものであったか、また日本政治は戦前と戦後とでいかなる連続性をもっているのか、といったところが履修者に問いかけてみたいテーマとなる。	
	経済学領域	経済学 I	テキストを用いて、経済学の基本的なカテゴリーを学ぶ。	
		経済分析入門	経済学が蓄積してきた分析手法の詳細、経済理論の具体的内容については、専門教育科目で取り上げることとし、この授業では経済を分析するということの射程とその内容についての概要を解説する。	
		資本市場の役割と証券投資	直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か。金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク&リターンを考え方、株式投資・債券投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説する。	
		応用経済学入門	経済学の基礎を解説しながら、それが世の中に活かされている事例や、これから活かされることが期待されている分野などを紹介する。	
		数理経済学入門	数学を利用したモデルによって、経済学を考え方を理解する。	
		ゲーム理論入門	経済学、生物学などをはじめ、応用範囲の広いゲーム理論の基礎的知識を学ぶ。	
		農業経営入門	どのような農業経営を行っている人がいるか事例を紹介し、学生が今後農業に関わろうとする際に直面する問題について考え、基本的な素養を身につける。	
	社会学領域	社会学入門	普段無意識のうちにしてしまう常識的な見方を、普段あまり考えないような、そしてあまりにも短すぎて見逃しているようなさまざまなトピックを通して問い直し、社会的な考え方の意義を考える。	
		現代日本の社会	現代日本の社会問題を社会学の視点から論じます。今年度は「家族」「女性」「外国人労働者」をテーマとします。	
		マスコミ入門	授業は前半と後半で二部構成になっています。前半は、主にマスコミ産業とその歴史について概説します。後半は、マス・コミュニケーション研究の代表的業績を紹介し、基礎概念について学んでもらいます。	
		オセアニア民族誌	文化人類学の立場からの地域研究を講義します。本講義では太平洋の島嶼域（ポリネシア・メラネシア・ミクロネシア）の諸社会の比較を行いながら、ミクロネシアのサンゴ環礁社会の文化と都市化、文化変容を紹介します。	
		文化人類学入門	文化人類学は、自分が属する文化以外の文化を学ぶことによって、人間と文化の多様性を研究する学問です。この授業では、文化人類学の基礎を学ぶことで、異文化との接触が日常的なグローバルな時代を生きるために必要な、基本的態度を身につけます。	
		環境と国際社会	本講義は、戦後から今日にいたるまでの国際的な環境問題の変遷に着目し、国際環境政治の歴史的展開を全体的に通観する。	
		多文化共生論入門	多文化共生という用語で表現される対象を具体的に理解するために、国際比較や理論的検討を通じて、多文化社会の現実と理念を考察するものである。日本だけでなく北米や欧州の動向にも目を向けて、多角的な分析を可能にしたい。	
	地理学領域	人文地理学入門 I	宇都宮市・栃木県内からいくつかの事例地域を取り上げ、地図や景観写真の判読を通して土地と人間生活との関わり方を検討しながら、人文地理学的な関心や視点を理解させることを目的とする。	
		人文地理学入門 II	人文地理学の諸分野のうち、とくに文化地理学分野の研究例を紹介しながら、人文地理学の視点と特徴を解説するとともに、生活文化の多様性という面から日本の地理的特性を考察していく。	
		農村空間論	国土のわずか3、4%にすぎない既成市街地に人口の67%が居住する日本では、第一次産業の担い手不足による農村空間の荒廃が進んでいます。高度な都市化・兼業化の結果、農村住民も社会的属性や生活行動の面で都市住民との区別がなくなり、日本の伝統的な生業や生活文化の継承は高齢者がなんとか支えているという状況です。このようななかで、農村空間は国土保全という公益的機能を果たしつつ、都市住民の安全な食・観光・保養・二地域居住などの新たなニーズに応える場所としても注目されています。本授業では、村落立地、農村景観の特性、農村空間の商品化、むらおこしなどについて学び、農村空間の多面的機能を深く理解します。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤教育科目 社会科学系科目 社会総合領域	歴史学領域	歴史学入門	歴史学入門といっても、歴史学の抽象的理論を紹介するわけではない。具体的に歴史、つまりヨーロッパの歴史を古代から現代まで概観する。	
		歴史と民族	世界の歴史を「民族」をキーワードに検討します。	
		歴史と文化	前近代の日本史を、文化事象や美術作品に注目しながら概説する。	
		地域の歴史	栃木県（下野国）の歴史と地域特性について、栃木県に現存する資料を通して具体的に考えていきます。主に、現代生活の基盤を形成した江戸時代、時代の主役に躍り出た庶民（百姓・町人）の暮らしや諸活動に焦点をあて、政治・経済・社会・文化など、さまざまな角度から地域史を学びます。適宜、明治時代以降の歴史や県外の事例についても触れていきます。	
	社会総合領域	中東の社会と文化	中東諸国に関する様々なトピックスを入口に、歴史・政治・経済・文化の基本的な知識を修得する。その上で、中東地域を理解するための基本的な視角を得る。	
		社会開発入門	日本、そして世界の多くの国では、経済成長を優先した開発がすすめられてきましたが、環境、そして人々の健康や生活に負の影響をおよぼしてきたことが明らかになっています。この反省から、経済開発とは異なる概念として1990年代から「社会開発」の重要性が認識されるようになりました。本授業では、「社会開発」の概念を理解するとともに、世界の状況を学びながら、日本における自らの生活や環境を振り返り、見直すことを目的としたアクティブ・ラーニング科目です。	
		遊びの理論とゲーム開発	前半では、遊びとは何か、人はなぜ遊ぶのか、人が「楽しい」と感じるのはなぜなのかを考察してきた理論を学び、後半では、そうした理論に基づいて、既存の（あまり面白くない）ボードゲームをより面白くするためのゲームバランスの調整を行うというかたちで、ゲーム開発の実習を行う。	
		遊び論と遊び指導	授業では、①子どもの遊びの教育的意義、②歴史的背景、③現状、④論点について講義を行うとともに、遊び指導に関して学び、実践を行う。	
		住まいづくり・まちづくり入門	わたしたちの日常生活を支える住まいとまち環境をどのようにすれば持続可能なものにできるのか、環境共生、超高齢社会、少子化などの観点から体験的に学ぶことにより、それらをより良くしていくための知識と能動的態度を養います。このため、ESD（持続可能な開発のための教育）の観点も取り入れます。この授業は講義、グループワーク、フィールドワークなど、多角的な取り組みを展開します。	講義 10時間 演習 20時間
		オイコス入門	現代社会に資する基本的な学問を取り上げ検討するとともに、学際的な視野から今後の学問について考えます。	
		障害者問題入門	障害者に関する社会問題に関わる内容を扱い、障害者問題や障害児の教育について学ぶ。	隔年
		教や図形の絵本づくり	本授業では、数学絵本を作成することを最終的な課題として、課題探究のプロセスを経験していく。また、長期にわたる活動を評価する手法の1つとして、ポートフォリオの作成を試みる。	講義 10時間 演習 20時間
		栃木県の歴史と文化	栃木県の歴史と文化の豊かさを認識するとともに、足尾鉾毒事件と渡良瀬遊水地の歴史と現在を学ぶ。	講義 10時間 演習 20時間
		社会福祉入門	地域でその人らしい生活を送るというノーマライゼーションの考え方が社会に浸透してきているが、実際には、まだまださまざまなバリアが存在している。この授業では、社会の中のさまざまなバリアとその解消の方策について実践的に考える。	
		災害復興学入門	災害から復興するとはどういうことなのか。すでに起こってしまった自然災害の被害を少なくすることはできないが、その後の復興支援のあり方により被害は重くもなれば軽くもなる。おもに東日本大震災を題材として、災害復興のあり方について多角的に検討する。	
		グローバル化と外国人児童生徒教育	授業では、①外国人児童生徒教育の意義、②背景、③現状、④論点について講義を行う。 (オムニバス方式／全15回) (118 丸山剛史・109 鎌田美千子・95 威 傑・36 田巻松雄・204 若林秀樹・113 小原一馬／2回) (共同) 各担当者の授業内容の概要説明、パネルディスカッション：まとめ・質疑応答・討議 (118 丸山剛史／4回) 栃木県における外国人児童生徒教育、外国人児童生徒教育の教育実践一事例研究1、外国人児童生徒教育の教育実践一事例研究2、雇用・就労・進路指導問題 (36 田巻松雄／2回) 本授業開講の背景：重点からHANDSへ、外国につながる子どもたちとは？ (109 鎌田美千子／2回) 年少者日本語教育1：子どもの言語発達と日本語指導、年少者日本語教育2：教科学習に必要な言語能力 (204 若林秀樹／2回) 外国人児童生徒教育現場の実際と抱える問題、これから支援に関わる者がするべきこと (113 小原一馬／1回) 外国人教育における教師のジレンマと葛藤 (95 威 傑／2回) 多文化教育の理論：概説、多文化教育への主なアプローチ	オムニバス方式 共同
		国際協力論入門	本授業では、国際協力の定義を説明し、国際協力の背景を考えるため第2次世界大戦後の世界の貧困・開発問題の流れを振り返り、世界の貧困問題を解決するため国際協力の役割、具体的には日本の政府（外務省）による政府開発援助（ODA）を考察し、国際協力の基礎について学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会科学系科目 社会科学系領域	伝統染織と感性	各地域で継承されてきた伝統的な染織の技とそれに伴って育まれてきた文化的価値(感性)について述べる。授業ではとくに「染色」を中心に取り扱い、伝統色を通してこれからの社会のあり方やライフスタイルについて考える。	
	著作権法入門	知的財産法の中の著作権法を中心に、権利の保護のあり方、著作物の利用の仕方を知り、文化の発展に寄与することを目的とする著作権法の果たす役割を考えます。	
	教科書に見る歴史と社会	明治期から現在までの小学校教科書の歴史について概観するとともに、小学校社会科(社会系教科目)教科書を事例として、その内容と時期的特色について考える。	
	人と自然の共生を考える	人間は自然からの恵みを享受して社会を発達させてきましたが、自然との共生に関してはいまだに様々な問題を抱えています。その中で、伝統的な知識によって、自然と共生する里山では、過疎化、高齢化により、雑草の繁茂や野生鳥獣被害が顕在しています。 この講義では、雑草や野生鳥獣に起因した問題を抱えつつも、地域住民が積極的に解決に取り組んでいる里山(那須烏山市大木須)を実際に訪問し、課題の抽出から解決策の提案・試行までを実践します。	集中
	希望の地域社会論	少子高齢化、家族など人間関係の疎遠、社会的孤立、ストレスや雇用不安、さらには自然災害など、希望をもちにくいように見える閉塞化した地域社会をどのようにとらえれば希望が生まれ得るのか、人々が希望をもつにはどのようなアプローチが必要か、地域社会におけるまちづくりの現場に即して受講生と共に考える。 (オムニバス方式/全15回) (18 三橋伸夫/6回) 地域社会の現在/協働の地域社会/中山間地域社会/学校教育と地域社会/グラウンドワークと地域社会/まとめ ※平成29年度以降の担当は、129 安森亮雄が(地域社会の現在/協働の地域社会/中山間地域社会/3回)を、143 佐藤栄治が(学校教育と地域社会/グラウンドワークと地域社会/まとめ/3回)を担当する。 (5 大森宣暁/3回) 都市計画と地域社会/震災復興と地域社会①/住民参加と地域社会 (129 安森亮雄/2回) 建築デザインと地域社会①/建築デザインと地域社会② (143 佐藤栄治/2回) 震災復興と地域社会②/超高齢化の地域社会 (10 長田哲平/2回) 交通計画と地域社会/コンパクトシティと地域社会	オムニバス方式
	中国事情	①本授業では世界で益々その影響力を拡大しながら、存在力を増している中国社会全般について歴史、政治、経済、地理環境、民族、文化などの側面から理解を深めてもらう。②著しい経済発展の裏に隠されている課題について、問題意識を持って考察する。③周辺国、特に日本との交流、関係の現状を踏まえながらその課題について分析し、共に議論する場を持つ。相手国を知ることとは、お互いの間に生ずる諸々のリスクを和らげ豊かな相互理解を増進するためのもっとも有効な手段である。	
	グローバル韓国学	本授業では①グローバルな視点から今日の韓国・朝鮮の国と社会、人々の意識を知る上でヒントとなりそうな諸事象を紹介し、多様な切り口から理解を深め、②近年目まぐるしく変化する周辺環境の中で、表出された韓国社会の動態と政治的葛藤、抱える課題についても原文資料に基づいて考察し、③これらに基づいて、日韓関係及び朝鮮半島全般の情勢、朝鮮半島をめぐる国際環境について理解を深める。	
	科学・技術・教育・社会を考える	本授業では、科学と技術をめぐるさまざまな社会的諸問題を取り上げ、教育と社会との関係を問いながら、それらがどのような形をとって現れているのかを、メカニズムも含めて明らかにし、問題克服の手がかりを考えることを目的としている。	
	セクソロジー入門	セクソロジーとは、人間の性に関する科学的な理解と性をめぐる人間関係の学習であり、具体的には、1)人間の性に関する理論のミニマム・エッセンスを講義する。2)性に関する健康と人権の現実を紹介する。3)タイムリーな性的問題を取り上げて問題提起する。	講義 10時間 演習 20時間
	自然科学系科目 数学領域	現代数学入門	現代数学入門として統計学を講ずる。
電気電子数学入門		電気電子工学科の学生にとって必須である数学科目の学習は、1年次前期の線形代数及演習I、微積分学及演習Iから始まります。これらと同時進行する本講義では、上記数学科目を履修する上で土台となる数学の知識を学びます。	講義 10時間 演習 20時間
Mathematicaによる微積分入門		数式処理ソフトウェア Mathematica は数理的思考の道具である。数式処理や数値計算およびグラフィックス機能を利用して、微積分の問題を解くことを通して理解を深める。	
Mathematicaによるデータ解析入門		数式処理ソフトウェア Mathematica は数理的思考の道具である。数式処理、数値計算、グラフィックス機能を利用してデータ処理と統計解析の初歩を学び数理的思考を深める。	
振動の科学		大多数の学生向けに、振動や波とは何か、オイラーの公式・等式を眺めてみて、どのような数字から成り立っているかなどについて理解を深めていけるように解説します。振動と波は密接に関係しているだけでなく、楽器の仕組みも空気振動を使っていますし、建物には免震構造が採用されています。また、携帯電話などの無線や光通信でも電波や光として伝わってきます。振動や波の現象の科学に触れて自分の頭で考えるための基礎を築いて、振動の科学に興味をもっていくことができるようにと願っています。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤 教育 科目	物理学 領域	教養物理	自然界で生じる様々な現象を理解するためには物理的に理解することが重要である。この講義では身近に生じる現象の解説を含め、教養として必要な物理を広く浅く解説する。 (オムニバス方式/全15回) (104 柏倉隆之/全5回) ガイダンスと単位系の基礎、力学の基礎、材料の強度、力の釣り合いと構造物の形式、1 - 4週のみ・小テスト (106 中野達也/全5回) 流れの基本的な概念、熱の基本的な概念、熱と流れの身近な現象解析 I, 熱と流れの身近な現象解析 II, 6 - 9週のみ・小テスト (21 杉山均/全5回) 電気と磁気の基本的性質、場の考え方・クーロンの法則、電気と磁気の関係、電磁誘導と電磁波・ローレンツ力、11 - 14週のみ・小テスト	オムニバス方式
		物理学入門	物理学の基礎であるニュートン力学について講義する。	
		物理工学最前線	現代社会で用いられている科学技術のうち、物理学を用いているものについて、その基礎的な物理現象を理解する。	
		Mathematica入門	数式処理ソフトウェア Mathematica は数理的思考の道具である。 数式処理、数値計算、グラフィックス機能を利用して演習問題を解くことを通して理解を深める。	
		放射線科学入門	大多数の学生向けに、放射線とは何かなど、身近にある放射線について理解を深めていけるように解説します。本来、放射線の分野は物理学であることから、数式が多く出てくると思っているかもしれませんが、本講義では、なんとなくこう思っている、という感覚や思い込みを、少しでも正しく理解できるようになることを目指しています。医療分野などで使われている放射線などについても知って、世の中にある多くの情報を鵜呑みにせず、その背景にも触れて、放射線の科学に興味をもっていくことができるようにと願っています。	
		エレクトロニクス科学史	エレクトロニクスは、現代社会を支える重要な基盤であり、将来にわたって人々が豊かな社会生活を営むために不可欠なものである。本講義では、エレクトロニクスの歴史を概観することにより、如何にして新しい技術が誕生したか、また、その意義について解説する。	
		バイオメティクス入門	生物が持つ高度な機能や製造過程を模倣して、技術開発に活かす学問領域バイオメティクス(生物模倣技術)に関して体系づけて解説する。基本的な生物の組織構造から地球環境全体から見た「技術体系」、そしてこの学問領域の研究・市場動向、生物が進化によって得てきた効率的な動きや構造がいかに技術開発に用いられているのかを学ぶ。	
	化学 領域	地球環境と化学	今騒がれている「地球環境の問題」を化学的な視野から捉え、最新のデータ、サンプルを明示しながら、また視聴覚教材を使いながら、わかりやすく解説します。調査発表を通して、学生側から発信してもらい、全員参加型の授業にしたいと考えています。	
		環境と生物化学	環境と生物のかかわりを、特に生物化学的な視点から取り上げる。地球規模での物質循環には、さまざまな生物、生命反応がかかわっている。また、地球の環境は、生物、特に微生物によって整えられてきた。一方、現在の環境の大きな問題として、環境汚染がある。地球環境の歴史および現状、そして、環境汚染の要因および環境汚染修復技術について、主に微生物学、生物化学、生物工学の観点から概説する。	
		不思議な化学	現代社会には、化学に関連した事柄が多く登場する。この授業では、化学の不思議な面を実験で確かめ、考えながらその内容を理解する。	
		水素とエネルギー	エネルギー・環境問題について、その歴史的経緯を学ぶことで、それらが表裏一体の関係にあり、人類が引き起こしている大きな地球規模の問題であることを歴史的に追跡する。近年、水素がクリーンなエネルギーとして家庭用燃料電池や自動車燃料への利用が注目されているが、水素はどのように作られるのかを知ることで、エネルギー・環境問題を同時に解決できるものであるのかどうかを考える。	
		リメディアル化学	高校化学の内容に自信が持てない学生を対象に、基礎・基本の理解の徹底と、大学の化学へのスムーズな移行をめざす。	
		物質・材料の機器分析入門	大学の研究室や分析の現場に常備されているような汎用型の分析機器を多数取り上げ、各機器に対して原理、機能、特徴などを横断的に概括する。	
		ノーベル化学賞周辺の化学	ノーベル化学賞に関連した化学における重要な知見や分析手法を講義で説明し、また、2つの主要な化学機器分析法を実習を通して説明する。	
生物学 領域	人間生活と植物	私たちの生活となじみが深い植物たちのルーツを探り、世界の自然と文化的側面に思いを寄せ、植物の持つ特性やそれらを利用発展させる農業、造園、庭園技術などを、暮らしに潤いや彩を与える「くだもの」と「花、庭園、野菜」などをテーマに紹介し、さらに食糧資源としての食べ物の生物学と世界的な需給関係、食料を脅かす放射線対策などを取り上げます。		
	食料生産の生物学	本講義では、私たちの食料の来し方、行く末について考えながら生物学を学びます。		

授 業 科 目 の 概 要						
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)						
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考			
基盤教育科目	生物学領域	21世紀を支える熱帯植物	授業では、特に麻薬や香辛料作物、そして綿や熱帯雨林などの植物資源が世界の歴史と経済に及ぼした影響に着目し、現在の世界と社会が成立する上で重要な役割を担った熱帯植物とその歴史について学修することで、植物資源に関して幅広い知識を得る。そして、その知識を通して現代社会のあり方について改めて見つめ直し、21世紀における日本/世界のあるべき姿を、学生各自が自身の知識に基づいて考えることを目指す。			
		野外における鳥獣識別テクニックの基礎	日本では、人間と野生動物との軋轢が激化する一方で、絶滅に瀕した種が存在するなど、自然に関連する事象が社会問題として注目されつつあります。こうした問題の本質を理解するためには、日本の自然に何が起きているのかを認識できる技術が必要です。本講義では、自然の変化を捉えるために欠かせない野生動物識別技術についての基礎を解説します。			
		基礎生物学	高等学校までで学習する生物学の内容を、大学での基礎科目として解説・説明する。			
		ウイルスの世界と生物の世界	本講義では、風邪の原因であり健康を害する最も身近な存在であるウイルスについて、そもそもウイルスとは何なのか、生物との関わりは病気だけなのか、ワクチンとは何なのかといった疑問について幅広く概説します。			
		美味しさを科学するーミシュランガイド宇都宮をつくらうー	我々人類は生きるために常に食べています。自らエネルギー源を作り出す植物の真似は誰にもできません。この授業では、「ミシュランガイド宇都宮？」を作るために、食に対する知識を増やしながら、自らの味覚を研ぎ澄まし、さらにそれを表現する技術を学ぶことを目指します。	講義 10時間 演習 20時間		
	自然科学系科目	情報科学領域	C言語・プログラミング入門	パソコン、ゲーム機、携帯電話等、ソフトウェア無しでは機能しない機械が身の回りにいっぱいあります。本授業では、ソフトウェアの作成に欠かせないプログラム言語の一つ、C言語について、多くの課題をこなすことにより、その基礎知識・基本文法を学びます。C言語をある程度マスターすれば、他の言語はほとんどがC言語の影響を強く受けているので、他言語の修得にも役立ちます。		
			プログラミング応用	コンピュータの使い方を覚えても、コンピュータについて学んだことにはならない。この科目では、プログラミングの側面からコンピュータへの理解を深め、能動的に使う姿勢を養う。そのために、まずプログラミングの初歩を学んだうえで、実社会の中での我々とコンピュータとの係わりについて学んでいく。		
			グラフィックス入門	コンピュータグラフィックス (CG) に関する講義と、CGモデリングソフトMetasequoiaによる3次元世界の記述の作成実習、プログラミング環境ProcessingによるCGプログラミング実習からなります。中間と期末の2回に分けて制作した作品の発表会を行います。		
			インターネットのしくみ	インターネットの基本的な「しくみ」を修得し、世界の情報通信について実例を通じて理解を深めます。		
			We bのしくみ	World Wide Web (ワールドワイドウェブ) の基本的な「しくみ」を修得し、世界の情報通信について実例を通じて理解を深めます。		
			身のまわりのICT	身のまわりにあり私たちの生活や社会を支えているICTについて、幅広い事例学習を通じ、その基本的なしくみを修得するとともに、ICT関連企業が求める人材像や栃木県内のICT企業の活動、方向性などを学びます。		
			ワイヤレス通信のしくみ	携帯電話に代表されるワイヤレス通信システムの基本をやさしく紹介します。簡単な通信システムを作ってみましょう。		
			医用画像工学入門	患者の体内を痛みなしに可視化できる医用画像は、現代の医療において欠くことのできないものになっています。本講義では、X線CT、MRI、超音波診断、PETなどについて撮像原理を学び、その特徴、応用などについて学びます。理解を深める実際に計算機を使用したシミュレーションを実施します。		
			地学領域	地球環境と生物事件史	地球環境と生物事件史の講義では、長い地質時代における顕著な生物の絶滅事件や爆発的進化などの大きなイベントに焦点を当てて、地球環境と生命の歴史を解説します。	
				身近な気象学	本来、気象学は物理学の一分野であることから、数式がたくさん出てきて小難しいイメージがある。本授業ではこのような堅苦しさを取り払い、天気図、天気予報や身近な天気変化、大きな社会問題である地球温暖化などに焦点をあてて、「実生活に役に立つ」気象学を解説することに努める。全学が対象の科目であり、文系の学生にとってもわかりやすい説明を心がける。	
			健康科学領域	肥満の科学	スポーツ科学や健康科学を通して、多様なものの見方を培うのに必要な幅広い基礎的知識を身につけることを目的とする。	
				健康管理学概論	健康に関する知識・情報を提供する。生涯にわたる健康管理に役立ててもらえるような内容になっている。	
				バレーボールの科学	本講では、実際に収録した国際ゲーム等を用いて各国の戦術的特徴を分析するとともに、各人の実践に寄与する基本的なバレーボールの個人技術とチーム戦術について概説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自然科学系科目 自然総合領域	人間の感覚を測る	この授業では「人間の感覚」をテーマに実際に受講生たち自らが考えた実験を行い、この実験から得られたデータに対して、統計的手法を用いて分析を行います。その結果を考察し、発表してもらいます。この授業はグループワークによる実験の計画立案、実施、分析、考察を行いこれらの一連の作業を通して、受講生間のコミュニケーション能力、自主性の育成、統計学の実践的応用例の体験を目的としたアクティブラーニング科目です。	講義 10時間 演習 20時間
	生物の多様性とは何か	環境破壊の中でも、回復が最も難しいのが生物多様性の破壊です。野生で生活する個体が失われると、その個体群を回復させるのは非常に困難で、絶滅すれば、その種は二度と戻りません。人間は生態系がもたらす様々なサービスに完全に依存していて、そのサービスの相当部分を生物多様性がもたらしています。本講義では、「生物多様性を失うと、こうしたサービスも失われるのか」という問いかけに応じた様々な研究事例と、それらから得られた知見を平易に紹介します。	
	雑草と人の暮らし	水田や芝生に生育している代表的な雑草を覚えるとともに、その生態学的な特性と人の暮らしとの関係を理解する。また、除草剤や植物成長調整剤などの防除資材の特性を理解する。本授業では、普段、注目されることが少ない反面、人々の日常生活と密接に関連している雑草を例に挙げて、物事を多様な観点から科学する能力を養うことを到達目標に、教室だけでなく時には野外に出て、雑草の人の暮らしとの関係について講義をする。	
	雑草観察入門	私たちの身の回りには様々な種類の雑草が暮らしており、その観察は最も手軽に自然や多様性を感じられる手段の一つです。この手軽さから、雑草は生態や進化を研究する材料として古くから利用され、多くの知見が蓄積されてきました。本講義では、大学キャンパスに分布する雑草を観察材料として使い、植物の生態と進化、そしてそれらに及ぼす人の役割について学びます。	講義 10時間 演習 20時間
	雑草と里山のフィールド演習Ⅰ	生態系保全の体験を通して、保全のための社会活動に対する実際的な理解度を深める。また、さまざまな考え方を有する人々とのコミュニケーション能力を養うとともに、問題解決のための工夫や発想力を養う。オリエンテーションにおいて、演習を実施する場所や施設について説明の後、野外演習を行う。各演習において、コーディネーターや地元の方々の指導を受け、緑地保全に関する課題を整理するとともに課題解決の方法を考え、レポートにまとめて提出する。	集中
	雑草と里山のフィールド演習Ⅱ	生態系保全の体験を通して、保全のための社会活動に対する実際的な理解度を深める。また、さまざまな考え方を有する人々とのコミュニケーション能力を養うとともに、問題解決のための工夫や発想力を養う。オリエンテーションにおいて、演習を実施する場所や施設について説明の後、野外演習を行う。各演習において、コーディネーターや地元の方々の指導を受け、緑地保全に関する課題を整理するとともに課題解決の方法を考え、レポートにまとめて提出する。	共同 集中
基盤教育科目 初習外国語系科目	ドイツ語基礎Ⅰ	ドイツ語初修者向けの授業です。ドイツ語の「読み」「書き」「聴く」「話す」基本的能力を養成します。	
	ドイツ語基礎Ⅱ	大学生活におけるドイツ人留学生やドイツ人講師との交流場面を通してドイツ語を学んでいく。話す・聞くのひととおりのコミュニケーションが成り立つ程度の基本的な語彙や文型を学ぶ。	
	ドイツ語基礎Ⅲ	1年生対象科目としての「ドイツ語基礎Ⅲ」です。大学入学前にドイツ語を学習したことがない初習者を対象にドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」基礎的能力を養うことが目的です。ドイツ語圏諸国の学生生活や人々の日常生活がわかりやすい教材を使用します。後期開講の「ドイツ語基礎Ⅳ」とともに履修してください。	
	ドイツ語基礎Ⅳ	「ドイツ語基礎Ⅳ」は「ドイツ語基礎Ⅲ」(前期)の継続的科目であり、教科書および授業方法は「ドイツ語Ⅲ」と同様です。また、「ドイツ語Ⅱ」も履修をお勧めします。週に4時間1年間ドイツ語を学修することによりドイツ語の基礎的能力が確実に身に付きます。	
	ドイツ語応用Ⅰ	ドイツ語の基礎的能力の向上、ドイツ語の実践的表現力を養います。	
	ドイツ語応用Ⅱ	「ドイツ語応用Ⅰ」に続き、ドイツ語の実践的トレーニングを行い、ドイツ語の総合的能力の向上を目指します。	
	フランス語基礎Ⅰ	フランス語をはじめて学ぶ学生を対象とし、初歩的なことばの規則や基本的な語句・表現の用法を解説します。また、聴覚教材を用いて聞き取りや発音の練習を繰り返すと同時に、筆記の練習問題により知識の定着を図ります。	
	フランス語基礎Ⅱ	前期開講の「フランス語基礎Ⅰ」に引き続き、フランス語に初めて接する者を対象として、フランス語の会話と読み書きのために最低限これだけは必要である、という要素を中心に、1年間でフランス語文法の基礎を徹底的に学修します。	
	フランス語基礎Ⅲ	フランス語を初めて学ぶ人を対象に、基本的なフランス語の会話表現を学びます。またそのために必要なフランス語文法の学習を並行して進めます。	
	フランス語基礎Ⅳ	フランス語を初めて学ぶ人を対象に、基本的なフランス語の会話表現を学びます。またそのために必要なフランス語文法の学習を並行して進めます。	
	フランス語応用Ⅰ	この授業は、フランス語の基礎知識を持つ者を対象とします。講義は原則としてフランス語で行います。教科書や映画などの会話シーンをもとに、日常的な場面におけるフランス語の基本的な表現を学びます。会話のまね、聞き取り、自己紹介など、履修者の積極的な参加を求める授業です。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基 盤 教 育 科 目	初 習 外 国 語 系 科 目	フランス語応用Ⅱ	フランス語応用Ⅰの修了者を対象とする授業です。前期にひきつづき、講義は原則としてフランス語で行います。教科書や映画などの会話のシーンをもとに、日常的な場面におけるフランス語の基本的な表現を学びます。会話のまね、聞き取り、自己紹介など、履修者の積極的な参加を求める授業です。	
		スペイン語基礎Ⅰ	動詞の使い方など、基本的な文法事項の説明が中心になりますが、毎回の授業内容と関連した会話文も読み解きます。さらには、テキストにある練習問題を解きながら、文法に関する理解を深めます。	
		スペイン語基礎Ⅱ	動詞の使い方など、基本的な文法事項の説明が中心になりますが、毎回の授業内容と関連した会話文も読み解きます。さらには、テキストにある練習問題を解きながら、文法に関する理解を深めます。	
		スペイン語基礎Ⅲ	テキストの各レッスンには7～8行程度の短い会話文があります。まず主な会話表現について、それぞれの意味と使い方を確認します。必要に応じて文法的な解説を行ったのち、会話文に関する応用問題、動詞活用の練習問題などを解いていきます。反復練習が必要な場合には、プリントを使って補足練習したり、受講生どうしが向き合って会話練習したりします。	
		スペイン語基礎Ⅳ	テキストの各レッスンには7～8行程度の短い会話文があります。まず主な会話表現について、それぞれの意味と使い方を確認します。必要に応じて文法的な解説を行ったのち、会話文に関する応用問題、動詞活用の練習問題などを解いていきます。発音練習・反復練習が必要な場合には、受講生同士が向き合って会話練習を行います。	
		スペイン語応用Ⅰ	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を読め、日常的な会話ができるように練習します。	
		スペイン語応用Ⅱ	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を読め、日常的な会話ができるように練習します。	
		中国語基礎Ⅰ	初心者を対象に中国語の発音からスタートし、やさしい挨拶と日常会話、また、初歩的な文法事項などを教えます。	
		中国語基礎Ⅱ	「中国語基礎Ⅰ」を終えた方を対象に、中国語の基礎文法を本格的に学びます。文法事項を理解した上で応用を通してしっかりと身につけてもらいます。文の排列順序、実用的な慣用・会話表現などを学習する傍ら、中国の文化と歴史に関する基礎的な知識を折りにふれて話します。	
		中国語基礎Ⅲ	本授業は、はじめて中国語を学習する学生が正確な発音や基本文型の使い方を修得することを目的とした入門の講義です。現代中国語のやさしくかつ基本的な重要文法事項について解説を加えるのはもちろん、とくに基礎的な会話能力醸成を重視します。このため、日本人の中国語学習者がもつとも苦手とする発音の訓練、及び日常的に使用する頻度の高い語彙の修得を授業の中心に据えることとなります。	
		中国語基礎Ⅳ	本授業は、中国語基礎Ⅰ及びⅢを履修した学生が正確な発音や基本文型の使い方を修得することを目的とした入門の講義です。現代中国語のやさしくかつ基本的な重要文法事項について解説を加えるのはもちろん、とくに基礎的な会話能力醸成を重視します。このため、日本人の中国語学習者がもつとも苦手とする発音の訓練、及び日常的に使用する頻度の高い語彙の修得を授業の中心に据えることとなります。	
		中国語応用Ⅰ	中国語基礎Ⅰ～Ⅳを履修し、中国語の発音、初級文法を一通り習得した学習者を対象に、初歩文法を復習しながら、中級中国語への橋渡しをする授業です。	
		中国語応用Ⅱ	中国語応用Ⅰを履修した学習者を対象に、中級中国語への橋渡しをする授業です。	
		タイ語基礎Ⅰ	タイ語を初めて学ぶ学生を対象にタイ語の基礎知識を学びます。具体的には、子音、母音、タイ語の特徴の声調、単語の構成と発音規則を修得するとともに、簡単な挨拶や自己紹介の表現を学びます。また、タイの生活、文化、伝統、経済、歴史を紹介しします。	
		タイ語基礎Ⅱ	タイ語基礎Ⅰを学習した学生を対象に、日常的によく使われる単語、表現や基礎的な文法を用い、簡単な会話や作文を学びます。また、授業では、タイの生活、文化、伝統、経済、歴史を紹介しします。	
		タイ語基礎Ⅲ	初めてタイ語を学ぶ受講者を対象に、タイ語の文字、単語の構成要素である子音、母音、声調規則を学び、読み書きでき、また正確に発音できるように訓練します。また、初歩の基本文法を学習することにより、簡単な文章の読解力を養います。	
		タイ語基礎Ⅳ	「タイ語基礎Ⅰ」「タイ語基礎Ⅲ」を受講した学生を対象に、引き続きタイ語の表現や基本文法を学びます。タイ語の正確な発音を訓練するとともに、初級程度の文章の読解力と作文力を養成します。	
		タイ語応用Ⅰ	タイ語入門を学んだ者を対象に、タイ語の類別詞、形容詞、動詞連続、助動詞、依頼、比較などのさまざまな中級程度の文法を学びます。	
		タイ語応用Ⅱ	タイ語のアスペクト、助動詞、モダリティ、とさまざまな接続詞などの中級程度の文法を学びます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
初習外国語系科目	朝鮮語基礎Ⅰ	朝鮮語の基礎を学びます。朝鮮語は世界の言語の中で日本語にもっとも近い言語です。語順が日本語と同じであり、助詞や漢字語も共通しています。ですから日本人にとってもっとも覚えやすい外国語なのです。授業では、そのような朝鮮語の文字・発音・文法を学ぶと同時に、その背景にある韓国の社会や文化などを紹介します。	
	朝鮮語基礎Ⅱ	朝鮮語の基礎的な文法を学びます。後期が終了する頃には短い文章ぐらいは開けて、書けるようになります。簡単な文章を読んだり書いたりすることによって朝鮮語に慣れ、自信をつけます。言葉を学ぶと同時に韓国の文化や習慣にも触れ、楽しく学びます。	
	朝鮮語基礎Ⅲ	朝鮮語は日本語に最も近い言語です。朝鮮語には日本語と同じく助詞や漢字語、尊敬語などがあるほか日本語と語順が一致しています。それゆえ、朝鮮語は日本人（日本語は韓国人）にとって最も学習しやすい言語の中の一つと言われていますが、本授業を通してその事実を確かめます。まず、文字（基礎文字24＋合成文字16＝40文字）と、その発音をしっかりと学びます。1学期終了後には意味は分からなくても地下鉄のハングル表記やK-POP歌手のハングルの名前がすらすらと読めます。	
	朝鮮語基礎Ⅳ	前期の『朝鮮語基礎Ⅲ』に引き続き、文字と発音に重点を置きながら基礎文法をマスターします。文法が分かってくると基礎的な朝鮮語の文章の構造が理解でき、自己紹介や簡単な会話ができるようになります。12月頃には韓国の留学生や韓流スターに韓国語でクリスマスカードや年賀状、e-mailを書くことができます。	
	朝鮮語応用Ⅰ	朝鮮語を学び始めて2年目の学習者用に中級の文法を学びます。さまざまな文法を学ぶことによって朝鮮語に慣れ、自信をつけます。言葉を学ぶと同時に韓国の文化や習慣にも触れ、楽しく学びます。	
	朝鮮語応用Ⅱ	朝鮮語を学び始めて2年目の学習者を対象に、中級の文法を学びます。さまざまな文章を読んだり、書いたり、会話をしたりすることによって朝鮮語に慣れ、自信を深めるようにします。言葉だけではなく、その背景にある韓国の社会や文化についても触れ、楽しく学びます。	
基盤教育科目	野外調査論	社会科学、自然科学を問わず、どんな分野でも、町や自然の中に出かけ、自らの手でデータを集める必要に迫られるかもしれません。この授業ではその手法と考え方を、野外調査の実践を通じて学びます。	共同 講義 10時間 演習 20時間
	里山のサステナビリティを考える	栃木県南東部の茂木町を専門的な観点で調査研究します。茂木の里山を自然環境と農村社会の2つの面から調査し、価値を理解し、こうした環境を持続させるために何ができるのかを考え最後に提案してもらいます。	集中・共同 講義 10時間 演習 20時間
	人と自然をつなぐ・人と人をつなぐA	『人と自然をつなぐ、人と人をつなぐ』人になるための基礎知識と技能を、実践を通じて学びます。 ・自然体験プログラムを通して環境教育の大切さを学びます。 ・体験を通して、今ここで起こったことをふりかえり、次にどう進めていくか、その「人が学ぶ」過程を体験学習法の考え方で進めます。 ・自然体験プログラムを体験するだけではなく、自らプログラムを実施することで「プログラムの指導法」を学びます。 ・環境教育の教材のひとつである「プロジェクト・ワイルド」の指導者（エデュケーター）の養成をします（資格取得）。	集中・共同
	人と自然をつなぐ・人と人をつなぐB	『人と自然をつなぐ、人と人をつなぐ』人になるための基礎知識と技能を、実践を通じて学びます。小学校での総合的な学習の時間での実施例やアメリカでのProject Learning Tree(PLT、森林環境教育)やProject WET(WET、水環境教育)の事例や指導法を修得し、子ども達の自然体験活動の指導者としての、また、市民の環境活動等の指導者としての、環境意識啓発の手法と技術を学びます。PLTのファシリテーター資格、WETのエデュケーター資格、自然体験活動指導者NEALリーダーの資格が取得できます。	集中 講義 10時間 演習 20時間
	実践・宇都宮のまちづくり	人口減少や超高齢化などの課題が山積する時代の変革期において、宇都宮市がどのような政策を立案し、実行しているのか、市の担当職員が実体験を交えながら講義することで、データや情報と実社会での行政活動との融合を理解するアクティブ・ラーニング科目です。最終日には、宇都宮市長がまちづくり全般について授業を行う予定です。 ※※特に宇都宮市職員（公務員）を目指す方にはおすすめです※※	
	一地方銀行の歴史に学ぶ“金融経済の仕組み”と“地域金融機関の役割”	明治28年（1895年）の創業以来、100年を超える歴史を有する地方銀行「足利銀行」の歴史を通じて、金融論の主要なテーマである貨幣や金融市場の仕組みとその機能を学ぶとともに、地域金融機関の役割や金融政策など今日的な話題についても考えるアクティブ・ラーニング科目です。加えて、受講者が将来、銀行取引、資産形成、起業などといった金融と関わる場面に出会った時、実際に役立てることができること（金融リテラシーの醸成）もこの授業の大きなねらいとしています。	
	危機を見つめる力	科学技術の発展により高度・複雑化した社会では、私たちの身の回りには思いもよらない種々の危険が存在している。これらの危険を察知し、その影響の程度を理解・判断し、対応する能力を身につけることを目指すアクティブ・ラーニング科目である。	
総合系科目			

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤 教育 科目	総合 系科 目	3. 1 1 と学問の不確かさ	<p>未曾有の災害を現代日本にもたらした東日本大震災（3.11）は学問の在り方について多くの問題を提起しています。現在の問題は何か、今後いかなる道を進むべきなのかについて多くの「専門家」が異なる見解を主張するなか、先行きの不透明感が強まっています。</p> <p>この授業では、確固とした体系をもつと考えられている学問の「不確かさ」に取って目を留め、この共通テーマについて多様な分野から考察することで、3.11後の大学における学びについて考えることを目的としています。なお、本授業はアクティブ・ラーニング科目です。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（50 大久保達弘・51 飯塚和也・87 山本美穂／1回）（共同）森林の放射線汚染 （83 飯郷雅之／6回）イントロダクション：「東日本大震災：地震と津波と東京電力福島第一原子力発電所の事故を振り返る」、放射線リテラシー、放射線測定の実際：「測定と施設の見学」、ゲストスピーカー講演（2回）、宇都宮大学学生の取り組み （75 長谷川万由美／1回）災害の援助 （89 尾崎功一／1回）工学における測定の不確かさ （142 清水奈名子／3回）原発事故をめぐる国際関係と公害、栃木県と原発事故：「県内の被災、放射能汚染問題について」、福島からの避難者証言を読む （46 上原秀一／1回）東日本大震災と教育学 （83 飯郷雅之・142 清水奈名子・46 上原秀一・89 尾崎功一・51 飯塚和也・50 大久保達弘・87 山本美穂・75 長谷川万由美／2回）（共同）水俣病患者を招聘したシンポジウム、最終発表会</p>	オムニバス方式 共同
		食と生命のフィールド実践演習	<p>附属農場における実習と関連する事前事後学習を通じて、我々の生活を支える食・環境・生命について体験的に学ぶことを目的としたアクティブ・ラーニング科目である。</p>	共同
		男女共同参画社会を生きる	<p>男女共同参画社会の歴史、社会的背景、現状についての概説を行った上で、多様性、ジェンダー、セクシュアリティ、性別役割分業、多様化する家族、DV等のテーマの理解を、聴き取り調査を経験させ、それらをまとめ報告することを通じて促していく。</p>	集中・共同 講義 20時間 演習 10時間
		ものづくり体験	<p>本授業では「ものづくり」を通して、ものづくりのセンス、ものづくりの精神、問題発見と解決能力、そして最も大切な、新しいものを創り出す創造性を身に付けることを目的とし、特に専門知識を必要としない「ものづくり」の製作体験をする。受講生は設定されたテーマに取り組み、グループで自主的に「問題発見」「設計」「製作」「評価」をし、成果の「発表」を行うことを目的としたアクティブ・ラーニング科目である。</p>	共同
		宇大を学ぶ	<p>自らが学ぶ大学について関心を持ち理解を深めることは、大学生活をより豊かなものにしていくことにつながるという理念のもと、宇都宮大学の歴史や現状について高等教育制度の概要を交えながら講義するアクティブ・ラーニング科目である。</p>	
		栃木の里山に学ぶ（春夏編）	<p>地域住民と学生間、あるいは学生間同士の双方向型の討論を積極的に取り入れ、学生の参画により課題解決に向けた知の統合と実践を行います。</p> <p>具体的には、栃木県東部に位置する那須烏山市大木須において、里山の保全と利活用を地域住民と連携して行いながら、里山が抱えている課題を学修し、地域住民とともに実践を通じて、その課題を解決する方法を考案することを目的としたアクティブ・ラーニング科目です。</p>	集中
		栃木の里山に学ぶ（秋冬編）	<p>地域住民と学生間、あるいは学生間同士の双方向型の討論を積極的に取り入れ、学生の参画により課題解決に向けた知の統合と実践を行います。</p> <p>具体的には、栃木県東部に位置する那須烏山市大木須において、里山の保全と利活用を地域住民と連携して行いながら、里山が抱えている課題を学修し、地域住民とともに実践を通じて、その課題を解決する方法を考案することを目的としたアクティブ・ラーニング科目です。</p>	集中
		ワークショップで学ぶ「変わりゆく現代社会の中の私たち」	<p>この授業は、現代社会が直面する貧困や格差、環境破壊や人権侵害、文化摩擦や地域紛争などの“グローバル”な問題をテーマとしたワークショップを実際に体験しながら、アクティブ・ラーニングや参加型学習の基本的な考え方をはじめ、その方法論であるアクティビティやファシリテーションの手法や教材について概説することを目的としたアクティブ・ラーニング科目です。</p>	
		ワークショップで学ぶ「ボランティアと市民活動」	<p>現代社会が直面する様々な社会問題の解決に向けては、政府や自治体をはじめ、NGOやNPOなどの市民組織が「ボランティア」な活動を展開しています。この授業では「ボランティア」や「ボランティア」の意味をはじめ、国内外で展開されてきた多様な社会運動や市民活動の歴史や現状について検討します。また、「市民による海外援助」をテーマとしたワークショップを通じて、「援助する」ということや「寄付する」という意義や課題、そして、日本の市民組織が抱えてきた組織運営上の現状や問題点などについても検討していきます。</p>	
		生きるということ	<p>この世に生まれ、ここまで成長を遂げてきた奇跡について考えるとともに、恋愛、就職、正しい食生活等について、具体的な事例をとりあげ、グループワークを行います。また、誰もが避けることができない人生の終わりについても、事例を踏まえて議論し、あえて死というものを考えることで、今を生きることの大切さを自ら思い描きます。</p>	
		「ぶろじょくと」をやってみる	<p>「ぶろじょくと」ってなんだらう。でも卒業して社会に出れば、大小の違いはあっても、周囲はプロジェクトばかりです。この授業では、受講者の主体性に基づき、チームごとにプロジェクトの企画を立て、メンバーと共働しながら、実際に実行してみます。「実行する」と簡単に言っても、企画の実現までには、様々な制約や困難があります。それをいかにして乗り越えるかを体験する授業です。そして、その体験の共有を通じて、これからの大学生活を共に学びあう仲間を得ることも目的としています。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合系科目	体験！ぶろじゅくと	卒業して社会に出れば、大小の違いはあっても、周囲はプロジェクトばかりです。この授業では、受講者の主体性に基づき、チームごとにプロジェクトの企画を立て、メンバーと共働しながら、実際に実行してみます。「実行する」と簡単に言っても、企画の実現までには、様々な制約や困難があります。それをいかにして乗り越えるかを体験する授業です。そして、その体験の共有を通じて、これからの大学生活を共に学びあう仲間を得ることも目的としています。		
	感じる・考える・話す	自然と人間の共生をテーマに、人間社会と対峙する対象としての自然と、自然と共生して生きる人々の営みについて具体的事例を紹介し、グループワークを通じて、全体での議論の共有を図ります。その際、授業の材料として、スタジオジブリ作品の「もののけ姫」と「風の谷のナウシカ」を鑑賞し、そこに描かれている人間対自然の関係について討論し、理解と深化を図ります。		
	アクティブにとらえる現代社会	現代社会の様々な事象と向き合い、主体的に行動し、自らあらたな社会を創造できる人材を養成するために宇都宮大学で推進している「アクティブ・ラーニング」型の授業として、4名の担当教員がそれぞれの立場から現代社会の具体的な問題を取り上げ、能動的な学修を促す手法で授業を行います。この授業では、ただ講義を聞くのではなく、「感じる・考える・書く・伝える」という段階を経て、自分と他人の価値観の共通性や差異を理解したうえで、それらを表現したり、合意形成したりするコミュニケーション力の向上を目指します。		
	とちぎ終章学特講	人生の最終章を迎えても、より充実した生活を営むことのできる社会を創り上げていくためには、様々な課題を幅広い視野で捉え直し、それぞれの専門領域や生活との関わり、諸課題の関係性を理解することが重要である。そこで、本学教員の専門領域からのアプローチにより高齢社会の特性を浮き彫りにし、課題解決の方策を検討していく。	講義 5時間 演習 10時間	
	とちぎ終章学演習Ⅰ	超高齢社会に関する課題を自らの問題として捉え、地域の中で各人にどのような役割があるか気づき、今後どのように活かしていくのかを学び、地域で必要とされる活動を行うための素養を身につける。授業は地域住民との対話やフィールドワークを取り入れて展開する。	共同 講義 10時間 演習 20時間	
	とちぎ終章学演習Ⅱ	高齢者と共に生きるために地域でできることを考え、コミュニティワークの手法を用い、地域の情報収集やまちづくり活動の企画を行う。授業は学外の実践者による講義と学生同士の対話を中心に展開する。	講義 10時間 演習 20時間	
基盤教育科目	基盤教育科目 キャリア教育科目	人間と社会	経済・社会の変化に伴って、働き方・働き方が大きく変化している。その中で生涯を通じてどのようにどんな職業と関わるのか、どう生きるのかを考え、主体的に選択していくこととなる。そのためにはまず、自分が船出していくこの社会や経済、産業、職業など働くことに関する現実を正しく理解することがとても大切である。この授業はこうした働くことに関するさまざまなテーマについて最新の情報により、その実態と課題を正しく理解するとともに、視野を広げ、自分の進路について考えるきっかけを得ることができる基礎的なキャリア教育科目である。	
		キャリアデザイン	経済・社会の大きな変化に伴い、働き方、働き方も大きく変化している中において、自分らしく生き生きと生きるために生涯を通じてどのように職業とかかわるのか、どのような職業人生を生きるのか、そのために大学生活をどう送るのか、など、自らのキャリアデザインを描き、行動することが大切である。この授業は、自分の将来を考えキャリアデザインを具体的に描くための考え方、きっかけ、知識、方法等を提供する基礎的なキャリア科目である。	共同
		働くことの意味と実際	仕事の中にやりがいを感じながら自己の成長を図り、グローバルな時代の中で逞しく生きていくためには何を身につけるべきか。日本IBMの人事に所属する担当教員と共に、グローバルな企業行動の実態をリアルに捉えながら「働くこと」について考えていきます。	
		実践企業人材論	社会に出てから、いかに“自分を生きるか”。そして、“夢と理想に向かった力強い人生を歩むか？”を共に考えていく講座です。その上で、企業で仕事をしていくこと、また、組織で働くことの意味や価値について、できる限り実践的に学修します。“自分が自分にならなくて誰が自分になるのか？”を基本テーマに「自分らしさの追求」をスタートしていって欲しい。	
		起業の実際と理論	ベンチャー企業の事例や、実際の起業家との対話を通じ、「起業」という社会活動について学修し、これからの若者に必要とされる資質や起業家精神（アントレプレナーシップ）を養う。また、実際に自らのビジネスアイデアを考え、他者にプレゼンテーションすることで、企画・提案の楽しさを体験するとともに、ビジネスに必要な基礎的なスキルを修得する。	
		先輩に学ぶ	学長自らが代表を務める唯一の科目です。ゲストスピーカーが、皆様に対して人生の先輩として、これまでのキャリアを振り返りながらメッセージを伝えます。それぞれの先輩がこれまで歩んできた道でどのようなことに悩み、それをいかに乗り越えてきたのかについて聞くことで、これから先の人生について考えを深めることを目指します。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基盤 キャリア 教育科目	キャリア 創造科目	より良く生きる	<p>数百万年の昔から人類は、食料その他生活に必要なものを、自然に対して熱心にはたらきかけることによって初めて手にしてきた。その本質は現代でも変わらない。「はたらく」ことは「生きる」と表裏一体なのである。したがって、就職とは就「社」によって終わる受験活動ではなく、より良く生きようとする不断の活動の始まりに他ならない。では、「より良く生きる」とはどういうことなのか？ この講義では、①「自分にとって価値ある生き方」をキーワードに「人は何のために生きているのか」を考え、②「目標達成」をキーワードに、そのためのスキル（自分の力に気づき、伸ばす）を身に付けることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(100 上原 伸夫/7回) はじめに「この授業について、“人は何のために生きているのか その1”」/“自分らしく生きること”と“親との関係”/“働くこと”と“より良く生きること”/“人生の逆風(障害, 病気など)”と“より良く生きる”/夢と、やりたいことと、現実と①(事例紹介, パネルディスカッション)/夢と、やりたいことと、現実と②(“仕事”をとりまく理想と現実)/生きる主体である“自分”に気づく; (Part 1まとめ; 中間振り返り)</p> <p>(106 大庭 亨/6回) 生きるエネルギーについて/夢を見つける/夢を実現する/リミッターを解除する/ツッコミを入れる/振り返り/</p> <p>(174 西田治子/2回) アサーション(自分を伝える・相手を受け入れる)/心のしくみ</p>	オムニバス方式
		企業のグローバル戦略とキャリア形成	企業のグローバル戦略、とりわけ人材マネジメントを中心に学びながら、グローバルな時代における仕事に対するリアリティを高めます。その上で、日本IBMの人事に所属する担当教員と共に、自己の成長を図りながら、逞しく生きていくためには何を身につけるべきか考えていきます。	
		グローバル時代の企業経営	グローバル化が進行する現代社会においてなくてはならない存在であり、多くが職業人としてその一員となる「企業」とはどのようなもので、どのように運営されているのかについての基礎知識を学ぶ。	集中
	自由 科目	社会奉仕活動	事前に活動期間及び活動内容を定めて提出した申請書に基づく、社会福祉団体等での社会福祉活動について、教育上の実績を活動報告書等により評価し、自由科目として単位認定する。	
		国際協力活動	事前に活動期間及び活動内容を定めて提出した申請書に基づく、青年海外協力隊等における国際協力活動について、教育上の実績を活動報告書等により評価し自由科目として単位認定する。	
		実務体験活動	事前に活動期間及び活動内容を定めて提出した申請書に基づく、特定の授業科目に対応付けされないインターンシップ制による実務体験活動について、教育上の実績を活動報告書等により評価し自由科目として単位認定する。	
		特別体験活動	事前に活動期間及び活動内容を定めて提出した申請書に基づく、教務委員会が認めた体験活動について、教育上の実績を活動報告書等により評価し自由科目として単位認定する。	
	留 学 生 日 本 語 科 目	アカデミック・ジャパニーズ	1年次及び編入学の留学生を対象に、大学の勉学に必要な日本語能力を総合的に身につけます。大学生活を想定した種々の日本語運用場面を取り上げるとともに、学術的な場面での話し言葉と書き言葉の違いについても学び、日本語能力の向上を図ります。	
		日本語アカデミック・ライティング	大学で書くレポートや論文は、手紙や感想文、作文の文章とは異なり、事実や意見を客観的・論理的に述べる必要があります。この授業では、1年次及び編入学の留学生を対象に、学術的な文章の書き方と日本語表現を学びます。また、話し言葉との違いにも着目し、レポートや論文を書く上で必要となる語彙の修得を目指した問題演習も行います。	
		日本語アカデミック・プレゼンテーション	本授業では、大学のゼミや演習科目での発表場面を想定し、プレゼンテーション全般に必要な日本語表現を総合的に学びます。日本語による文章表現と口頭表現の違いに留意しながら発表練習を行うとともに、発表レジュメやスライド資料の作成に必要な日本語表現を形式・語彙・文法等の各側面から取り上げます。留学生を対象にした授業です。	
		科学技術のための専門日本語	本授業では、科学技術分野で必要とされる日本語を総合的に学びます。科学技術に関連するトピックを取り上げ、日本語能力の向上を図ります。	
		人文社会系のための専門日本語	本授業では、人文社会系の分野で必要とされる日本語を総合的に学びます。人文社会に関連するトピックを取り上げ、日本語能力の向上を図ります。	
	日本事情	(英文) This is a hands-on course through which we will be experiencing Japan. Be prepared to engage yourselves fully with Japanese culture. (和訳) このコースは日本を体験して日本文化に親しむ実践学習です。		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤教育科目 専門導入科目	地域デザイン学序論A	<p>地域社会分野の地域分析の基礎を学修するため、社会システム、地域資源、地域生活や実践等を調査分析する学問の視座と方法に関して、経済学、行政学、公共政策、観光地理学、地域生態学、文化マネジメント、食育学、心理学、社会教育学、社会学、農村マネジメント、公共マネジメント、まちづくり論、社会福祉学それぞれの序論を解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 塚本 純/2回) ガイダンス、経済学の視座と方法、まとめ (⑥ 中村祐司/1回) 行政学の視座と方法 (⑭ 三田妃路佳/1回) 公共政策論の視座と方法 (⑰ 鈴木富之/1回) 観光地理学の視座と方法 (⑱ 高橋俊守/1回) 地域生態学の視座と方法 (⑤ 中島 望/1回) 文化マネジメントの視座と方法 (⑩ 大森玲子/1回) 食育学の視座と方法 (⑧ 白石智子/1回) 心理学の視座と方法 (⑮ 若園雄志郎/1回) 社会教育学の視座と方法 (⑯ 中川 敦/1回) 社会学の視座と方法 (③ 原田 淳/1回) 農村マネジメントの視座と方法 (⑫ 阪田和哉/1回) 公共マネジメントの視座と方法 (⑬ 石井大朗/1回) まちづくり論の視座と方法 (② 永島徹/1回) 社会福祉学の視座と方法</p> <p>AL20：学部学生が合同で学際的に学修する。異分野の交流をもたらすディスカッション、グループワークを取り入れる。</p>	オムニバス方式
	地域デザイン学序論B	<p>建築と地域デザインに関するトピックスを手掛かりとして、人間の居住環境としての建築や都市・地域を建設、維持管理、更新・再生していく上でのハードテクノロジー、ソフトテクノロジーについて、初学者向けにわかりやすく解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(142 佐藤栄治/3回) ガイダンス、都市の成長管理、まとめ (18 三橋伸夫/1回) 地域のコミュニティ開発・再生 ※平成29年度以降は143 佐藤栄治が(地域のコミュニティ開発・再生/1回)を担当する。 (34 郡 公子/1回) 室内環境制御技術 (⑦ 増田浩志/1回) 建築構造技術の進化 (82 杉山 央/1回) 建築材料の高機能化 (76 中島史郎/1回) 建築リサイクル (116 横尾昇剛/1回) 建築の環境性能評価 (107 古賀誉章/1回) 建築空間と環境心理 (129 安森亮雄/1回) 建築デザインと都市 (⑩ 中野達也/1回) 鉄骨構造の技術進化 (151 藤本郷史/1回) 建築材料の長寿命化 (169 糸井川高穂/1回) 建築設備の進化 (171 中島昌一/1回) C L Tの動向と普及</p> <p>AL20：学部学生が合同で学際的に学修する。毎回の授業で異分野の交流をもたらすディスカッション、グループワークを取り入れる。</p>	オムニバス方式
	地域デザイン学序論C	<p>社会基盤整備による良好な社会環境の実現およびそのための社会基盤技術について、専門分野ごとに初学者向けに解りやすく紹介・解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 大森宣暁/3回) ガイダンス、未来都市の創造、交通計画と土地利用 (1 中島章典/2回) 橋梁と構造力学、橋梁構造物の耐震 (4 池田裕一/2回) 河川と治水、水域生態系と社会基盤整備 (11 飯村耕介/1回) 海岸防災工学序論 (③ 海野寿康/1回) 地盤工学序論 (6 清木隆文/1回) 地下空間の有効利用 (3 藤原浩巳/1回) コンクリートの高機能化 (7 丸岡正知/2回) 身近な建設材料、建設材料のリサイクル (① 山岡 暁/1回) 海外における地域課題と社会基盤 (② 近藤伸也/1回) 防災マネジメントと地域デザイン</p> <p>AL20：学部学生が合同で学際的に学修する。毎回の授業で異分野の交流をもたらすディスカッション、グループワークを取り入れる。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要					
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 教 育 科 目	共 通 専 門 科 目	必 修 科 目	地域デザイン訪問	<p>地域社会を自然、歴史、文化的側面から見つめ、これらと地域デザインの知識や技術、対応方策との関連について議論を深めることで、デザイン能力育成の端緒とする。このため、学外見学を行い、地域社会のコミュニティや種々の施設、技術や対策の取組みに直接触れる機会を設ける。見学後には、学科混成グループに分かれ、地域社会の特性や課題についてグループディスカッションの後、その結果を発表する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 池田裕一／1回) ガイダンス (4 池田裕一・① 山岡 暁・3 藤原浩巳／3回) (共同) 社会基盤と地域デザインについて討議・発表 (129 安森亮雄・82 杉山 央・151 藤本郷史／3回) (共同) 建築と地域デザインについて討議・発表 (⑤ 中島 望・⑫ 阪田和哉・⑨ 鈴木富之／3回) (共同) 地域コミュニティと地域デザインについて討議・発表 (4 池田裕一・① 山岡 暁・3 藤原浩巳・ 129 安森亮雄・82 杉山 央・151 藤本郷史・ ⑤ 中島 望・⑫ 阪田和哉・⑨ 鈴木富之／5回) (一部共同) 学外見学 (学科毎に実施)</p> <p>AL80：学外の見学と学科混成グループによるディスカッション、プレゼンテーションによって、学生が主体的に地域の主題や課題を見出すアクティブラーニングを主な要素とする。</p>	オムニバス方式 共同
			地域の姿と課題 I	<p>市町村長や担当行政職員、金融業、建設業、サービス業、製造業等の各種企業、マスメディア、農林水産業、社会福祉や環境NPO/NGO等の実務者を外部講師として招いたオムニバス講座を提供する。地域社会の多様なステークホルダーから直接話を聞く機会を設けることで、地域の現状や課題について幅広い視点から理解する力を養うための導入授業。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(⑥ 中村 祐司・⑭ 三田妃路佳・⑯ 中野達也・③ 海野寿康／2回) (共同) ガイダンス、全体の振り返りを、討議し最後に班別発表でまとめる。 (⑥ 中村 祐司／1回) 広域自治体の役割と課題 (⑭ 三田妃路佳／1回) 行政関連の諸制度に関わる課題 (⑯ 中野 達也／2回) 地域ジャーナリズムの役割、地域経済と地域雇用 (③ 海野 寿康／2回) まちづくり中間支援組織とは、行政職員は市民サービスの支援者</p> <p>AL50：ゲストスピーカーによる講演と学生によるグループ討論を交えた双方向型の授業を行う。</p>	オムニバス方式 共同
			地域コミュニケーション演習	<p>学科混成グループに分かれ、円滑な対人関係づくりの上で地域と連携するのに必要なコミュニケーションスキルを身に付けるための知識と手法を学び、グループワーク等を通して学修した手法を実践し、手法の体験的な修得を行う。具体的には、地域の特性を数量的に伝える手法、論理的な文章として伝える手法、地域の地理的特性を読み解く手法などを体験し、それぞれが独自の問いを発見しそれを表現できるようにし、地域でのコミュニケーションに必要な基礎力を養う。</p> <p>AL80：初回講義時にグループ編成を行う。グループによる発表会をおこなって修得した手法を能動的に活用するとともに、発表会の討議を通じて修得した論理的コミュニケーションを体験的に活用する。</p>	共同
			地域プロジェクト演習	<p>学科混成グループに分かれて、これまでに修得した学部の共通専門科目や各学科の専門科目の内容を総合して、地域における実問題を扱った問題解決型の演習を行う。具体的には、宇都宮市を中心とした栃木県内の他自治体などを対象とし、自らの力で地域探索やヒアリングや各種調査を実施し、収集したデータを分析し問題の原因の特定や、それに対する解決策を提案する能力を身につける。各グループが携わる問題に応じて、それぞれの分野の教員がサポートする。</p> <p>本演習では、(1)適切な調査設計や調査分析、(2)地域探索において自主的に行動し、具体的な解決策を提案、(3)グループ単位の口頭発表会において、資料作成およびプレゼンテーションができることを目標とする。</p> <p>AL80：初回講義時に班編成を行い、その後は、班単位の個別指導、班単位の調査を行う。適宜、調査概要書、調査計画書を提出し、教員とディスカッションしながら進める。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目 共通専門科目 専門教育科目	地域デザイン倫理	高度な技術、巨大な組織、複雑な利権構造から成る現代の地域デザインの現場で、これに携わる技術者および地域のリーダーの立場や役割を理解し判断することを学び、倫理観を確立させる。授業は学部合同で、倫理観が求められる事例についてオムニバス形式で種々の分野の教員より紹介がなされ、どのように判断すべきか説明がなされる。 また、倫理が問われる具体的なケースについて課題として示され、学科混成のグループに分かれて議論を深め、プレゼンを行う。倫理が問われる具体的な分野およびケースは以下の通りである。 (オムニバス形式/全15回) (5 大森 宣暁/4回) 計画分野：地域デザインの在り方について計画を策定する分野 (1 中島章典/4回) 構造分野：橋梁等を含む地域デザイン構造物を建設する分野 (4 池田 裕一/4回) 水工分野：洪水対策、水利事業などにおいて社会資本を構築する分野 (3 藤原 浩巳/3回) 材料分野：社会基盤整備に必要な建設材料を選定、施工していく分野 AL80：教員から倫理的課題の説明の後、4人程度のグループに分かれてディスカッションを実施し、プレゼンテーションを行う。これを分野ごとに実施する。	オムニバス方式
	G I S 演習	地理情報システム (G I S) は、社会統計や環境情報を始めとする地域の様々な空間情報を収集して整理するとともに、解析評価するために有効なコンピュータシステムである。本演習では、G I S やリモートセンシングについて基本的な理論を学習するとともに、コンピュータを用いた演習を行うことで、地域の調査や研究で G I S を実際に活用するために必要な初歩的な技能を修得することを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (90 高橋俊守/7回) G I S ・リモートセンシングの基礎、地域資源分析・地域コミュニティ活動での G I S の活用 (143 佐藤栄治/4回) 建築・都市計画での G I S の活用 (10 長田哲平/4回) 社会基盤整備での G I S の活用、G I S 技術の都市計画、社会基盤分野での活用 AL80：G I S を用いて、行政機関等から提供されている各種統計データや地域環境情報を処理する演習を行う。また、G I S やリモートセンシングを用いてテーマに即した空間情報データの構築を行う。	オムニバス方式
	地域の姿と課題 II	地域の現状や課題とその対策および最新技術等についてオムニバス講座を提供し、幅広い視点から地域デザインについて理解する力を養う。「地域の姿と課題 I」より進んだ内容とし、より高い専門的レベルでの学習を目指す。必要に応じて外部講師を招き、地域の実践家や技術者と交流し学習を深める。 (オムニバス方式/全8回) (6 中村祐司・16 中野達也・3 海野寿康/3回) (共同) ガイダンス、地域の現状と課題 (1) (行政職員他)、 地域デザイン技術の最新事情 (1) (社会基盤技術など) (6 中村祐司・16 中野達也・2 近藤伸也/2回) (共同) 地域の現状と課題 (2) (まちづくり、防災デザイン他)、 行政諸制度の最新事情 (1) (都市計画に関わる法と実際他) (6 中村祐司・7 増田浩志・1 山岡 暁/3回) (共同) 地域デザイン技術の最新事情 (2) (建築技術など)、 行政諸制度の最新事情 (2) (廃棄物処理など環境問題の実際他)、 振り返りとまとめ AL50：講義と学生によるグループ討論を交えた双方向型の授業を行う。	オムニバス方式 共同
	ワークショップ演習	学科混成グループを形成して、設定された課題解決に対する科学的で総合的な対策に向けて、グループで情報収集、討議、まとめ、発表を行う実践力を養う。また、実社会で必要となる、課題解決を進める上で必要なファシリテーションや目的に応じたワークショップのデザインについてその意義を学ぶとともに、ロールプレイなどの体験を通して実践的な技術を身に付ける。ロールプレイでは、宇都宮市の社会・地域課題を取り上げ、課題解決を協働で行うことを想定し、地域住民、行政、企業などの役割を演じるなど社会実相に即した模擬体験的な学習を行う。 AL80：初回講義時にグループ編成を行う。グループは、期間中、数回再編成し、様々なメンバーによるグループ学習をできるようにする。また最終的に行う発表の機会においては、様々な意見・主張を真剣に批判検討する訓練としてディベート形式による発表を行う。	共同
	社会基盤解析法 I	社会基盤の整備・設計に必要な数学的素養、特に微積分学とその応用としての力学の基礎を修得する。具体的には、微積分学については、関数の極限、1変数の微分・積分、多変数の微分・積分、微分方程式等を扱う。力学の基礎については、運動学、質点の1次元運動、束縛運動、慣性力、質点の2次元運動、質点系の運動等を扱う。また、表計算ソフトを活用して、微積分と力学に関する基本的な計算手法を学習する。 AL50：授業時間では、講義による説明は最小限に抑え、教員やTAとの双方向的演習授業により具体的な計算能力の修得を目指す。	講義 10時間 演習 20時間
	社会基盤解析法 II	社会基盤の整備・設計に必要な数学的素養、特に線形代数学とその応用としての計画数理の基礎を修得する。具体的には、線形代数学については、ベクトルの積と微分、行列の計算、逆行列、行列式、線形空間、固有値と固有ベクトル等を扱う。計画数理の基礎については、線形計画法、勾配法による最適化計算、実験計画法等を扱う。また、表計算ソフトを活用して、多変数の最適化問題を解く基本的な計算手法を学習する。 AL50：授業時間では、講義による説明は最小限に抑え、教員やTAとの双方向的演習授業により具体的な計算能力の修得を目指す。	講義 10時間 演習 20時間

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会 基盤 デザ イン 学 科 専 門 科 目	必修 科目	応用力学序論	<p>本講義は土木の力学系専門科目を学ぶための基礎的事項について、力学を応用させるという視点で応用力学と位置づけ、その基本の一つ一つを学びます。</p> <p>また、本講義は、建設工学コースの教育目標に関連して、目標(1)土木専門分野の中で、力学に関係する専門分野と力学の基礎理論との位置づけを理解すること。目標(2)力学の基礎理論で用いられている基本的な概念または用語を理解し、数式等で記述できること。目標(3)力学に関する基礎理論の特徴と適用範囲を説明できることを達成目標とします。</p> <p>前提とする知識、関連する科目等は、高校・大学で勉強した線形代数や微分積分、力学の基本的な知識を持っていただければ良いものとします。</p> <p>AL20: 本授業では、授業の毎に課題を課し、採点后に返却し、学生の疑問点などを確認し、理解度の向上を図る。</p>
		構造力学 I	<p>構造力学Iでは、所要の荷重を支える構造物を設計する場合に必要な力学的な考え方、具体的な構造物の応力あるいは変形の求め方および構造設計において必要な構造物の強度の求め方あるいは構造設計における照査の考え方を、おもにはり構造を対象として学ぶ。</p> <p>本講義は、1) 構造力学における構造と力の考え方、2) 構造物の設計における基本概念、3) 平面の静定はりを対象として、荷重によって生じる断面力、応力あるいは変形を求めるための基礎式の成り立ち、4) 実構造物を設計する際に必要となる断面力、応力あるいは変形の具体的な求め方を理解することを達成目標とする。</p> <p>AL20: 授業は講義を中心に進めるが、毎週、課題を提出するのでそれを解くことによって各自が理解を深めることが重要である。</p>
		水理学 I	<p>土木技術のさまざまな場面に現れる水の流れを力学的に扱うことができるように、流体力学の基本的事項である流れの性質や相似則、静水圧、連続式、ベルヌーイの定理、流れの運動量保存則について講義する。</p> <p>本講義では、1) 流体力学の基本的事項について説明ができる、2) 流体力学の基本的な定量的問題を解くことができる、を達成目標とする。</p> <p>AL50: 毎回の授業で宿題(問題を解く、質問事項を書く)を出し、次の授業では問題を解く際によく間違えていた箇所を説明したり質問事項に答えたりする。また2~3回の授業時間を問題演習の時間として、グループで問題を解き発表させる。</p>
		土質力学 I	<p>本講義は人々の生活を支える地盤の構成要素の一つである土に力学を適用するための、基本的な記述方法、この記述を用いた水の流れや、長い時間かかって起こる地盤の変形などを扱います。</p> <p>本講義は、建設工学コースの教育目標に関連して、(1)土質力学の基礎理論の成り立ちを理解すること、(2)土質力学の基本的な概念または用語を理解し、数式等の適切な表現でそれを記述できること、(3)基礎理論の特徴と適用範囲を説明できることを達成目標とします。</p> <p>前提とする知識、関連する科目等は、土や水の動きを数学的な表現で記述するので、高等学校の微積分学の知識等です。</p> <p>AL20: 本授業では、授業の毎に課題を課し、採点后に返却し、学生の疑問点などを確認し、理解度の向上を図る。</p>
		土木計画学	<p>土木計画の特徴は、色々な土木分野の計画行為を統一的にシステムとして捉え、その手続きを科学的に進めようとするところにある。社会資本としての各種公共事業を実施するうえで必要となる計画論について、その基礎的な理論や立案方法、また計画論の実践として各種行政計画(国土計画、都市計画、地区計画、交通計画)について学ぶ。また、今後社会が大きく変化する中で、将来を計画するうえで重要な課題や展開について解説する。</p> <p>本講義では、計画学の基礎理論を理解し、問題解決能力に不可欠な、計画案を作成するプロセスとそれに係る基本的な概念を理解することを達成目標とする。</p> <p>AL20: 講義では毎回、講義内容の理解を促すために講義メモを配布し、記入回収する。適宜、コメントなどを記入させて、学生の理解度を確認しながら講義を進める。</p>
		コンクリート工学 I	<p>本講義では、社会基盤施設の建設に不可欠な構造材料であるセメントコンクリートについての基礎について学ぶ。</p> <p>本講義においては、①コンクリートの構成則、成立要件を説明できるようになること②コンクリート工学における、基本的な用語の意味、材料の特性を説明できるようになること③フレッシュコンクリートおよび硬化コンクリートの特性、さらにコンクリートの耐久性について説明でき、それらに関する問題の解決を図ることができるようになることを、到達目標とする。</p> <p>授業は講義を中心に進めるが、視覚的な資料を用いて理解の深化を図る。また、配合計算などでは、演習的な計算を行う。さらには数人からなるグループに分け、大学近辺におけるコンクリート劣化の現場を調べ、その劣化原因と対策についてディスカッションして報告を行うものとする。</p> <p>AL20: 数人からなるグループに分け、大学近辺におけるコンクリート劣化の現場を調べ、その劣化原因と対策についてディスカッションすると共に報告を行う。</p>
測量学	<p>測量は文明の発祥とともに誕生し、陣地の発達とともに開花し、数学、特に幾何学や三角法の母胎となった技術である。また、測量学は、建築・建設分野での基礎学問であり、これがないとすべての事業が進まない大変重要なものである。講義では、測量の定義に始まり、様々な測量方法および誤差の補正方法・統計処理など、測量士補として必要な内容について講義する。また、最新の測量に使用されているG.P.S測量やT.S測量をも取り入れて講義する。</p> <p>本講義では、1) 測量の定義を理解していること、2) 各種測量方法を理解していること、3) 統計に基づいた誤差処理方法について理解していること、を達成目標とする。</p> <p>AL20: 授業は講義を中心に進めるが、学習区分毎に演習課題を課し、それを解くことにより受講者各自で理解を深めることが重要。</p>		

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会基盤デザイン学科専門科目 必修科目	公共経済学	<p>ミクロ経済学の初学者を対象に、家計の選好、効用最大化、利潤最大化、需要、供給、完全競争市場、余剰分析、不完全競争、バレート基準などのミクロ経済学の基礎に加え、市場の失敗、外部性、公共財、社会厚生関数など、ミクロ経済学のうち、地域づくり、まちづくり、社会基盤などとの関連が深い公共性の高い分野を中心に学習する。</p> <p>地域経済学、費用便益分析など、まちづくりや地域づくりへの実務的な応用例の多いトピックの基礎を学習する。</p> <p>AL20：復習のためのレポート課題により、学習内容の定着を図る。</p>	
	社会調査法	<p>地域の課題を理解し、地域資源・地域特性を活かしたまちづくりを行う上で必要となる社会調査の方法の基礎的な内容に関する講義を行う。具体的には、既存の統計調査、アンケート調査法、母集団と標本抽出、測定の尺度、データの集計、推定と検定、多変量解析、最適化法などについて基礎的な内容を解説する。また、地理情報システム（GIS）の仕組みや活用方法について紹介する。</p> <p>AL20：毎回、授業の最後に習熟度をチェックするための小テストを行い、次回の授業時に解説を行うことで、講義内容の理解を深める。</p>	講義 20時間 演習 10時間
	構造力学Ⅱ	<p>本講義は、1) 移動荷重によるはりあるいはトラス橋の応答、不静定はり、ラーメン構造、柱を設計する際の基本的事項および必要な応答の求め方、2) 実構造物における板構造の存在とその挙動に関する基本的事項、3) トラス橋、不静定はり、ラーメン構造、柱などの挙動を実構造物の挙動と対応付けて、設計をする際の基本的事項、4) 数学あるいは前期の構造力学Ⅰで学んだ関連事項の必要性、5) 講義資料、教科書以外の文献などからの関連情報収集の重要性、を理解することを達成目標とする。</p> <p>AL20:授業は講義を中心に進めるが、毎週、課題を提出するのでそれを解くことによって各自が理解を深めることが重要である。</p>	
	水理学Ⅱ	<p>水理学Ⅰで学んだ流体力学の基本的事項をもとに、水の流れを力学的に扱い、開水路の流れや管路の流れにおける問題を解くための基本的項目を講義する。また乱流と抵抗の基礎理論についても説明する。</p> <p>本講義では、1) 開水路、管路、乱流と抵抗の基本的事項について説明ができる、2) 開水路、管路、乱流と抵抗の基本的な定量的問題を解くことができる、を達成目標とする。</p> <p>AL50：毎回の授業で宿題（問題を解く、質問事項を書く）を出し、次の授業では問題を解く際によく間違えていた箇所を説明したり質問事項に答えたりする。また2～3回の授業時間を問題演習の時間として、グループで問題を解き発表させる。</p>	
	土質力学Ⅱ	<p>地盤工学上における安定問題を計算する際に必要な土のせん断抵抗力とせん断強さ、各種せん断試験について学ぶ。その後、土圧・斜面安定・支持力を評価する方法について学ぶ。</p> <p>本講義では、1) 土質力学の基礎理論の位置づけを理解できる、2) 土質力学の基本的な概念または用語を理解し、数式等の適切な表現でそれを記述できる、3) 基礎理論の特徴と適用範囲を説明できる、を達成目標とする。</p> <p>講義では、重要な用語・考えをプロジェクターで映し教科書と併用して解説する。また、式の誘導に関しては板書や資料を配付し説明する。</p> <p>AL50：各回の授業で前回授業の内容に即した演習（練習問題と疑問点・意見）を課し時間内に提出させる。次回授業までに提出物をチェックし次回授業時に解説・コメント付きで答案を返却、理解度の向上を図る。</p>	
	鉄筋コンクリート工学	<p>コンクリートは土木構造物の構築において必要不可欠な材料の一つである。コンクリート構造物の構築において基礎的かつ重要な鉄筋コンクリートについて、鉄筋コンクリート構造物を構成するコンクリート・鋼材の力学特性および鉄筋コンクリート部材の力学的性状の基本について学ぶ。また、限界状態設計法の考え方について理解を深め、本方法に従った設計を行うための基礎について学ぶ。</p> <p>本講義では、1) 鉄筋コンクリート成立のための条件および設計理論の基礎を説明できる、2) 鉄筋コンクリート部材の耐力の基本的な概念を理解すると共に、基本的な耐力の算定ができる、3) 荷重を受ける鉄筋コンクリート部材に発生する基本的な応力やひび割れ幅の算定ができる、を達成目標とする。</p> <p>AL20:授業は講義を中心に進めるが、学習区分毎に演習課題を課し、それを解くことにより受講者各自で理解を深めることが重要。</p>	
	防災マネジメントⅠ	<p>近年、地震、津波、洪水、土石流、高潮、竜巻など過去に例をみないような自然災害が頻発している。これらの自然災害の発生メカニズム、防御・軽減対策、災害時の危機管理および災害後の復旧に向けた地域防災計画の立案・策定に必要な基礎知識を習得させる。</p> <p>授業ではまず、地震、地盤、土石流、洪水、高潮、津波等の災害について、過去の災害事例を踏まえながらそれぞれの特性や発生メカニズムを解説するとともに、防災対策の基本事項を解説する。そして、災害時の危機管理の基本や災害後の復旧も視野に入れたレジリエント社会の構築について説明した後、実効性のある防災対策を進めるために持つべき視点と留意点を解説する。</p> <p>AL20：各回の授業で、その授業内容に即した宿題（練習問題と疑問点・意見）を課しその日のうちに提出させる。次回授業までに提出物をチェックし、次回授業時にコメントを述べ、理解度の向上を図る。</p>	
	海外プロジェクトⅠ	<p>【講義の趣旨】 発展途上国での一画あるいは複数国を含むプロジェクトの発掘から完成、維持管理、評価までの一連の流れについて環境を考慮して解説・講述する。</p> <p>【講義計画】</p> <p>1. 海外プロジェクトとは/2. プロジェクトの発掘(誰が、何のために、資金)/3. プロジェクトマネジメントの概要/4. プロジェクトの計画/5. プロジェクトの設計/6. プロジェクトの施工/7. プロジェクトの維持管理/8. プロジェクトの評価(成功か、失敗か)/9. 環境問題と対策</p> <p>10. 海外プロジェクトの実例</p> <p>AL20：海外プロジェクトの実例では、プロジェクトの説明後に、必要性や便益、負の影響などについて、グループ討議を行い、プロジェクトの理解を深める。グループ討議結果は、その講義内で発表し、他のグループはコメントをする。コメントに対する回答を次回の講義で報告する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
社会 基盤 デザ イン 学 科 専 門 科 目	必修 科目	測量学実習	<p>本実習はインフラ整備をするための測量という基礎的な実習である。前期の15週にわたる陽東キャンパス内での多角測量や水準測量などの実習と、夏季休業中に行う実習合宿とし路線測量と設計を行う。</p> <p>(1) 測量実習時の課題を理解し、計測方法、測量結果のとりまとめ、補正計算などの必要な計算をする基礎能力の体得 (2) 作業計画の立案、分担・共同して測量をグループワーク能力の向上できることを目標とする。</p> <p>実習は6人程度の班編成をして、各実習時間開始時に講義室にて当日の測量にかかわる実習概要や方法の講義を受け、その後必要機材を借り受け、陽東キャンパス内で班長を中心に実習作業をおこなう。</p> <p>AL80：演習時間中は、教員、技術職員ならびにTAと双方向で演習を行う。またその日の実習内容をまとめた実習ノートの作成し、学生の理解度を適宜、確認しながら指導を行う。</p>	
		海外プロジェクト演習	<p>【講義の趣旨】海外プロジェクトIで学修したことを踏まえて、実際に、海外の地域の事例を分析し、社会基盤整備の観点からの解決策を立案する。</p> <p>【講義計画】クラスを3,4人のグループに分ける。具体的な地域とそこでの重要な課題を指定したうえで、その課題と周辺事情の実態を調べさせる。基本的には、英語能力が必要とされる。そのうえで、課題の具体的な解決策として社会基盤整備プロジェクトを立案する。その際にプロジェクトの予算規模とその調達の方法、日本の技術支援の在り方なども検討する。これらの作業は、グループ内で役割分担し、互いに意見交換しながら進め、中間報告を義務付ける。まとめられたプランは、最後の発表会で英語でプレゼンを行い、内容や発表方法をグループ単位でお互いに評価する。</p> <p>AL50：海外プロジェクトの実例について、グループ討議を行い、発表することにより、国際協力や技術支援の在り方について理解と関心を深める。グループ討議結果は、その講義内で発表し、他のグループはコメントをする。コメントに対する回答を次の講義で報告する。</p>	
		社会基盤設計演習	<p>土木工学の力学系科目である構造力学、コンクリート工学、水理学、土質力学分野の講義で学んだ基礎知識を応用し、設計・演習課題を通して各分野に関する知識を深めるとともに、設計手順等を身に付ける。</p> <p>本演習では、1) 各分野の課題に対して、講義で学んだ土木専門分野の基礎知識を整理し、応用することができる、2) 各分野における算定手法や設計手法について理解し、設計・照査方法を習得する、3) 課題条件を満たすために必要な措置を検討し、適切な計算や製図ができる、を達成目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 中島章典/4回) 構造力学分野に関する演習および設計課題 (7 丸岡正知/4回) 鉄筋コンクリート構造物に関する演習および設計課題 (11 飯村耕介/3回) 水工学分野に関する演習および設計課題 (③ 海野寿康/4回) 土質力学分野に関する演習および設計課題</p> <p>AL50：本演習では、その設計課題に即した計算書や製図などを課し、締切を設定して提出させる。提出物をチェックし、これらの成果を完成させるために定期的にコメントを述べ、学生の疑問点などを解決し、理解度の向上を図る。</p>	オムニバス方式
		防災マネジメント演習	<p>防災マネジメントIで学修したことを踏まえて、実際に地域の防災対策を立案し、その概要を策定する。</p> <p>クラスを3,4人のグループに分ける。具体的な地域を設定し、そこで想定される災害の種類と規模、災害前の防災・減災、災害時の危機管理、災害後の復旧について、各人の役割分担を決めて、プランの立案に取り組む。効果的なプランの立案のために、それぞれの分担を独立させるのではなく、お互いに情報交換しながら、その地域で最も重要な点を考慮して一つのプランにまとめていくことが求められる。まとめられたプランは、最後にプレゼンを行うとともに、地方自治体の防災担当職員をはじめとした防災の実務者にも意見をうかがう機会を設ける。</p> <p>AL50：各回の授業でグループは取り組み状況を全体に報告して、意見交換を実施する。各グループは意見交換の結果を踏まえて次回までに行う作業を検討する。まとめられたプランは、最後にプレゼンを行うとともに、地方自治体の防災担当職員をはじめとした防災の実務者から意見をうかがう。</p>	
社会基盤インターンシップ	<p>夏季休業期間を利用し、実社会での実務体験を通じ、社会基盤整備の重要性、学習内容の実社会での活用のされ方について学ぶ。条件が整えば、海外のプロジェクトの関連現場で実習し、海外のインフラ整備の課題や解決策、日本政府の支援の現状と課題を学修する。また、実社会における責任感と技術者倫理を実感し、倫理観の育成に寄与する。</p> <p>3年次前期に実習先を決定し、夏季休業中の2～4週間程度、個別に各企業等へ赴き、実務体験を行う。後期の10～11月に開催する発表会にて、実習内容を発表および報告書の作成を行う。これまでの受入先の一例(順不同)を示す。</p> <p>(官公庁等) 国土交通省の関東地方の土木関連事務所、北海道開発局、NEXCO東日本、土木研究所、栃木県内の土木事務所、茨城県、宮城県、群馬県、福島県、宇都宮市、足利市、弘前市、八戸市、弘前市、山形市 ほか</p> <p>(民間等) 鹿島建設、清水建設、五洋建設、前田建設、大成建設、三井住友建設、ドービー建設工業、前田建設工業、川田工業、オリエンタル白石、八千代エンジニアリング、富貴沢建設コンサルタンツ、芙蓉地質 ほか</p> <p>AL80：本授業では、研修先の選定から実施に至るまで、学生の積極性が求められ、教職員はそのサポートに当たる。研修期間中においては研究先との自主的な交流が学習面でも人間力向上においても重要になる。実習終了後には、報告会で自分の研修内容を発表するとともに、他の学生の報告にも触れることで、研修体験を共有する。</p>			

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
必修科目	土木工学実験	<p>土木工学の力学系科目である構造力学、コンクリート工学、水理学、土質力学の4分野について、講義で学んだ基礎知識を応用して、実際の現象に触れ、レポートにまとめることで、理解を深める。</p> <p>本実験では、1) 基礎知識を元に実験結果をまとめることができる、2) 実験に必要な基礎理論の習得・基礎理論の適用範囲の把握・実験結果の妥当性について判断できる、3) 実験結果をまとめ、客観的に考察できる、4) スケジュールを管理し、自主的に実施できる、5) 班内の役割分担を適切に決め、効率よく実験が実施できる、6) 実験精度、内容が適切であること、7) データ処理が適切にできる、8) 実験結果、考察、結論などを報告書の形式でまとめることができる、を達成目標とする。</p> <p>AL80: 1クラスを4班に分けて実施する。実験前には教員が学生に試問し、実験の内容・理論について徹底理解を図る。実験作業、データ整理と考察は、班ごとに協働して行い、レポートを作成し提出する。</p>	共同	
	卒業研究	<p>学部で修得した経験・知識を元に、構造、水工、地盤、計画、材料、マネジメント、環境等の専門分野に関する学習・研究活動を行い、建設工学に関する総合的視野の育成を目指す。</p> <p>本科目では、1) 学習・研究目的に合わせた手法の検討やスケジュール管理など、自主的に計画立案し、遂行できる、2) 実験・調査において、適切な準備・実施・とりまとめ・報告書作成ができる、3) 関連する文献調査ができる、4) ゼミ・発表等において、適切な資料の作成・発表・ディスカッション等に積極的に参加できる、5) 論文作成において、構成・理論構築・現象の説明・とりまとめ・考察が十分にできる、6) プレゼンテーションにおいて、わかりやすい資料の作成ができ、十分な説明能力を有すること、を達成目標とする。</p> <p>AL80: 学生は、研究室に配属され、教員の指導を受けるとともに研究室のゼミや共同作業に参加しながら、上記のように自分のテーマについて研究を深めていく。</p>		
社会基盤デザイン学科専門科目 専門教育科目	公共政策入門	<p>公共政策にはどのような形式があり、どのような分野に及び、どのように作られ、どのような過程で決定され、決定には誰が関わるのだろうか。また、決定内容は市民や企業にどのような影響をもたらすのかだろうか。</p> <p>この授業では、学生にとって、比較的身近な様々な題材を毎回提供し、学生の題材に関する議論やその後の解説を通じて、法律、予算といった公共政策の形式、中央省庁や自治体における政策の担当部局、決定過程での政治家・官僚・利益団体・市民の関係や、国と地方の関係、さらに、規制などによる企業への影響について学ぶ。加えて、行政や政治と政策との関係、政策による経済への影響、政策と財政の関係についても説明し、学生が今後4年間学修する各科目のつながりを理解することも目指す。</p> <p>AL:50 事前に示す題材は賛否が分かれるものとなっているため、学生は賛否、その理由、制度等について明確にしたうえで授業に望む。授業では題材への賛否、決定の背景などについて議論する。</p>		
	社会福祉学概論	<p>社会福祉を援助するために必要な要素として社会福祉に関する知識、援助のための技術、何を大事にして援助をするのかという倫理の三つがある。この授業では、そのうち知識に焦点をあてて、社会福祉の理念、制度、歴史を考えていく。</p> <p>AL20: 講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。</p>		
	地域資源論	<p>地域の再生や活性化を実現するには、地域資源を活用した地域による持続的な取り組みが求められる。本論では、地域資源活用の歴史を踏まえた上で、国連の主導で行われたミレニアム生態系評価や、日本の里山里海評価の成果をもとに、地域の多様な資源を生態系サービスの視点から体系的に整理する。さらに、地域資源を見出し、活用するための手法や、近年充実してきたこれらを支援するための社会的施策について、事例を示しながら解説を加える。</p> <p>AL50: グループワークによって地域の特徴的な地域資源を調査し、現状と課題点について整理した結果を発表させる。</p>		
	まちづくり論	<p>まちづくり論は、身近なまちづくりに参加して活動していくための知識を歴史的背景や制度的背景を知り、社会問題・社会構造の変容との関係から理解を深め、まちづくりを科学的に捉えることを目標とする。</p> <p>本授業では、公害問題や計画策定における市民参加・参画といった従来の運動論的な「まちづくり」を踏まえつつ、昨今の協働のまちづくりの現状を知る。さらに協働のまちづくりを進める上で重要となる制度・政策としての「地域ガバナンス」の視点を重視し、地域的まとまりに着目したコミュニティの持続的な仕組みづくりを学ぶ。持続的な仕組みづくりを担う、コミュニティ組織、コミュニティ組織が対象とする問題領域、またそれらを支える制度について、日欧米の相違を整理しつつ、理解を深める。</p> <p>AL30: 講義形式を基本とする。3回に1回程度、講義の振り返りや課題について発表し、グループで意見交換する機会を設ける。</p>		
	選択科目	高齢社会学	<p>本講義では現代社会における最も重要なテーマである、高齢社会の問題について社会学の視点から学ぶ。まず、高齢社会の到来の背景を取り上げ、それらが問題化される理由を、戦後日本の歴史の中に位置づける。その上で、「老い衰えゆくこと」そして「呆けゆくこと」がどのような経験であるのか、当事者の立場に降り立った形で理解する。以上の理解の上で、高齢者福祉政策の歴史的な変化および、現代日本の高齢者福祉を支える介護保険制度について、理解を深める。さらに、高齢化する日本社会の中で、地域の民間レベルで始まり、介護システム全体に大きな影響を与えた、小規模ケアの展開、新しい認知症ケアのあり方を学びながら、それらの今後の可能性を探る。最後に、高齢者介護における新しい家族介護の形態として注目される遠距離介護について考察を行う。以上の作業を通じて、現代社会における高齢社会の問題を解決するための方向性を、学生自身が見出せるようになることを、到達目標とする。</p> <p>AL20: 講義形式を基本とする。最終的には、学生各人が自ら見いだした高齢社会の問題の、その解決の方向性を提示する作業を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会基盤デザイン学科専門科目 専門教育科目 選択科目	生物多様性論	<p>生物多様性を巡る科学の進展は著しく、遺伝子から種、個体群、群集、そして景観に至るまで、あらゆるレベルの生物多様性がもたらす機能及び役割について、様々な研究が行われてきた。その歴史はまだ浅いが、生態的な過程が我々人類に食糧、水、エネルギーなどのサービスを提供する際、生物が重要な役割、機能を果たすことを明らかにした。その中でも注目すべき成果は、単に種が多ければ良いわけではなく、生物種が占める生態的位置、構成する生物種間の相互作用が重要であることを示した点かもしれない。本講義では、こういった研究の進展を踏まえ、「生物多様性を失うと、どんなサービスの低下が起こるのか」という問いかけに応じた様々な研究事例と、それらから得られた知見を平易に紹介する。</p> <p>AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。</p>	
	農村マネジメント	<p>農村社会における組織的特徴や経済循環の仕組みの特徴を理解し、歴史的にどのように変容してどのような課題が生じているかを学び、自分たちで調べたことを基に課題の解決策について議論を深める。そのために必要な質的調査の方法についても学ぶ。なお、本時は社会調査士資格のF科目に相当する。</p> <p>①農村社会の特徴／②農村社会を知るための参与観察＊／③質的調査の方法＊／④農村社会の変容／⑤ライフヒストリー調査にみる農村社会の変容＊／⑥社会と経済／⑦農村での経済循環の仕組み／⑧聞き取り調査による農村の経済循環の把握＊／⑨農村調査のための調査票作成法＊／⑩農村経済の変容／⑪文献調査にみる農村経済の変容＊／⑫農村社会の課題とは／⑬農村社会の課題発見のためのフィールドワークの方法＊／⑭課題解決をともに考えるインタビュー調査の方法＊／⑮農村社会の課題解決を考える</p> <p>AL50：農村社会を知るための参与観察、聞き取り調査による農村の経済循環の把握、農村調査のための調査票作成等の実地調査を学ぶ。</p>	講義 20時間 演習 10時間
	文化マネジメント	<p>文化は人間性を涵養し創造性を育む。よって人々に心豊かな生活を実現していく上で不可欠なものである。なかでも地域文化の振興には、居住する地域にかかわらず様々な文化を等しく鑑賞できる機会を拡充する必要がある。地域文化が持つ豊かさが日本文化の基盤を成しており、地域文化の振興こそが日本の魅力を一層高めて行くことにつながるものである。授業では「日本特有の様々な文化をいかに国内外に向けて発信するか」をテーマに、「地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科における理論的諸科目と並行して、【より多くの知識を個々の独創的な知恵へと結びつける力】を養う。特に授業の後半は事業シミュレーションを演習形式で行い、それぞれの発表から課題や問題点を指摘し、今後のヒントとなるような具体的な事例とその改善点を挙げて行く。</p> <p>AL50：講義形式を基本とするが、文化事業のシミュレーション（発表）を通して具体的な問題解決力を養う。</p>	講義 20時間 演習 10時間
	地域史	<p>地域に関する史料を実際に読み、そこから何が読み取れるのかを考えることで、地域の成り立ちや歴史に対する理解を深める科目である。宇都宮藩の歴史、大名戸田家の経済事情、宇都宮藩の幕末維新ほかの江戸時代のさまざまなテーマの史料をもとに、それをどのように読み解くことができるのか、そこからどのような歴史がわかるのか、そして歴史的経緯から地域がどのようにして形成されていくのかといった点について、講義形式で解説する。</p> <p>AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。</p>	
	まちづくり特講	<p>地方都市やその周縁部地域における社会構造や人口・世帯構造の変化を整理しつつ、地域問題の傾向を把握する。そして、典型的な地域問題に対するまちづくりの実践例を学び、問題解決に向けて、まちづくりの今後の方向性を議論し、受講生自らがまちづくりリーダーとなることを想定したまちづくりプランを作成する。講義では複数の教員によるオムニバス授業とワークショップを行う。全体の構成と扱うテーマは次の通り。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(⑬ 石井大一郎／9回)「社会構造の変容とまちづくり」、プランづくりワークショップ(3回)、「経済空間のまちづくり」②コミュニティビジネス、「まちづくり組織の組織マネジメントとネットワーク形成、まちづくりプランの発表とディスカッション」</p> <p>(⑩ 大森玲子／1回)「ケア空間のまちづくり」①地域食育</p> <p>(⑥ 中村祐司／1回)「ケア空間のまちづくり」②スポーツと余暇</p> <p>(⑧ 原田 淳／1回)「農空間のまちづくり」①農業経営</p> <p>(⑨ 高橋俊守／1回)「経済空間のまちづくり」②ランドスケープ</p> <p>(⑭ 鈴木富之／1回)「経済空間のまちづくり」①ツーリズム</p> <p>(⑫ 阪田和哉／1回)「まちづくりの評価」</p> <p>AL:50 オムニバス授業では、各テーマごとにレポートの提出を求める。</p>	オムニバス方式 講義 20時間 演習 10時間
	地方自治論	<p>日本における地方分権改革の流れを把握し、市町村合併をめぐる国の誘導政策と地方の対応、過疎化の問題、人口減少、地方創生事業などについて、具体例を挙げつつ説明する。地域社会における身近な地域資源を提示しつつ、担当教員がこれまでに経験した地方自治活動の経験にもとづき、特定の課題領域に限定しない形で、住民、企業、行政、NPOといった諸アクター間の連携・協働のあり方を探る。教員が作成した地方自治関連の論文、報告書、資料を教材として用いる中で、対象とする地方自治体は大都市、地方中小都市、過疎町村など多岐にわたる。また、行政、企業、公的団体、住民など多様かつ多元的なセクターが公共サービスの担い手となりつつある動向に焦点を当て、栃木県内で実際に展開されている諸事業の事例を挙げ、受講生が当該事業の関係者だと仮定した場合にどのような課題が存在しその解決・克服策は何かを考えさせる。ほぼ毎回、地域資源の活用策などテーマを設定して、グループ討議の機会を設ける。</p> <p>AL80:講義で紹介した課題についての論点整理と課題解決の施策提案に向けたグループワークを行い、各グループ毎の発表および全体討議を実施する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会基盤デザイン学科専門科目 選択科目	観光地理学	観光地理学では、主に日本について取り上げ、自然環境、歴史文化環境、社会経済環境などの複合的な視点から、さまざまな観光地域の形成と実態、魅力を理解することを目的とする。とくに、日本における観光の歴史、観光地域の広域的な分布パターン、さまざまな観光地域の形成過程とその実態、観光客の行動パターンなどに重点をおく。本授業の到達目標は、複合的な視点からさまざまな観光地域の動向を正しく理解し、観光地域の将来展望や観光まちづくりのあり方を理解できる能力を身につけることである。 AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、最終的には、観光地域の将来展望を理解できる能力を備える。	
	構造工学 I	構造物に蓄えられるひずみエネルギーの概念と構造解析において有用な種々のエネルギー原理について、基本的な例題を交えて講義する。これらエネルギー原理は、コンピューターを用いたマトリックス構造解析の理論的背景を理解するために重要である。 本講義では、1) 種々のエネルギー原理に基づく構造解析に関する基本原理の意味や関連する基本的事項を理解している。2) 現在の構造物の設計において一般的なマトリックス構造解析の基本的事項を理解している。3) 種々の構造物の構造解析実務におけるマトリックス構造解析の有用性を理解している。4) コンピューターを用いた構造解析の演習を実施し、理論的な結果との対応を理解している、ことを達成目標とする。 AL20：マトリックス構造解析の説明では、各自が例題演習を実施することが重要であるので、はり構造あるいはトラス構造のマトリックス構造解析の例題を各自が解きより理解を深める。	
	流域環境学 I	河川はもとよりその流域と社会とのかかわりを、地形、治水、利水、環境などの視点から理解を深める。また実際に起こっている問題を取り上げて、クラスで討議する。 本講義では、河川工学について、地球規模から砂一粒にいたる多様な基礎事項を理解する、河川工学が取り組む具体的問題を把握し、自分の考えを述べることができる、を達成目標とする。 AL50：水文統計と断面設計について個人向けの課題を出す。また4人程度のグループに分かれて、洪水対策、水資源、河川環境、津波対策、社会的問題について討議し発表する。	
	衛生工学	都市の生活基盤として欠かせない上下水道について、計画手法や水処理および各種施設の役割など基本的事項を説明する。宇都宮市上下水道局から実際の現場に携わっている専門家を派遣していただき、ゲストスピーカーとして講演を行っていただく。本講義では、1) 上水道と下水道について、工学的な立場から基礎事項ならびに専門用語を理解すること、2) 上水道と下水道の目的を理解し、その達成のために今後検討すべき課題を提案できることを達成目標とする。 AL20：授業内で2回現場見学（浄水場および下水処理場）を行い、現場の概要や講義との関連、実際に見て考えさせられたことなどをレポートにまとめさせ、学生の理解度の向上を図る。	
	交通計画	交通計画に関する基礎的な知識を理解するとともに、現在の課題について学ぶ。具体的には、人の生活活動と交通行動、様々な交通調査手法、都市圏レベルの交通需要予測、交通行動モデル、計画代替案の評価、少子高齢社会と持続可能な交通計画、等について理解することを目標とする。 AL20：毎回、授業の最後に習熟度をチェックするための小テストを行い、次の授業時に解説を行うことで、講義内容の理解を深める。	
	都市計画	都市計画は、身近な日常生活の問題や社会状況と深く関連があり、我々の生活を支えるルールの一つといえる。また歴史的経過や時代の大きな変化のなかで、新しい都市計画のシステムが模索されている。本講座では、歴史的な背景に基づく都市の形成過程を学ぶとともに、近年の社会変化に伴う新しい都市計画制度や都市システムを学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (143 佐藤栄治／7回) 都市基本計画／土地利用計画／都市交通計画／都市基盤施設の計画／都市の防災計画／持続可能な都市構造／期末試験 (5 大森宣暁／8回) 都市概論／古代、中世から現代までの都市計画の歴史／公園、緑地、オープンスペースの計画と住環境計画／中間試験／都市環境の計画／被災地の住宅再建計画／都市の景観設計／福祉と都市計画 AL20：基本的な知識を講義によって習得した上で、授業ごとに小レポートを課す。そのレポートを基に受講者と議論を行い、都市の形成要因や都市を計画する手法について、知識を深める。	オムニバス方式
	防災マネジメント II	災害時の危機管理および災害後の復旧および復興に向けた地域防災計画の運用に必要な基礎知識を習得させる。防災マネジメント I と比較すると災害が発生した後にに関する状況に重点を置く。 授業では災害発生後の対応の考え方、災害発生後に被災社会で発生する様々な課題を過去の災害事例を踏まえながら解説するとともに、解決策も解説する。また地方自治体の災害対策本部をはじめとした災害発生後に被災地および被災者に対応する組織の特徴と平時との違いについて説明した後、学生として被災地に貢献するために持つべき視点と留意点を解説する。 AL20：各回の授業で、その授業内容に即した宿題（練習問題と疑問点・意見）を課しその日のうちに提出させる。次回授業までに提出物をチェックし、次回授業時にコメントを述べ、理解度の向上を図る。	

授 業 科 目 の 概 要				
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
社会 基盤 デザ イン 学科 専門 科目	選 択 科 目	土木工学通論	実務経験豊富な代表的な専門技術者が、実社会における土木分野の実情を紹介する。最新の土木技術の一端に接し、実際の土木技術および今後の土木技術の発展の方向について理解を深めるとともに、大学で学ぶ知識が、どのように実務に生かされているかを学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (211 阿久津 富弘／4回) 建設会社における技術開発の重要性と今後についての講義を行う。 (190 磯 光夫／4回) 橋の概要、鋼材、鋼橋の設計と製作、今後の鋼橋等についての講義を行う。 (213 柴崎 宏一郎／2回) 環境保全計画の定義・方法、環境保全計画の実例についての講義を行う。 (191 為国 孝敏／4回) まちづくりの現場から学ぶプランニングの視点についての講義を行う。 (6 清木 隆文／1回) 授業のまとめを行う。 AL20：本授業では、授業の中で課題を課し、採点后に返却し、学生の疑問点などを確認し、理解度の向上を図る。	オムニバス方式
		公共マネジメント	人口減少社会において、地域の課題に取り組むためのマネジメント手法について学習する。この科目では、以下のマネジメント手法を取り上げ、背景・目的、制度、事例、効果の捉え方や経済評価の方法、課題等について学習する。 ・アセットマネジメント、ライフサイクルマネジメントなどのインフラ維持管理のマネジメント手法 ・総合評価落札方式、最低制限価格制度、PFI、指定管理者制度などの、入札・契約のマネジメント手法 ・公会計、財政健全化、政策・事業評価などの、自治体財務のマネジメント手法 ・NPO、CSR、市民協働などの、官民協働のマネジメント手法に関して、制度、事例、効果の捉え方などについて学習する。 AL20：復習のためのレポート課題により、学習内容の定着を図る。	
		地域生態学	地域生態学は、人間と地域のかかわりを生態学的視点から分析・評価するとともに、これらの関係を総合的に捉えることで、人間と地域の間を持続可能にする手法を研究する学問領域である。地域の全体像をとらえるためのランドスケープの概念と地域区分について解説するとともに、人為による地域環境の変化や、地域環境を保全、再生するための手法について、身近な事例を踏まえて解説する。生態学的な視点から地域を見ることが出来る幅広い知見を養うことを目標とする。 AL20：学生が感心を持った地域環境について、生態学的な視点から解説したレポートを作成し、講義の中で発表する機会を設ける。	
		NPO論	NPO論では、NPOが出現する社会的・歴史的背景を踏まえつつ、サービスの領域を把握する。国内外を問わず、地域社会において身近な生活課題に取り組むNPOの事例を通して、組織の特徴と課題を把握する。特にNPOのリーダー層に着目し、活動を始めたきっかけや団体の運営マネジメントに着目して理解を深める。そしてこれらの活動・組織を支援する「インターメディアリ」や国内外の政策動向について整理し、今後のNPOの展開の方向性を議論する。学生自らが社会的な事業に取り組むという切り口から、自らがNPO活動に関わることを想定し、どのような選択肢、方向性があるのかを見出すことを本授業の到達目標とする。 AL20：講義形式を基本とする。最終的には、学生各人がNPOを設立することを想定した事業プラン作成を行う。	
		流域環境学Ⅱ	河川の流況および流域環境を解析するための基本的事項を説明し、実際の課題に取り組むことで理解を深める。具体的には、開水路の不等流の計算、開水路における1次元河床変動計算、植生がある場合の1次元河床変動計算、2種の個体群の成長解析、リモートセンシングの事例分析を課題とする。 本講義では、河川とその流域について、地球規模から河川微地形まで多様なスケールの解析手法の基本を理解する、それらを実際に運用し、その結果を有用に解釈することができる、を達成目標とする。 AL50：課題の遂行に当たっては、解析手法を理解する、与えられた条件下で解析手法を具体的に適用する、表計算ソフトを活用して計算結果を求める、計算結果の意味を解釈する、などの段階がある。この各段階について学生の進捗状況を確認しながら、適切な助言を与える。	
		土質基礎工学	土構造物や構造物築造における基礎の地盤調査や設計法、地盤内の応力評価、液状化の判定に関する考え方や計算法を学ぶ。 本講義では、1) 土質力学に基づき地盤調査結果から地盤判読ができる、2) 建設事業に伴う地盤工学的問題（支持力改善や液状化等）を総合的に捉えて解決できる力を養うこと、を達成目標とする。 講義では、重要な用語・考えをプロジェクターで映し教科書と併用して解説する。地盤調査や地盤判読、液状化の判定、地盤改良に関しては適宜資料を配布する。また、実地盤の情報を用いて演習を実施する。 AL50：講義内容の単元毎に演習の時間を作り、講義時間中あるいは宿題にし提出させる（3～4回に1回の割合で演習）。次回授業までに提出物をチェックし次回授業時に解説・コメント付きで答案を返却、理解度の向上を図る。	

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
社会基盤デザイン学科専門科目 専門教育科目 選択科目	地質工学	<p>社会基盤のすべては地盤・岩盤の上にあり、その地盤・岩盤の特性を表す地質は、建設工学の中でも重要な役割を果たす。本講義は、実務に携わっている講師により、地質工学について有用な知識・調査方法・とりまとめ方等の講義を通じ、地質工学の必要性を説明できるスキルを養成する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(178 岡 信彦/7.5回分)</p> <p>地質工学の必要性、地質調査の考え方（トンネル）と地質調査法、地質図の作成方法、ダムの地質調査、トンネルの地質調査に関する講義を行う。</p> <p>(188 小林 隆志/7.5回分)</p> <p>地質学の基礎知識、岩石・岩盤の工学的性質、岩石・岩盤の工学的性質、岩盤分類とその考え方に関する講義を行う。</p> <p>AL20：本授業では、授業の中で課題を課し、採点后に返却し、学生の疑問点などを確認し、理解度の向上を図る。</p>	オムニバス方式
	地区計画	<p>日常生活の身近な範囲である地区を主な対象として、まちづくりとコミュニティの概念の基礎的な理解をもとに、住民参加を推進するコミュニティ計画、地区計画のあり方を解説する。さらに、市街地の具体的な事例を通して計画の進め方と事業制度の根拠を学ぶ。</p> <p>授業は必要に応じて資料やパワーポイントなどのAV教材を使用し、受講生の理解を促す。前半は主に資料に基づいて講義を行う。毎回、最後に講義内容について小レポートを課す。後半は、教科書の解説と宇都宮市での事例の解説を行い、課題に関するレポートを課す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(143 佐藤栄治/8回) 地区計画とは、地区計画の諸タイプ、まちづくり条例と地区計画、まちづくり規範、コミュニティと地区計画、住民参加による地区計画、震災復興としての地区計画、まとめと中間試験</p> <p>(10 長田哲平/7回) 身体尺度、市街地再開発授業の位置づけ概要、土地区画整理事業、市街地再開発事業、法定地区計画、市街地開発事業と交通、景観計画</p> <p>AL50：前半では毎回小レポートを行うとともに、後半の講義では毎回、講義内容の理解を促すために講義メモを配布し、記入回収する。適宜、コメントなどを記入させて、学生の理解度を確認しながら講義を進める。また、それとは別に課題レポートを課して地区計画について自身で探求をさせる。</p>	オムニバス方式
	コンクリート工学Ⅱ	<p>現在のコンクリート構造物が抱える種々の問題について解説するとともに、どのように対処していくべきか、また技術開発の最前線について講義を行う。本講義では①種々の鉄筋コンクリート構造物に発生する長期的および短期的な種々の劣化現象について、その原因の把握と対応策を提案できるように②鉄筋コンクリート構造物に求められる社会的な要請を理解し、その要請に応えるためにこれまで行われてきた種々の鉄筋コンクリートの高性能化について理解し、説明できるように③現在および将来的に予測される鉄筋コンクリートの要求性能について実現のための調査、研究手法を提案できるようにすることを目標とする。</p> <p>本授業は、コンクリート構造物が早期に劣化し、様々な問題を引き起こしている現状についてビデオなどで学び、このような劣化が何故起こるのかについて、講義で学ぶとともにその対策を知る。また、従来のコンクリートの常識から外れた高い機能を有するコンクリートについて、ビデオや実際の製品を見て学び、そのコンセプトや利用状況について学んでいく。また、社会に実用化されている高性能コンクリートについて調べ、どこに優位性があるのかを授業においてプレゼンを行い、それについてのディスカッションを行う。</p> <p>AL20：社会に実用化されている高性能コンクリートについて各自が調べ、どこに優位性があるのかを授業においてプレゼンを行い、それについてのディスカッションを行う。</p>	
	海外プロジェクトⅡ	<p>海外プロジェクトⅠで学習したことを踏まえて、さらに開発途上国でのインフラ整備プロジェクトに関する理解を深め、国際協力や技術支援の在り方を考える。</p> <p>【講義計画】</p> <p>1. 海外プロジェクトのプロセス/2. 日本の政府開発支援/3. 国際機関の開発支援/4. プロジェクトマネジメントの概要/5. ビジネスと支援の違い/6. 開発する側と開発される側の論理/7. 海外プロジェクトの実例</p> <p>AL20：海外プロジェクトⅡでは、プロジェクトの説明後に、必要性や便益、負の影響などについて、グループ討議を行い、開発途上国でのインフラ整備プロジェクトにおける国際協力や技術支援について理解と関心を深める。グループ討議結果は、その講義内で発表し、他のグループはコメントをする。コメントに対する回答は次回の講義で報告する。</p>	
	プロジェクト評価論	<p>まちづくり、地域づくりのプロジェクト（公共事業やイベントなど）を経済評価する手法を学習する。</p> <p>費用便益分析を中心に、便益の計測手法や、実務的に活用されている事業評価マニュアルの内容、理論的・実務的背景、課題などを学習する。</p> <p>プロジェクトの経済評価の際には、効果・便益の計測手法が難しいとされており、この科目では、便益計測手法として、CVM、TCM、ヘドニックアプローチ、コンジョイント分析を取り上げ、その理論、手順、適用・研究事例、課題について学習する。</p> <p>AL20：便益計測や費用便益分析の学習にあたっては、データを用いて自身で分析・計算を行うことで、技術の修得を図る。</p>	
	高齢者防災論	<p>心身機能が衰えてくる高齢期には、それまでにない災厄に見舞われやすくなってしまふ。災厄といっても、天災・人災から事故や犯罪などさまざまある。本科目では、高齢者をはじめとする乳幼児・障がい者ら災害弱者に対する防災について広く学び考えることで、万人の安心と安全につながる知識を得ることを目指す。具体的には、災厄の種類と特徴、安心と安全の関係、高齢者等の感覚・知覚・行動・心理の特性、日常生活での予防、罹災時の対応、罹災後のケアなどをテーマにしていく。</p> <p>AL50：原則毎回、自ら考えるような小課題を出題する。さらに数回ごとにグループに分かれて、調べ学習や議論・提案発表などを行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要					
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)					
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 教 育 科 目	社 会 基 盤 デ ザ イ ン 学 科 専 門 科 目	選 択 科 目	地域環境エネルギー計画	<p>エネルギー消費の削減が求められる中、地域、都市、地区レベルでのエネルギー利用計画の重要性が高まっている。地域レベル、都市レベルで、エネルギー需要の抑制計画とともにエネルギー供給システム計画に関する考え方、方法について講義を行う。</p> <p>【授業の到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、都市レベルでのエネルギー供給、需給について理解する。 ・地域、都市レベルでのエネルギーシステム計画について理解する。 ・未利用エネルギー活用方法について理解する。 <p>AL50：地域エネルギー計画について個人向けの課題を出す。またグループに分かれて、地域環境、地域エネルギー、エネルギー活用方策、エネルギー需要抑制方策について討議し発表する。学外での現地見学・調査も行なう。</p>	
			財政学	<p>財政が果たすべき役割、および、それを成し遂げるための財政制度を理解し、増減税や公債発行による経済効果を考察するための基礎的な知識を学習する。併せて、歳出に関する経済理論や財政制度を理解し、歳出の規模や構成が変化することによる経済効果を考察するための基礎的な知識を学習する。また、制度面でも財源面でも国家財政と不可分の関係にある地方財政について、地方財政と国家財政間の機能分担および財政移転のあり方を考察し、併せて、地域の日常生活に不可欠な行政サービスを担う地方財政のあり方について地域の暮らしや活力の観点から学習する。</p> <p>AL20：レポート課題等を通じて知識の定着を図るとともに、暮らしと財政のかかわりについて身近な事例や地域の事例などを通じて考える機会を設ける。</p>	集中
			景観解析	<p>景観とは私たち人間を取り巻く環境の眺めであり、同時に私たちと環境との関係を理解するための有効な指標である。本講義では、景観工学的な視点からまず景観とは何かについて学び、景観の物理的な解析方法を学習する。さらに環境生理・心理学的な視点から人間の反応・評価を通じた景観の解析手法について学習する。</p> <p>AL50：解析手法を学んだ後、演習として履修者各自で実際の景観の解析を行う。その後、発表会を通じて各自の景観解析結果の共通性や相違性に触れることで、景観に対する本質的な理解を深めるとともに、良い景観とは何かを提案できる実践的な能力を養成する。</p>	集中
			環境・資源経済学	<p>経済学(主にミクロ経済学)の理論をベースに、環境・資源問題がなぜ起こっているのか、どのような方法で解決することが可能であるかを理解する。その上で、環境税や排出権取引制度など環境政策手段の基本的な考え方を理解するとともに、現状の環境・資源問題と経済との関係を知る。</p> <p>1) 経済成長と持続可能な発展/2) 競争市場の効率性/3) 市場の失敗と環境問題/4) 環境政策その1、環境税/5) 環境政策その2、排出権取引制度/6) プロパティライトと環境問題/7) 自然資源の最適利用/8) 再生可能資源/9) 再生可能資源の最適利用/10) 漁業資源管理/11) コモンズ/12) 費用便益分析と環境評価/13) 農産物貿易と日本農業/14) 農産物貿易と農村環境/15) 貧困問題と環境・資源</p> <p>AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。</p>	
			社会統計学	<p>社会調査に必要な統計学と基本的な多変量解析について学習する。</p> <p>統計学として、確率論の基礎、集合、確率変数と確率分布、標本分布と基本統計量、点推定と区間推定、平均の差の検定、独立性の検定、分散分析、属性相関係数、偏相関係数といった項目を取り扱う。</p> <p>本科目の内容は、社会調査士資格のためのD科目(社会調査に必要な統計学に関する科目)の内容を満たすものとするを想定している。</p> <p>AL50：理解を確実なものとするため、予習・復習のための課題に取り組む。必要に応じ、データセットを配布して、コンピュータールーム等にて、集計や分析の課題に取り組む。</p>	
			構造工学Ⅱ	<p>地震、台風などが頻発する日本では構造物の設計に際して、種々の振動問題に対して考慮を払う必要がある。また、最近の環境問題の中においても交通振動などの問題がある。本講義では、構造物の耐震設計、交通振動問題、振動制御などに関連した内容として、地震の発生メカニズム、振動の基礎理論などの概要を講義する。また、授業内容の理解のために講義の区切りで課題レポートを課す。</p> <p>本講義では、1) 質点系および連続体の運動方程式の意味や関連する振動の基礎理論、地震に関する基礎的事項を理解している。2) 土木構造物を設計するに際して実際に直面する種々の振動問題を理解している。ことを達成目標とする。</p> <p>AL20：授業は講義を中心に進めるが、項目ごとに、課題を提出するのでそれを解くことによって各自が理解を深めることが重要である。</p>	
			国土計画	<p>我が国の国土づくりの基本的な指針である国土計画について、これまで果たしてきた役割とその評価、国土の将来像、課題等に精通し、また国土建設の公共部門を担う国土交通省や県庁の行政の仕組み等について理解できるよう講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(177 川上 征雄/7.5回分)</p> <p>国土交通行政の仕組み、国土建設の主要課題、国土計画等の系譜と展望、社会資本整備の仕組み、国土交通行政をとりまく最近の動向に関する講義を行う。</p> <p>(181 印南 洋之/7.5回分)</p> <p>栃木県における建設行政の仕組み、栃木県における建設行政の主要課題、栃木県における建設行政をとりまく最近の話題、技術者倫理に関する講義を行う。</p> <p>AL20：レポート課題により、国土計画の現状・事例についての知識や、今後の課題に対する認識を深める。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 社会基盤デザイン学科専門科目 選択科目	地域社会論	<p>学生にとって、地域社会とは身近な存在ではない。とくに「田舎」・「僻地」といわれる地方社会のことは知らないことばかりであろう。学生までの地域社会とのかかわりは限定的なものであるからだ。本講義では、とくに「田舎」・「僻地」と呼ばれる社会をとおして、地域社会を自分にかかわりのあるものとして理解する。さらに、自然保護や農村女性の問題をとおしてグローバルとローカルのかかわりを批判的に考察する。</p> <p>AL20：講義形式を基本とする。提出レポートに対する添削、授業時間での討論など参加型の学修を取り入れ、能動的学修活動を保証する。</p>	
	工業日本語基礎Ⅰ	<p>工学系留学生対象の、科学技術に特化した日本語の授業です。ホームページを作成し、学んだ口頭表現を使って発表します。以下を到達目標とします。</p> <p>(1) 口頭表現力を身につける (2) 資料を作成する (3) 科学技術分野で使われる語彙用語や文章表現を習得する (4) チームワークでより良い作品を作り上げる (5) 異なる文化や考え方を理解する</p> <p>AL80：口頭発表は、各自でテーマを選び、ホームページを作成します。発表前には作成したホームページおよび原稿の日本語チェックを行います。</p>	
	工業日本語基礎Ⅱ	<p>工学系留学生対象の、科学技術に特化した日本語の授業です。研究発表のプレゼンテーション技術の向上を目指します。以下を到達目標とします。</p> <p>(1) パワーポイント作成技術習得 (2) プレゼンテーションおよび質疑応答 (3) 口頭表現力を伸ばす (4) 科学技術分野の専門用語や文章表現習得 (5) 異なる文化や考え方を理解する</p> <p>AL80：各自テーマを決め、パワーポイントで発表資料を作成し、プレゼンテーションと質疑応答を行います。発表前にはPPTおよび原稿の日本語チェックを行います。</p>	
	工業日本語応用	<p>工学系留学生対象の、科学技術に特化した日本語の授業です。4年間の日本語学習の集大成であり、4技能「読む・書く・聞く・話す」について、総合的な日本語能力の向上を図ります。以下を到達目標とします。</p> <p>(1) 科学技術分野の文章から構成・表現方法を学ぶ (2) 口頭表現力の向上を図る (3) 多面的発想力や問題解決法、技術者の在り方について考える (4) 異文化や、各国の考え方を理解する</p> <p>AL80：「読む・書く・聞く・話す」4技能の総合的な向上を図ります。特に、研究発表ができるように、発表技術だけでなく質疑応答やパフォーマンスについても力をつけます。</p>	